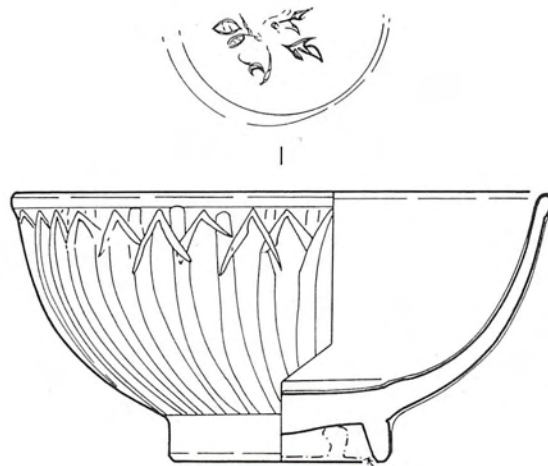


今帰仁村文化財調査報告書第26集

今帰仁城跡発掘調査報告Ⅳ



2009年 3月

な き じん
沖縄県今帰仁村教育委員会

今帰仁村文化財調査報告書第26集

今帰仁城跡発掘調査報告Ⅳ

－今帰仁城跡外郭発掘調査報告 1－

平成21年(2009) 3 月

な き じん
沖縄県今帰仁村教育委員会

序

本報告書は、史跡今帰仁城跡の保存修理事業に伴う発掘調査の成果をまとめたものであります。

収録したのは、平成18年度～平成19年度に史跡等総合整備活用推進事業に伴って実施された発掘調査の報告書であります。これまで今帰仁城跡では様々な調査研究が行われ、特に主郭では城郭の主要部分における利用の変遷や王城としての機能をうかがい知ることのできる陶磁器の出土、あるいは志慶真門郭においては家臣团的集団の居住区の確認など多くの興味深い資料が得られています。これまで郭内の面的調査によって得られた情報は今帰仁城跡の復元整備において参考にされ着実に整備が進められているところであります。

また、2000年12月には本村の今帰仁城跡を含む県内9遺産とともに、「琉球国のグスク及び関連遺産群」として今帰仁城跡が世界遺産登録されており、近年ではグスクにとどまらずその周辺地域の調査が進むことで、今帰仁城と集落の実像が解明されつつあります。

今帰仁村では史跡今帰仁城跡を文化財として保護・活用を図ることを目指しており、本調査によって発掘された出土資料は地域の住民に公開され活用していくことを計画しております。

最後に、これまで調査にあたっては貴重なご指導を賜りました文化庁文化財保護部記念物課、沖縄県教育委員会文化課、沖縄県立埋蔵文化財センターをはじめ、調査を指導していただいた今帰仁城跡調査研究整備委員の先生方に心から御礼申し上げます。

平成21年3月

今帰仁村教育委員会
教育長 田港 朝茂

例 言

1. 本報告は、今帰仁村教育委員会が、国・県の補助を受けて、平成18年度・平成19年度に実施した、「史跡等総合整備活用推進事業」で、2005年8月9日～2006年3月31日に実施した「今帰仁城跡外郭第2次調査（試掘調査）」の発掘調査、2006年4月24日～2007年3月30日に実施した「今帰仁城跡外郭第3・4次調査（Ⅲ・Ⅶ区）」の発掘調査の成果を主に収録したものである。
2. 発掘調査、資料整理等で次の方々のご指導、ご協力を得た。記して謝意を表する。
脊椎動物遺体の分類指導等：樋泉岳二（早稲田大学比較考古学研究所）・名島弥生（慶應義塾大学大学院）・菅原広史（早稲田大学大学院）・久貝弥嗣（宮古島市教育委員会）
貝類遺体の分類指導等：黒住耐二（千葉県立中央博物館）
炭化種子の分類分析等：千田寛之（札幌大学大学院生）・高宮広土（札幌大学）
石器・石製品、地質等に関する所見：河名俊男（琉球大学）
その他遺跡全体の調査に係ること：安原啓示（今帰仁城跡調査研究整備委員長）・富田裕次、赤嶺和雄・上原静・渡辺美季・高橋誠一（今帰仁城跡調査研究整備委員）
発掘調査等に当たっては本中眞（文化庁記念物課）・坂井秀弥（〃）・山下信一郎（〃）・島袋洋（沖縄県教育庁文化課）・盛本勲（〃）・新垣力（〃）・瀬戸哲也（〃）・伊禮良栄（〃）ほか多くの先生方からご指導ご鞭撻いただいた。記して謝意を表する。
3. 発掘調査は今帰仁村教育委員会によって実施された。本報告の執筆は下記の14名あたり、もくじに文責を記した。なお、陶磁器の分類と本書の編集は玉城が中心となっていた。
金武正紀（今帰仁村発掘調査アドバイザー）
宮城弘樹・玉城 靖（今帰仁村教育委員会文化財係）
與那嶺俊・具志堅亮（今帰仁村教育委員会文化財係臨時職員）
柴田圭子（愛媛県埋蔵文化財調査センター）
高島裕之（駒澤大学禅文化歴史博物館）
新島奈津子（法政大学第二高校）
亀井明德（専修大学文学部）
半田素子（世田谷区遺跡調査会）
千田寛之（札幌大学大学院文化学研究科）
樋泉岳二（早稲田大学比較考古学研究所）
名島弥生（慶應義塾大学大学院）
菅原広史（早稲田大学大学院）
4. 本報告で用いる、出土遺物の分類については、既刊の今帰仁村教育委員会発行の報告書分類を用いている。まず材質と用途を中心に分類した。人工遺物は主郭の項目より瓦を除く陶磁器（土器・カムィヤキ須恵器など含む）、玉、煙管、遊具、銭貨、金属製品、石器、骨製品等の分類項目を設定した。
陶磁器は基本的に瀬戸ほか2007の分類に従い、適宜既刊の報告書に分類との関係を明示している。主郭分類という場合には主郭報告書の分類（今帰仁村教育委員会1991）を引用している。

5. 資料整理は下記のメンバーで行った。

上間恵子 松本綾子 玉城亜紀 玉城静香 中馬直実 新垣あゆみ
神山知枝子 島袋滝子 山城留利子 仲村善洋 山内豪

6. 現地での写真撮影は、金武、宮城、玉城、與那嶺が担当した。遺物の撮影は玉城、與那嶺、仲村が担当した。

7. 出土遺物と発掘調査に係る資料は全て今帰仁村教育委員会において保管する。

8. 報告書の引用・参考文献は第Ⅴ章については各節末、報告書全体については巻末（第Ⅵ章）に収めた。

も く じ

第Ⅰ章 序 言 (玉城 靖・與那嶺 俊)

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 保存と整備	1
第3節 保存と整備のための委員会	2
第4節 調査体制	3

第Ⅱ章 調査概要 (玉城 靖・與那嶺 俊)

第1節 調査地域	5
第2節 調査経過	5

第Ⅲ章 遺 跡 (玉城 靖)

第1節 位置と環境	10
第2節 層 序	14
第3節 遺 構	17
第4節 駐車場撤去	20

第Ⅳ章 報 告 (玉城 靖・宮城 弘樹・與那嶺 俊・具志堅 亮)

第1節 東側城壁 (6次調査)	21
第2節 S R 2 (2次調査)	43
第3節 鳥居撤去工事 (立会調査)	46
第4節 墓撤去工事 (立会調査)	47
第5節 東側地区の試掘 (2次調査)	49
第6節 レコーラウーニー	50
第7節 Ⅲ・Ⅳ区 (3次調査)	51
第8節 Ⅶ区 (5次調査)	89

第Ⅴ章 結 語

第1節 今帰仁城跡出土の元・明青花磁の分類と年代的位置付け (金武正紀)	121
第2節 今帰仁城跡出土明代前半期青花瓷の研究 (柴田圭子・ほか)	141
第3節 今帰仁城跡外郭Ⅲ・Ⅳ区出土の炭化種子分析 (千田寛之)	171
第4節 今帰仁城跡主郭東斜面から出土した脊椎動物遺体 (樋泉岳二・ほか)	179

第Ⅵ章 総 括

今帰仁城跡外郭地区の発掘調査成果について (玉城靖・具志堅亮)	239
---------------------------------	-----

図 版	243
-----	-----

第Ⅰ章 序 言

今帰仁城跡外郭は、今帰仁城跡城内の最も北側の郭で、昭和54年に追加指定された地域にあたる。その郭の面積は約20,000m²で今帰仁城跡の郭の中でも最も広い地域となっている。

本報告では主に、今帰仁城跡外郭東区で実施された平成18年度3次調査と、5次調査の一部として実施された平成19年度の事業による、外郭地区Ⅲ・Ⅳ区、Ⅶ区において検出された遺構、遺物について主に収録したものである。

第1節 調査に至る経緯

国指定史跡今帰仁城跡の近傍に駐車場や便益施設等を設置する計画が持ち上がった。目的は、史跡指定地内の駐車場撤去の代替として計画されたものである。事業は北部振興策事業によって今帰仁村が主体となって実施された。平成17年9月には整備を完了し今帰仁村グスク交流センターを開館させた。これら新たに設置された施設によって城内の駐車場が撤去され、史跡が機能していた往時の姿へと復元されつつある。他方、駐車場から平郎門へ向かう導線上に、史跡の理解を促すためのガイダンス広場として、今帰仁城跡の地形模型（S=1/100）を設け、今帰仁城跡および周辺地域の現況を一瞥できるように工夫している（今帰仁村教育委員会2008）。

さて、上記の整備事業の進捗に伴って城内駐車場は不必要となり撤去されたことにより、目立たなかった外郭地区が景観的あるいは史跡散策を目的として利用導線上重要な地域として重要度が増し、整備を早急に行うべき地域として位置づけられることとなった。これに伴って、平成17年度からは従来の史跡整備事業から史跡等総合整備活用推進事業へ事業を移行させ、早期整備と史跡の活用の充実を目指し整備を進めることを計画した。計画については、整備委員会をはじめとする関係機関との協議を重ね、史跡の総合的な活用を目指すこととした。

第2節 保存と整備

外郭の整備事業は城外を東西、城内を東・西及び中央の概ね5つの地区に大別している（第39図）。このうち今回整備対象となるのは、城内の東地区の一部である。この東地区は石垣が200mにわたり良好な状態で残されており、更に今帰仁城跡でも重要な参拝場所である「レコーラウーニー」や「古宇利殿内」が残っている。地表面で観察することのできる遺構や地中から現れる遺構、あるいは祭祀や畑の耕作といった人々の継続的な営みによって作られた史跡景観が多く残っているのが外郭の特徴である。なお、史跡内における調査は遺構検出面までで留める方法を採用し保存することを最優先課題としている。

第3節 保存と整備のための委員会

1981年に調査研究整備委員会を発足させ、年1回の整備委員会を開催し必要に応じて年数回の整備指導をいただいている。委員は次の通りである。なお、事業全体については、本中眞・坂井秀弥・山下信一郎（文化庁）、島袋洋・盛本勲・新垣力・瀬戸哲也・伊禮良栄（県文化課）のご指導をいただいた。

〈平成17年度〉

委員長 安原 啓示（京都造形大学客員教授・造園学）
副委員長 與那嶺幸人（今帰仁村長・行政）
委員 富田 裕次（海洋博記念公園管理財団理事長・都市計画）
委員 赤嶺 和雄（設計同人G A N・建築学）
委員 上原 静（沖縄国際大学・考古学）
委員 金武 正紀（今帰仁村発掘調査アドバイザー・考古学）

〈平成18年度〉

委員長 安原 啓示（京都造形大学客員教授・造園学）
副委員長 與那嶺幸人（今帰仁村長・行政）
委員 富田 裕次（海洋博記念公園管理財団理事長・都市計画）
委員 赤嶺 和雄（設計同人G A N・建築学）
委員 上原 静（沖縄国際大学・考古学）
委員 金武 正紀（今帰仁村発掘調査アドバイザー・考古学）
委員 渡辺 美季（東京大学東洋文化研究所・歴史学）

〈平成19年度〉

委員長 安原 啓示（京都造形大学客員教授・造園学）
副委員長 與那嶺幸人（今帰仁村長・行政）
委員 富田 裕次（海洋博記念公園管理財団理事長・都市計画）
委員 赤嶺 和雄（設計同人G A N・建築学）
委員 上原 静（沖縄国際大学・考古学）
委員 金武 正紀（今帰仁村発掘調査アドバイザー・考古学）
委員 渡辺 美季（東京大学東洋文化研究所・歴史学）

〈平成20年度〉

委員長 安原 啓示（京都造形大学客員教授・造園学）
副委員長 與那嶺幸人（今帰仁村長・行政）
委員 富田 裕次（海洋博記念公園管理財団理事長・都市計画）
委員 赤嶺 和雄（設計同人G A N・建築学）
委員 上原 静（沖縄国際大学・考古学）
委員 金武 正紀（今帰仁村発掘調査アドバイザー・考古学）
委員 渡辺 美季（東京大学文化部次世代人文学開発センター・歴史学）
委員 高橋 誠一（関西大学・地理学）

第4節 調査体制

調査体制は教育委員会が主体となって実施した。事業全体の総括責任者は教育長、課長、補佐までが担い、調査担当者は宮城弘樹、玉城靖の専門職員によって充てた。なお、当該職員だけでは事業の遂行は困難であることから、補助員として與那嶺俊、具志堅亮らによって現場・資料整理の調査補助を行うと共に、随時発掘調査アドバイザーとして金武正紀に遺跡の総括的な評価などについて適宜対応する体制を整えている。また、実際の現場、資料整理については複数名の臨時職員にご尽力いただいた。

〈平成17年度・発掘調査、資料整理〉

事業主体	今帰仁村教育委員会				
事業責任者	教育長	田港	朝茂		
	社会教育課長	諸喜田	展生		
	社会教育課長補佐兼歴史文化センター館長	仲原	弘哲		
事務総括	文化財係長	田港	朝津		
	文化財係主事	玉城	寿		
調査担当者	文化財係専門員	宮城	弘樹	玉城	靖
発掘調査アドバイザー		金武	正紀		
調査補助員（臨時職員）		與那嶺	俊		
発掘作業員（臨時職員）		仲村	善洋	田港	朝史
		大城	ヒデ子	仲宗根	直美
		仲原	美代子	福居	慶
				宮城	章
				玉城	京子
				玉城	留美子
資料整理（臨時職員）		上間	恵子	松本	綾子
		玉城	静香	玉城	亜紀
				鈴木	美和

〈平成18年度・発掘調査、資料整理〉

事業主体	今帰仁村教育委員会				
事業責任者	教育長	田港	朝茂		
	社会教育課長	諸喜田	展生		
	社会教育課長補佐兼歴史文化センター館長	仲原	弘哲		
事務総括	文化財係長	田港	朝津		
調査担当者	文化財係専門員	宮城	弘樹	玉城	靖
発掘調査アドバイザー		金武	正紀		
調査補助員（臨時職員）		與那嶺	俊	具志堅	亮
発掘作業員（臨時職員）		仲村	善洋	島袋	貴行
		大城	ヒデ子	玉城	京子
		仲原	美代子	福居	慶
		玉城	光則	金城	政利
				松田	清美
資料整理（臨時職員）		上間	恵子	玉城	亜紀
		松本	綾子	玉城	静香
				當山	巳和
				知念	飛鳥
				宮城	章
				仲宗根	直美
				玉城	留美子
				大城	いち子
				諸喜田	富士子
				仲里	なぎさ

〈平成19年度・発掘調査、資料整理〉

事業主体	今帰仁村教育委員会				
事業責任者	教育長	田港	朝茂		
	社会教育課長	松田	朝雄		
	社会教育課長補佐兼歴史文化センター館長	仲原	弘哲		
事務総括	文化財係長	田港	朝津		
	文化財係主事	金城	研		
調査担当者	文化財係専門員	宮城	弘樹	玉城	靖
発掘調査アドバイザー		金武	正紀		
調査補助員（臨時職員）		與那嶺	俊	具志堅	亮
発掘作業員（臨時職員）		仲村	善洋	宮里	政公
		金城	政利	玉城	京子
		松田	清美	仲原美代子	玉城留美子
		野村	富子	新垣あゆみ	金城 幸代
		玉城	光則	大城いち子	諸喜田富士子
		上間	恵子	玉城 亜紀	玉城 静香
資料整理（臨時職員）		松本	綾子	山城留利子	中馬 直実

〈平成20年度・資料整理〉

事業主体	今帰仁村教育委員会				
事業責任者	教育長	田港	朝茂		
	総合教育課長	島袋	隆則		
	総合教育課長補佐兼歴史文化センター館長	仲原	弘哲		
事務総括	文化財係長	田港	朝津		
	文化財係主事	玉城	恵	金城	研
調査担当者	文化財係専門員	宮城	弘樹	玉城	靖
発掘調査アドバイザー		金武	正紀		
調査補助員（臨時職員）		與那嶺	俊		
資料整理（臨時職員）		上間	恵子	玉城 静香	新垣あゆみ
		松本	綾子	島袋 滝子	神山知枝子
		山内	豪	仲村 善洋	山城留利子

第Ⅱ章 調査概要

第1節 調査地域

今帰仁城跡は概略10の郭から構成されており、外郭は中でも最も北側にある郭で昭和54年に追加指定された地域にあたる。その郭の面積は約20,000m²で今帰仁城跡の郭の中でも最も広い地域となっている。外郭を区画する石垣は北東側に200mにわたり良好な状態で残っているが、門については道路で分断され現況が著しく失われている。また、西側についても残りが悪く土塁状になっているだけで、近代になって破壊された可能性が考えられる。外郭一帯は史跡指定以前から開発されてきた地域で、指定当時には屋敷や店舗が5軒あり、駐車場が造成され、道路が外郭を東西に分断している状況であった。村では昭和49～50年度に主要な部分の用地購入を、その後も平成10年度から未公有化の土地の公有化を図り、店舗や住宅の物件補償を行い、移転をお願いし、史跡の景観の回復に努めてきた。

外郭の郭内の区画はまず大きく分断している現況道路を境に東側を東区、店舗がある中央は中区、西側を西区として調査を行っている。中でも最も残りの良い東区では平成17年度に駐車場の撤去を行い、試掘調査を実施することで概ね9つの小区画に区分している。この区画は東区Ⅰ～Ⅸ区の名称で調査を進め、それぞれがいくつかの平坦面で構成されている（第6図）。

対象となる地域の調査地区の設定については、これまで今帰仁城跡周辺遺跡で行ってきた座標を基準とする地区設定を基に実施している。即ち、国土座標第15系（平成14年4月1日に施行された改正測量法に基づく）のX=76,800をM、76,790をN、以下南へ10m毎にO・P・Q・・・と英数字を振り、Z以降については、AA・AB・AC・・・として表記した。Y軸は、Y=42,500を原点10とし、10m毎に東へ11・12・13・・・として算用数字を振り、その組み合わせによってM-10（X=76,800-Y=42,500）、AG-20（X=76,600-Y=42,600）のように呼称し、交点の杭はそれぞれ北西のグリッド区画を指示することとした。なお、調査区の設定や個々の遺物の取り上げについても国土座標系で取り上げ、ファイルを作成して整理している。

遺物の整理に関しては今帰仁城跡外郭第2・3・4・5次調査（ex：3今外）を付しグリッド名と層序、遺構、遺物回収Noを付して注記することとした。

第2節 調査経過

今帰仁城跡内の発掘調査はこれまで志慶真門郭（1,700m²/S55～57）、主郭（880m²/S57～60）が実施されている。これ以後は城壁の基礎部分を中心に調査を実施しているため、面的な遺構確認の発掘調査は平成16年度の外郭調査によって再び着手されることとなった。

外郭調査を本格的に着手した目的は、近年進んでいる周辺地域の整備に伴ってこれまで駐車場となっていて活用が図られていなかった外郭地域を、史跡として積極的に活用できる環境が整ったということが大きな理由である。現今の駐車場から平郎門までの利用導線上にあって、史跡の理解を促す為にも導入部分として位置付けることができる地域である。この為、外郭地域の整備は早急に行われるべきとして、現在も早期完了を目指し、調査・整備を進めている。

発掘調査の計画は概略5年間を一区切りとして、発掘調査前の地形や石垣等の遺構あるいは地籍等を踏まえて東・西・中・城外北西・城外東区の5つのエリアに分けて調査を実施することを計画した。外郭整備第一期の5ヶ年間は、外郭東地区（以下、外郭東区）に設定し、平成17年度から発掘調査を開始し、現在も進行中である。外郭東区は外郭地区全体の中でも戦前からの地形改変が

少なく、石垣などの遺構の残りもよい。このため、調査着手前に、遺構の平坦地や地籍、石積み遺構に基づき、Ⅰ～Ⅸ区の9つに区分けを行った。この中でも、大きく四つの平坦面が確認されており、またその平坦面を区画するように石垣や石列が延びていたため各空間を最終的には「Ⅲ・Ⅳ」「Ⅶ」「Ⅷ」とした。

平成16年度は城壁の外側平坦地（約800m²）の調査を実施した（1次調査）。またこの他にも鳥居撤去の立ち会い（H15／4m²×2箇所）、墓撤去の立ち会い（H17／9m²×1箇所）によっても地下の状況等について確認を行っている。平成17年度は道路によって分断されている地区の内壁側（R-28・29／約250m²）を中心に石垣の状況確認を目的に調査を実施している。また外郭地区の地下遺構残存状況等を把握するために、南北トレンチ約30m、東西トレンチ約40mの試掘溝を設定し調査を進め、外郭の概要を把握するとともに地区設定を行った（2次調査）。平成18年度は主に2つの調査区に分けて作業を行った。一つはⅢ・Ⅳ・Ⅶ区（約1,400m²）の発掘調査（3次調査）。もう一つは石垣の根石確認を目的とした確認調査である（東側城壁内壁面約100m：4次調査）。平成19年度はⅦ・Ⅷ区（約1,000m²）の発掘調査を行った（5次調査）。なおⅧ区にある祭祀施設の古宇利殿内については、地下に良好な形で遺構が埋没していることがわかったため、平成20年度に移設工事を行い、移設後、継続調査を行っている。6次調査は4次調査の残りとして外郭東側城壁根石確認及び測量調査を行っている。なお平成20年度の調査として7・8次調査を実施、継続的に調査を行っている。

平成15年度「今帰仁城跡保存修理事業」2003年5月19日～2004年3月31日

鳥居撤去工事に伴う立会調査

鳥居撤去に伴う立会調査を村教育委員会が実施した（4m²×2箇所）。撤去工事期間は平成15年9月～11月に行い、立会調査は宮城弘樹が9月30日～10月1日に行い、鳥居脚部断面の図化を行った。

平成17年度「今帰仁城跡保存修理事業」2005年5月6日～2006年3月31日

墓撤去に伴う立会調査

墓撤去に伴う立会調査を村教育委員会が実施した（約9m²）。調査は平成17年5月12日～13日に行い、調査担当として玉城靖、調査補助として與那嶺俊があたった。堆積状況の確認と遺構の把握に務め、トレンチ断面と平面の図化を速やかに行い埋め戻して調査を完了した。

平成17年度「今帰仁城跡保存修理事業」2005年5月6日～2006年3月31日

「今帰仁城跡史跡等総合整備活用推進事業」2005年11月1日～2006年3月31日

今帰仁城跡外郭第2次調査（東区）

2次調査は今帰仁城跡内外郭東区の試掘調査を村教育委員会が実施した（約800m²）。発掘は玉城靖が担当し、調査補助として與那嶺俊があたった。Ⅲ区、Ⅳ区、Ⅵ区、Ⅶ区、Ⅷ区、Ⅸ区より、グスク時代に相当する包含層及び遺構の存在が確認され、Ⅰ区、Ⅴ区はグスク時代の遺構が確認されたが、多くの岩盤が露出し、平坦地が乏しい地区であることから、外郭東区の主体的な地域ではないことが確認された。またⅨ、Ⅵ区は現在のウーニーなどの遺構との兼ね合いから発掘調査は試掘程度とし、保存地区とした。なお、調査の概要報告として2006年に『史跡今帰仁城跡－外郭発掘調査概報－』今帰仁村文化財調査報告書第23集を発行している。

平成18年度「史跡等総合整備活用推進事業」2006年4月24日～2007年3月30日

今帰仁城跡外郭第3次調査（東区）

3次調査は今帰仁城跡内外郭東区の本調査を村教育委員会が実施した。発掘は玉城靖が担当し、

調査補助として與那嶺俊・具志堅亮があたった。調査は前年度に行われた試掘調査をもとに、Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ区の約1,400m²に及ぶ面積の本調査が行われた。Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ区は、土留め石積みや石列によって区画された平坦面となっており、グスク時代の屋敷の領域と重なる可能性を想定しながら発掘調査を進めていった。

今帰仁城跡外郭第4次調査（東区）

4次調査は外郭東側城壁の根石確認調査である。村教育委員会が実施し、発掘は宮城弘樹が担当し、調査補助として與那嶺俊があたった。外郭の石垣は東側と西側に大きく分けられ、東側は良好な保存状況であるが西側は総じて残りが悪い。調査は整備を早期に着手したいと考える東側城壁内壁側から行っていった。東側城壁の総延長は約200mになるが、そのうちの内壁面約100mの調査を行った。現況確認を行ったところ、石垣の現状で断面規格が良い部分では、外壁が高さ約3.5m、内壁が高さ約2.0mとなっている。

平成19年度「史跡等総合整備活用推進事業」2007年4月23日～2008年3月31日

今帰仁城跡外郭第5次調査（東区）

5次調査は今帰仁城跡内外郭東区の調査を村教育委員会が実施した（約1,000m²）。発掘は玉城靖が担当し、調査補助として與那嶺俊・具志堅亮があたった。調査はⅦ・Ⅷ区を中心に発掘調査を行った。Ⅶ区は3次調査の残りの箇所を調査した。Ⅷ区は外郭東地区で最も標高の低い箇所にあたり、祭祀施設の古宇利殿内がある。なお古宇利殿内については、地下に良好な形で遺構が埋没していることがわかったため、平成20年度に移設工事を行い、移設後、継続調査を行っている（7次調査）。

平成20年度「史跡等総合整備活用推進事業」2008年4月1日～2009年3月31日

今帰仁城跡外郭第6次調査（東区）

6次調査は今帰仁城跡内外郭東区の写真測量図化作業を行った。調査は村教育委員会が実施した。調査は宮城弘樹が担当し、調査補助として與那嶺俊があたった。4次調査の根石確認の成果を基に写真測量を行った。

今帰仁城跡外郭第7次調査（東区）

7次調査は今帰仁城跡内外郭東区の調査を村教育委員会が実施した（約400m²）。前年度に実施し古宇利殿内の地下に残存する遺構を中心に発掘を行った。発掘は玉城靖が担当し、調査補助として與那嶺俊があたった。

今帰仁城跡外郭第8次調査（東区）

8次調査は今帰仁城跡内外郭東区の調査を村教育委員会が実施した（約200m²）。発掘は玉城靖が担当し、調査補助として與那嶺俊があたった。調査はⅤ区を中心に発掘調査を行った。

今帰仁城跡外郭第9次調査（東区）

9次調査は今帰仁城跡内外郭東区の写真測量図化作業を行った。調査は村教育委員会が実施した。調査は宮城弘樹が担当し、調査補助として與那嶺俊があたった。4・6次調査として実施してきた事業の残り部分の調査を行っている。



第1図 発掘調査箇所位置図 (S=1/2000) (※アミカケ部分発掘箇所)

		史跡整備事業等に伴う発掘調査				今帰仁城跡周辺遺跡の発掘調査				
年度	西暦	事業名	調査地区	調査面積	期間	調査	調査地区	調査原因	調査面積	期間
昭和55年	1980	第1次発掘調査	志慶真門郭（2区、3区B（西半分）） 旧道	約200m ² 約20m ²	9/1～12/22 #	0次	周辺遺跡	表採、持ち込み資料等		
昭和56年	1981	第2次発掘調査	志慶真門郭（1区、4区、5区南半分）	約200m ²	9/1～12/24					
昭和57年	1982	第3次発掘調査	志慶真門郭（3区A、（東半分）5区、6区）	200m ²	8/23～10/27					
		第4次発掘調査	主郭（俗称本丸）	約500m ²	10/29～12/18					
昭和58年	1983	第5次発掘調査	大隅郭	約200m ²	10/5～2/9					
		第6次発掘調査	主郭（俗称本丸）		10/31～2/29					
昭和59年	1984	第7次発掘調査	主郭（俗称本丸）		8/13～1/22					
昭和60年	1985	第8次発掘調査	主郭（俗称本丸）		9/25～12/9	1次-1	西区	重要遺跡確認	35箇所 (152m ²)	1/21～3/31
昭和61年	1986	第9次発掘調査	主郭（俗称本丸）		11/28～12/2	1次-2	東区・ミームンダ スク・シニングニ ほか石積み遺構	重要遺跡確認	踏査	12/16～1/17
昭和62年	1987	主に整備・資料整理								
昭和63年	1988	主に整備・資料整理								
平成元年	1989	主に整備・資料整理								
平成2年	1990	主に整備・資料整理	主郭東側城壁（2次）写真測量に伴う崩落石除去（直営）	約40m ²						
平成3年	1991	主に整備・資料整理								
平成4年	1992	主に整備・資料整理								
平成5年	1993	主に整備・資料整理								
平成6年	1994	志慶真門郭東側石積基礎調査	志慶真門郭東側石積外壁側基礎	約6m ²	9/12～9/13					
平成7年	1995	志慶真門郭東側石積土質調査	志慶真門郭東側石積外壁側基礎	約20m ²	9/13～1/13					
平成8年	1996	志慶真門郭東側石積試掘調査	志慶真門郭北東部北側アザナ調査	約20m ²	9/2～9/14					
		志慶真門郭東側石積試掘調査	志慶真門郭北東部南側アザナ調査	約20m ²	10/7～10/19					
平成9年	1997	志慶真門郭南側石積試掘調査	志慶真門郭南側石積外壁側基礎	約2m ²	6/25～9/12					
		志慶真門郭南側石積試掘調査	志慶真門郭南側石積外壁側基礎	約5m ²	2/16～3/24					
平成10年	1998	外郭石積遺構調査	外郭西地区石積み遺構調査	約10m ²	5/11～7/29					
平成11年	1999	志慶真門外壁遺構調査	志慶真門	約10m ²	4/13～2/29					
		階段遺構確認補足調査	主郭西側階段遺構	約3m ²	9/30～10/1					
		主郭東側石積遺構確認調査	主郭東側調査（3次）	約10m ²	3/17～3/26					
平成12年	2000	主郭東側工事に伴う立会調査	主郭東側調査（4次）		11/13～2/22					
		大隅城壁修理工事に伴う事前確認調査	大隅城壁調査	約10m ²	9/26～3/31					
平成13年	2001	主郭東側崩落石撤去工事に伴う立会調査	主郭東側調査（5次）		9/21～12/19					
平成14年	2002	主郭東側城壁内壁試掘調査	主郭東側調査（6次）	約40m ²	9/2～9/20					
		主郭東側工事に伴う立会調査	主郭東側調査（7次）		2/6～3/27					
平成15年	2003	主郭南側城壁崩落石撤去	南側城壁調査（1次）		9/1～10/31	2次	西区Ⅰ区・Ⅱ区b	公園整備（記録保存）	1300m ²	4/24～11/7
						3次	ハラクブ	公園整備（範囲確認）	41箇所 (5,000)	5/14～7/25
						4次	東区（Ⅰ・Ⅶ区）	遺跡範囲確認	2地点 (30m ²)	9/24～10/28
		鳥居撤去工事に伴う立会調査	Z-30	8m ²	9/30～10/1	5次	西区Ⅴ区・Ⅳ区の一部	公園整備（記録保存）	400m ²	10/27～1/7
						6次	西区Ⅲc・Ⅳ区（旧Ⅲd）	公園整備（記録保存）	800m ²	12/8～2/25
						7次	西区Ⅳ区	公園整備（記録保存）	400m ²	1/14～1/26
平成16年	2004	第1次外郭発掘調査	城外北西区R-23～26、S-23～26	400m ²	4/21～3/31	8次	西区Ⅲa	公園整備（記録保存）	400m ²	5/13～11/10
						9次	西区Ⅲb	公園整備（記録保存）	600m ²	5/13～12/4
		工事に伴う立会調査	主郭東南アザナ調査		11/12～3/21	10次	西区Ⅱa	公園整備（記録保存）	200m ²	12/21～1/21
						11次	道路敷下	公園整備（記録保存）		1/20～3/31
		墓撤去立会調査	U-24	9m ²	2005年4月	12次	東区（Ⅶ区）	遺跡範囲確認	200m ²	12/2～3/31
平成17年	2005	第2次外郭発掘調査	試掘、東区Ⅹ区R-28～29、Ⅲ区・Ⅴ-33ほか	800m ²	8/9～3/31					
		主郭南側城壁崩落石撤去	主郭南側城壁調査（2次） 南西アザナ基礎調査	10m ²	6/22～8/22			資料整理		4～3月
		主郭東側工事に伴う立会調査（工事）	主郭東側調査（8次）		1/26～3/31					
平成18年	2006	第3次外郭発掘調査	東区Ⅲ・Ⅳ区U-33～36、T-33～36ほか	1000m ²	4/24～3/30	補足	大川原遺跡	法面崩落（記録保存）	20m ²	4月～3月
		第4次外郭発掘調査	外郭東区城壁基礎調査	200m ²	4/24～3/30	確認	資料整理 今泊集落内			4月～3月
		主郭南側城壁崩落石撤去	主郭南側城壁調査（3次） 上段部基礎調査	20m ²	5月～7月			遺跡範囲確認	4m ² ×3箇所	6/27～6/29
平成19年	2007	第5次外郭発掘調査	東区Ⅵ区S-33、R-33・34、Ⅷ区Q30～33ほか	1000m ²	4/23～3/30	13次	親泊ムラ跡（4983番地）	遺跡範囲確認	43m ²	9/19～10/10
		主郭南側城壁崩落石撤去	主郭南側城壁調査（4次） 下段部基礎調査	20m ²	5月～6月	14次	志慶真ムラ跡（4853番地ほか）	遺跡範囲確認	32m ²	12/1～12/28
平成20年	2008	第6次外郭発掘調査	東区Ⅷ区Q-30、R-30～32、S-31	1000m ²	7/1～11/28	15次	ハラクブ試掘調査（4929-1番地）	遺跡有無確認	2m ² ×5箇所	7月1日
		第7次外郭発掘調査	外郭東区城壁基礎調査	20m ²		16次	ナガレ庭遺構調査（4699番地ほか）	測量調査	40m ²	8/1～8/14
						17次	今帰仁村Ⅲ区試掘調査（5012番地ほか）	発掘調査	362m ²	12/1～12/12

第1表 今帰仁城跡及び周辺遺跡のこれまでの調査（※ゴシック体、アミかけ部分は今回報告）

第Ⅲ章 遺 跡

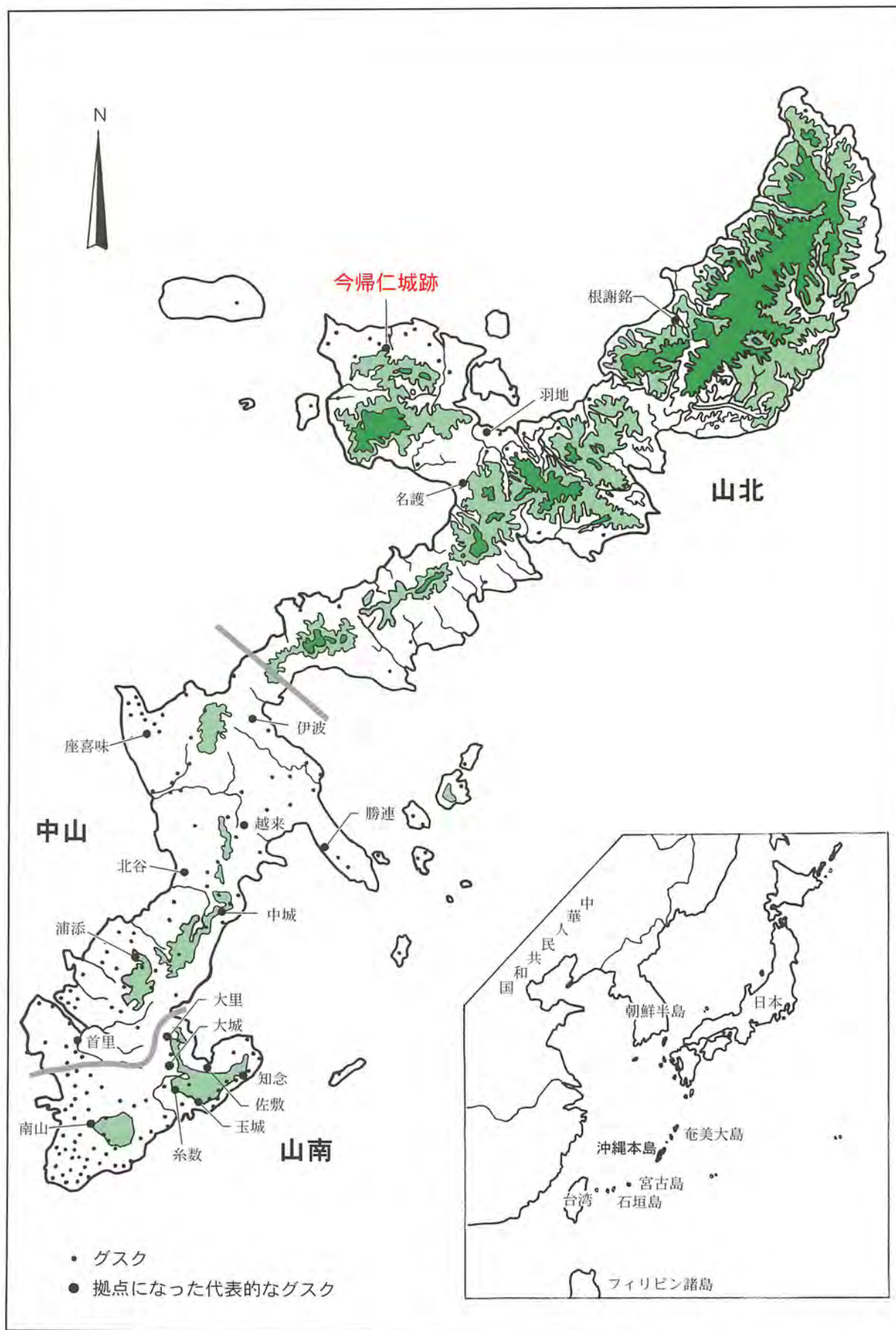
第1節 位置と環境

今帰仁村は沖縄本島北部、本部半島の北側に所在する人口約9,500人の自治体である。本島北部地域一帯は中南部に比して全体的に山地主体となっているため「山原（やんばる）」と呼称されている。今帰仁城跡は今帰仁村の中でも西端、字今泊に立地している。城地の立地する丘陵は標高約100mを計り、丘陵頂部の主郭・御内原からの眺望は広く、北に伊平屋・伊是名島、与論島を望むことができる良所にある。本部半島の地形的特徴は概して山地部にみられる今帰仁層・本部層（与那嶺層）という中生代初期頃に堆積した地層群と、低地・海岸部にみられる琉球層群の2つのブロックに大別される。今帰仁層群は中生代三畳紀に堆積した地層で、今帰仁城跡の立地する丘陵一帯から本部町の大堂・浜元付近までの地域に広がっている。特に今帰仁城跡の立地する北西部には、結晶化が進んで硬質、厚さが平均して20cm前後で割れやすい特徴の層状石灰岩が基盤岩となる。

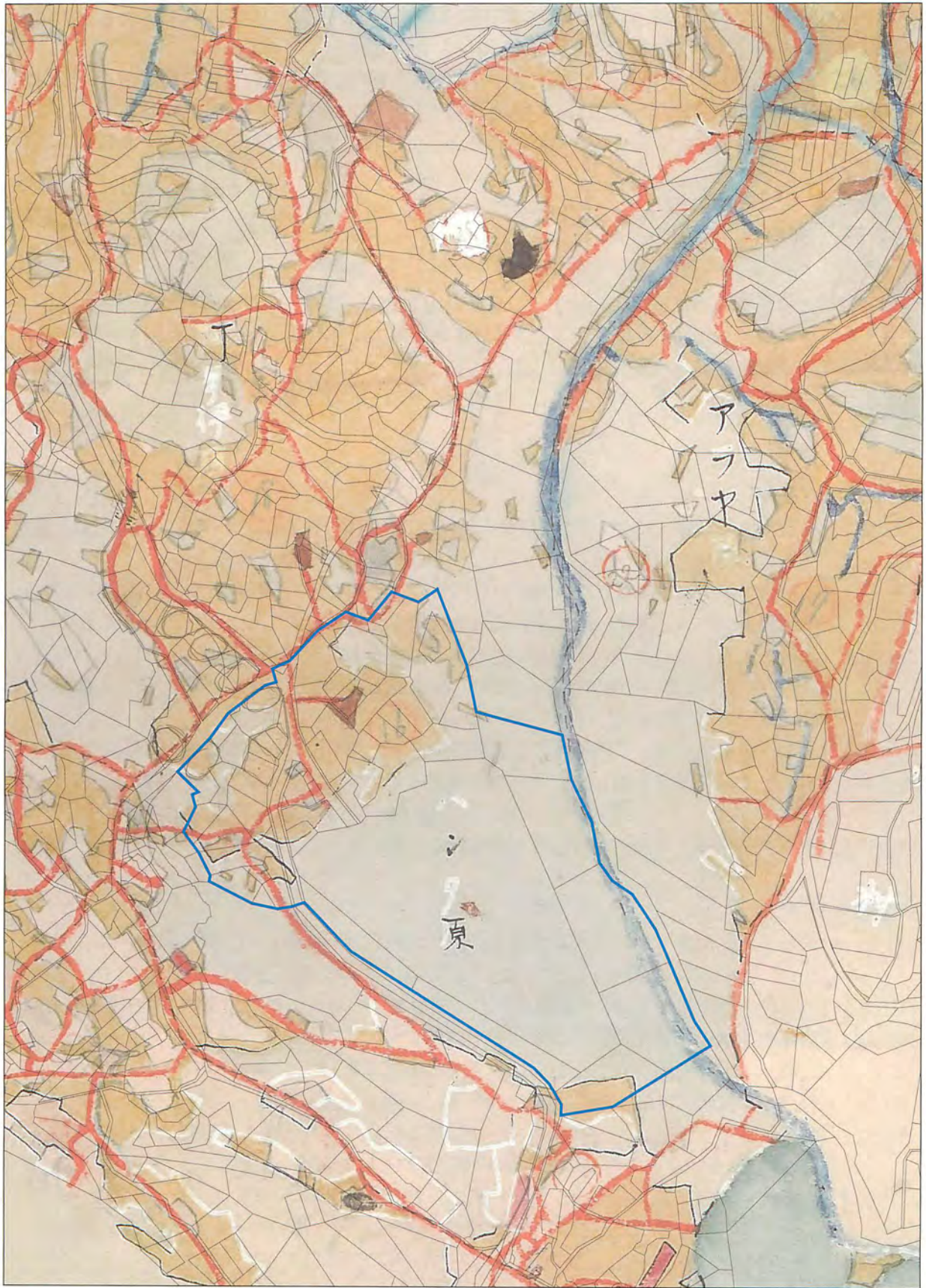
一方、この今帰仁城跡の周辺には集落遺跡、拝所、御嶽、石積み遺構などが今帰仁城跡を中心に展開する。今帰仁城跡周辺遺跡の名称はこの関連遺跡群の総称である（第3図）。中心となる今帰仁城跡は今帰仁村大字今泊小字ハンタ原に所在し、面積は7.9ha（史跡指定面積）の広さを持つ大規模なグスクである。最高所の標高は約100mとなり、基盤岩の石灰岩の丘陵上に位置する。丘陵の頂上部が主郭、大庭、御内原となり、その東は70～80mの深い溪谷をつくり天然の要害となる。東側の谷筋は志慶真川が蛇行して流れ、西側の谷筋はタキンチャガーラが流れ東シナ海に注いでいる。今帰仁城御内原の郭に立つと志慶真川の溪谷を脚下に遠く伊是名島、伊平屋島、伊江島、古宇利島を望み、晴れた日には遠く与論島を眺望することができる。今帰仁城跡の城壁は立地する基盤岩の古期石灰岩という灰色の硬い石を積み上げた石垣で、県内でも有名なグスクである首里城跡、中城城跡、勝連城跡などの白い琉球石灰岩の石垣とは雰囲気異なる。今帰仁城跡の石垣の総延長は約1.5kmを計り、屏風状に曲線的に積み上げられている。城壁で囲まれた空間は先の主郭・大庭・御内原以外にもカーザフ、大隅、外郭、志慶真門郭など概ね10の郭からなり、石畳や石段で各郭は結ばれている。10の郭のうち最も北側にあり広い郭が外郭である。城外から外郭へのアクセスを行ったと考えられる門の部分は道路の開削などがあって不明瞭ではあるが、概ね現在道路に分断された地点にあるものと考えられる。

今帰仁城跡の歴史は、琉球が3つの勢力に分かれていた、いわゆる三山鼎立時代に山北（北山）として、中国明代に琉球国中山王、山南王とともに記録に登場する。これまでに確認されている史料をたよりに概述すると、最古史料の一つに『明實録』があげられる。太祖實録卷一五八・洪武一十六年一二月庚午朔（1383年12月15日）「琉球國山北王帕尼芝、遣其臣摸結習、貢方物。賜衣一襲。」と記され、山北王「帕尼芝」の名称が記述されるのを以って嚆矢とするようである。以後記録によれば、最初の1383年から最後の1415年の33年間に山北王・帕尼芝が6回、山北王珉が1回、山北王攀安知が11回、中国皇帝へ使者を送り朝貢貿易を行ったことが記されている。この時代山北は沖縄北部地域と奄美大島近隣まで領域として支配していたようである。

しかし、その山北（攀安知）も本島内で急速に勢力を拡大する中山王尚巴志によって1416年（1422年の和田説もある）に滅ぼされてしまう。中山の山北平定後、城地には中山王の子弟や重臣を山北監守に任じ、沖縄本島北部やんばる地域を管理している。それは1665年に監守体制が廃止されるまで続く。この間のことを監守時代と呼んでいる。この監守時代の間、1609年には薩摩軍によるいわゆる琉球入りがあり、今帰仁城に立ち寄っていることが従軍日記「琉球渡海日々記」に記されている。日記によれば「首里城へ向かう途中、運天港に停泊、親泊での和議が受け入れられ



第2図 今帰仁城跡位置図



第4図 今帰仁城跡の現況地積図と明治の地積図の重ね図（※青線は史跡指定地域）

ず城へ放火した」とあり、実質的な廃城は監守引き揚げよりも早い、1609年頃にあったと考えられる。

今帰仁城跡は昭和47（1972）年には沖縄の日本復帰と同時に国指定の史跡に指定され、昭和55（1980）年より今帰仁村が主体となって環境整備事業がすすめられている。この中で、平成12（2000）年には世界遺産として登録されたことによって、周辺地域が景観保全地区に指定され、歴史公園として活用されている。

第2節 層序

遺跡全体を覆う堆積層は、現代の表土・旧耕作土のⅠ層で、この下にグスク時代の遺物包含層が堆積する。また、グスク時代の包含層下に堆積する層が、造成による人為的な堆積層、岩盤の露頭、遺物を全く含まない自然堆積層の地山に大別することができる。ただし、Ⅲ・Ⅳ区とⅦ区では包含層の堆積にそれぞれ違いがあり対応しなかったため、それぞれ基本層序を設けた。

Ⅲ・Ⅳ区基本層序

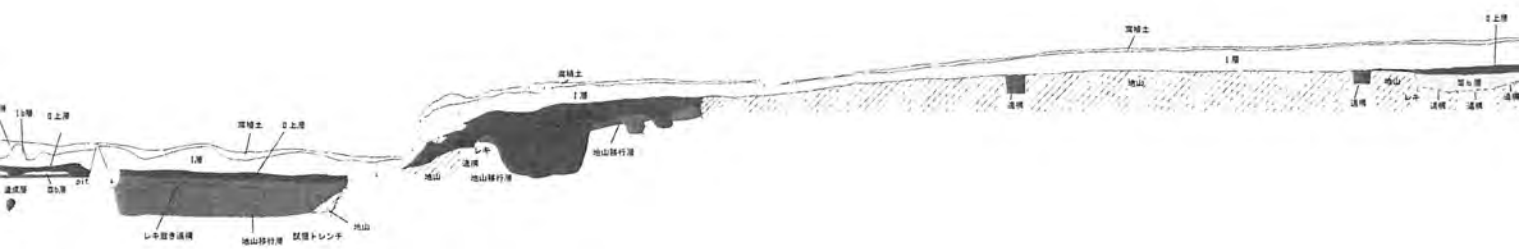
- Ⅰ 層：【褐色土層】腐食・耕作土層。調査地のほぼ全域が覆われる。地下深くに耕耘が及ぶ地域では包含層や地山を掘削し、ガラスビンや近現代の陶磁器等を包蔵する。
- Ⅱ 層：【暗褐色土層・褐色土層】当該遺跡の形成期のグスク時代の遺物包含層。遺跡全体を覆う。
- Ⅲ 層：【暗褐色土層】当該遺跡の形成期のグスク時代の遺物包含層。Ⅲ・Ⅳ区の西側に分布。
- Ⅳ 層：【黒褐色土層】当該遺跡の形成期初頭の層と考えられ、Ⅲ層の下に薄く認められる遺物包含層で炭を多く含み粘性が強い。焼土、明褐色土ブロックを多く含み、拳大の礫が多く検出される。Ⅳ層はU-33一帯でのみ確認。
- Ⅴ 層：【にぶい黄褐色土層】当該遺跡の形成期の推積層。僅かに頁岩、炭を含むのみ。
- 造成層：【明褐色土層・褐色土層】造成層。斜面地を平坦にするために異なる土を数回に分けて入れ込んで造成している。Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ区で4箇所検出されている。第3造成層。
- 地山層：【明赤褐色土層・黄褐色土層】古期石灰岩の岩盤が至る所で露頭。

Ⅶ区基本層序

- Ⅰ 層：【褐色土層】腐食・耕作土層。調査地のほぼ全域が覆われる。地下深くに耕耘が及ぶ地域では包含層や地山を掘削し、ガラスビンや近現代の陶磁器等を包蔵する。
- Ⅱ 層：【暗褐色土層・褐色土層】当該遺跡の形成期のグスク時代の遺物包含層。Ⅶ区全体を覆う。
- Ⅲ 層：【暗褐色土層・褐色土層】当該遺跡の形成期のグスク時代の遺物包含層。細かく分層すると7枚まで分けられ、それぞれⅦ区の各所で確認できる。
- Ⅳ 層：【褐色土層】当該遺跡の形成期初頭の層。落ち込みの大きいS-32・S-33・R-33でのみ検出。
- 造成層：【明褐色土層・褐色土層】斜面地を平坦にするために異なる土を数回に分けて入れ込んで造成している。Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ区で4箇所検出されている。第4造成層。
- 地山層：【明赤褐色土層・黄褐色土層】古期石灰岩の岩盤が至る所で露頭。

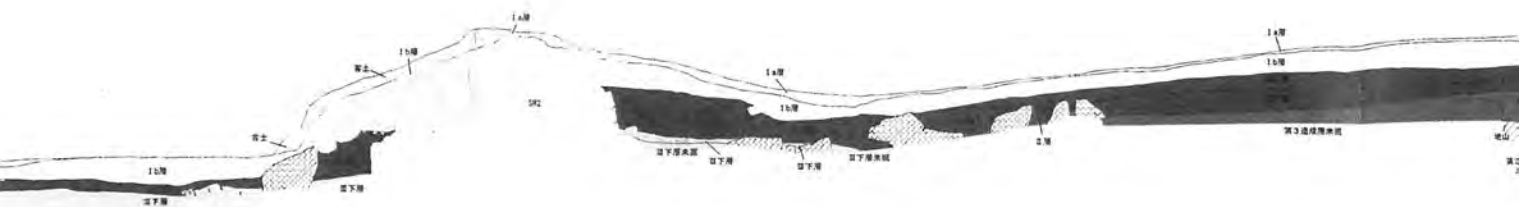
R-33

S-33



T-31

T-32



1

1

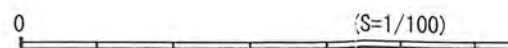


I 層	腐植土・耕作土 (褐色土)
II 層	遺物包含層 (暗褐色土・褐色土)
III 層	遺物包含層 (暗褐色土・褐色土)
IV 層	遺物包含層 (褐色土)
	造成層 (明褐色土・褐色土)
	地山 (暗赤褐色土・灰褐色土)
	岩盤

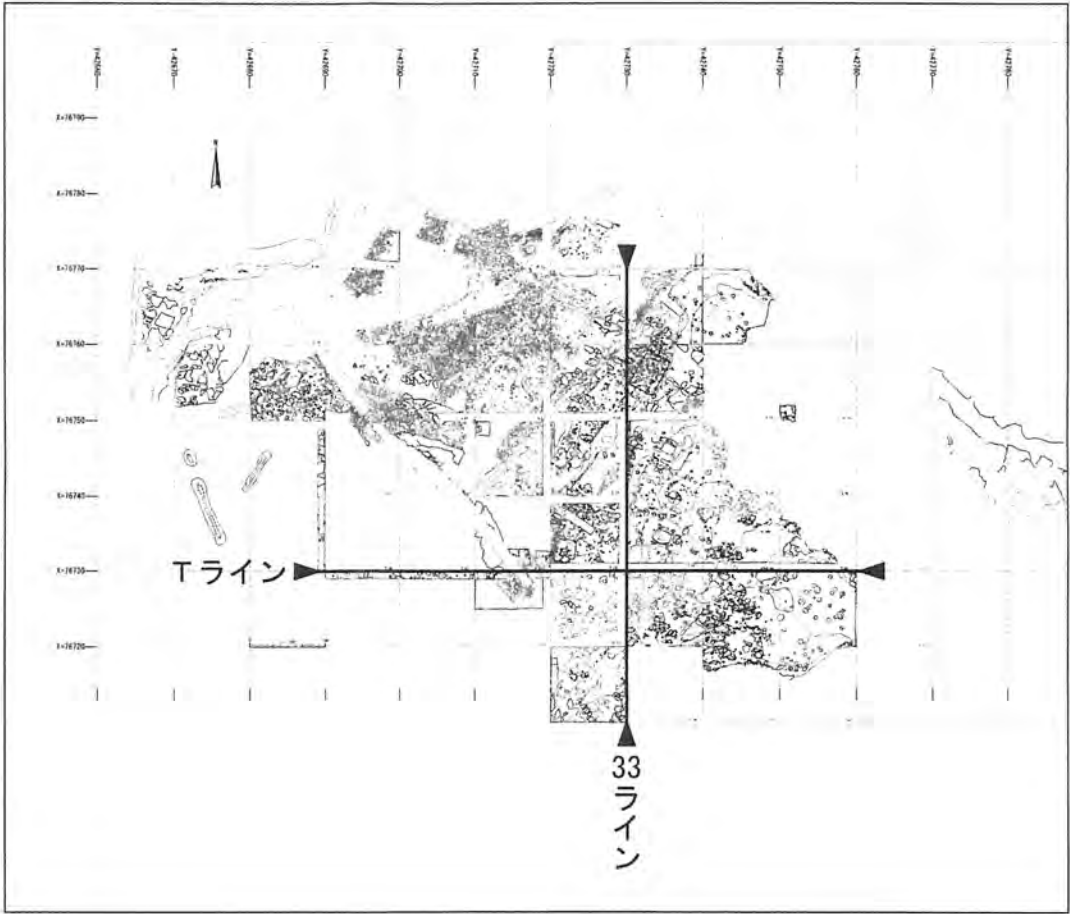
I 層	腐植土・ (褐色)
II 層	遺物包 (暗褐色土)
III 層	遺物包 (暗褐色)
IV 層	遺物包 (黒褐色)
V 層	
	造成 (明褐色土)
	地山 (明赤褐色土・黄褐色土)

1

1



基本層序位置図



V-33

85.0m

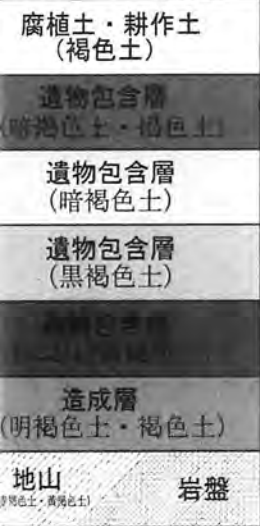
84.0m

83.0m

82.0m

81.0m

基本層序柱状図



T-35

T-36

86.0m

85.0m

84.0m

83.0m

82.0m

81.0m

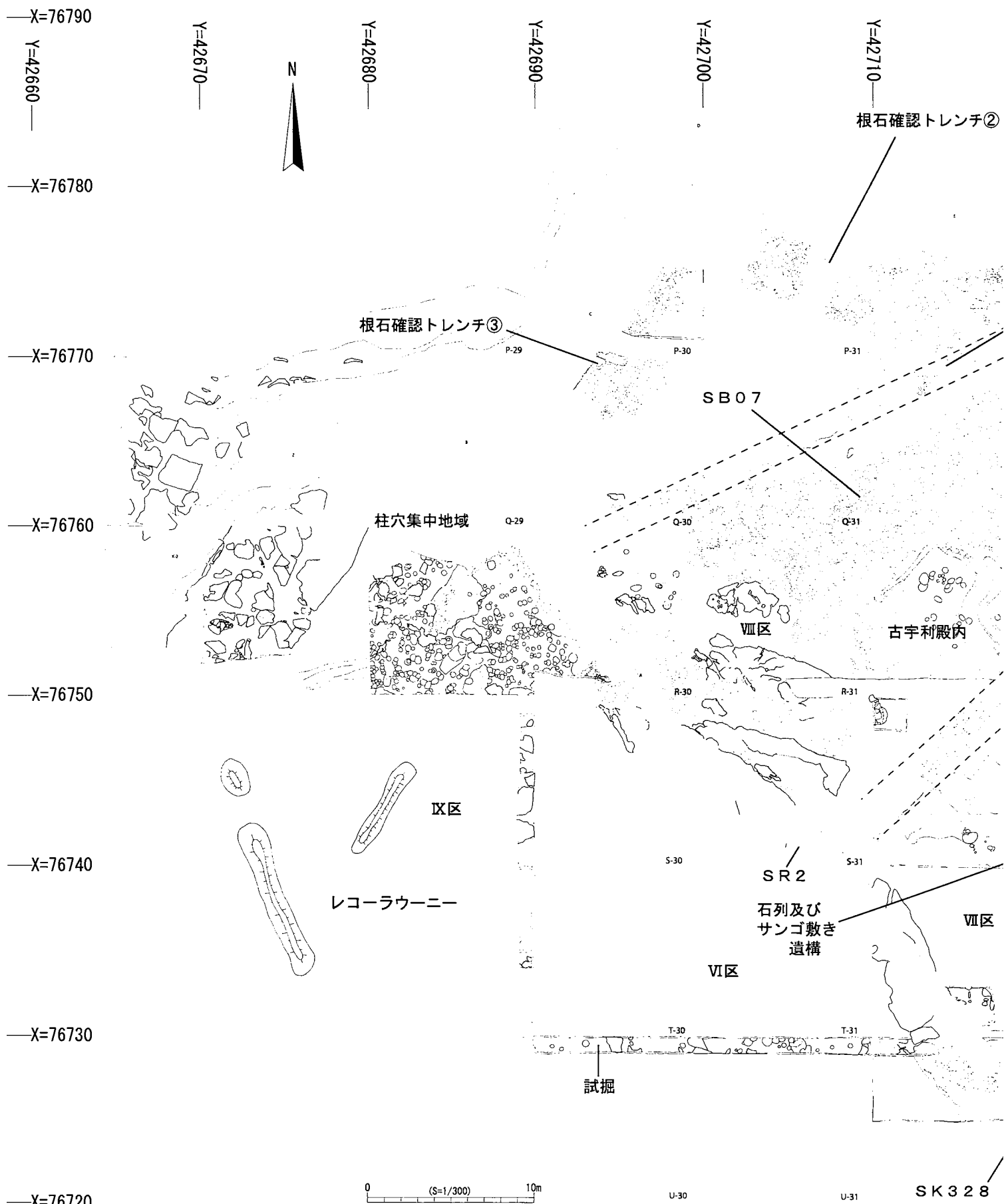
/100) 10m

第3節 遺構

今帰仁城跡の外郭は発掘調査以前より地表面に露出している遺構が数多くみられる。石垣はその代表的なもので、今帰仁城跡の大隅郭を区画する大きく蛇行する石垣は存在感のある遺構の一つである。また外郭東区にある石垣は良好な状態で保存されている。この他にも外郭内を区画する石垣なども確認されている。次章第1・2節ではこれらの石垣（石積遺構）について報告する。以下立会調査や試掘調査の概要を報告し、主にⅢ・Ⅳ区、Ⅶ区の本調査の成果について次章第3節以降においてまとめることとする。

さて、発掘調査において検出された遺構は柱穴、土坑、土留め石積み、石敷きなどの遺構だが、基本的には発掘調査時に検出されたその検出面のみまでの確認で留めている。一方土坑などについては半裁を行い、堆積状況を確認する調査を実施している。一部の遺構については、整備委員会の指導に基づいて遺構の検出作業を実施している。今回の報告では特に、注目される遺構として、SB02の6本柱建物跡がある。この建物は中央に規模の大きい炉跡（SK295）を伴い県内でも類例がない。このSB02がある（Ⅲ・Ⅳ区）一帯は、柱穴が密集しておらず、比較的土坑の分布が目立つ。過去にも周辺遺跡調査報告において柱穴が密集するところと（母屋分布域）、柱穴の径が大きいと密集しないところ（作業スペース）として報告している。城内にはまだ高倉等の施設は確認されていないことから、この外郭に作業場的な施設があったと考えられる。逆に広大な外郭地域にあって（今回調査約10,000m²）、母屋が分布しそうな柱穴密集地域は2箇所のみであった。また、母屋建物に関してはⅦ区において2棟プランを組むことができた。しかし柱穴が配される密度が多く、同箇所に数回にわたって立て替えが行われたと考えられることと、柱間が不均等であることもあり、いざ柱穴を半裁してみると、浅いものや深いものなど統一性に欠ける柱穴が多く、要検討建物とした。

種類	遺構数
・掘立柱建物跡	6棟（母屋建物2棟：要検討、高倉2棟、竪穴建物2棟）
・柱穴列遺構	1基（PL1）
・柱穴	698基
・不明遺構	96基（柱穴や土坑以外の用途不明の遺構）
・土坑	18基（SK170、SK266、SK328等、SB01・SB02土坑含む）
・土留め石積み	2基（SR3、SR4）
・石積み遺構	2基（外郭東側城壁、SR2）
・溝状遺構	4基（SD286等）
・造成層	4基（第1～4造成層）
・石列遺構	2基（サンゴ敷き石列等）
・土塁状遺構	2基（SM1、SM2）



第3造成

第6図 外郭東区遺構詳細図

Y=42780

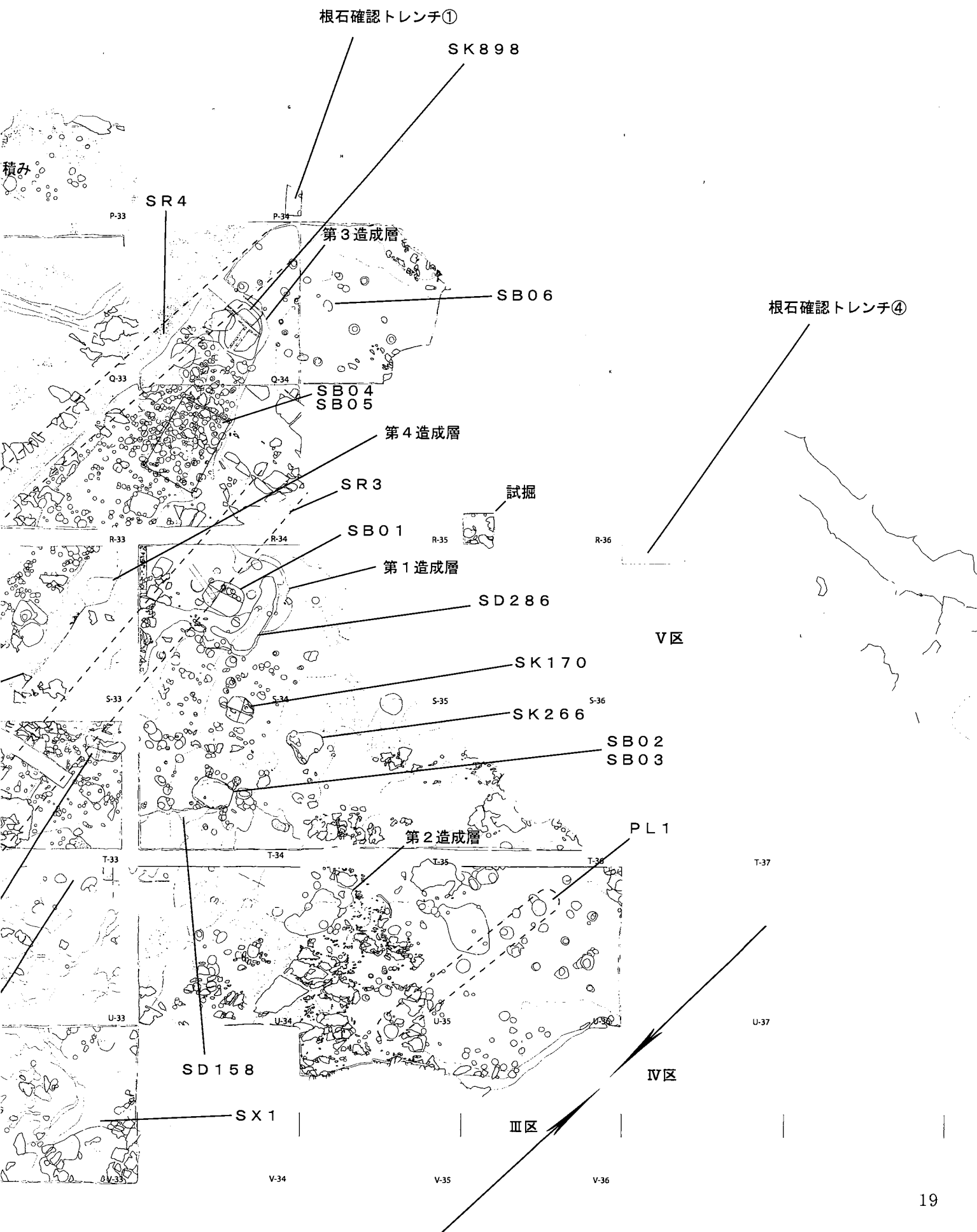
Y=42770

Y=42760

Y=42750

Y=42740

Y=42730



第4節 駐車場撤去

今帰仁城跡の史跡地内には近現代に構築された史跡環境の景観を損なうコンクリート構造物がいくつかある。これらはいずれも史跡指定以前に構築された便益施設等で店舗・墓・展望台・イス・テーブル・トイレ・等様々なものがある。

これまで御内原に所在していた展望台を平成9年度に、史跡入り口にあった旧食堂（当時資料室）を平成10年度に解体撤去しており、平成15年度には長年の課題であった鳥居の撤去を完了している。

一方、史跡指定地内に長く設置されたままとなっている外郭に所在する駐車場は、来訪者が多く訪れる現状では撤去ができずにそのままとなっていた。駐車場設置の経緯等は不明な点も多いが、外郭が追加指定されたのは昭和50年で折しも海洋博覧会の開催による今帰仁城跡周辺の開発計画に伴うものであった。このことから、少なくとも駐車場の設置はそれ以前あるいはその前後と考えられる。これまで史跡整備事業の基本計画にも早くから撤去が盛り込まれていたが、史跡指定地外に適当な広さの駐車場が無いこともあり、撤去は棚上げとなっていた。しかし、平成17年9月に今帰仁城跡周辺整備事業に伴うグスク交流センター及び駐車場が完成したことによって、城内の駐車場が不必要となったため平成17年8月1日～9月29日までに撤去工事を実施した。撤去工事に先立ち、ポータブルコーン貫入試験において地表下の状況を確認した上で、客土の堆積の容量を推算し請負工事によって、撤去工事を行った。撤去された駐車場の客土層は厚いところで2m以上堆積していた。なお、撤去工事の実施にあたっては、常時調査員が立ち会い、客土層の見極めを行いながら実施している。



写真1. 施工前



写真2. 施工後



写真3. 掘削状況



写真4. 立会

第Ⅳ章 報 告

第1節 東側城壁（6次調査）

〔名 称〕 東側城壁

〔位 置〕 外郭東側

〔検出面〕 現地表面より露出

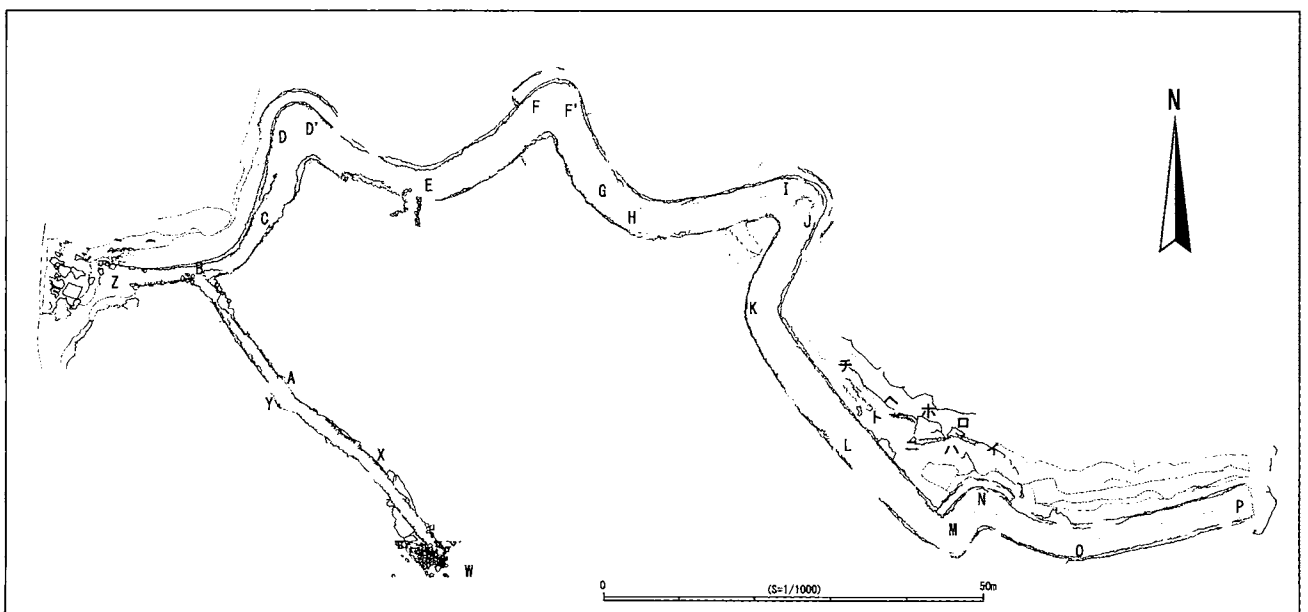
〔規 模〕 総延長約200m 幅：最大9.5m、最小4m 高さ最大3.1m、平均1.3m

〔遺構構成〕 石積み遺構1基、補強用石積み遺構4基、下部城壁4基

〔所 見〕 東側城壁は今帰仁城跡の最も北側にある外郭を圍繞する城壁で、高さ最大3.1m、幅最大9.5mで築かれた空石積みである。調査は平成18年度に平面図を作成し、平成19年度に東南側約100mを、平成20年度に西側100mをPI3000（3D写真測量システム）を用い石垣立面図を作成した。今回報告分は平成19年度調査分に限定する。実測図作成にあたっては、石垣に基準点Z、B～Pの測点を設置し、遺構全体の測量基準点として設けた。加えて、調査対象となった石垣の下部城壁が確認され、これをイ～チの測点でそれぞれ管理する。測点番号を連番で付して内壁外壁の別を記し、城壁の遺構タイトルとしている。測点を西から東に読み立面図名称としている。具体的にはO-P内壁等とした。内壁外壁の別は外郭側に向いている方を内壁とした。以下個別の石積みの現況について詳述していく。

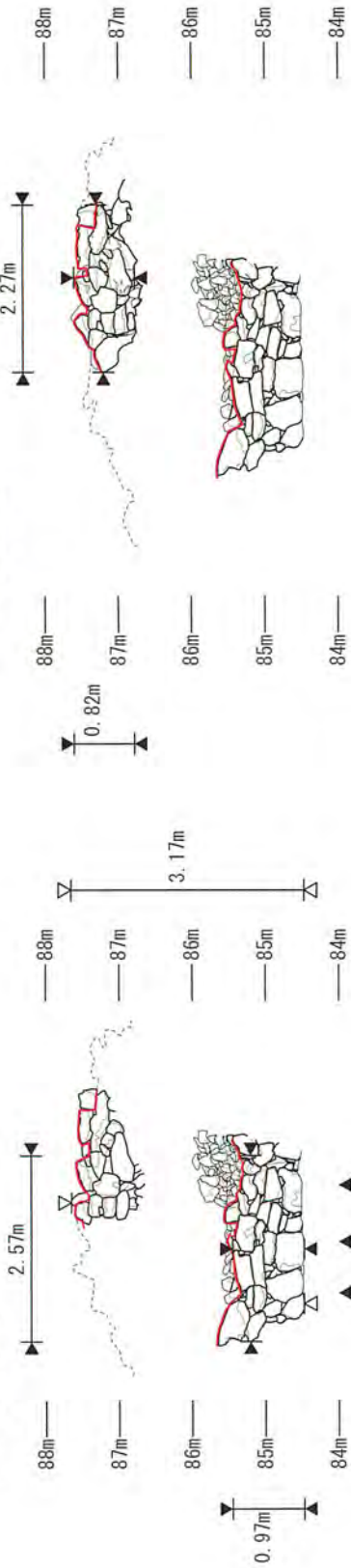
第8・10・12・14図は東側城壁（平成19年度調査分）内壁部分、第16・18・20・22図は東側城壁（平成19年度調査分）外壁部分、第24図は下部東側城壁（平成19年度調査分）下部城壁の城壁実測図である。

第8図はI-J内壁及びJ-K内壁の図面で、遺構全体の保存状況は比較的悪く2分の1程度が崩落しているものと考えられる。一方、後述する外壁面の突出部においては比較的残りが良いようで胸壁が一部残存している。J-K内壁では一部、93度の勾配箇所があり、ほぼ倒れた状態となるがおおよそ79度～86度になる。



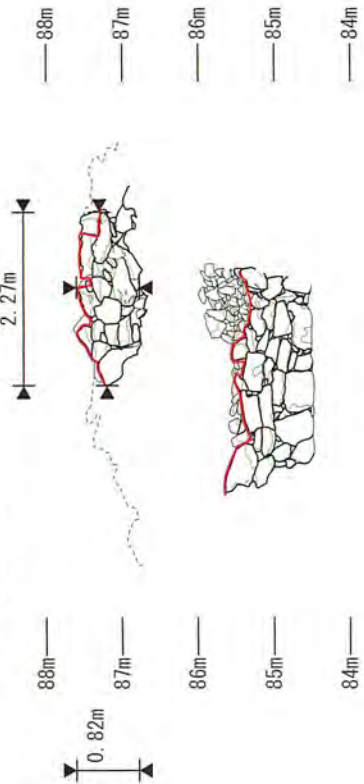
第7図 外郭東側城壁測点位置図 (s=1/1000)

I-J内壁

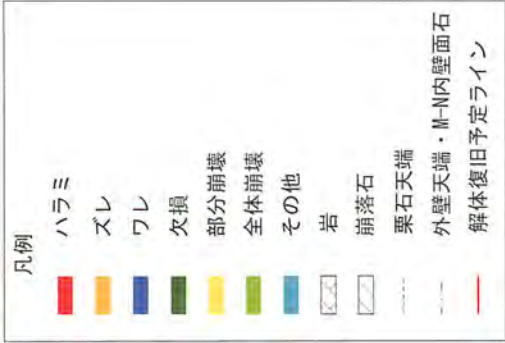


第8図-1a

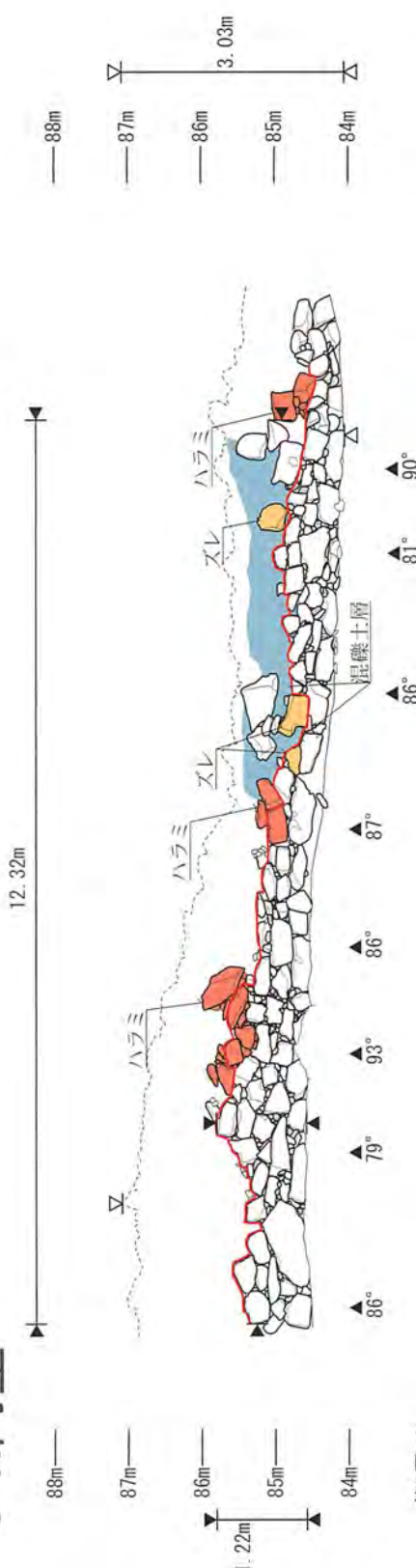
I-J胸壁



第8図-2a



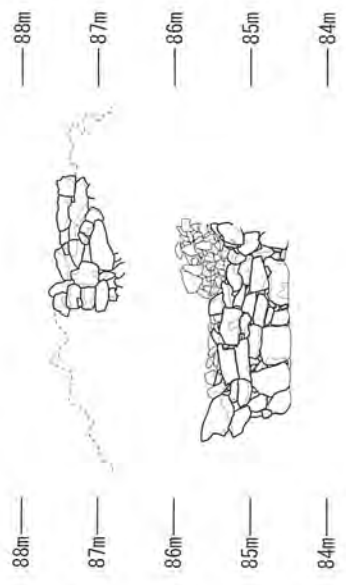
J-K内壁



第8図-3a

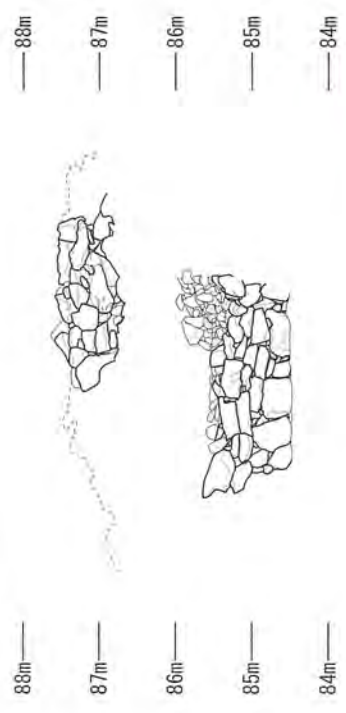


I-J内壁



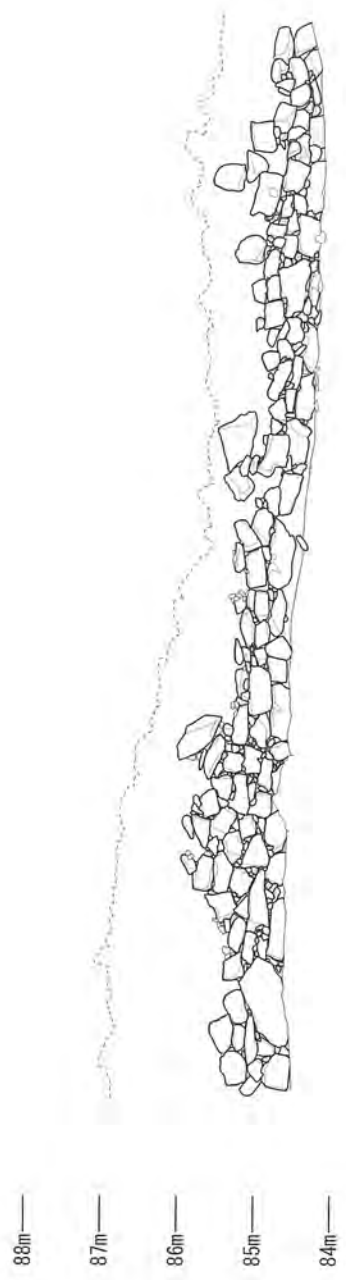
第8図-1b

I-J胸壁



第8図-2b

J-K内壁



第8図-3b

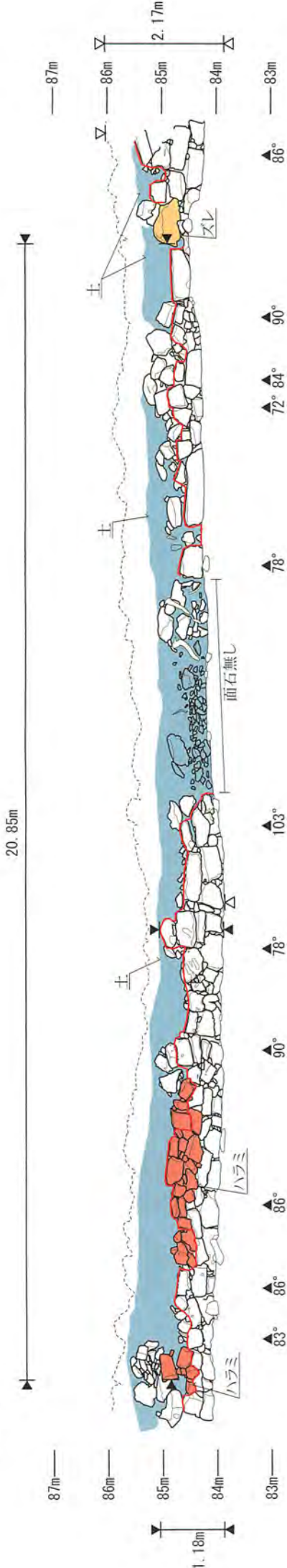
第8図 東側城壁（内壁）I-J、I-J胸壁、J-K



第9図 東側城壁（内壁）I-J、I-J胸壁、J-K位置図

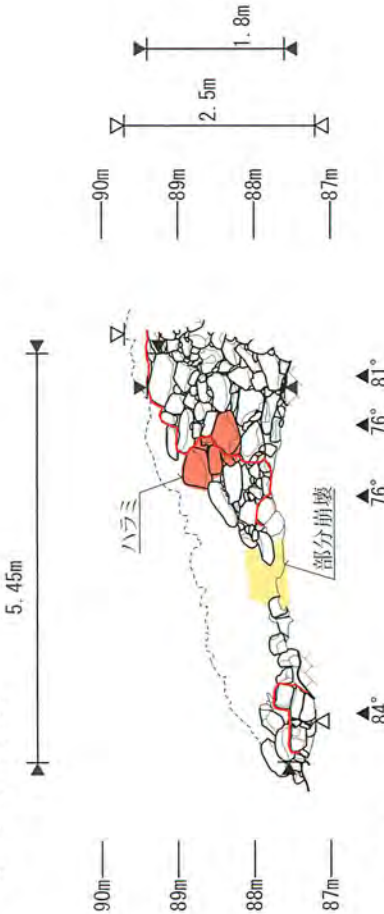


K-L内壁



第10図-1a

M-N内壁

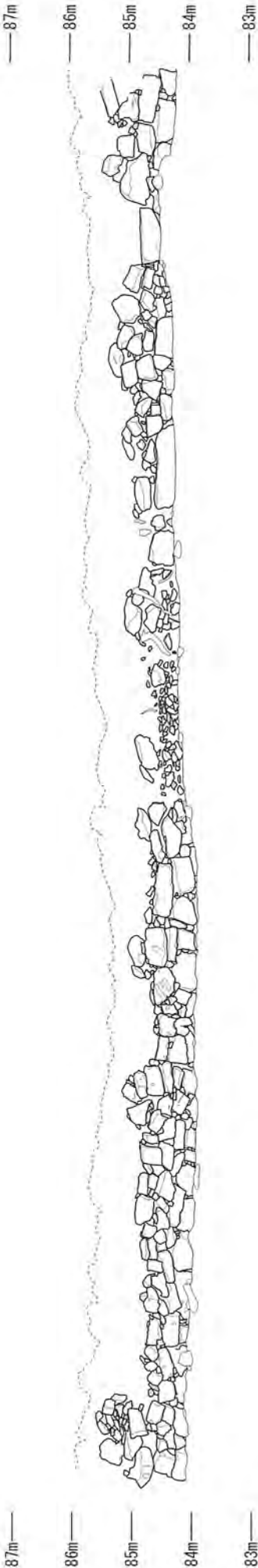


第10図-2a

凡例	
ハラミ	ズレ
ワレ	欠損
部分崩壊	全体崩壊
その他	岩
崩落石	栗石天端
外壁天端・M-N内壁面石	解体復旧予定ライン



K-L内壁



第10図-1b

M-N内壁



第10図-2b



第10図 東側城壁 (内壁) K-L、M-N

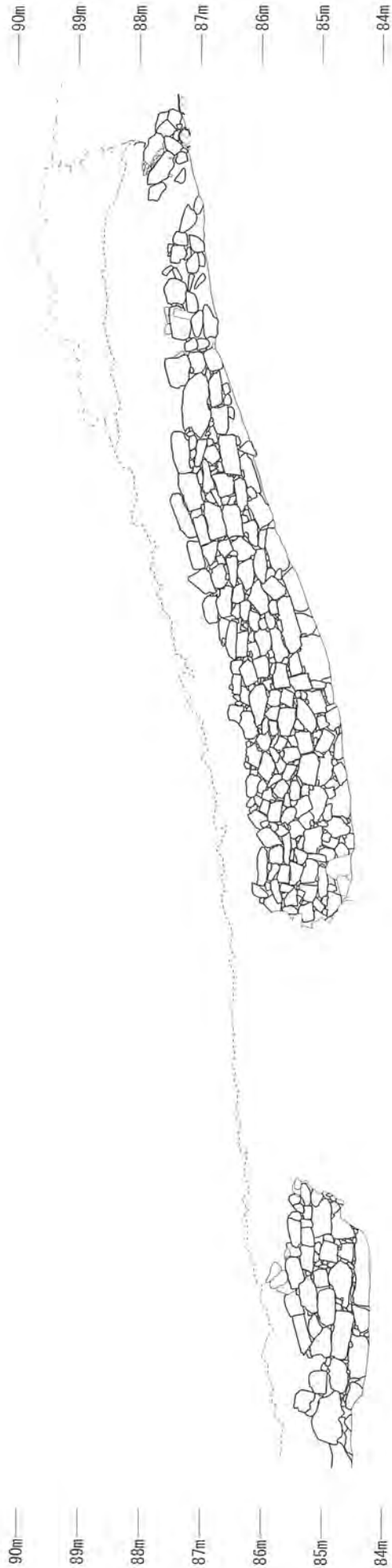


第11図 東側城壁 (内壁) K-L、M-N位置図



第12图-a

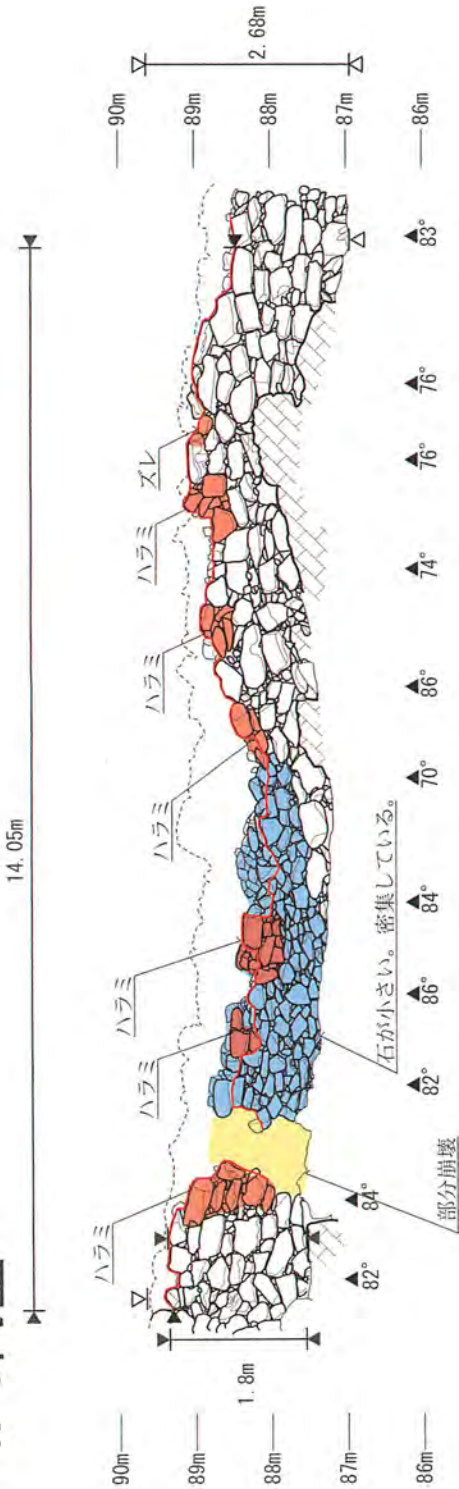
L-M内壁



第13図 東側城壁（内壁）L-M位置図

第12図 東側城壁（内壁）L-M

N-0内壁



凡例	
■	ハラミ
■	ズレ
■	ワレ
■	欠損
■	部分崩壊
■	全体崩壊
■	その他
	岩
	崩落石
	栗石天端
	外壁天端・M-N内壁面石
	解体復旧予定ライン

第14図-1a

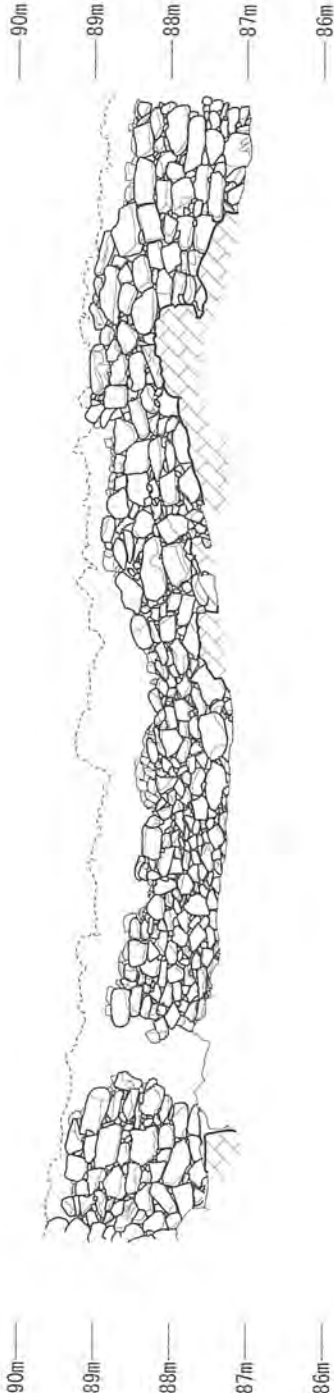
O-P内壁



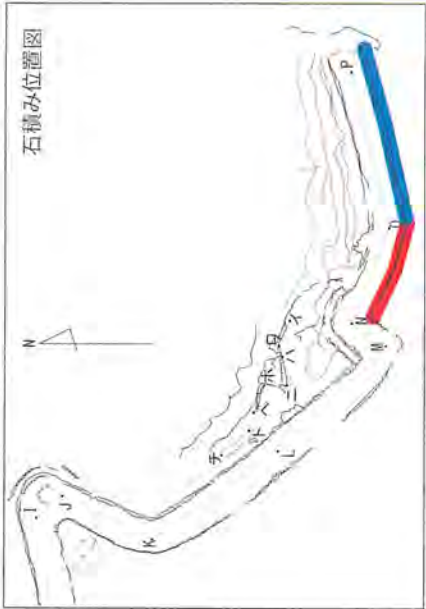
第14図-2a



N-O内壁

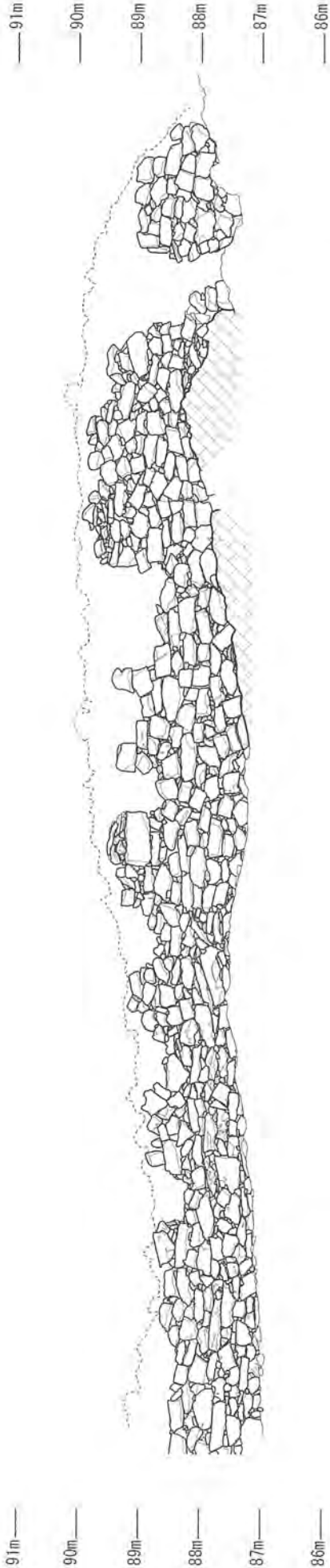


第14図-1b



第15図 東側城壁 (内壁) N-O、O-P位置図

O-P内壁

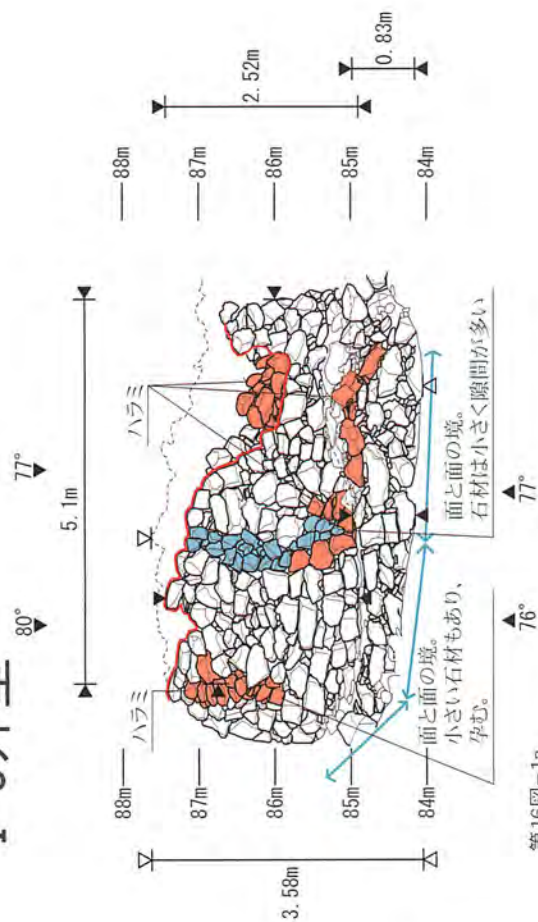


第14図-2b

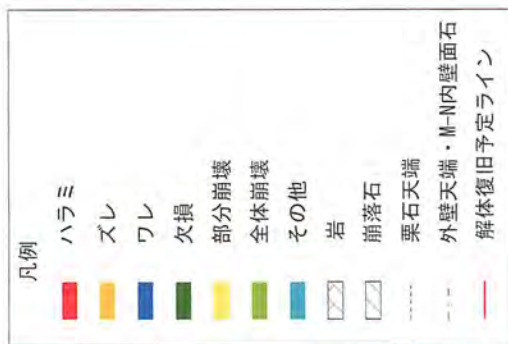


第14図 東側城壁 (内壁) N-O、O-P

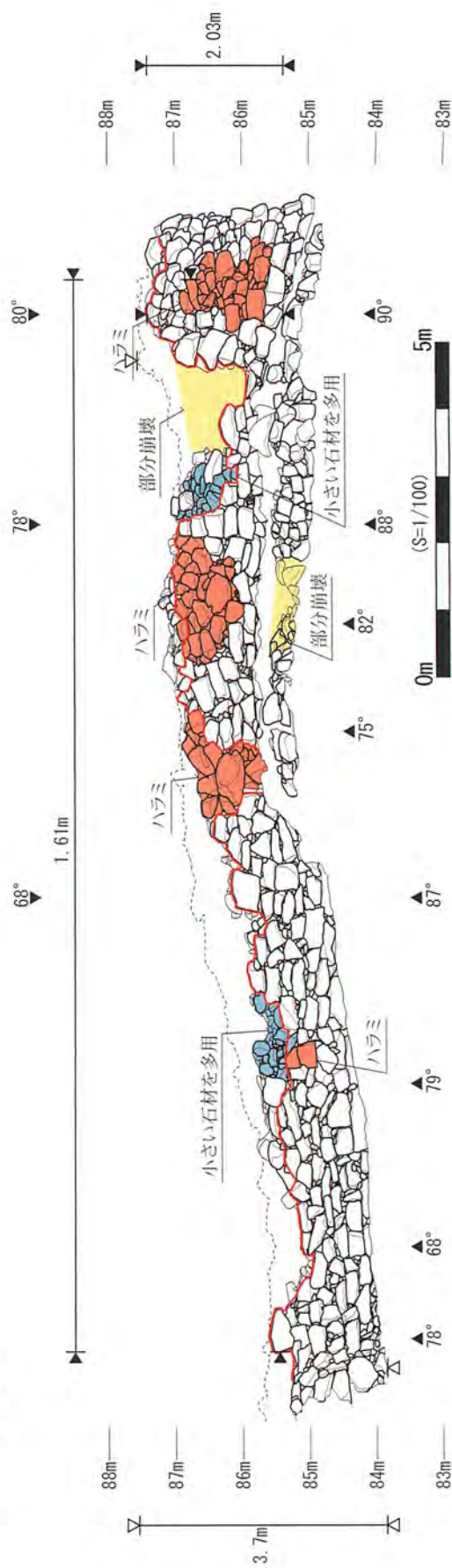
I-J外壁



第16図-1a

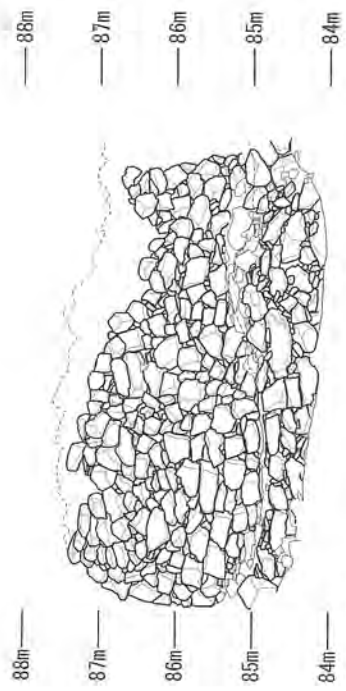


J-K外壁



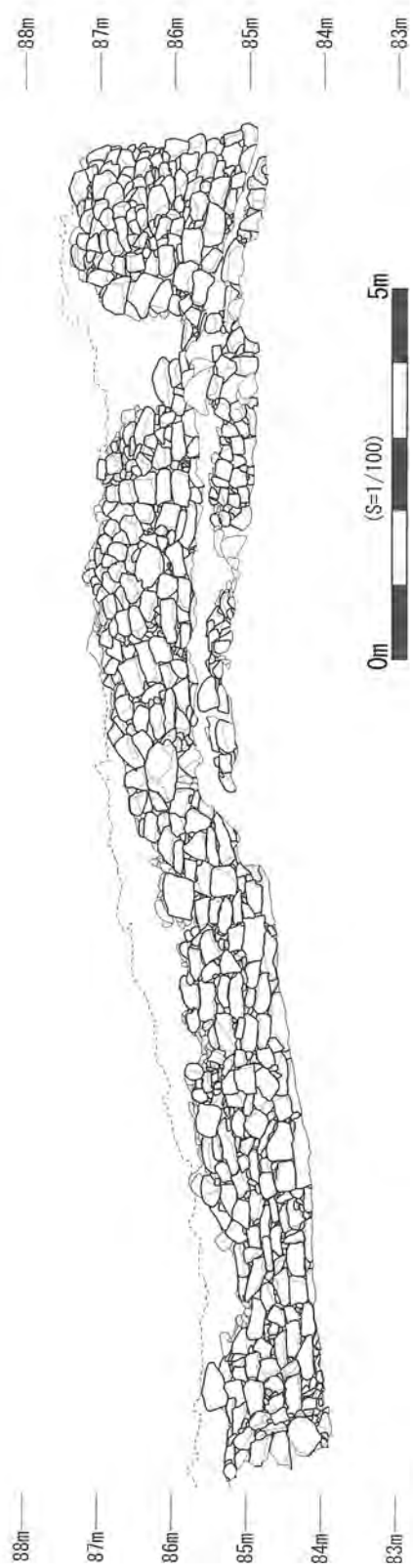
第16図-2a

I-J外壁



第16図-1b

J-K外壁



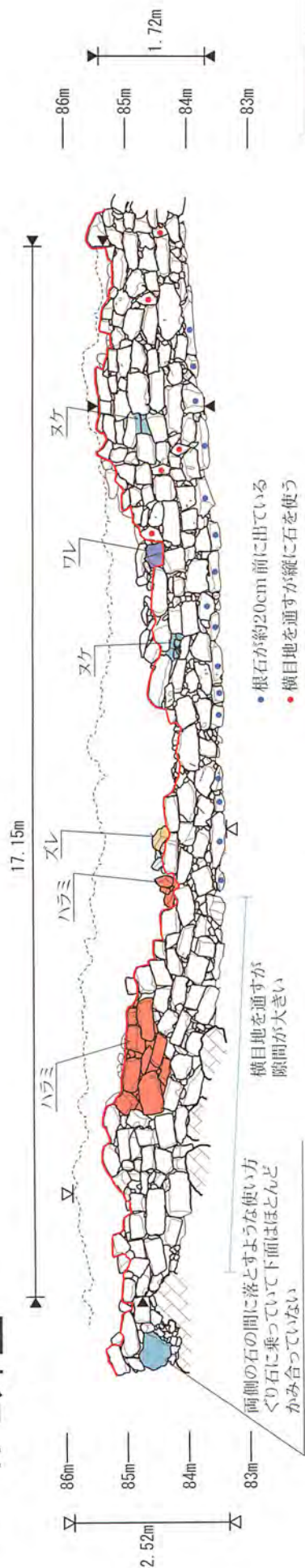
第16図-2b



第17図 東側城壁 (内壁) I-J, J-K位置図

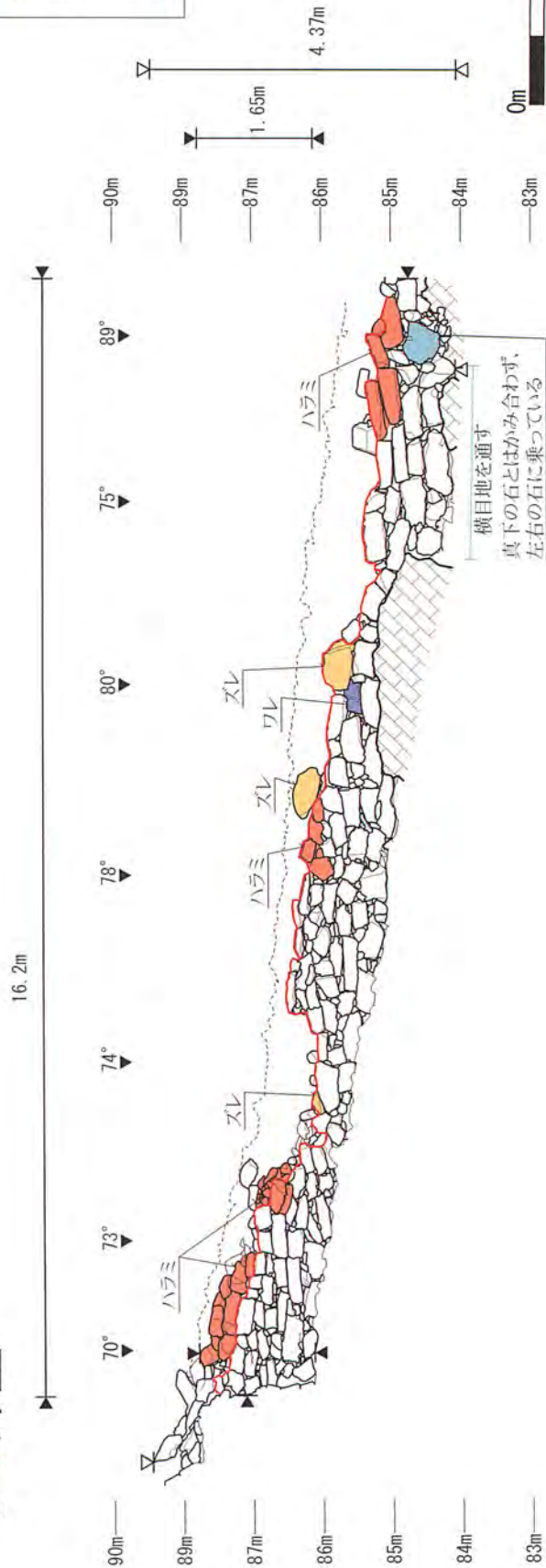
第16図 東側城壁 (外壁) I-J, J-K

K-L外壁



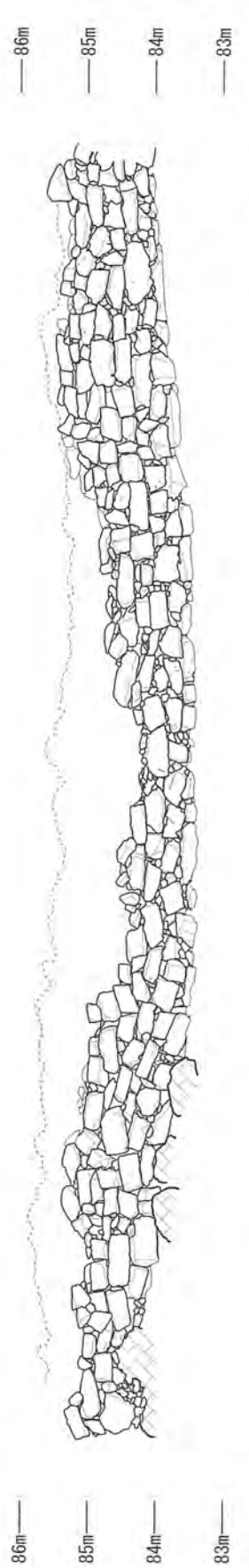
第18図-1a

L-M外壁



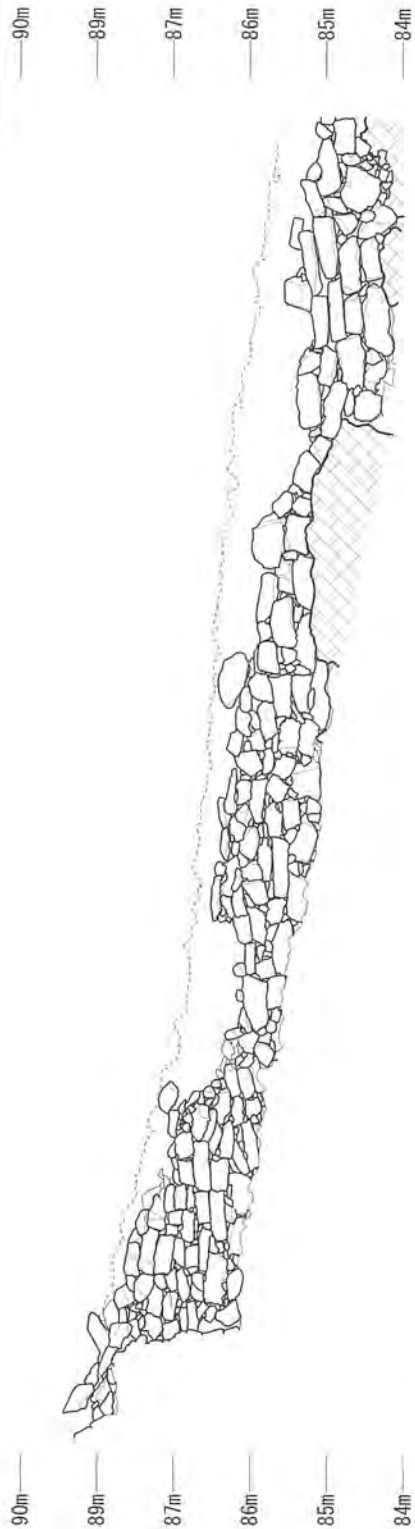
第18図-2a

K-L外壁



第18図-1b

L-M外壁



第18図-2b

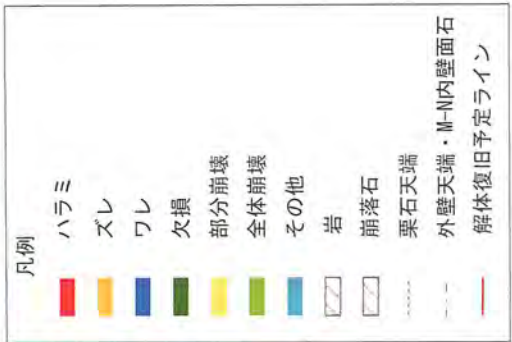
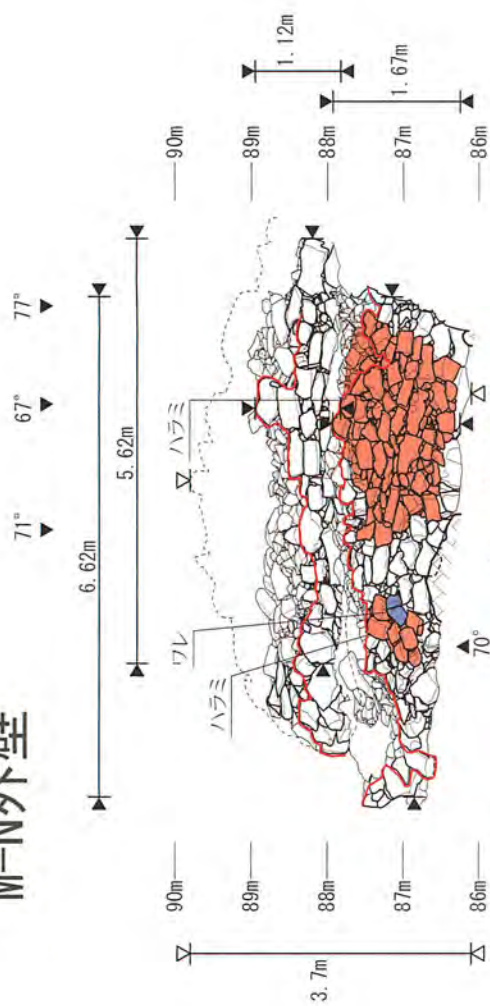
第18図 東側城壁 (外壁) K-L、L-M



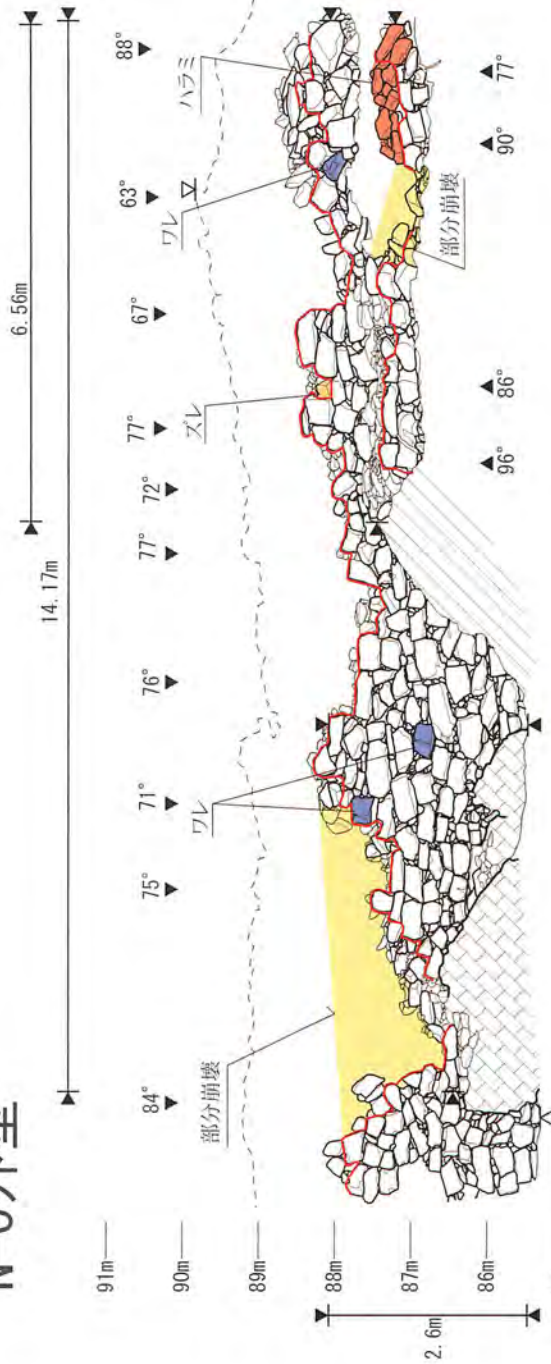
第19図 東側城壁 (内壁) K-L、L-M位置図



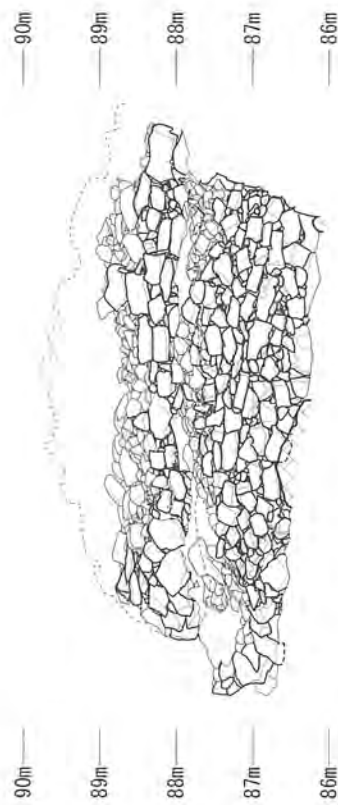
M-N外壁



N-O外壁

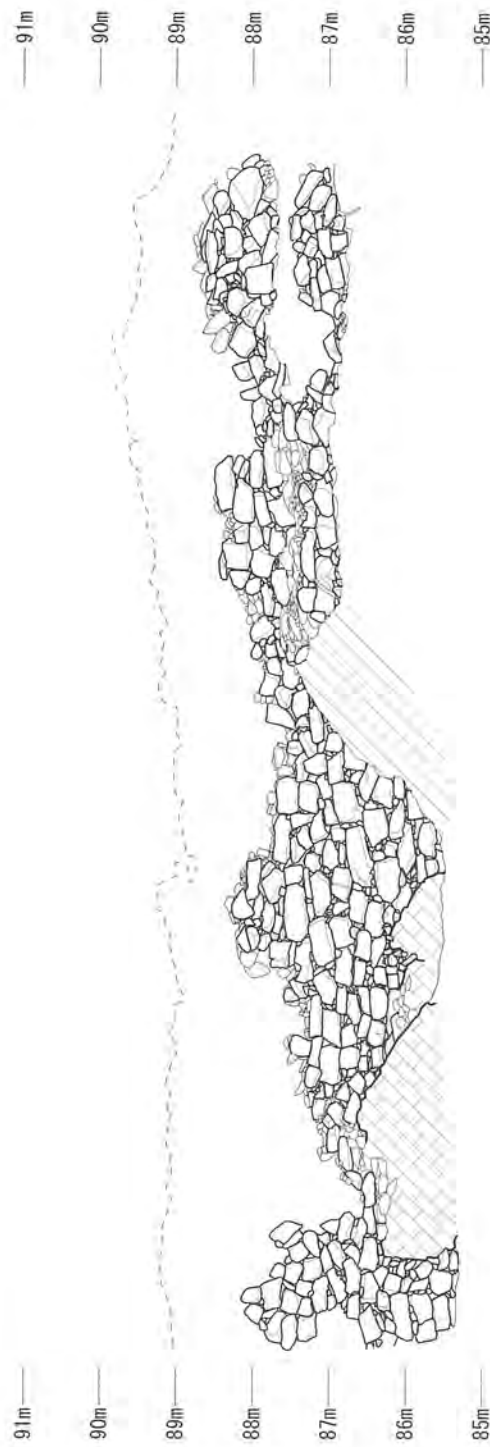


M-N外壁



第20図-1b

N-O外壁



第20図-2b

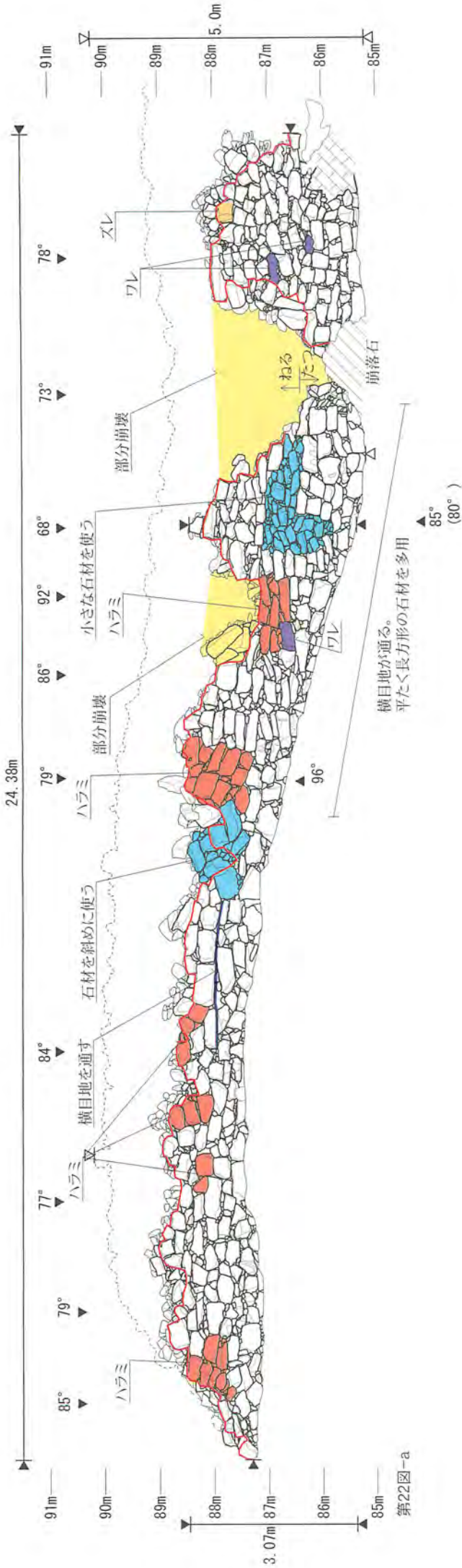
第20図 東側城壁（外壁） M-N、 N-O



第21図 東側城壁（内壁） M-N、 N-O位置図



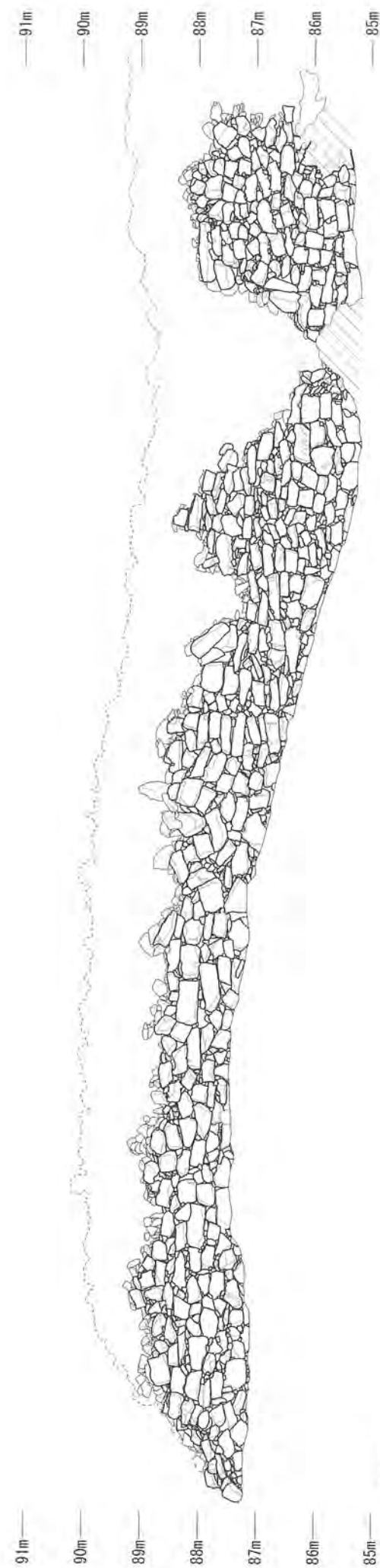
0-P外壁



凡例	
ハラミ	ズレ
ワレ	欠損
部分崩壊	全体崩壊
その他	岩
崩落石	栗石天端
外壁天端・M-N内壁面石	解体復旧予定ライン



O-P外壁



第22図-b

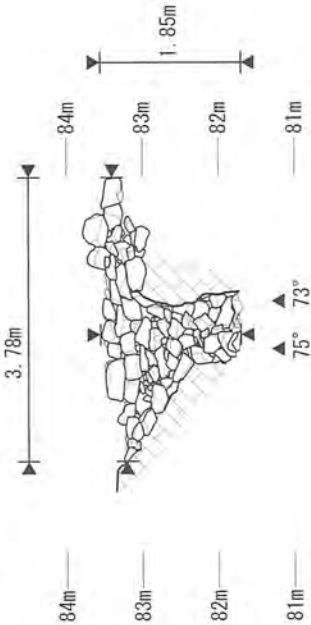


第23図 東側城壁 (内壁) O-P位置図



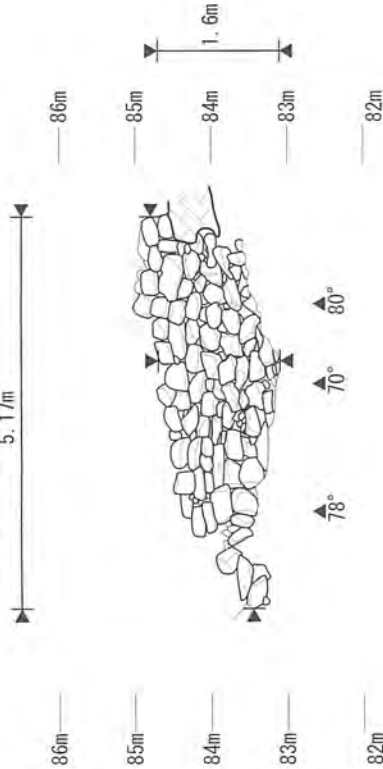
第22図 東側城壁 (外壁) O-P

イーロ石積み



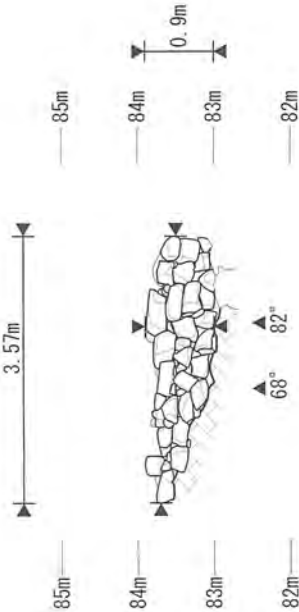
第24図-1a

ハーニ石積み



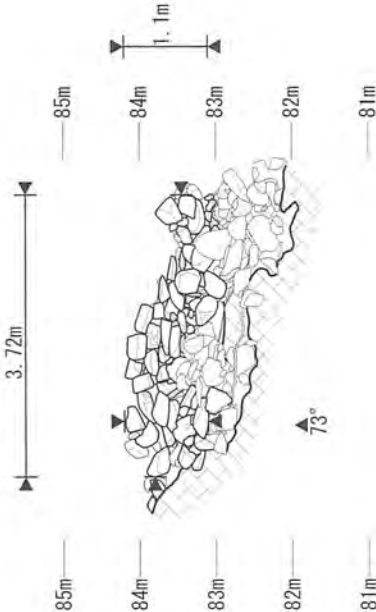
第24図-2a

ホーヘ石積み

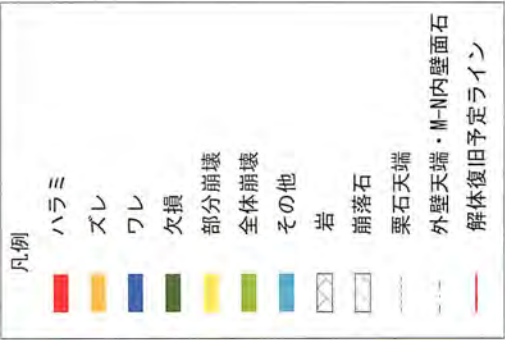


第24図-3a

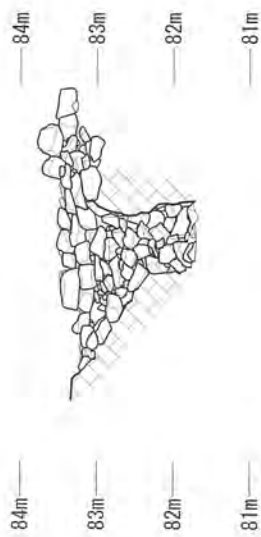
トーチ石積み



第24図-4a

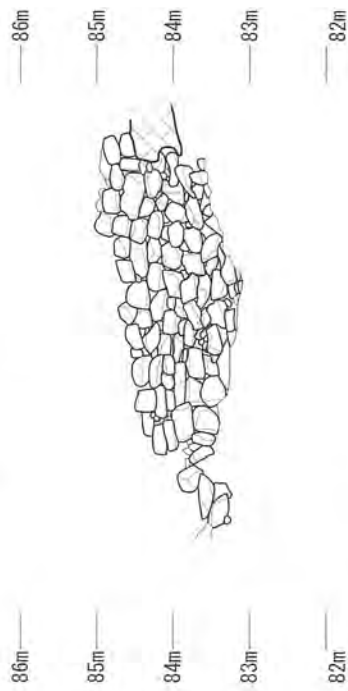


イーロ石積み



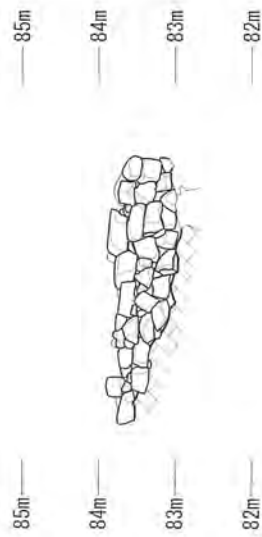
第24図-1b

ハーニ石積み



第24図-2b

ホーヘ石積み



第24図-3b

トーチ石積み



第24図-4b



第25図 東側城壁（外壁補強用石積み）イーロ、ハーニ、ホーヘ、トーチ位置図

第24図 東側城壁（外壁）イーロ、ハーニ、ホーヘ、トーチ

第10図-1はK-L内壁である。この部分も崩落が著しく2分の1程度の崩落及び、土砂の被覆が見られ、後者は広範囲で確認されている。また、面石は確認されず、面石残存の有無の確認を目的に調査を行っている。当該調査はV区調査として平成20年度に実施している。本報告については別に予定したい。

第12図はL-M内壁である。西側に規模の大きな崩落が認められるが、SR1のような付帯する石積みかどうか検討を要する。また城壁のL-M中間の地点に大きな孕みが認められ、上部の城壁面の変形も著しい。

第10図-2はM-N内壁である。南側で大きく崩落するため、根石の欠落も考えられる。残りは悪い。

第14図はN-O、O-P内壁で城壁面がほとんどの部分で2m程度残り、ほぼ城壁の内側栗石（裏込め石）までの高さを保持している。保存状況良好な城壁と言える。積み様は西側N点付近の内壁面に小さな石を密集して用いた箇所があり、勾配も84度前後、孕みも認められるなど不安定となっている。全体的には、勾配はI～N点の内壁ではいずれも90度を越え倒れたケースが多く見られるが、当該地点では最大84度、最小65度の勾配で特に東側ほど安定している。本来的には内壁面の城壁勾配は74～78度であったものと考えられる。なお、測点No.P点よりも東側は、志慶真川へと傾斜する自然岩盤が露頭する地形であり、自然地形を取り込み城壁の防御的機能を補完していたものと考えられる。

第16図はI-J、J-K外壁面でいわゆるアザナ城壁の突出部から東側面にあたる。栗石（裏込め石）側の高さまで壁面がほぼ残存し保存状況は比較的良好なものの、孕みが各所で認められ総じて不安定となっている。城壁下段にはいわゆる補強用石積みと呼称する石積みが一段設けられている。勾配は凸部分で76～77度、直線部分では80度を越えほぼ直立するようになり、凹入する部分ではまた勾配が緩くなっている。

第18図はK-L、L-M外壁で、一部の天端部分で崩落が大きく2分の1程度欠損、保存状態は比較的に悪い。用いる石材一つ一つの大きさは全体的に大きく、重量感のある造りとなっている。K-Lの測点No.K点側の根石では根石一段を20cm前面へ張り出した構造となっており、外壁面の根石構築技術として、同種のものは志慶真門郭南側城壁外壁（今帰仁村教育委員会1999）でも認められることから、今帰仁城跡の城壁構造として一般的なものと考えられる。

第20図はM-N、N-O外壁で東側城壁の中でも最も高く構築された部分である。周辺は岩盤が露頭しており、岩盤をうまく取り込む形で構築されたことがよく分かる部分である。補強用の石積みも1mほど高さが認められる。城壁面全体の残りは悪く内側の栗石（裏込め石）までの高さの2分の1程度が崩落している。本壁面にも比較的大振りの石材が用いられており、横方向の目地の通りも良い。

第22図はO-P外壁で栗石（裏込め石）の部分までを既存の天端とすると、3分の1程度が崩落しているが、全体として残りは良い。但し、測点No.O点側にV字形の規模の大きな崩落が認められる。小振りの石材を用いた場所に挟まれる様に横、縦方向に目地が通る箇所が認められる。

第24図は岩盤と岩盤の間を埋めるように外壁面にほぼ並行して構築される石積みで、仮に東側城壁の下部石垣として報告する。4つの地点に分けられ、イ-ロ、ハ-ニは岩盤も含めると一連の石積みに包括でき、ホ-ヘ、ト-チが一連のものにまとめることができるが、部分的には繋がらないところもあるので、ここではそれぞれ個別に測量を行った。いずれも岩盤の隙間を埋めるように積まれた物であり、石材のサイズも概して小振りである。

東側城壁根石確認試掘トレンチ

今帰仁城跡の城壁に関しては、主郭発掘調査においてⅤ層の第Ⅱ期（14世紀前半～14世紀中頃）の築造であることが確認されている（今帰仁村教育委員会1991）。また志慶真門郭第5区の状況から14世紀に築かれたと想定されている（今帰仁村教育委員会1983）。城壁の構築の先後関係については、石垣のラインや技術的な観点から、主郭から同心円状に外側に順次積み上げられたとする解釈がなされ、外郭の城壁については今帰仁城跡の城壁の中でも最も新しい段階の城壁であろうと考えられてきた（宮城2007）。しかし、外郭城壁に関してはこれまで未調査であるため今回その構築年代の確認を目的に、根石確認の為にトレンチを4箇所設け調査を実施した。

確認トレンチ① （第26図）

Ⅶ区P-34グリッド、西壁沿いに約1m幅のトレンチを設けた。腐植土直下より地山及び柱穴遺構が検出され、すぐに根石も検出された。根石の下には包含層（Ⅱ層か）が入り込むが、流れ込みのようにも観察できたことと、入り込む層から遺物が得られなかったことから、年代把握までには至らなかった。

確認トレンチ② （第27図）

Ⅶ区P-31グリッド、約1m幅のトレンチを石垣に垂直に設けた。石垣前面にはSR1があり、SR1の礫を取り除くと下層から根石が検出された。根石は地山面に礫を敷き均し造成された上面に積み上げる。

SR1からは龍泉窯系青磁Ⅵ類、青花を中心とした遺物が得られていることから15世紀中頃以降（主郭第Ⅳ期）の遺構と判断できるが、城壁根石に入り込む層からは14世紀～15世紀前半（第Ⅱ～Ⅲ期）の遺物が得られている。

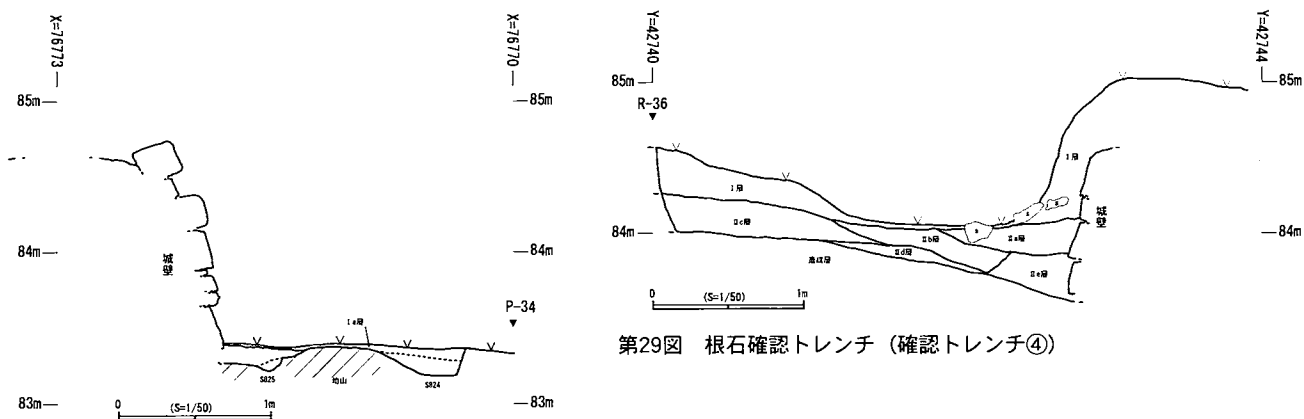
確認トレンチ③ （第28図）

Ⅶ区Q-34グリッド、北壁沿いに約50cm幅のトレンチを設けた。トレンチ②と同様、地山面に礫を敷き均し造成された上面に城壁を構築していることが確認された。城壁根石に入り込む層からは14世紀～15世紀前半（第Ⅱ～Ⅲ期）の遺物が得られている。

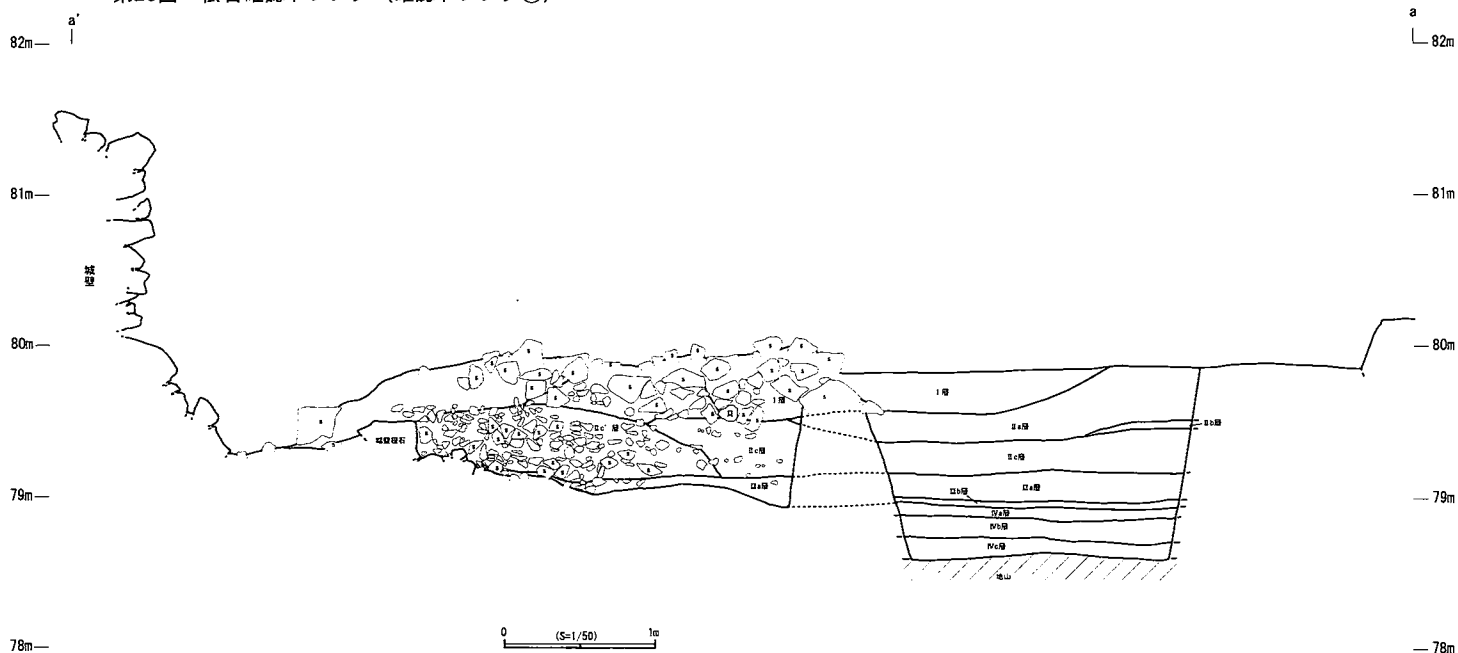
確認トレンチ④ （第29図）

Ⅴ区S-37グリッド、北壁沿いに約30センチのトレンチを設けた。当該トレンチにおいては窪んだ地形に土を入れて造成し、その後、城壁を構築していることが確認された。造成後に堆積し、根石の下に入り込む層（Ⅴ区Ⅱe層）からはグスク土器や龍泉窯系青磁Ⅱ類、白磁C2群で構成される遺物が得られた。これら出土遺物は主郭第Ⅶ層～Ⅴ層の出土組成と近似する（主郭第Ⅰ・Ⅱ期）。

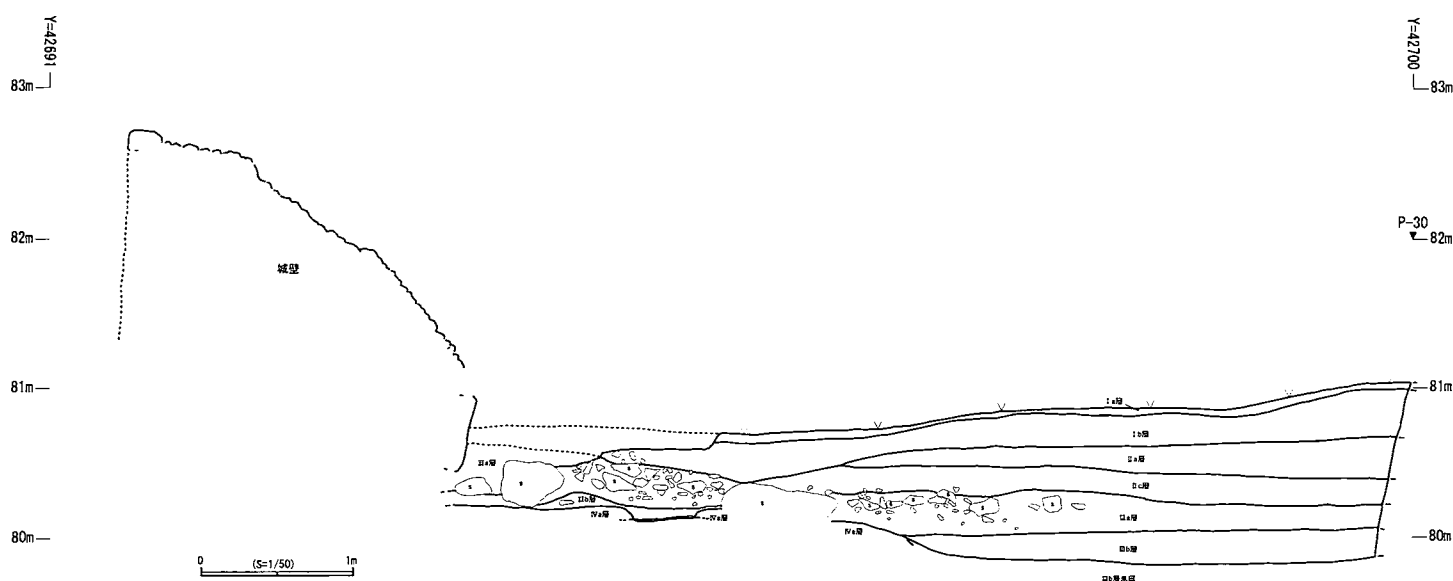
以上、東側城壁根石確認試掘トレンチの成果について述べてきた。城壁の構築年代を確定的に把握できるような検出状況は今回調査区で得ることができなかったものの、確認トレンチ①②③では根石下より明確な包含層が認められなかったことから地山や岩盤に根石を支持させ積んだことが確認されている。一方確認トレンチ④では根石の下に入り込む形でⅤ区Ⅱe層が検出され、これより得られた出土遺物が主郭Ⅶ層～Ⅴ層の出土遺物組成と近似することから、14世紀中頃に構築されたと考えられ、外郭石垣の上限を確認することができた。但し当該成果は同様の調査を複数箇所で行い確認するとともに、今回は内壁に限ったが、外壁側についても同種の調査を行い、構築年代や構築技術の詳細を明らかにすることが重要である。



第26図 根石確認トレンチ（確認トレンチ①）



第27図 根石確認トレンチ (確認トレンチ②)



第28図 根石確認トレンチ（確認トレンチ③）

第2節 SR2（2次調査）

〔名 称〕 SR2

〔位 置〕 外郭Ⅶ・Ⅷ区とⅥ・Ⅸ区を区画する石積み遺構

〔検出面〕 東側は現地表面より露出。西側は旧駐車場に埋没

〔規 模〕 総延長約50m 幅：最大2m、最小1.5m 高さ最大1.5m、平均0.5m

〔遺構構成〕 石積み遺構2基

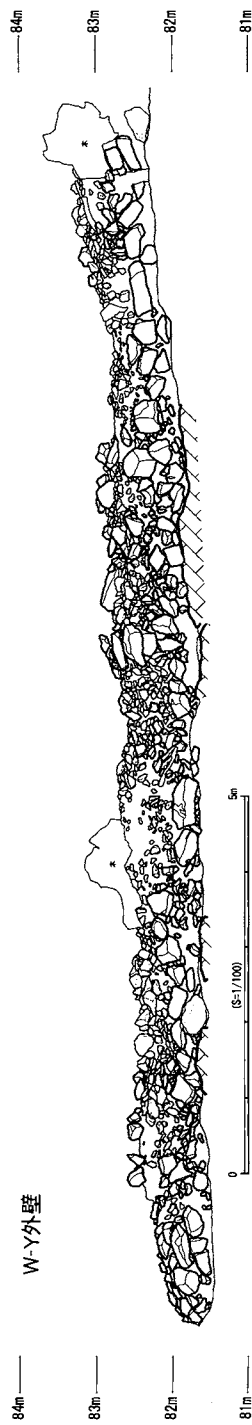
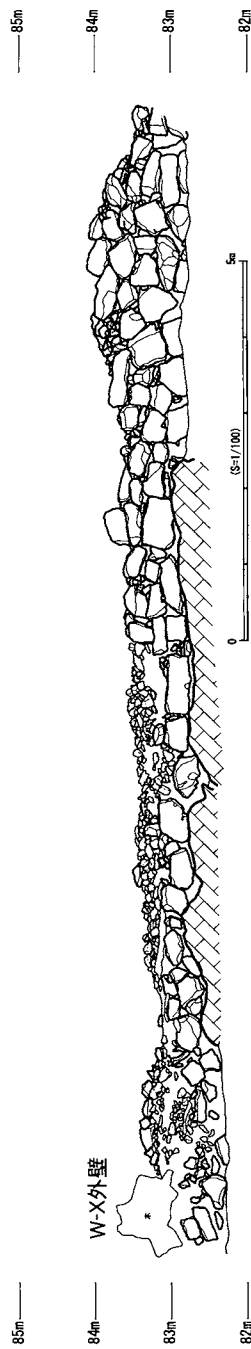
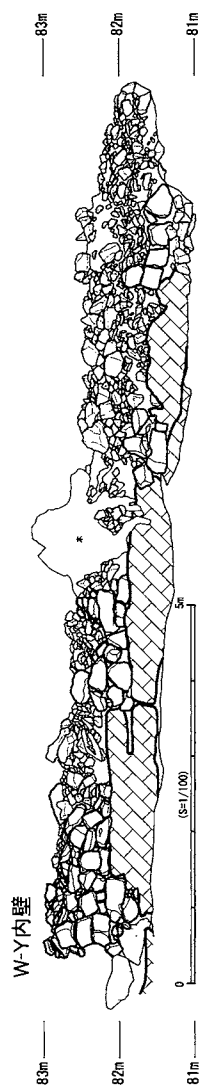
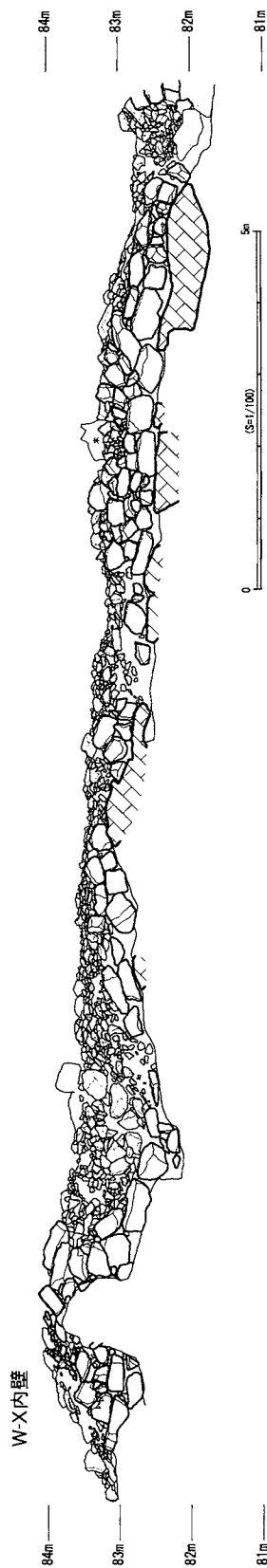
〔所 見〕 外郭東側城壁の基準点Bから南東方向に延びる石積みがSR2である。B点から17mの地点で古宇利殿内へ通じる道で分断される。ここに基準点Aを設置し、基準点Bまでの区間をA-B石積みとした。ここでは7次調査において石敷きの道跡が検出されており、Ⅸ区とⅧ区を結ぶ通用口であったことが確認されている。この通用口に基準点Yを置き、さらに南側に基準点X、Wを設置し南側からそれぞれW-X、X-Yとした。また、Ⅸ区側を外壁、Ⅷ区側を内壁とした。

U-32グリッドではSR2の外壁側は旧駐車場からの客土と現代のゴミに覆われ、これらを除去すると面石の前面は崩落したと思われる礫層で覆われていた。この礫層は上層で10cmから15cm大の礫で、土の混入も僅かであった。しかし下層になると30cm大の礫の間に土も多く含まれ、遺物は貝殻や獣骨等の自然遺物が大半を占めた。さらに礫層の下からはグスク時代に相当の遺物包含層（Ⅱ層）、面石沿いには礫敷きが検出された。この礫敷きはSR2に沿って長さ約4m、幅約2.5mの範囲でのみ検出され、石積み機能時の遺構と考えられる。内壁面においては根石がⅢ下層を約10cm掘り込んで立ち上がるため構築年代は15世紀前後、少なくとも15世紀中頃を下限とする遺構であろう。

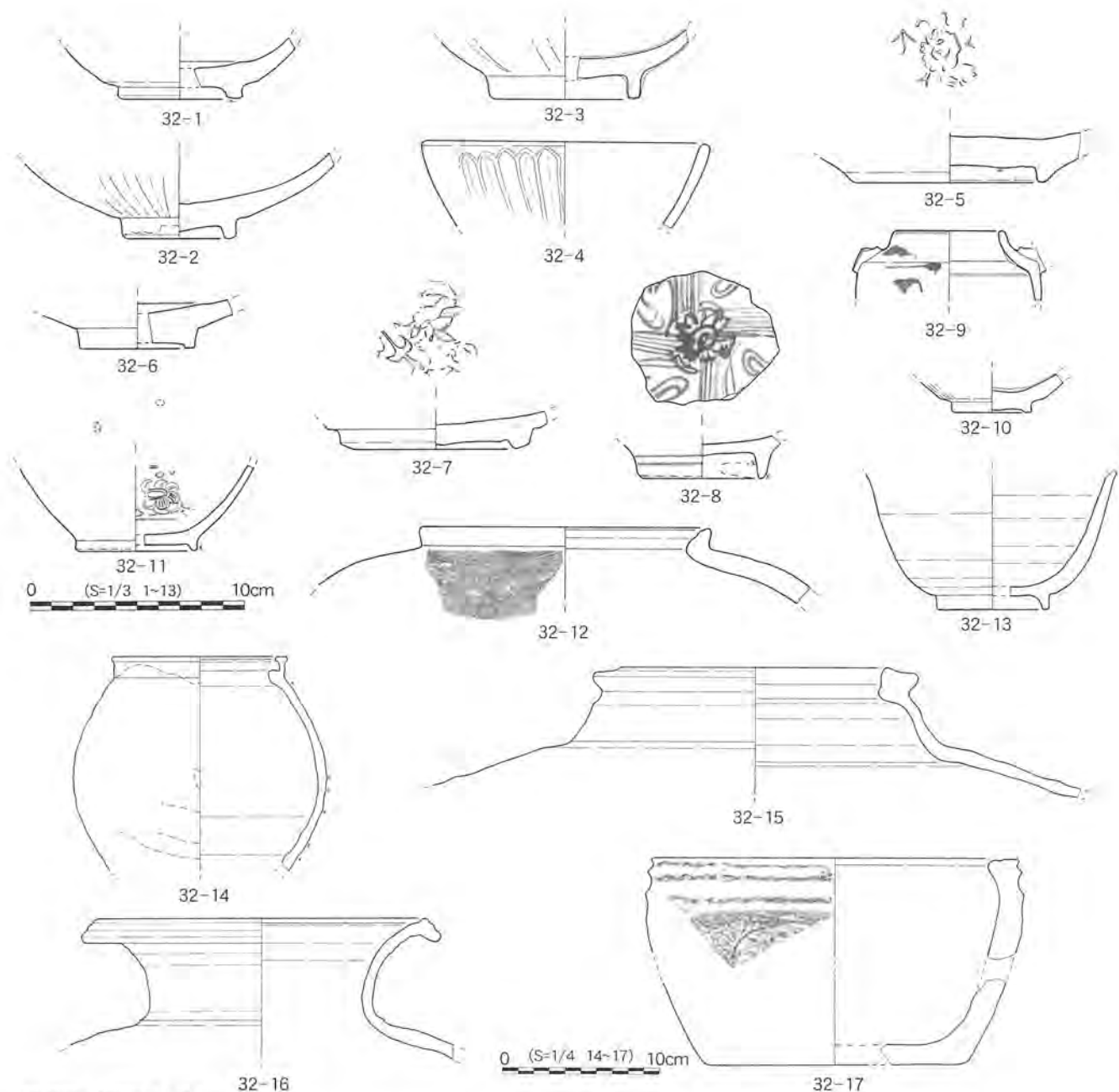
U-32グリッド内の内外壁は最も保存状況が良好で、約1.4mの高さであった。これは石積みの幅が2m程度であることから、もともとの石積みの高さもこの程度であったと考えられる。そのほかの場所では面石が2・3石程度の残存状況であり、崩落により面石が途切れる箇所もある。内外壁とも根石の約半分は露頭した岩盤の上に据えられ、もともと岩盤の露頭により区切られていたところに石を積むことによって区画を明確にしたものと考えられる。



第30図 SR2位置図（S=1/300）



第31図 SR2遺構詳細図



第32図 SR2出土遺物

〔遺物〕 第32図はSR2から出土した主要遺物である。

1.青磁 第32図-1はいわゆる劃花文碗（龍泉窯系Ⅰ類：以下龍泉窯系省略）の底部資料。2は碗Ⅳ類の底部。3は碗Ⅴ類の底部。4は碗Ⅵ類の口縁部。5は盤Ⅴ類底部。

2.白磁 6は高台割りが浅い。釉調等から白磁碗C2群（閩清窯系）、金武分類ピロースクタイプⅡ類に該当する底部資料と思われる。7はC3群皿の底部資料で見込みに印花文が施される。

3.青花 8は碗D群の底部で見込みに十字文。9は小壺もしくは水注の口縁部で肩が折れ曲がり縦耳が取り付く。

4.黒釉陶器 10は天目碗の底部資料で黒色の釉を厚く施有する。

5.褐釉陶器 14は口縁部が受け口状となる。15は口縁部断面が方形となる壺5類。

6.ベトナム陶磁 11は白磁の碗底部で見込みに目跡、内面に型押しによる花文が施される。

7.タイ陶磁 16はシーサッチャナライ窯系の資料でラッパ状に外反する器形となる。

8.沖縄産瓦質土器 12は口縁をくの字に外へ折り曲げ肩が張る壺。17は鉢もしくは植木鉢で外面に波状凸帯を廻らし外面にスタンプによる牡丹文を施す。

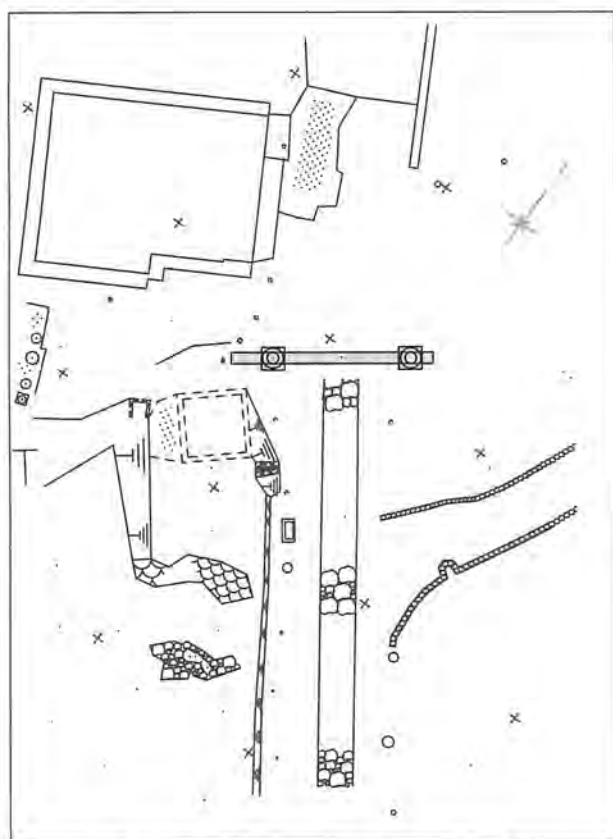
9.沖縄産焼締陶器 13は喜名焼の碗、口縁部を欠く。

第3節 鳥居撤去工事（立会調査）

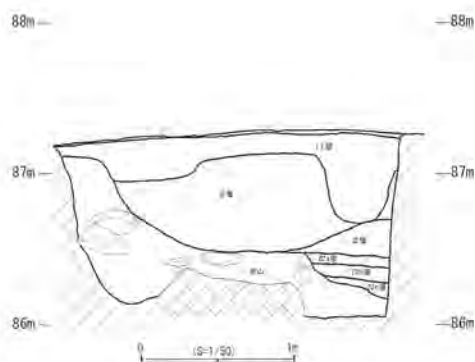
今帰仁城跡の平郎門の手前に大正5年に関西今泊郷友会によって寄進された鳥居があった。鳥居は日本本土における神社の神域を象徴する一種の門であるが、沖縄の文化的景観には本来無い要素のものである。一方で、鳥居は戦前において地元によって建立された歴史的な遺産でもある。しかし、平成14年度に何度か鳥居表面のモルタルが剥落しているのが確認され危険性も指摘されていたため、今泊区と関西今泊郷友会と協議し平成15年度の今帰仁城跡の史跡整備事業において鳥居の撤去工事を行うとともに、鳥居の紀年銘の記された柱部分を一部切り取って記念碑として保存し、今帰仁村歴史文化センターにおいて屋外展示している。

鳥居はコンクリート造りで、心材に鉄筋を用いたもので高さ7.3m、長さ10.6mで柱は地中を掘り込み設置されていた。そこで撤去に伴って行われる脚部掘削については、調査員が立会を行い、包含層の有無や遺物の回収を行い、脚部の堆積状況について図化する作業を行った。

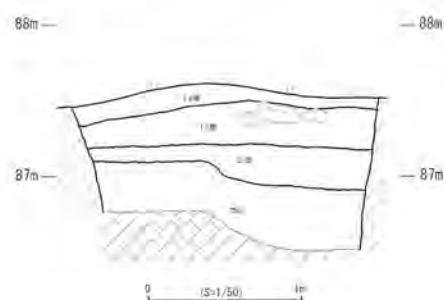
この結果地表下約1mまで掘削が及んでおり、地表下約40cmには厚さ約30cmの包含層が堆積しているのが確認された。調査によって鳥居の設置された箇所周辺が客土によって覆われていることが確認され、平郎門までの入城ルートが現在のような取付ではなく、少なくとも平郎門を見上げる形で入城していくようなルートであったと推定することができた。



第33図 鳥居位置図 (S=1/400) (※アミかけ部分鳥居)



第34図 鳥居東側支柱基礎（北壁）



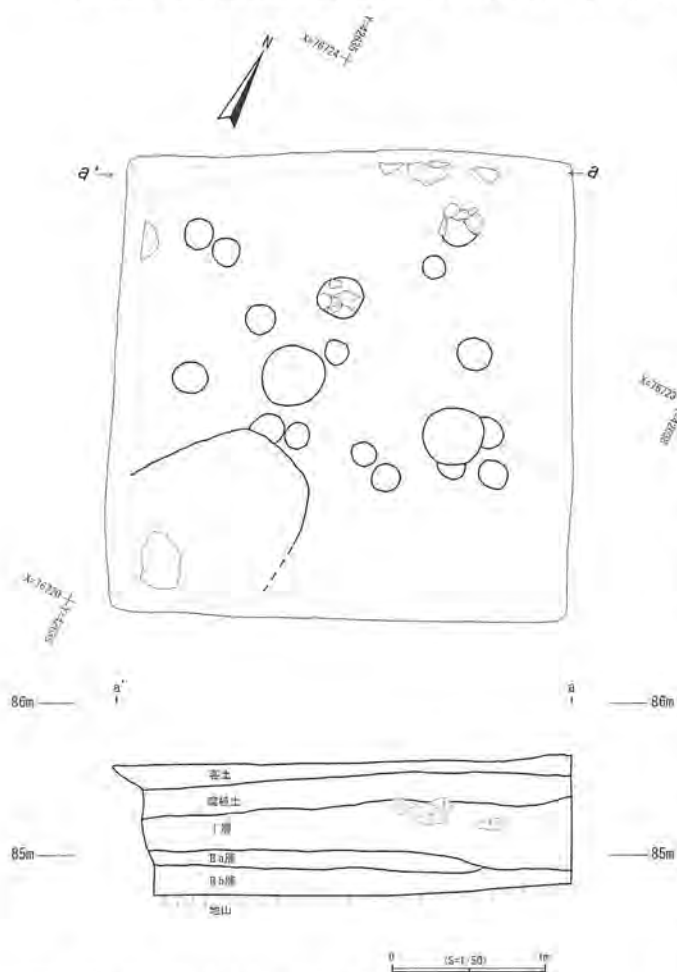
第35図 鳥居東側支柱基礎（南壁）

第4節 墓撤去工事（立会調査）

今帰仁城跡の外郭西区には史跡指定以前より設置された墓が存在している。この墓は史跡内に設置されているため所有者の了解のもと撤去工事を行い、今帰仁城跡を往時の景観へ復元するための一作業とした。平成16年度事業において撤去をお願いし、平成17年5月に調査員数名で補足的な調査を実施した。

墓はコンクリート造りで基礎の掘り込みはほとんど見られないものの、一部包含層下まで攪乱が及んでいた。撤去については調査員が立会を行い、遺跡一帯の堆積状況の確認と遺構の把握について図化する作業を行った。

この結果、地表下約80cmまで掘削が及んでおり、当該地域には厚さ約30cmの包含層が堆積しているのが確認された。調査は墓の撤去工事に伴うものであるため、限られた範囲となっているが、約10m²の面積の調査地点に18基の柱穴、1基の土坑を確認することができた。



第35図 墓撤去トレンチ平面図 セクション図



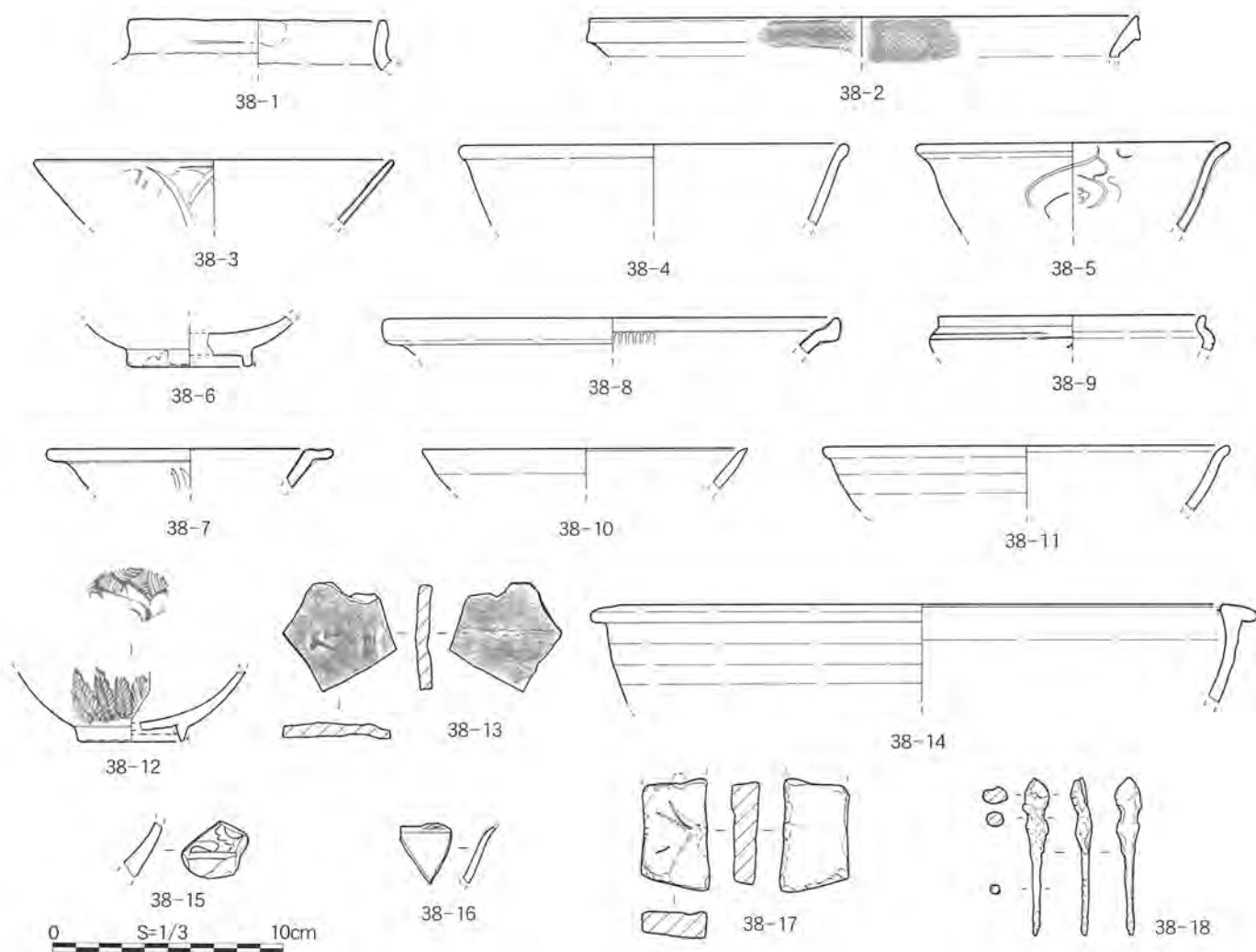
第36図 撤去した墓の位置図 (S=1/1000)

【遺物】 第38図は墓撤去時の補足調査において出土した主要遺物である。

- 1.土器 第38図-1はグスク時代に属する土器の壺口縁部で混和材に粘板岩を用いる。
- 2.カムイヤキ 2はA群の玉縁口縁広口壺で器壁が薄く、内面には叩き痕が確認できる。
- 3.青磁 3～6は碗。3はいわゆる鎚蓮弁文碗（龍泉窯系Ⅱ類）の口縁部資料で体部に鎚蓮弁を描く。4・5はは龍泉窯系碗Ⅳ～Ⅴ類の口縁部資料。6はⅣ類底部。7はⅣ類皿口縁部資料。8はⅤ類盤口縁部資料。9はⅣ類束口碗の口縁部。

部。体部上位で内側に屈曲し口縁がすぼまる形をなす。

- 4.白磁 10はG群（今帰仁タイプ・浦口窯系）、11はC3群（無文外反：閩清窯系）口縁部資料。15は外面に唐草文？を施す。碗と思われるが詳細不明。
- 5.青花 12は碗G'群。外面に蕉葉文、見込みに蓮花文。16は内面青花外面褐釉となる希少品。
- 6.褐釉陶器 14は口縁部をくの字に折り曲げる。
- 7.石器 17は玢岩製の砥石と考えられ平坦面を砥面とし、上面には穿孔痕が確認できる。
- 8.金属製品 18は鉄釘。



第38図 墓撤去トレンチ出土遺物

産地	種別	器種	推定 個体数	口縁部 破片数	破片数
陶磁器	在地	土器 鍋・鉢・壺・等	2	1	
		カムイヤキ 壺・鉢・甕・等	2	2	壺A群:1,B群1
		近代陶磁器 壺その他	1		胴部片あり
	中国	青磁 碗	25	31	龍Ⅱ:2,Ⅳ-V 9,V:12,Ⅵ:1
		皿	5	6	龍Ⅳ:1,V:5
		盤	2	3	
		白磁 碗	5	6	今:1,C3:5,不明1,
		皿	1	1	E:1
		青花 碗皿	5	6	口縁部小片6
		外面褐釉青花 碗	1	1	
		天目 碗	1		胴部
		褐釉陶器 壺	1		胴部片多数
		鉢	1	1	
		瑠璃釉 碗	1		胴部片:1
	タイ	褐釉陶器 壺	1		胴部片多数
	日本	近代陶磁器 碗・その他	1		胴部片あり
統計			55	58	

産地	種別	器種	点数
金属製品	鉄製品	釘	1
石製品	提低石		1

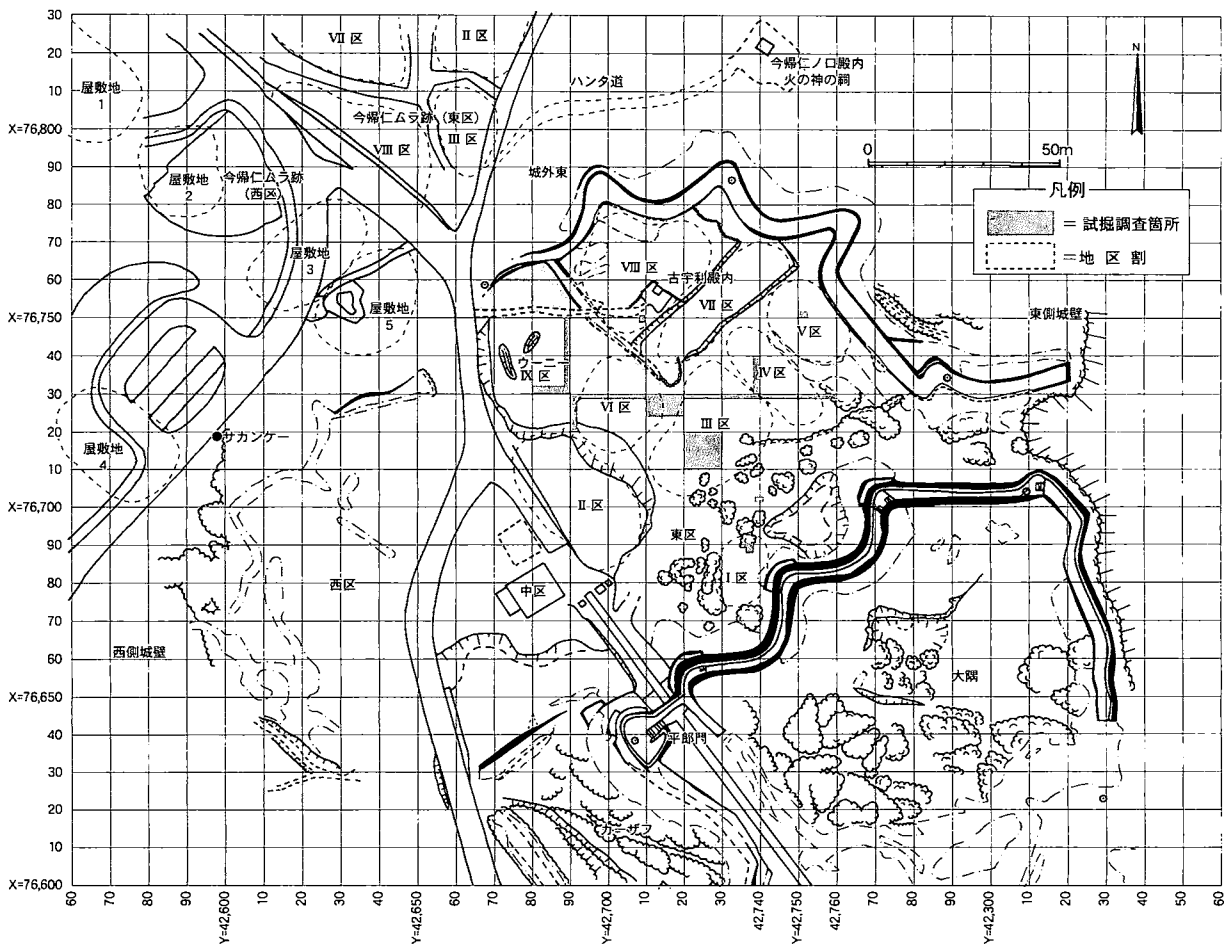
※網掛け部分は今帰仁城跡周辺遺跡の主体時期である12～16世紀以外の近世期以降の遺物
※遺物の比率については中世のものを対象としている。

第1表 墓撤去トレンチ出土遺物集計表

第5節 東側地区の試掘（2次調査）

東側地区は面積が約10,000m²の広大な地区である。外郭地区全体の中でも戦前からの地形改変が少なく、石垣などの遺構の残存もよい。このため調査着手前に、地形の平坦地や地籍、石積み遺構等に基づき、Ⅰ～Ⅸ区の9つに地区分けを行った。この中でも、大きく四つの平坦面が確認されており、またその平坦面を区画するように石垣や石列が延びていたためこの空間を「Ⅲ・Ⅳ」「Ⅶ」「Ⅷ」「Ⅵ～Ⅸ」とし、南北トレンチ約30m、東西トレンチ約40mの試掘溝を設定し調査を進め、外郭の概要を把握するとともに地区設定を行った。

Ⅲ区、Ⅳ区、Ⅵ区、Ⅶ区、Ⅷ区、Ⅸ区より、グスク時代に相当する包含層及び遺構の存在が確認され、Ⅰ区、Ⅴ区はグスク時代の遺構が確認されたが、多くの岩盤が露出し、平坦地が乏しい地区であることから、外郭東部の主体的な地域ではないことが確認された。またⅨ区、Ⅵ区は現在のウーニーなどの遺構との兼ね合いから発掘調査は試掘程度とし、保存地区とした。なお、調査の概要報告として『史跡今帰仁城跡－外郭発掘調査概報－』今帰仁村文化財調査報告書第23集を発行している。

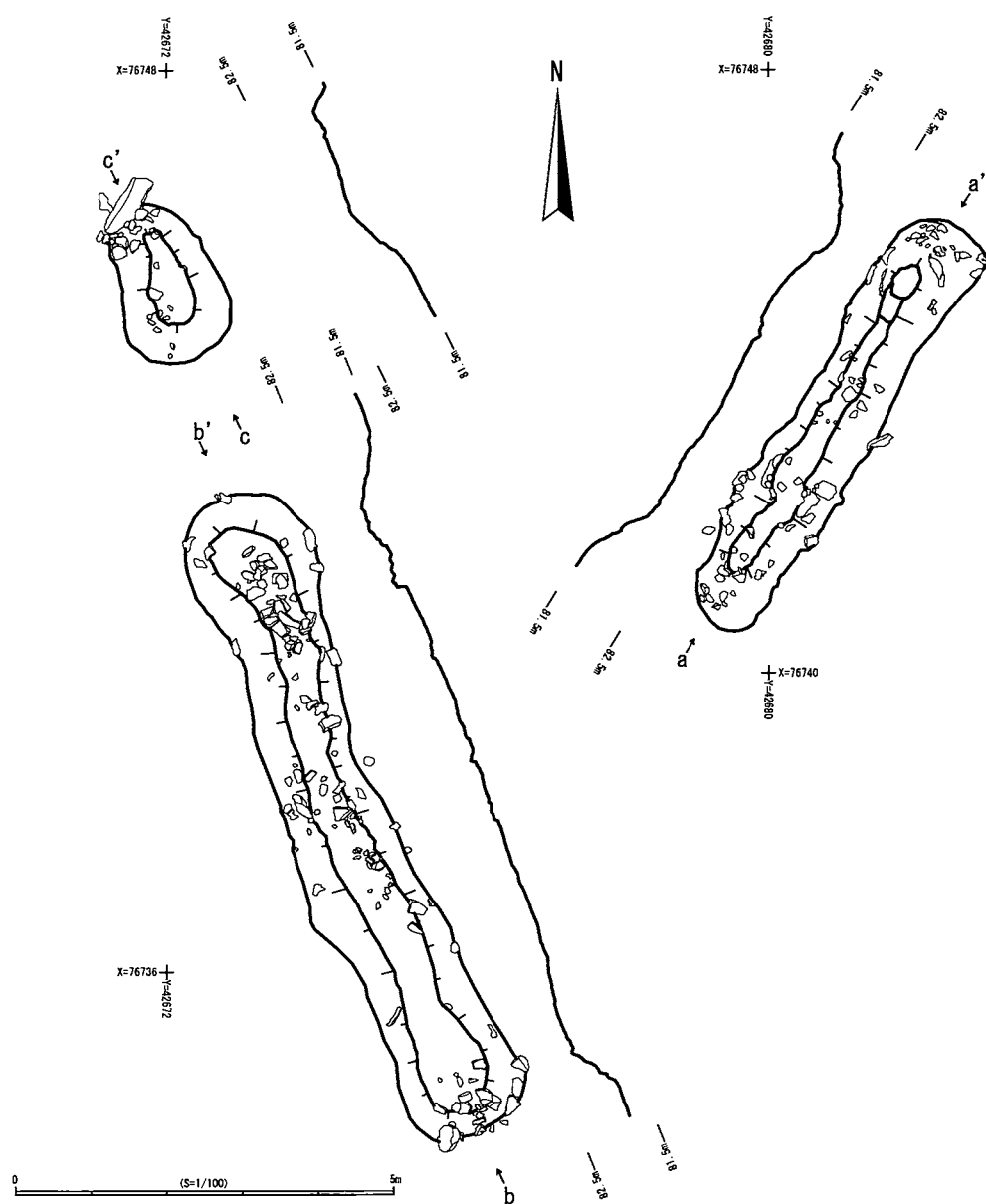


第39図 東区の試掘調査箇所位置図 (S-1/2000)

第6節 レコーラウーニー

今帰仁城跡には、現在でも多くの参拝者が訪れる。外郭にも重要な参拝地所が幾つか残っている。その一つはⅧ区にある古宇利殿内である（Ⅷ区は現在発掘調査につき、次回以降報告）。もう一つはⅨ区に残るレコーラウーニーである。船形の土盛りが2つあって、それぞれ本部ウーニー、今帰仁ウーニーと呼ばれている。字今泊によって行われる祭祀の舞台となる聖域であり、旧盆明けの戌の日に行われる「ウンジャミ（海神祭）」では船漕ぎの所作を平郎門とウーニーの間を往復しながら執り行われる（図版5-5）。現在でも今帰仁ノロさんを中心に今泊区によって祭祀が行われており、外郭を知る上でも重要な遺構の一つである。

前節で紹介したように既に地表面で観察することのできる遺構や地中から現れる遺構、あるいは祭祀や畑の耕作というような人々の継続的な営みによって造られた景観が多く残るのが外郭の特徴である。整備委員会においてもこれら遺構を残すべきであるとして、レコーラウーニーも現状保存とし、Ⅸ区は試掘調査で留めている。



第40図 レコーラウーニー遺構詳細図

第7節 Ⅲ・Ⅳ区（3次調査）

Ⅲ・Ⅳ区は外郭東区の最も高い位置に広がるテラスに位置する。Ⅲ・Ⅳ区は調査着手時にはⅢ区とⅣ区として2つに分け調査を実施した。地表面において石列が1列、畑の畝跡が確認されている。面積約1,300m²のテラスで、北側に土留め石積み（SR3）配し、西は平郎門へと至り、東はⅤ区との境界地となっている自然岩盤の上に粗雑に積み上げられた石積みが見られる。南側のⅠ区も同様に岩盤が露頭する地域で、自然岩盤の見られないテラスを選定し土地利用したものと考えられる。

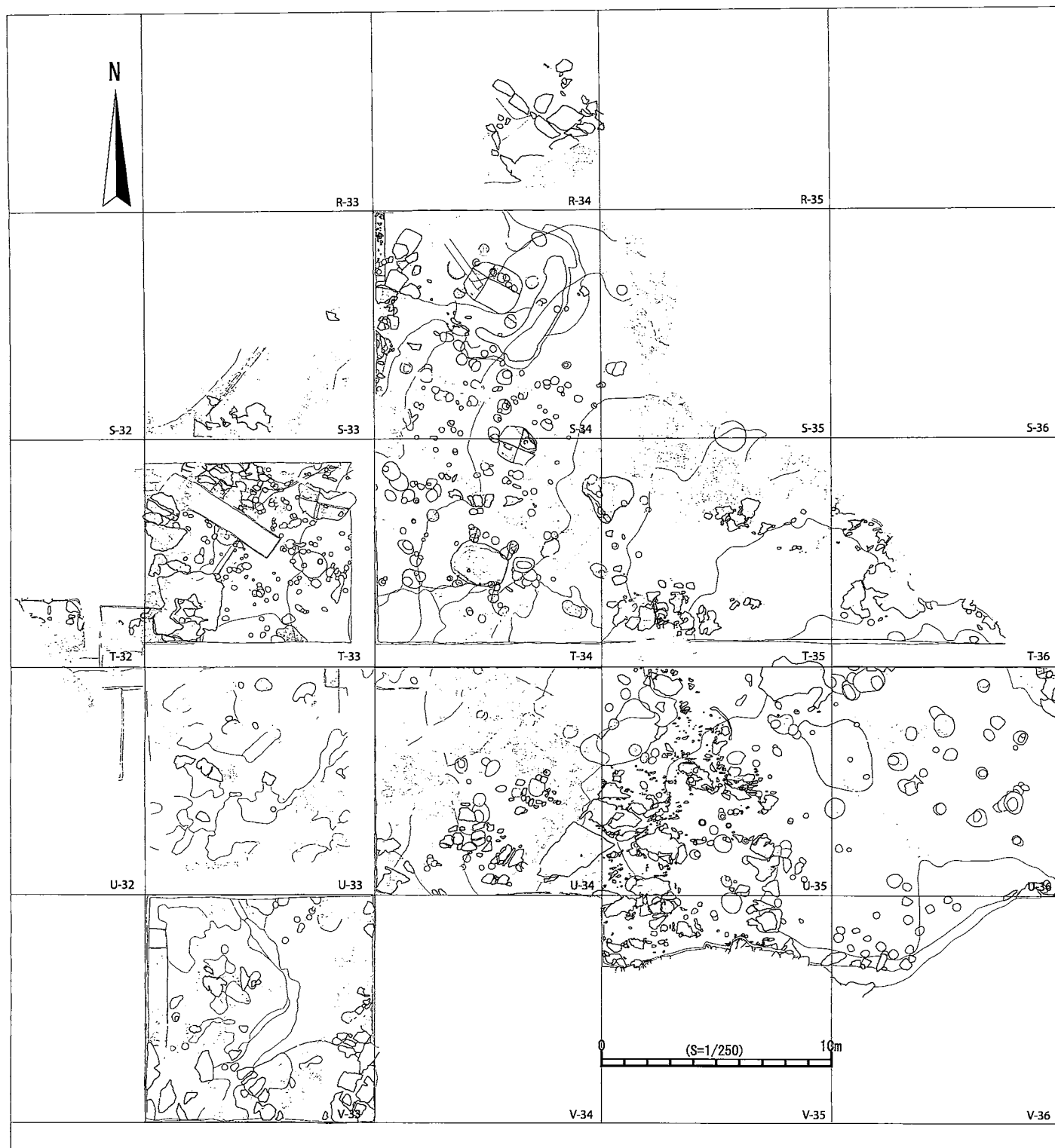
調査を進めるにあたりⅢ・Ⅳ区のテラスのほぼ中央に延びるSD5は、Ⅰ層（近現代の畑の耕作土）に伴う遺構と確認され、Ⅲ・Ⅳ区のテラスを区分けするようなグスク時代の遺構は確認されず、遺構の分布、テラスの利用状況から推して、当初2つに区分けしたⅢ・Ⅳ区は一枚の平坦面として理解された。また、Ⅲ・Ⅳ区とⅦ区を区画している地表面に露出したSR3も調査の結果Ⅰ層に伴う遺構であったが、この土留め石積みによって、Ⅲ・Ⅳ区とⅦ区の包含層が分断され連続していないことも確認された。そのため、Ⅲ・Ⅳ区とⅦ区は統一の層序を設けず、それぞれの区において完結する層序を用いた。

さて、Ⅲ・Ⅳ区の堆積状況は東側で浅く、西側に移行するにしたがい堆積が厚くなる状況が容易に看取することができる。これはⅢ・Ⅳ区の土層が東側から西側へと流出したことを示すと考えられるが、西側のU-33、V-33などの堆積の厚い箇所では層厚が1mを超え、9枚の土層が確認できる。逆に東側の堆積の薄い、U-36、35、34、T-36、35、S-35などでは、30～40cm程度でⅠ層を取り除くと地山が現れ遺構面に到達する。そのためⅢ・Ⅳ区の基本層序は土層の厚いU-33の南壁に設定した。

1. 遺構

Ⅲ・Ⅳ区は柱穴が少なく比較的土坑の分布が目立っている。過去にも周辺遺跡調査報告において柱穴が密集するところと（母屋分布区域）、柱穴の径が大きい密集しないところ（作業スペース）として報告している（今帰仁村教育委員会2005）。これまでの志慶真門郭・主郭調査においてまだ高倉等の施設は確認されていないことから、この外郭に作業場的な施設があったと考えられる。また周辺遺跡で確認されている竪穴建物遺構が2棟確認され、城内遺構との類似性が特に指摘できる。

種類	遺構数
・掘立柱建物跡	3棟（内訳：高倉1棟、竪穴建物2棟）
・柱穴列遺構	1基（PL1）
・柱穴	299基
・不明遺構	96基（柱穴や土坑以外の用途不明の遺構）
・溝状遺構	4基（SD286等）
・土坑	9基（SK170,SK266,SK328-1,SK328-2等：SB01・02土坑含む）
・土留め石積み	1基（SR3）
・石積み遺構	2基（外郭東側城壁、SR2）
・造成層	2基（第1造成層・第2造成層）
・土塁状遺構	2基（SM1・SM2）

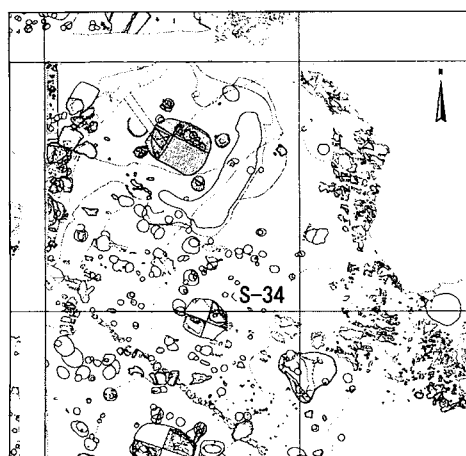


第41図 Ⅲ・Ⅳ区遺構配置図

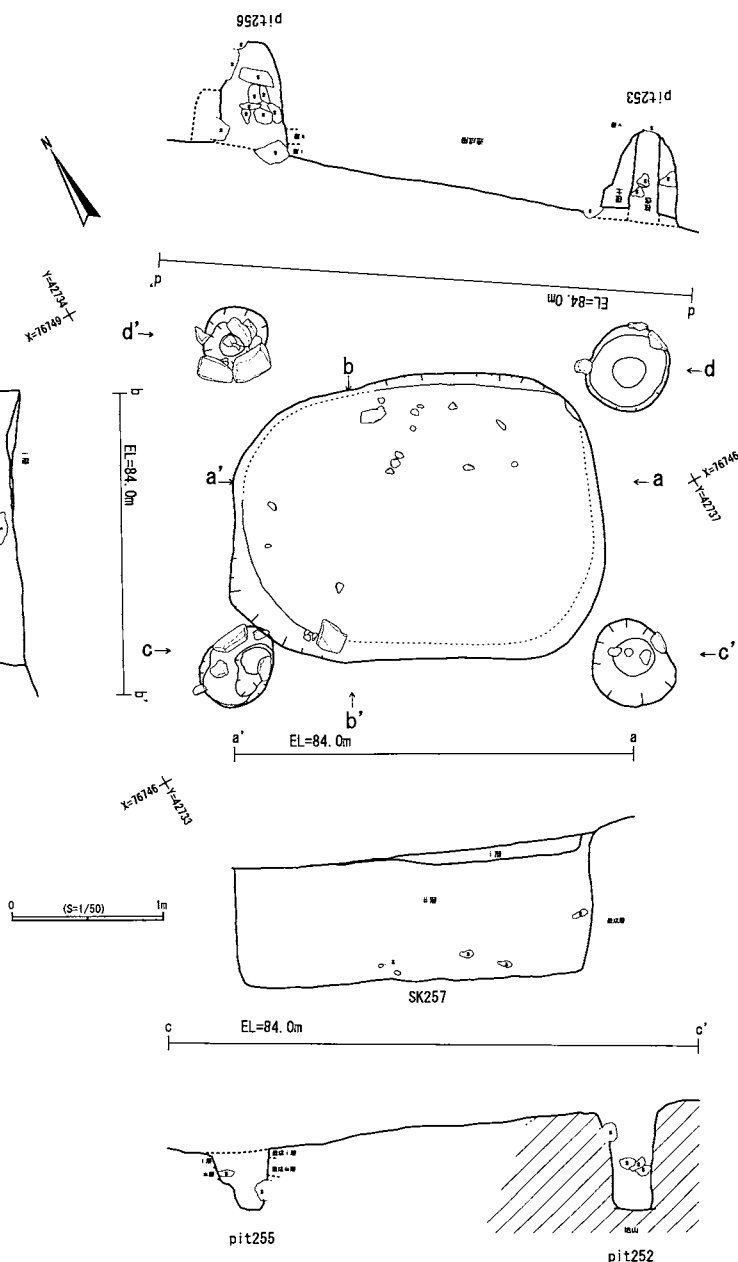
【名称】 SB01（竪穴建物跡） 【位置】 IV区 S-34 【検出面】 第1造成層i層
 【規模】 1間×1間（長軸約250cm×短軸約200cm） 土坑（長軸約240cm×短軸約190cm）
 【遺構構成】 柱穴4基（S252・253・255・256） 土坑1基（SK257）

【所見】 pit252・253・255・256と、それに伴う土坑SK257によって構成される竪穴建物。柱穴の大きさは40～50cm程度で、深さはpit252、253、256は60～70cmとほぼ同じ深さとなるが、pit255のみ約40cmと他の柱穴に比べ浅くなっている。柱痕はpit253にのみ認められ、その直径は約20cmを計る。柱穴内からは楔石と考えられる礫が検出されている。SK257土坑は長軸約240cmで、短軸約190cmとなっている。深さは約80cmを計り覆土は2枚の層に分層された。i層は柱穴内覆土と同じ暗褐色を呈するが、ii層は明褐色と褐色がまざるまだら層となり様相が異なる。その為、土坑内i層や柱穴内覆土はSB01廃棄後に堆積した土層とも考えられ、土坑内ii層はSB01構築時または、構築前の造成に伴うものと考えられる。また、i層は層厚が10cmと非常に浅く、土坑として掘り込んだものとは考えにくい。そのため、i層は、下層のii層がSB01使用していく過程で窪み、その後、上層の包含層が堆積していったものではないかと考えられる。

土坑内覆土からは全体的に古い遺物が得られている。グスク土器、薄手のカムイヤキ、青磁劃花文碗、同鎬蓮弁文碗、褐釉陶器小壺、イノシシ下顎骨、軽石製品など、またこの土坑から玉が計11点得られている。土坑に伴う柱穴からはpit253で白磁C2群、pit252で青磁V類が検出されている。



第42図 SB01位置図 (S=1/300)

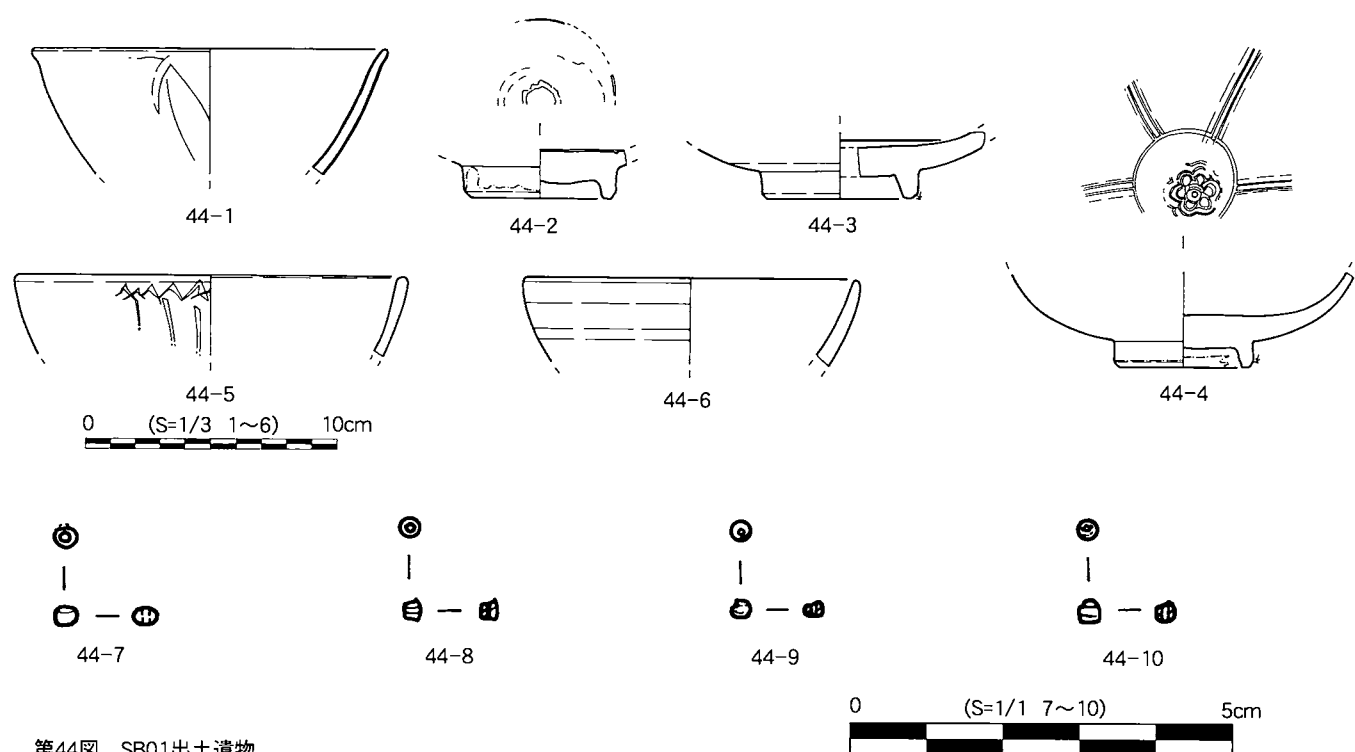


第43図 SB01遺構詳細図

〔遺構内堆積層〕 柱穴内の堆積層：暗褐色土に赤褐色土がブロック状に少量混入し、炭も僅かに混入する。土坑内の堆積層：i層は暗褐色土に赤褐色土と炭を多く混入する。ii層は、褐色土と明褐色土が混ざり合うまだら層で、炭を僅かに混入する。

〔遺物〕 第44図はSB01から出土した主要遺物である。

- 1.青磁 第44図-1はいわゆる鎬蓮弁文碗（龍泉窯系Ⅱ類）の口縁部資料で、体部に鎬蓮弁を描く。2・3は龍泉窯系碗Ⅳ～Ⅴ類の底部資料。4は龍泉窯系碗Ⅴ類の底部資料である。5は龍泉窯系Ⅵ類の碗口縁部資料。
- 2.白磁 6は白磁碗C2群（閩清窯系）、金武分類ビロースクタイプⅡ類に該当する口縁部資料。
- 3.玉 7～10はガラス小玉である。主郭分類において丸玉としたものに該当し、4点ともc種（5mm以下の小玉で溶解したガラスを1～3回程度棒状工具で巻き上げる資料）にあたる。



第44図 SB01出土遺物

〔名 称〕 SB02 〔位 置〕 Ⅲ区 T-34 〔検出面〕 地山

〔規 模〕 1間×1間（長軸約260cm×短軸約170cm）

炉跡（長軸約240cm×短軸約170cm）

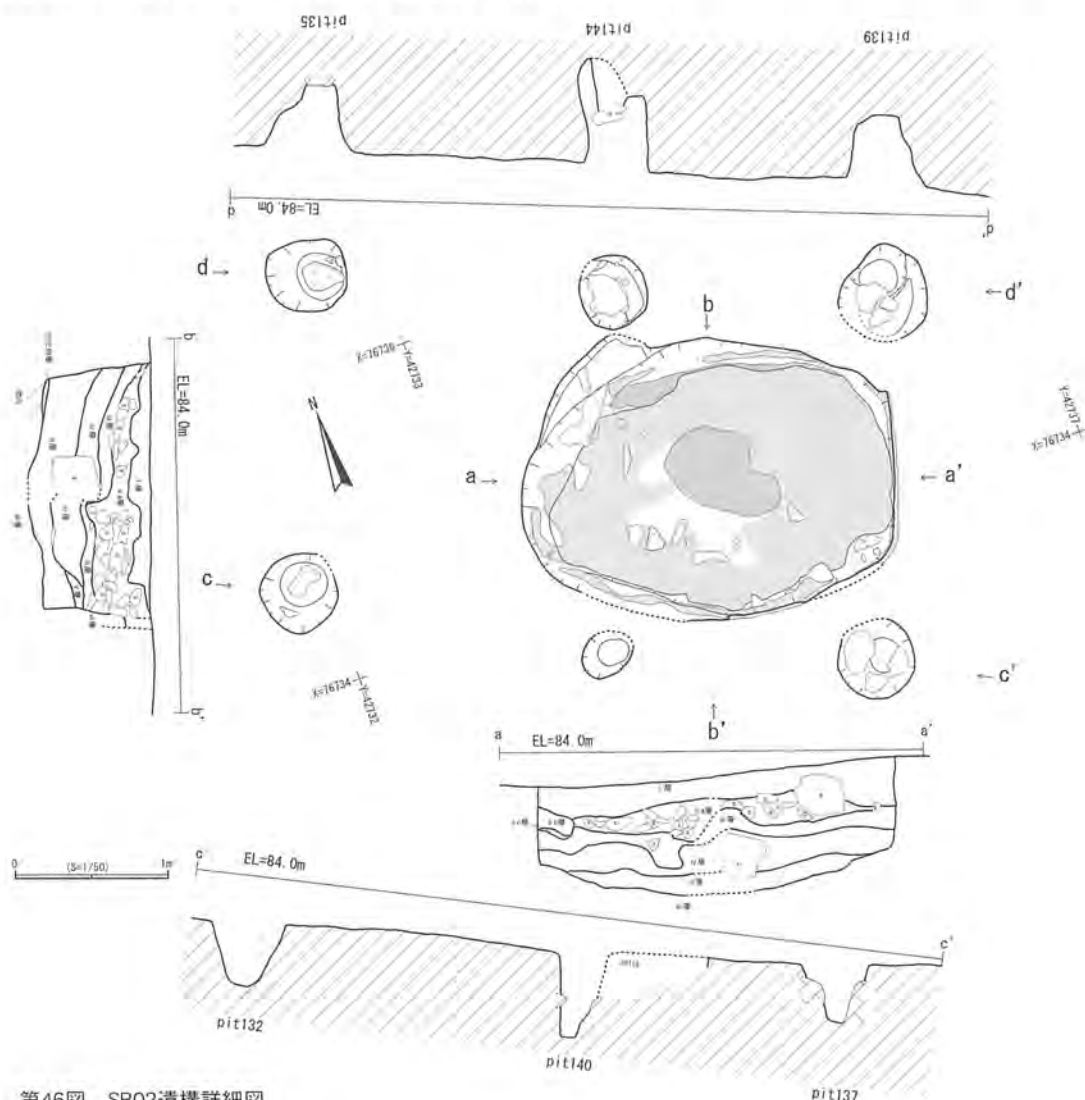
〔遺構構成〕 柱穴6基（pit132・135・137・139・140・144） 炉跡1基（SK295）

〔所 見〕 SB02は炉跡とそれに伴う掘立柱建物跡によって構成される。炉跡を中心にその周囲にpit132・135・137・139・140・144の柱穴が配される。これらの柱穴は隣接するSB03の柱穴によって切られ、全形は窺えないが、その直径は30～50cm程度となる。それぞれの柱穴はG Lより45cm程度掘り込まれ、柱痕はpit137にのみ認められる。

炉跡は長軸約240cm、短軸約170cm、深さ約80cmとなる。ほぼ垂直に掘り込まれ、炉底は平坦にならない。覆土は8枚に分層。iia層からは多量の礫が検出され、vi層からは多量の焼土塊と共に多量の炭化物（ムギ）が検出されている。炉壁及び炉底は火を受け赤褐色を呈する。土坑内覆土からはグスク土器・カムィヤキ・青磁Ⅱ類・V類・白磁碗D群などが得られている。柱穴からは遺物は検出されていない。廃棄年代は15世紀前半頃と考えられ



第45図 SB02位置図（S=1/300）



第46図 SB02遺構詳細図

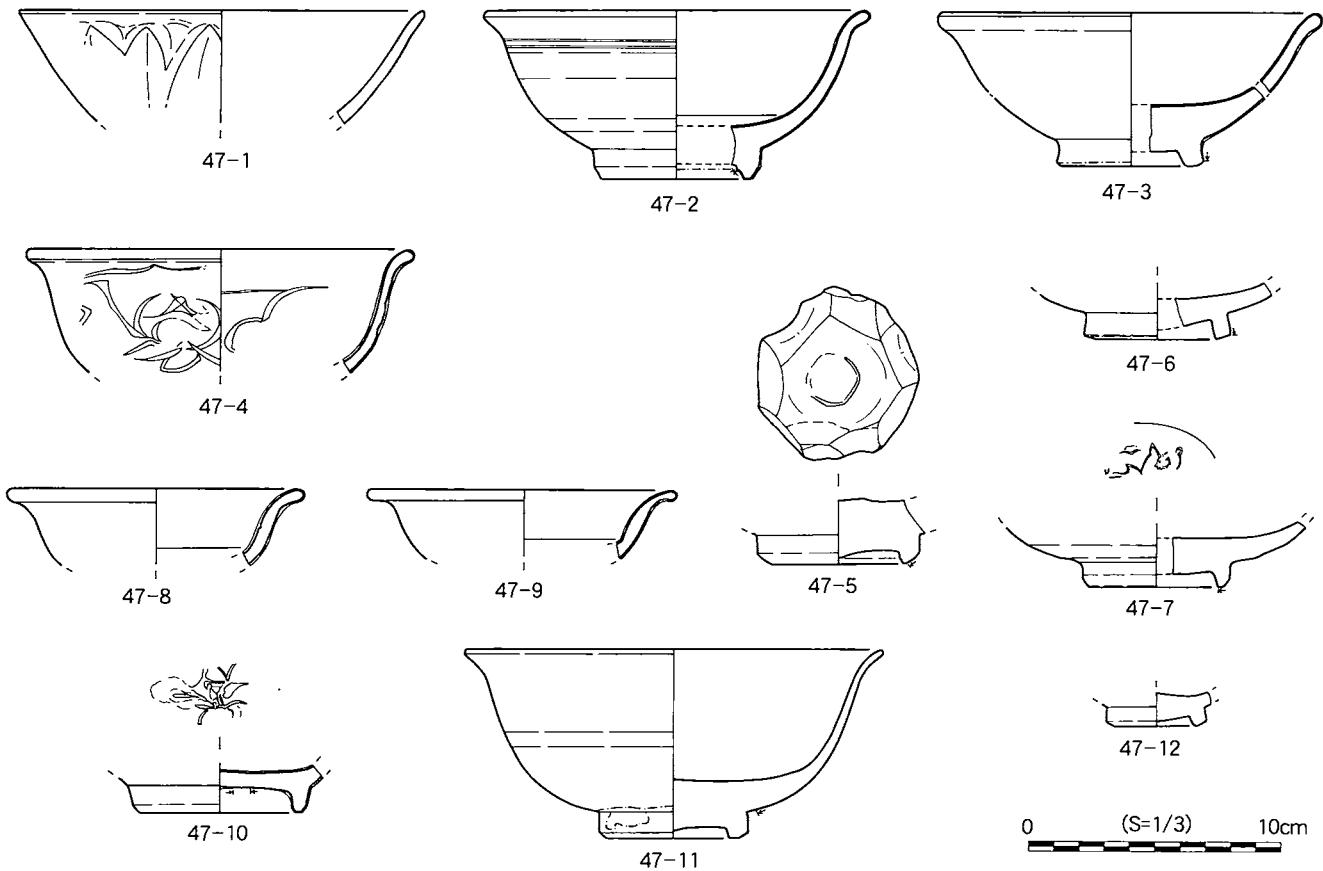
【遺構内堆積層】 炉跡：堆積状況より8枚の層に分層。i層は褐色土と黄色土が混ざるまだら層。iia層は土色はほとんどi層と変わらないが、5～10cm大の礫を多く含んでいる。ii b層は暗褐色土に部分的に黄褐色土がブロック状に混ざる層。ii c層は赤褐色の焼土層。iii層は明るさの違う褐色土が混ざり合う層。iv層は褐色土と黄色土が混ざり合う層で焼土・炭を多く含む層。v層は黄色土で部分的に細かい砂利を含む層。vi層は褐色土に多量の焼土を含む層で炉底直上の層。柱穴：柱穴内覆土は褐色土に明褐色土が混ざるまだら層が堆積している。焼土、炭を微量混入。

【炭化植物遺体】 土坑SK295の炉跡内堆積層最下層vii層の炉床面に接しムギと炭化材が堆積範囲の床全体を覆うものではないが、ブロック状に検出され、当該遺構を考える上で重要な資料と推察される。資料の炭化植物遺体相の内容については札幌大学大学院の千田寛之に資料提供を行い分析いただき、別項にて詳述している（第V章第3節）。また、当該資料について国立歴史民俗博物館に資料提供し、炭素14年代測定法による分析を行った結果速報ながら下記のような年代が得られた。

資料名称	地区	資料種	測定機関番号	炭素14年代	暦年較正（確率）
OKNK-C3	SK295	炭化材	PLD-11072	475±25	AD1415-AD1450（94.8%）

【遺物】 第47図はSB02から出土した主要遺物である。

- 1.青磁 第47図-1は龍泉窯系碗Ⅱ類の口縁部資料で体部に鎬蓮弁を描く。2～7は龍泉窯系碗Ⅴ類で、4はモチーフは不明だが内外面にヘラ彫りによる草花文を施す。8～10は同Ⅴ類資料。
- 2.白磁 11は白磁碗D群（邵武窯系）の資料。厚みのある低い高台を持ち、ゆるやかに外反する。12はD群（邵武窯系）の皿で（杯の可能性もあり）、全体に煤が付着し火を受けている。



第47図 SB02出土遺物

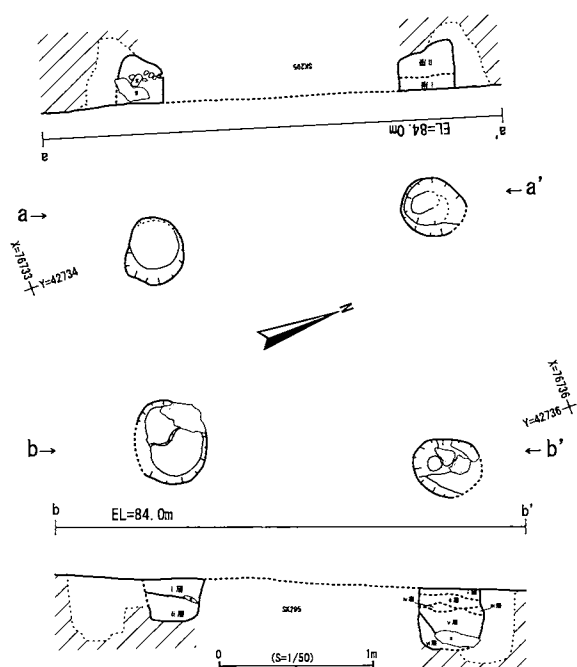
【名 称】 SB03 【位 置】 Ⅲ区 T-34 【検出面】 地山

【規 模】 1間×1間（長軸約175cm×短軸約155cm）

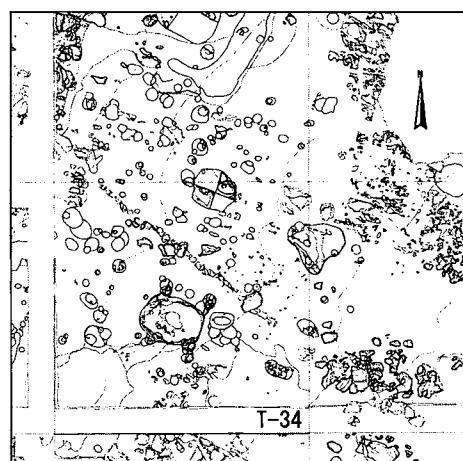
【遺構構成】 柱穴4基（pit136・138・141・143）

【所 見】 Pit136・138・141・143で構成される掘立柱建物跡。柱穴の直径はそれぞれ40～60cm程度で、深さは30～40cm。柱痕はpit136のみに認められる。Ⅰ層（耕作土）を除去した段階で確認された為、遺構検出面は削平されていると考えられる。SB03はSB02の柱穴と土坑を切る形で検出されており、SB02より新しい遺構と確認できる。遺物はpit141でヤコウガイが得られているのみ。

【遺構内堆積層】 pit136：柱痕（ⅰ層）は褐色土に明褐色土が少量ブロック状に混ざり、覆土となるⅱ層は褐色土に明褐色土が多く混ざる。pit138は5枚に分層できる。ⅰ層は褐色土に明褐色土が多く混ざる層。ⅱ層は褐色土に明褐色土、焼土が多く混ざる層。ⅲ層は暗褐色土に明褐色土が少量混ざる層。ⅳ層は褐色土に明褐色土が混ざり焼土・炭を混入。ⅴ層は褐色土に明褐色土が比較的大きくブロック状に混ざる。pit141：暗褐色土に明褐色ブロック・焼土・炭が混入する層。pit143：褐色土に明褐色土が混ざり焼土・炭が少量混入。



第49図 SB03遺構詳細図



第48図 SB03遺構位置図 (S=1/300)

【名 称】 SK170 【位 置】 Ⅳ区 T-34 【検出面】 地山

【規 模】 長軸約180cm×短軸約130cm 【遺構構成】 土坑1基

【所 見】 長軸約180cm、短軸約150cmの隅丸形状の土坑で、深さは約75cmを計る。土坑の底面は平坦となり、側壁は垂直に立ち上がる部分もあるが、岩盤などの制約をうけて、垂直に立ち上がらない部分もある。覆土は8枚の層に細分されているが、大きくはⅰ・ⅱ層とⅲ層の二つに分けることができる。ⅰ・ⅱ層は暗褐色を呈し多量に炭が混入するのに対し、ⅲ層は地山の土色と類似した明褐色を呈し炭の混入も僅かとなり、ⅰ・ⅱ層とは全く異なる様相を呈する。このことからⅰ・ⅱ層が土坑の使用時に堆積した層であるのに対し、ⅲ層は土坑構築時に工法的な目的で、土坑内に入れた土層ではないかと考えられる。また、この土坑のⅰ・ⅱ層からは多量の炭とともに、多くの魚骨や獣骨などの食料残滓、青磁碗・皿・盤（Ⅴ類）・褐釉陶器壺など、特に銭貨が多く得られている（洪武通寶を中心に合計26点）。廃棄土坑と思われる遺構である。

〔遺構内堆積層〕 i層：暗褐色と明褐色土が混ざるまだら層。iia層：暗褐色土層で炭を多量に含む。ii b層：褐色土に暗褐色土が混ざるまだら層。ii c層：暗褐色土に褐色土がブロック状に混ざるまだら層。ii d層：暗褐色土に僅かに明褐色土が混ざる層。iie層：暗褐色土層に明褐色土がブロック状に混ざる層で焼土・炭を含む。iii層：明褐色土に僅かに暗褐色土と炭が混ざる層。

〔遺物〕 第52図～第55図はSK170から出土した主要遺物である。

1.青磁 第52図-1は龍泉窯系碗Ⅳ類。2～16は龍泉窯系Ⅴ類。1～8は無文外反碗である。2・3は見込みに菊花文のスタンプを施文する無文外反碗で高台の造りが若干異なる。2がより方形に近いⅣ類の特徴を、3が方形高台から崩れて退化したⅤ類の特徴を有する。9・10は外面に無鎬の蓮弁を配する資料で、9は玉縁状の口縁に剣先蓮弁を丁寧に描き、見込みに印花を施す。11は腰折れの無文外反皿。12は口折れ無鎬蓮弁皿。13・14はⅤ類の頸縁の盤。15は菊花杯で外体面は線彫りで2段に蓮弁を廻らし内体面を丸彫りの幅の広い蓮弁を配する。16は内湾する無文杯。

2.白磁 17は白磁碗C3群（閩清窯系）の口縁部。18はD群（邵武窯系）の直口口縁の皿。

3.青花 第53図-19は元様式の花唐草文盤と思われる底部資料で、主郭出土遺物（今帰仁城Ⅱ62図-3）、周辺遺跡屋敷地3出土遺物（周辺Ⅱ55図-2）に酷似する。

4.韓国青磁 20は象嵌青磁の碗胴部破片。

5.褐釉陶器 21は肩の張りの弱い四耳壺で、口縁は外に折れて肥厚する。

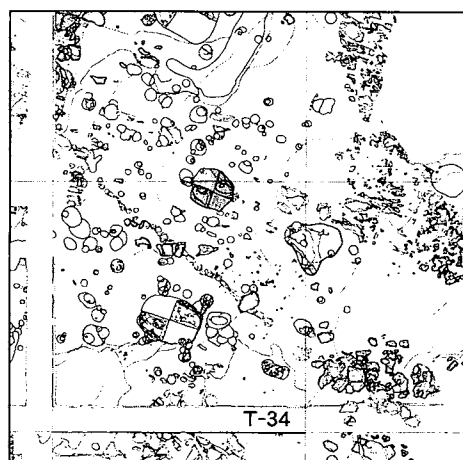
6.円盤状骨製品 23は獣骨を円盤状に成形した駒石と思われる製品。全面に丁寧な研磨を施し断面は長方形を呈し上原分類では（駒石-円盤型-骨製品）に該当する（上原2004）。

7.金属製品 24～31は鉄製品である。24～27は鉄釘、28～31は刀子。

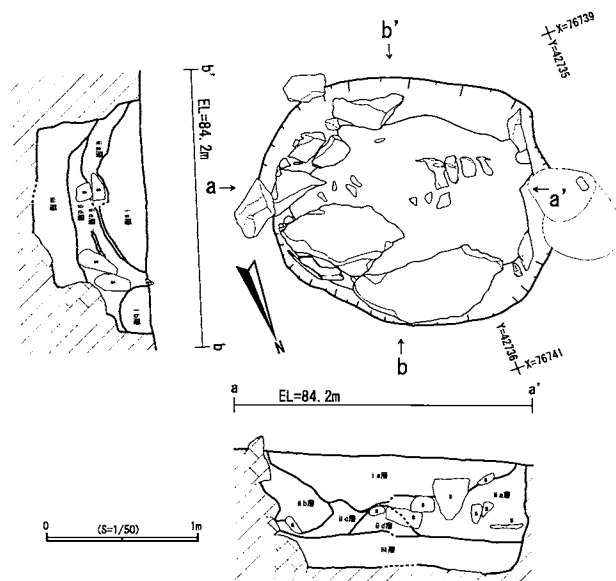
8.石器 32は砂岩製の砥石。

9.玉 33は勾玉でももとは冴緑青であったと思われるが風化が著しく白色化する。34はガラス小玉で主郭分類b2種にあたるが風化が激しい。

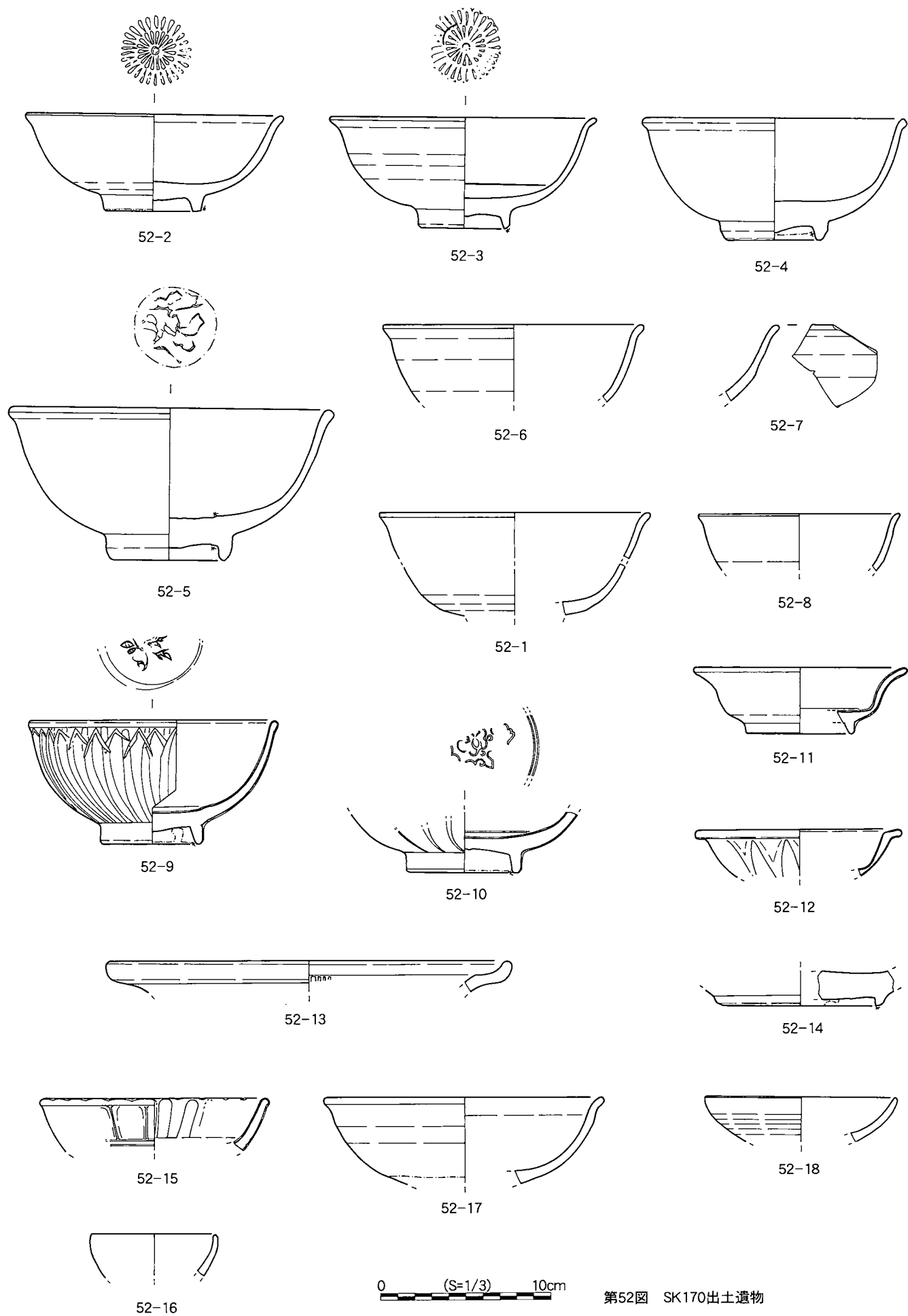
10.銭貨 第54図-35は至道元寶（北宋・995）、36は熙寧元寶（北宋・1068）、37～40は元豐通寶（北宋・1078：38～40は折二銭）。41は元祐通寶（北宋・1086）、42は元符通寶（北宋・1098：折二銭）、43は聖宋通寶（北宋・1101：折二銭）、44は崇寧重寶（北宋・1103：当十銭）、45は大観通寶（北宋・1107）、46・47は政和通寶（北宋・1111）、48は淳祐元寶（南宋・1241：折二銭）、第55図-49は至大通寶（元・1310）、50～58は洪武通寶（明・1368：51は当三銭、52は折二銭）、59・60は不明。未図化の1点の洪武通寶を含め、計26点と60の不明銭。



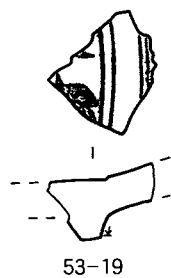
第50図 SK170位置図 (S=1/300)



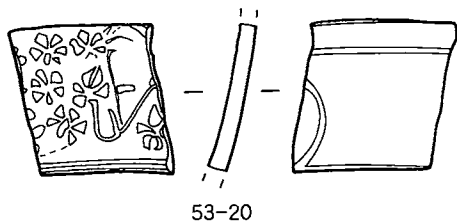
第51図 SK170遺構詳細図



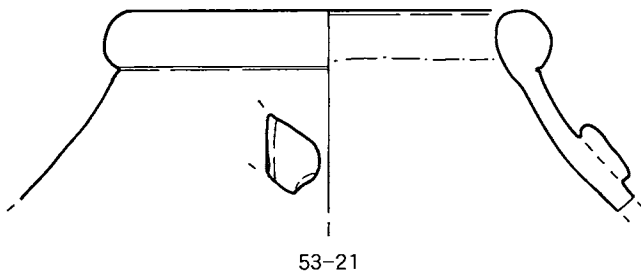
第52図 SK170出土遺物



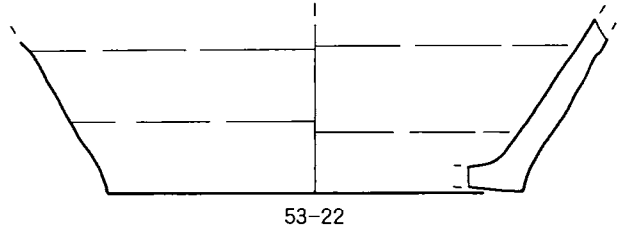
53-19



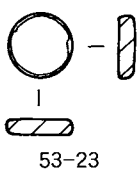
53-20



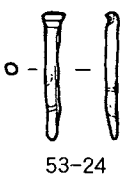
53-21



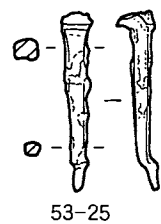
53-22



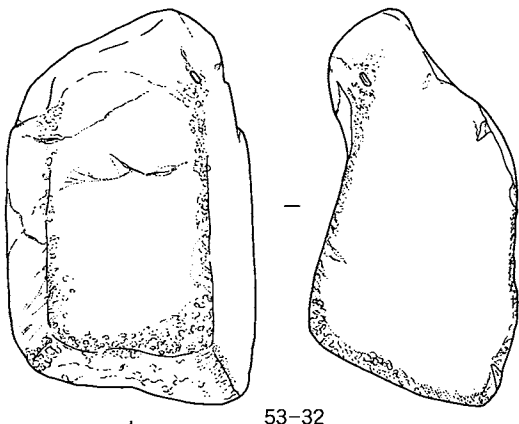
53-23



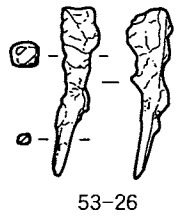
53-24



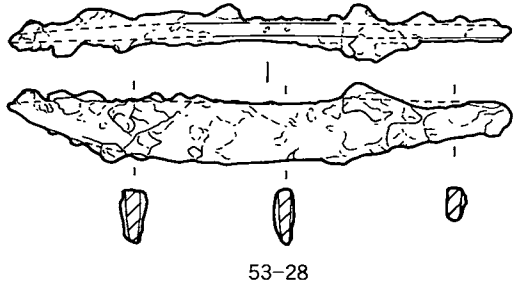
53-25



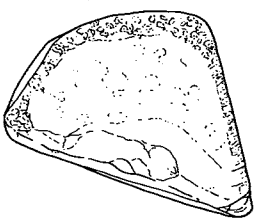
53-32



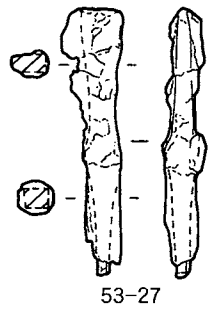
53-26



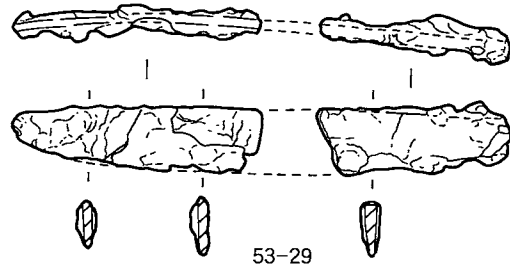
53-28



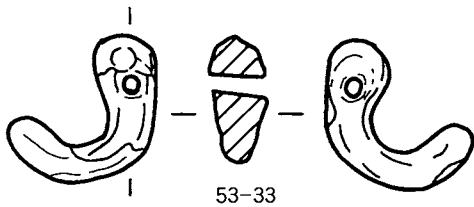
0 (S=1/4) 10cm



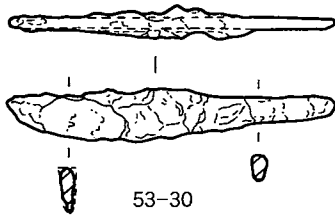
53-27



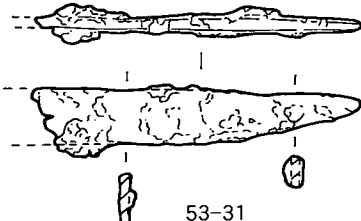
53-29



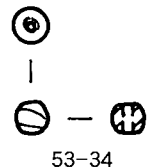
53-33



53-30



53-31

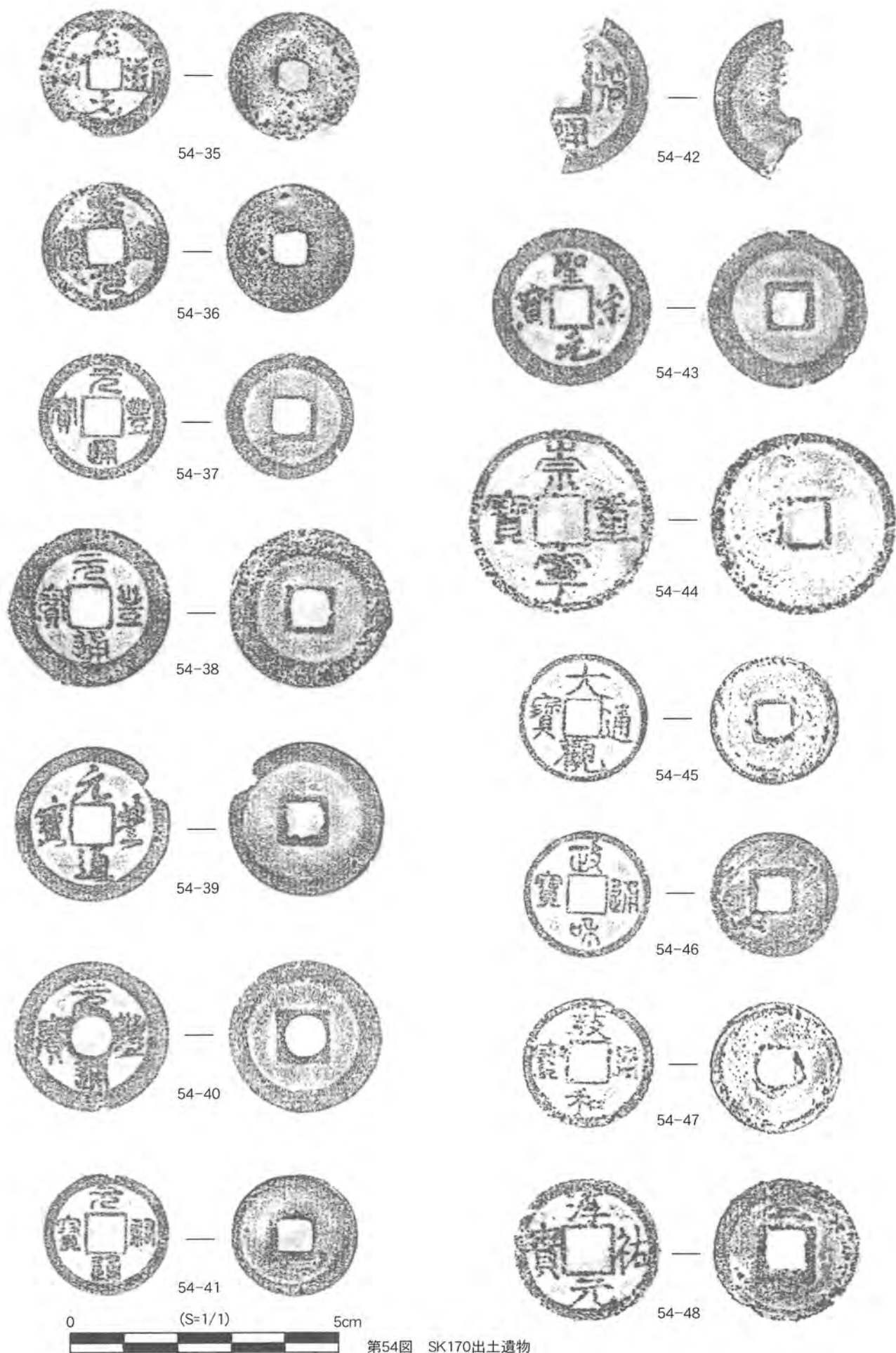


53-34

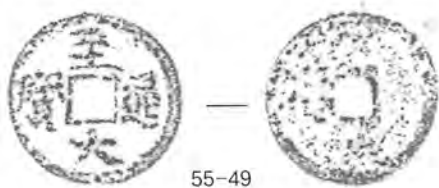
0 (S=1/1) 5cm

0 (S=1/2 19~31) 10cm

第53図 SK170出土遺物



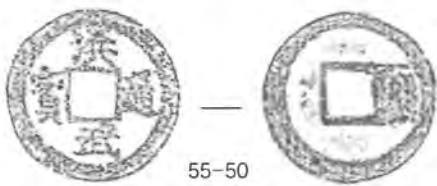
第54図 SK170出土遺物



55-49



55-56



55-50



55-57



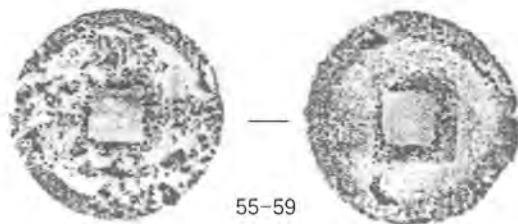
55-51



55-58



55-52



55-59



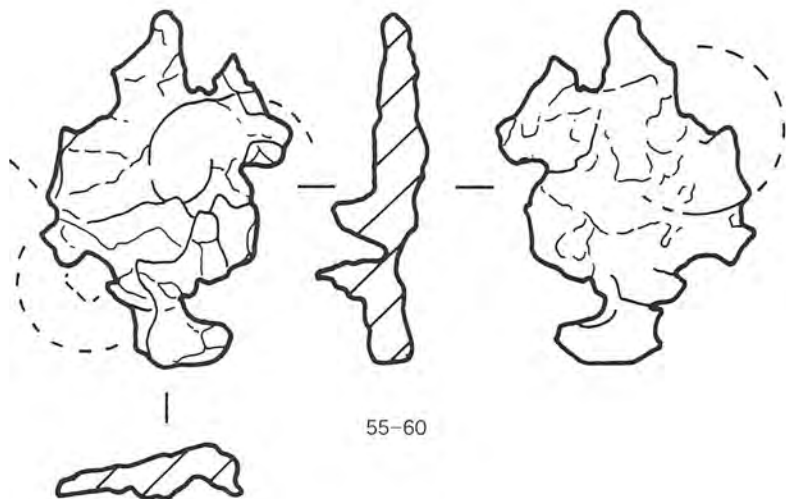
55-53



55-54

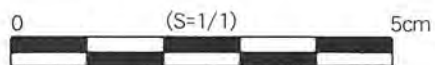


55-55

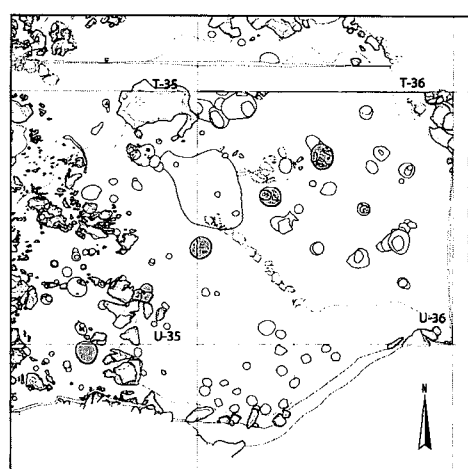


55-60

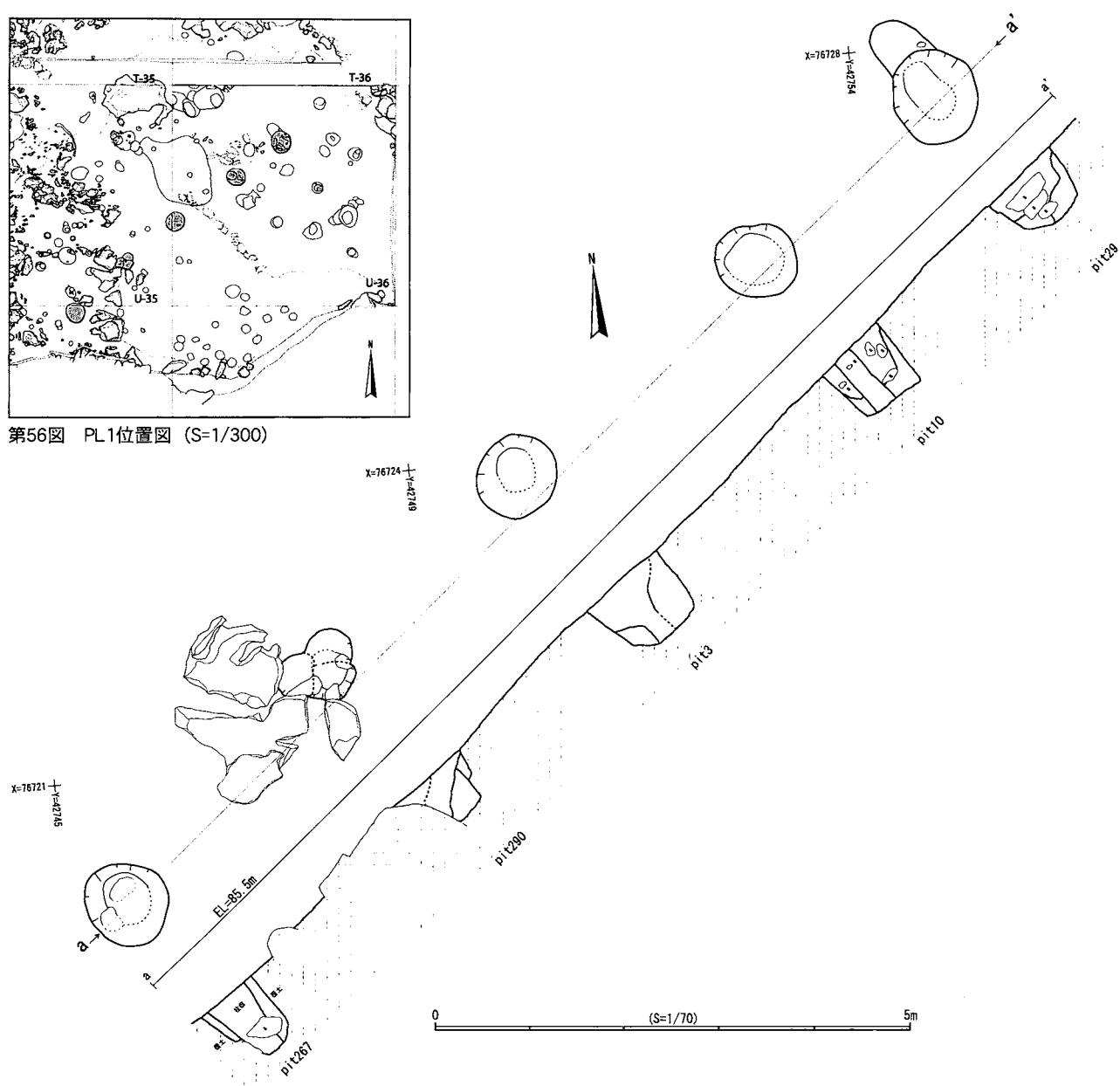
第55図 SK170出土遺物



[名 称] PL1 [位 置] Ⅲ・Ⅳ区 U-35・36、V-35 [検出面] 地山
 [規 模] 約12m [遺構構成] 柱穴列 (pit3・10・29・288・289・290・267)
 [所 見] PL1は径の大きい柱穴が等間隔に一直列に並ぶ、性格不明の柱穴列である。柱穴の直径は80～90cmを計り、深さは60～80cmとなり、pit3・10・267において柱痕が確認されている。検出面の上層のⅠ層は耕作土となっているため、検出された柱穴は上部が削平された可能性が高い。
 PL1は柱穴列が間隔約3mの等間隔に並んでいるが、pit288、289、290は切り合っており、PL1にどの柱穴が伴うのか不明である。pit267より南東方向へ遺構延伸確認を行ったが柱穴は確認されなかった。遺物は小破片であるが白磁A群碗やグスク土器が得られている
 [遺構内堆積層] pit267：褐色土と黄色土が混ざるまだら層。pit3：暗褐色土に黄色土がブロック状に混ざる層。pit29：明褐色土に褐色土が僅かに混ざる層。pit10：褐色土と明褐色土が混ざるまだら層。pit288・289・290：褐色土と明褐色土が混ざるまだら層。



第56図 PL1位置図 (S=1/300)



第57図 PL1遺構詳細図

〔名 称〕 SK266 〔位 置〕 IV区 T-34 〔検出面〕 地山

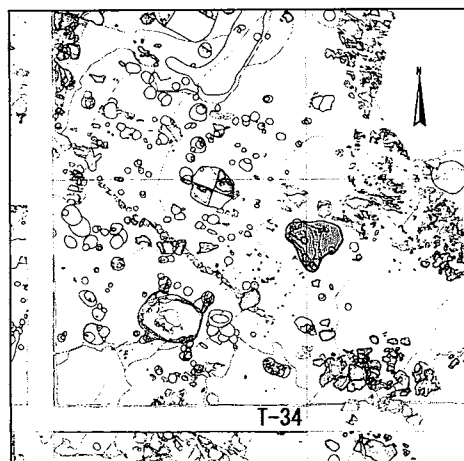
〔遺構構成〕 土坑1基 〔規 模〕 長軸約180cm×短軸約150cm

〔所 見〕 長軸約180cm、短軸約150cmの略三角形の土坑で単体で構成する。GLより30cm程度掘り込んでいる比較的浅い土坑であるが、I層（旧表土耕作土）を除去した段階で確認された為、遺構本来の検出面は削平されている可能性が高い。北東側ではGLより5～15cmと浅いところで底面が検出されており、そこから南西側へ落ち込むように深くなり、最も南西側ではGLより30cm下で底面が検出され、そこからピットが検出されている。この土坑から出土した遺物のほとんどがグスク土器であり、僅かに魚骨や獣骨などの自然遺物が出土する。

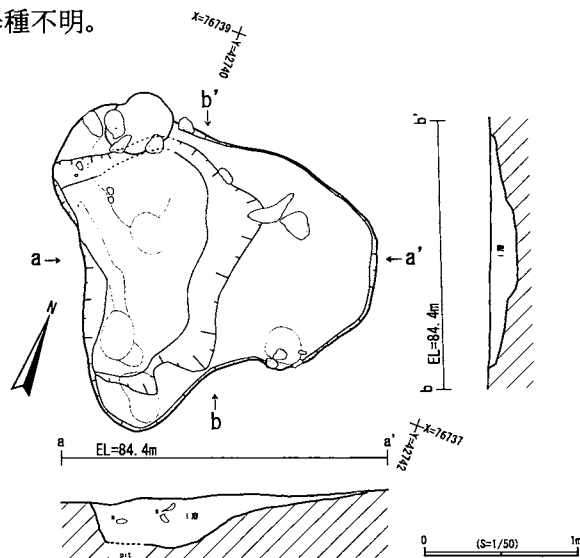
〔遺構内堆積層〕 i層：暗褐色土に明褐色土が混ざるまだら層で、焼土が混入する。

〔遺物〕 第60図-1～4はSK266、5はS265で出土した遺物である。

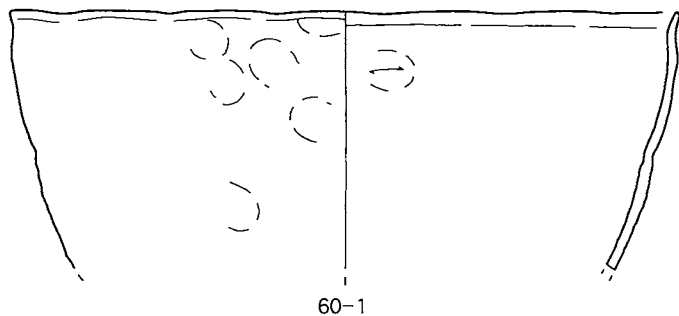
1.土器 1～5はグスク時代に属する土器で混和材に粘板岩を用いる。1は口縁が直口する鍋。2は頸部を微弱に外反させ肥厚させる甕形土器。3～5は器種不明。



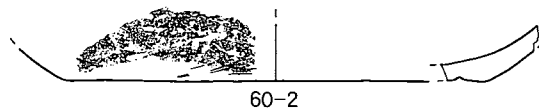
第58図 SK266位置図 (S=1/300)



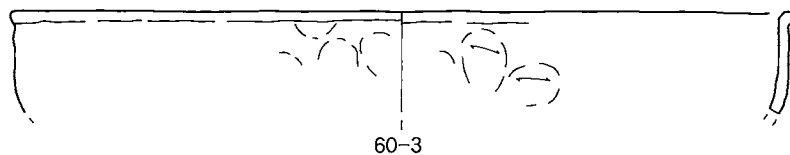
第59図 SK266遺構詳細図



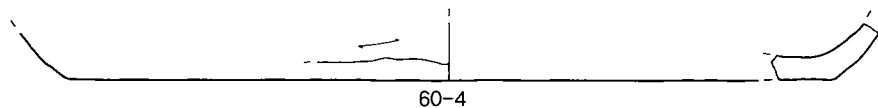
60-1



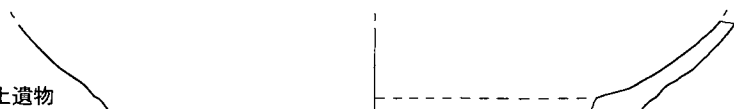
60-2



60-3

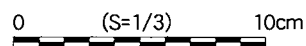


60-4



第60図 SK266出土遺物

60-5



〔名 称〕 SK328 〔位 置〕 T-33 〔検出面〕 地山

〔遺構構成〕 土坑1基 〔規 模〕 265cm×140cm

〔所 見〕 T-33より検出された土坑で、覆土をⅠ～Ⅶ層に分層することができた。当初一つの土坑と思われたが、半裁の結果二つの土坑が切り合った形で存在していることが確認され、ⅰ～ⅱ層をSK328-1とし、ⅲ～Ⅶ層をSK328-2とした。土坑を半裁した段階で二つの土坑の切り合いを確認した。SK328-2平面形は明確ではない。

SK328-1：SK328-2を切る土坑で、平面形は不定形となり、長軸が265cm、短軸が120cmとなる。土坑底面は弧状となり、東側の側壁は垂直に立ち上がるが、西側では緩やかな傾斜となり、深さはGLより45cm前後を測る。Ⅱ下層を除去した段階で地山面より検出した。土坑の性格は判然としない。この土坑より、白磁の八角杯などが出土している。

〔遺構内堆積層〕

ⅰ層：10YR暗褐3/3に黄褐色土が混ざるしまりの良い層で、炭、焼土を含む。20cm大の比較的大きな礫が層中より検出する。

ⅱ層：10YR黄褐5/6に暗褐色、しまりの良い土層で、炭が僅かに混入する。

SK328-2：SK328に切られる土坑で、平面形は明確ではないが、不定形になるものと考えられる。規模は長軸が142cm、短軸が135cmとなり、土坑底面は平坦にならない。側壁西側において、側壁を外側に向かって掘り込んでおり、側壁東側はSK328-1によって切られるため立ち上がりの形状は不明である。深さはGLより60cm前後となり、深い土坑となる。SK328-1の下層より検出されている。

〔遺構内堆積層〕

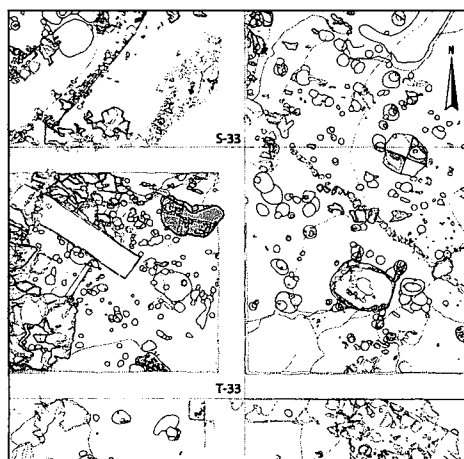
ⅲ層：7.5YR褐4/6に暗褐土がまだら状に混ざる、しまりの良い層である。

ⅳ層：10YRにぶい黄褐4/3に10YR黄褐5/6が少量混ざる、しまりの良い層である。

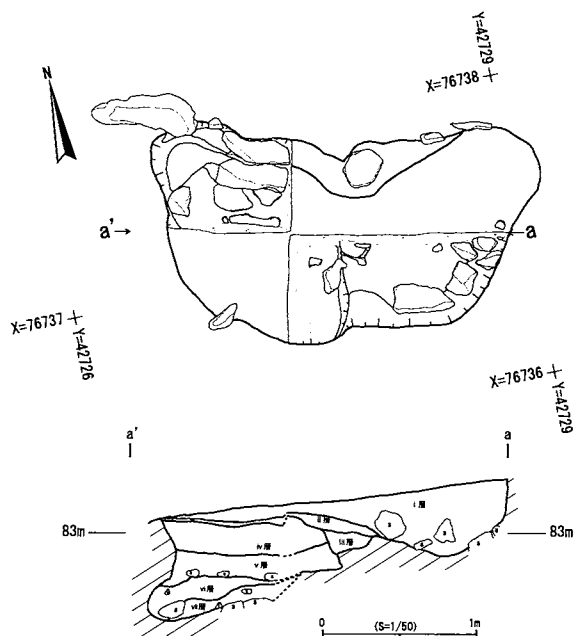
ⅴ層：10YR黄褐5/6に暗褐色土が混じる層である。

ⅵ層：10YRにぶい黄褐4/3に7.5YR明褐5/8が僅かに混ざる層で、炭を僅かに含む。Ⅳ層と色調が類似する。

ⅶ層：7.5YR明褐5/8と10YRにぶい黄褐4/3が混ざるまだらな層で、炭を僅かに混入する。



第61図 SK328-1、SK328-2位置図 (S=1/300)



第62図 SK328-1、SK328-2遺構詳細図

〔遺物〕 第63図はSK328から出土した遺物である。

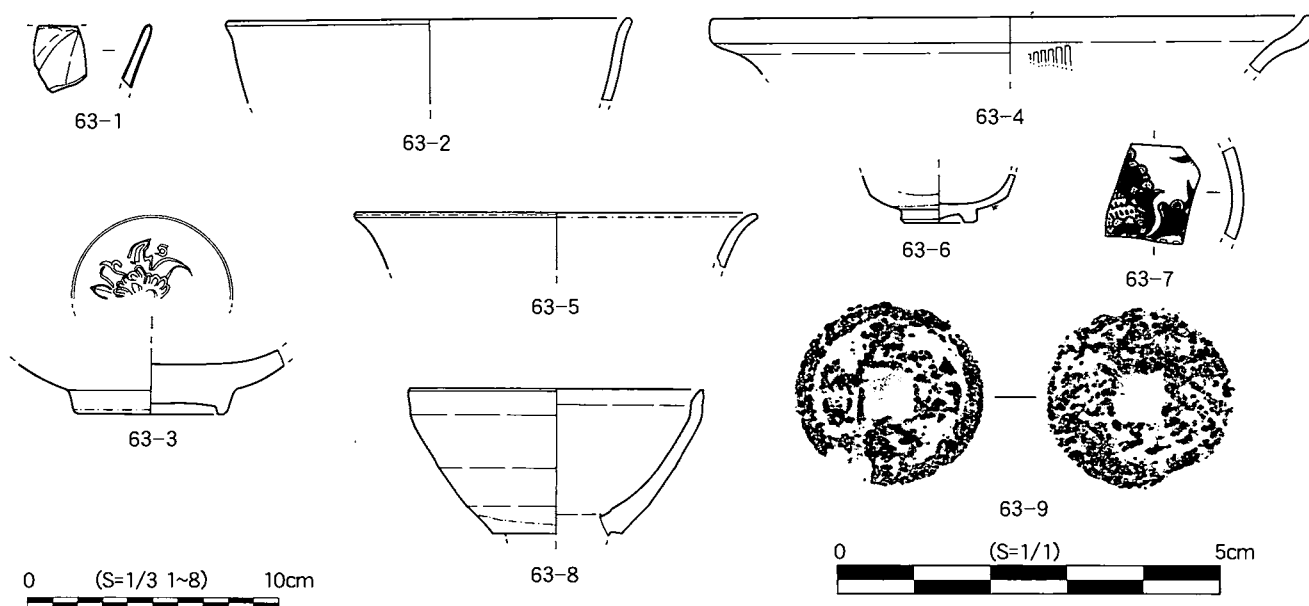
1.青磁 1は龍泉窯系Ⅱ類の碗口縁部。2・3は同Ⅳ類の碗である。2は口縁を緩やかに外反させオリーブ色の薄い透明釉を施釉。3は見込みに印花を施文し外底は無釉となる。4は同Ⅴ類の盤。

2.白磁 5はA群碗の口縁部と思われる資料。6はD群八角杯の底部で灰白色の釉を内底から外面高台脇まで施釉する。

3.青花 7は瓶の胴部破片資料で外面は牡丹唐草文を施す。

4.黒釉 8は天目碗の口縁部資料で黒色の釉を厚く施有する。

5.銭貨 9は判読が難しい。不明円形方孔銭貨。



第63図 SK328出土遺物

〔名 称〕 SD158 〔位 置〕 T-34 〔検出面〕 地山

〔遺構構成〕 浅い溝 〔規 模〕 幅90cm

〔所 見〕 T-34グリッドでⅠ層除去後に検出された浅い溝状遺構で、深さは約20cm前後となる。当該遺構は両端をSB02遺構やⅡa層に切られていたため、どのような機能をもった遺構であったのか詳細はよくわかっていないが、出土遺物はグスク土器を中心とした比較的古い遺物（13世紀後半～14世紀頃）で構成されていた。

〔遺構内堆積層〕

i層：10YR褐色4/4の土層に微細レキ等が多く混入する層で、削ったときにジャリジャリと固くしまる。炭が比較的多く、焼土少量を含む。

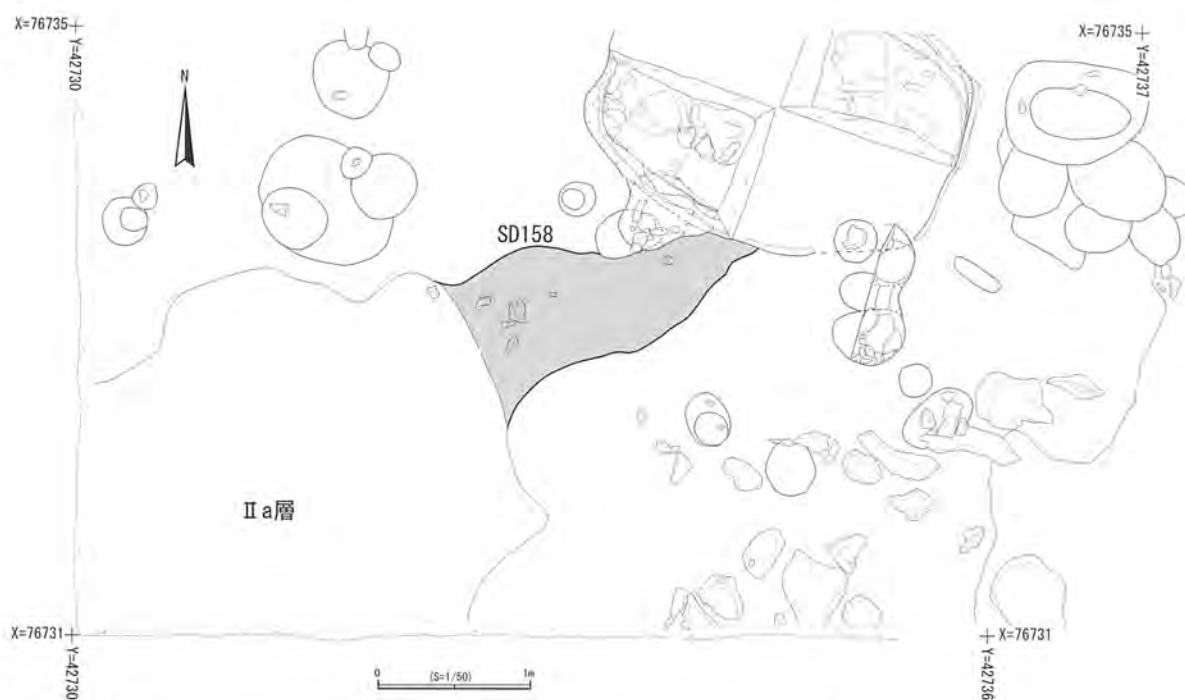
〔遺物〕 第66図はSK158から出土した遺物である。

1.土器 1～3はグスク時代に属する土器で混和材に粘板岩を用いる。1は壺形土器で口縁を外側に屈曲させる。2・3は器種不明。

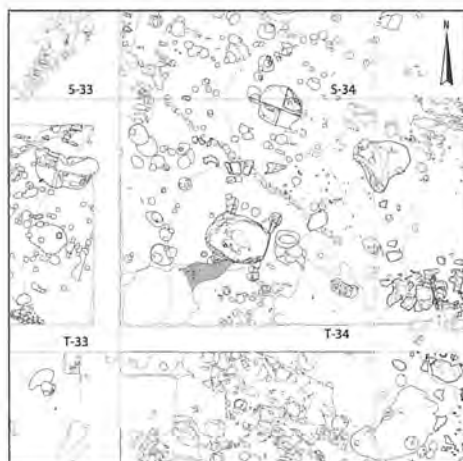
2.カムイヤキ 4はカムイヤキ底部破片でB群の壺か。

3.青磁 5は龍泉窯系Ⅱ類碗口縁部資料で体部に篋彫りの鎬蓮弁を描く。6も同Ⅱ類底部資料。外底及び畳付け露胎となる。

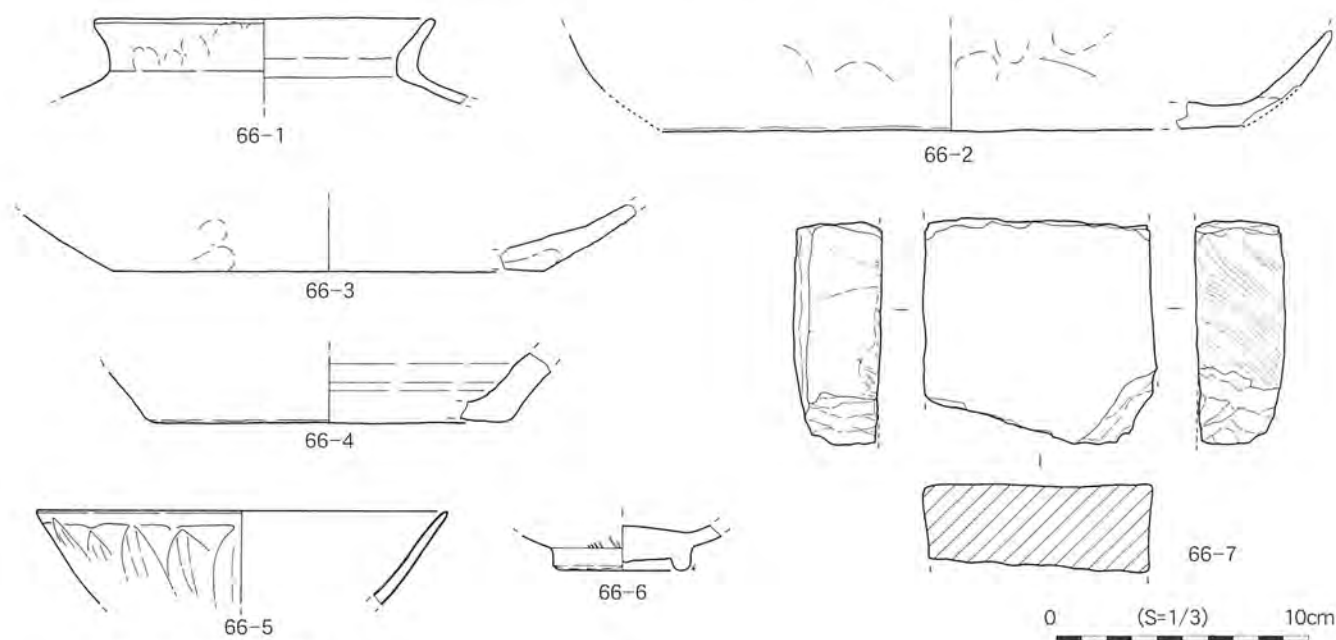
4.石器 砂岩の砥石で欠損しているため全形は不明だが、砥面と思われる平坦面は若干凹む。



第64図 SD158遺構詳細図



第65図 SD158位置図 (S=1/300)



第66図 SD158出土遺物

【名 称】 SD286 【位 置】 S-34 【検出面】 地山及び第1造成層i層

【遺構構成】 浅い溝 【規 模】 5m30cm×1m30cm

【所 見】 S-34グリッドより検出された「L」字状に延びる浅い溝状遺構で、深さは約10cm前後となる。遺構は幅130cm前後であるが、「L」字状に屈曲し、西側へと移行する部分では、その幅が40cm前後と狭まる。遺構内覆土は10YR暗褐色3/3に明褐色土が混入する土層となる。遺構の性格ははっきりとはわからないが、第1造成層と地山の境界より検出され、加えてSB01を囲む形で検出していることから、しまりの悪い第1造成層の流出を防ぐために設けられたSB01に伴う排水溝的な遺構と考えられる。検出面の上層にはⅡ上層（15世紀頃）が被覆しており、15世紀頃までに廃棄された遺構と考えられる。

【遺構内堆積層】

i層：10YR暗褐3/3の土層に明褐色土が混入する土層で、炭、焼土を含む。

【遺物】 第69図はSD286から出土した遺物である。

1.土器 1はグスク土器底部。器種は不明。

2.青磁 2・3は龍泉窯系Ⅳ類。2は口縁は直口となり、外面に施された蓮弁は輪郭が複線となる。

3は緩やかに内湾する器形で皿と思われる。4はⅣ類もしくはⅤ類碗の口縁部。

3.褐釉陶器 5は逆L字状肥厚口縁となるⅠ類資料。型起こしによる龍文を施す。

4.金属製品 6は青銅製品で割ピン状の鉾金具。

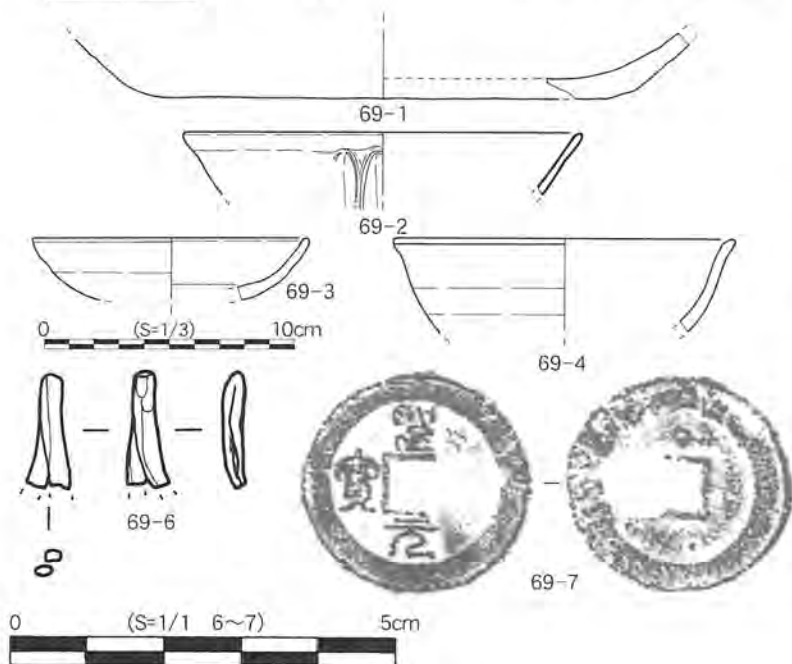
5.銭貨 7は聖宋元寶折二銭（北宋・1101年初鑄）で宋字を欠損する。



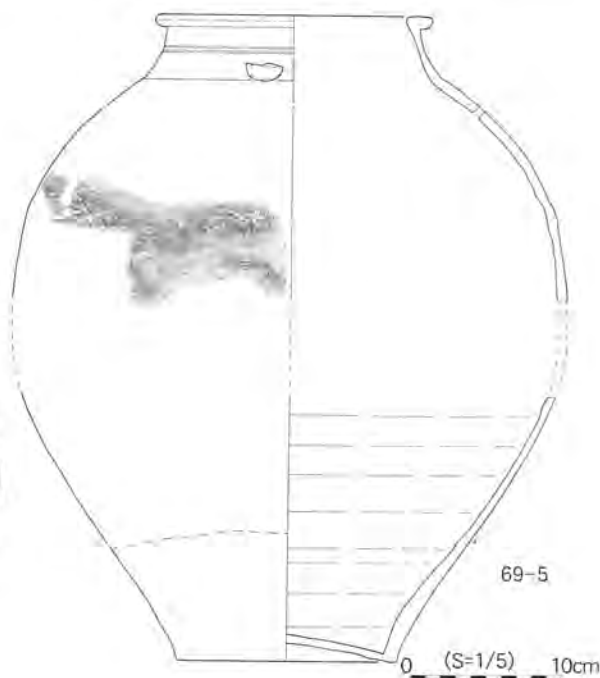
第67図 SD286遺構詳細図



第68図 SD286位置図 (S=1/300)



第69図 SD286出土遺物



【名 称】 第1造成層 【位 置】 S-34

【検出面】 地山 【規 模】 6.8m×5.3m

【所 見】 S-34北側に長軸6.8m短軸5.3mで分布しており、Ⅱ上層を除去した段階で検出している。斜面地を平坦にするために異なる土を5回に分けて入れ込んで造成しており、i～v層に分層することができた。今帰仁城跡主郭地区で検出した造成に認められる版築は確認されなかった。SR3を撤去すると、その法面に第1造成層i層～v層が切られた形で検出したため、SR3構築時に削平されたと考えられる。また、造成に伴う土留め施設が確認されておらず、これもSR3構築時に破壊されたのではないかと考える。

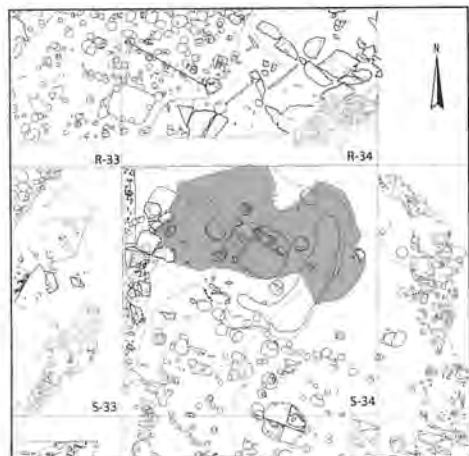
第1造成層からは、グスク土器やカムィヤキなど13世紀後半の遺物がまとまって出土しているが、これらの遺物が造成を行った年代に対応するかは判然としない。

【遺構内堆積層】

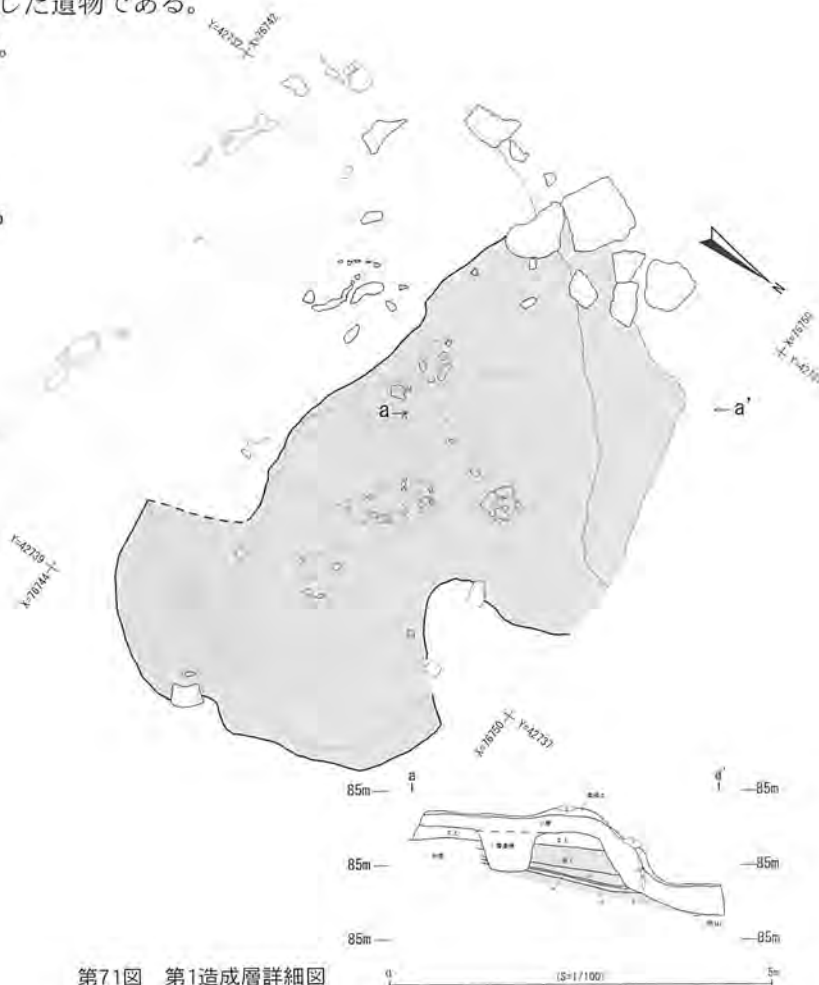
- i 層：7.5YR明褐4/6と10YR褐5/6が混ざるまだら層で、層厚は東側では薄く西側に移行するにつれて厚さを増し厚いところで25cmを測る。
- ii層：10YR褐4/4炭を含む。層厚は東側では薄く西側に移行するにつれて厚さを増し、厚いところで、18cmとなる。
- iii層：10YRにぶい黄褐3/4と10YR褐4/4が混ざるまだら層で一部砂利を含む。層厚は極端に薄く3～4cmの厚さで堆積している。
- iv層：10YR褐4/4を呈する土層で、層厚は薄く3～10cmの厚さで堆積している。
- v層：7.5YR明褐5/8に10YR褐4/6が混ざるまだら層である。

【遺物】 第74図は第1～3造成層から出土した遺物である。

- 1.土器 1はグスク土器底部。器種は不明。
- 2.青磁 2は龍泉窯系Ⅳ類の皿底部。
見込みに双魚文を施す。
- 3.白磁 3・4は皿A群の資料で全面施釉
後に口唇の釉を掻き取るいわゆる
口禿皿である。



第70図 第1造成層位置図 (S=1/300)



第71図 第1造成層詳細図

【名 称】 第2造成層 【位 置】 T-34、35、U-34、35 【検出面】 地山

【規 模】 8m×5.5m

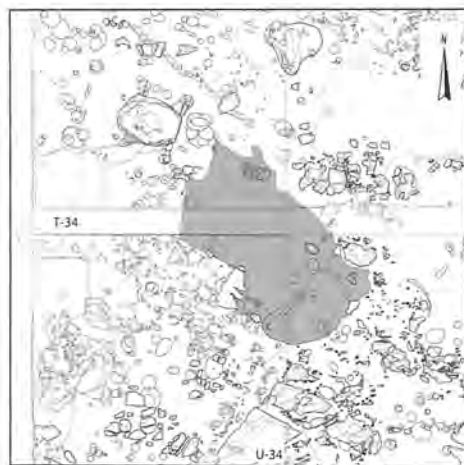
【所 見】 T-34、35、U-34、35に分布する造成層で、長軸8m、短軸5.5mを測る。10YR褐4/4と7.5YR明褐5/8が混ざる粘性の強い層で、層厚は最も厚いところで94cmにも及ぶ。I層（近現代の耕作土）を除去した段階で地山面から検出され、当初、土坑などの遺構とも考えられたが、その規模の大きさなどから造成層と判断した。第2造成層の断面をみると、中央部が最も堆積が厚く縁辺部に移行するに従い、層厚が薄くなることから、窪んだ地形に土を入れ平坦地を造成したものと考えられる。遺物はグスク土器、青磁Ⅱ類碗（鎗蓮弁文碗）など13世紀後半～14世紀前半頃の遺物がまとまって出土しているが、これらの遺物の年代が造成を行った年代に対応するかは判然としない。

【遺構内堆積層】

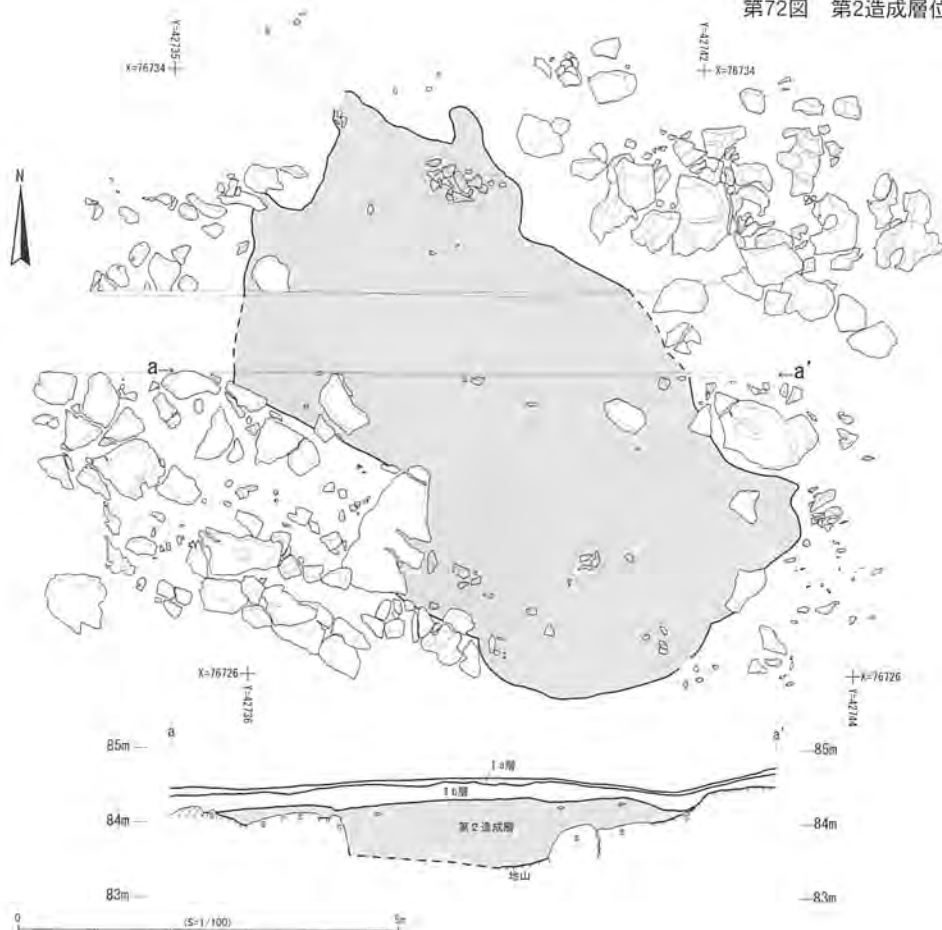
i層：10YR褐4/4と7.5YR明褐5/8が混ざる粘性の強い層で、堆積は厚い。

【遺物】

1. 金属製品 6は鉄鏃で先端部が平坦となる鑿頭形の資料で茎は断面円形となる。
2. 玉 7はガラス小玉で主郭分類b2種にあたる。色調は強い緑みの青となる。



第72図 第2造成層位置図 (S=1/300)



第73図 第2造成層詳細図

【名 称】 第3造成層 【位 置】 U-33、34 【検出面】 地山 【規 模】 不明

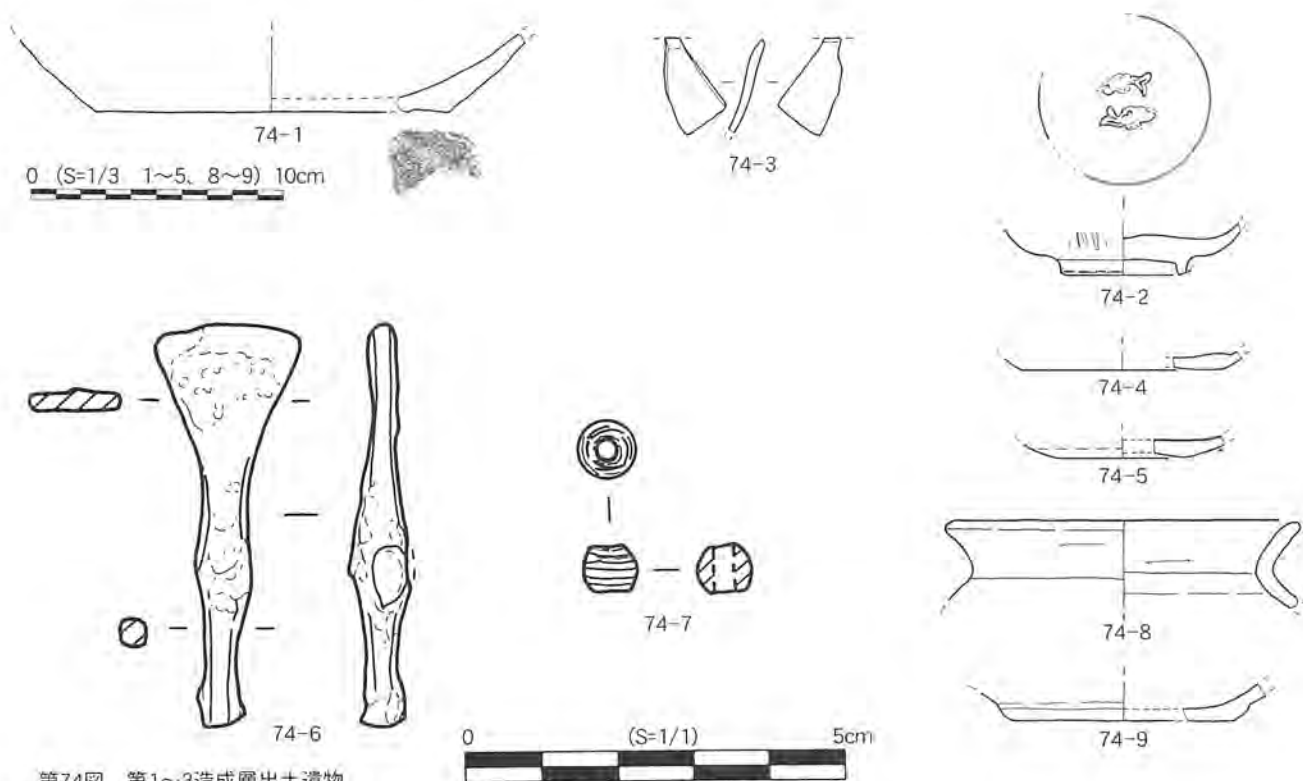
【所 見】 U-33、34北壁沿トレンチ、U-33東壁沿トレンチで確認された造成層。Ⅳ層（グスク土器、青磁鎬蓮弁文碗などが主体的に出土）より下層で検出しており、出土数は少ないが、グスク土器や青磁鎬蓮弁文碗などが出土していることから、13世紀後半～14世紀前半以前の造成と考えられる。

【遺構内堆積層】

i層：10YR暗褐3/4と7.5YR明褐5/8が混ざる層で、炭、焼土を少量含む。

【遺物】

1. 白磁 5はA群の皿で全面施釉となり、口縁部は欠損するが口唇のみ釉を掻き取るいわゆる口禿の皿になると思われる。
2. 土器 8・9はグスク土器で共に混和材に粘板岩を用いる。8は口縁を外側に屈曲させる壺形土器。2の底部は器種不明である。



第74図 第1～3造成層出土遺物

【名 称】 SX1 【位 置】 V-33 【検出面】 地山 【規 模】 不明

【所 見】 V-33グリッドの南東側において確認された集石遺構である。しかしⅡ層との土色が酷似していて分層することができなかったため、位置図に破線で範囲を示すに留めた。遺構の根拠として5～20cm大の古期石灰岩が散石的に分布していること、もう1点は古い遺物で構成されていたことである。

【遺構内堆積層】

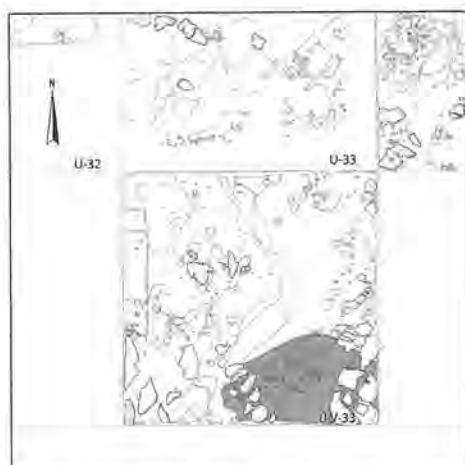
i層：10YR暗褐3/4と7.5YR明褐5/8がわずかに混ざる層で、炭、焼土を少量含む。

[遺物]

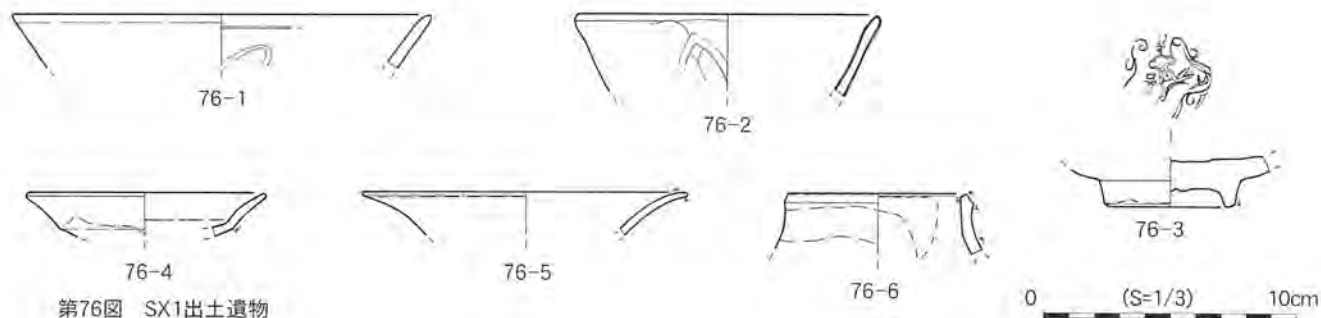
1.青磁 第76図-1は龍泉窯系青磁碗Ⅰ類の口縁部資料で、内面にヘラ描きによる文様を確認できる。2は同碗Ⅱ類の口縁部資料。外体面に鎬蓮弁が施される。3は同碗Ⅳ類の底部資料。発色の悪い釉を高台外側まで施釉し、見込みには印花が施される。4は同安窯系の青磁皿。小破片のため無文であるが、見込みに櫛描文が描かれるものと思われる。

2.白磁 5は皿A群の口縁部資料で端反りとなる。口唇の釉を掻き取るいわゆる口禿皿。

3.褐釉陶器 6は口縁部が微弱に外反し口唇で若干肥厚する比較的長頸の壺。暗褐色の釉を全体に掛け流し、口唇及び頸部の釉を雑に掻き取る。類似する器形として首里城京の内において白釉水注が出土しているが、水注か壺かは不明（沖縄県教育委員会1998）。



第75図 SX1遺構位置図 (S=1/300)



2. Ⅲ・Ⅳ区出土遺物

Ⅲ・Ⅳ区において出土する陶磁器の多くは時期的に13世紀後半から15世紀前半に収まるものである。中でもⅢ～Ⅴ層で出土する陶磁器は今帰仁城跡内においても比較的古い陶磁器が占め、グスク土器・カムイヤキ、中国産陶磁器等が出土している。77図1～27はⅢ～Ⅴ層出土、28～32は遺構上面において検出された遺物である。遺構内遺物に関してはⅢ～Ⅴ層出土の遺物と比べると若干時代が新しい。Ⅲ～Ⅴ層の時代的な相違はみられない。

Ⅲ～Ⅴ層出土遺物（第77図）

- 1.滑石（第77図-18・28） 18は混入土器。28は滑石製石鍋の小破片。
- 2.土器（第77図-1・2、10～12、19～22、29） 土器はいずれもグスク時代に属するもので、総じて粘板岩を混和材として用いる特徴を持つ（第3様式）。10・19・29は壺形、11・20は鍋形土器の口縁部資料。1・2・12・21・22は器種不明の底部資料。
- 3.カムイヤキ（第77図-3） 厚手の造りとなるB群の壺。
- 4.瓦質土器（第77図-23） 鉢：本土産瓦質土器と思われる標品で、灰白色の粗製の陶土を用い瓦質焼成される。器形は鉢が想定される。類例資料が主郭Ⅹ層で出土している。
- 5.青磁（第77図-4～8、13～16、24～27、30、31）
碗：4・13・14・24・25はいわゆる鎬蓮弁文碗（龍泉窯系Ⅱ類）の口縁部資料で、体部に鎬蓮弁を描く。6は龍泉窯系Ⅲ'類底部資料。釉が高台が細く三角形状となり、畳付けを釉剥ぎする。Ⅲ類文様は鎬蓮弁が多いが、上面を欠損しているため文様の有無は不明。5・15・30は無文外反碗の

口縁部資料で、30は釉調等からⅣ～Ⅴ類、5・15はⅤ類。

皿：8・26・27は櫛描文皿の資料と思われるが、文様部分を欠損しており文様の有無は不明である。

7・31は龍泉窯系Ⅴ類。7は外面に無鎬蓮弁を施し外底を釉剥ぎする。

盤：16はⅣ～Ⅴ類の鐫縁盤。内面には4本櫛により細蓮弁が描かれる。

6. 白磁（第77図-32） D群（邵武窯系）の八角杯口縁部資料。

7. 青白磁（第77図-9） 器高の低いベタ底の合子で蓋の接着面及び底面は無釉となる。

8. 金属製品（第77図-17） 鉄釘。

Ⅱ下層出土遺物（第78～80図）

1. 土器（第78図-33～36） いずれもグスク時代に属する土器で（第3様式）、33は内湾する鍋形土器で内面に工具による刷毛目が明瞭に残る。34は比較的短頸の壺形土器で、口縁部に指頭圧痕が並ぶ。35・36は器種不明の底部資料。

2. カムィヤキ（第78図-37～40） 37・38は厚手の造りとなるB群の壺。37はわずかに外反気味に直立し口唇部は平坦にする。口唇部は平坦に造るために端部は内外面方向に若干拡張させる。内面にタタキが観察できる。39は方形状に成形された把手破片。40は注ぎ口部分の破片。

3. 瓦質土器（第78図-41） 本土産瓦質土器の鉢と考えられる資料。

4. 青磁（第78図-42～60、第79図61～70）

碗：42は櫛描文碗（同安窯系Ⅰ類）の口縁部資料。43～45は劃花文碗（龍泉窯系Ⅰ類）の口縁部資料。43・44は内面に方切り彫りの文様が施され、45は無文となる。46・47は鎬蓮弁文碗（龍泉窯系Ⅱ類）。48～52は龍泉窯系Ⅳ～Ⅴ類と思われる口縁部資料。53～60は底部資料。53は龍泉窯系Ⅰ類、54・55は龍泉窯系Ⅱ類、56、57は龍泉窯系Ⅳ類、58～60は龍泉窯系Ⅴ類。

皿：第79図-61～65は皿。61は同安窯系無文皿。62は龍泉窯系Ⅲ類。全面施釉後、畳付けの釉を掻き取り見込みに貼付双魚文を施す。63～65は龍泉窯系Ⅳ～Ⅴ類。外面に無鎬蓮弁を施文する。

盤：66・67は鐫縁の盤で66は高台外側の削りが不明瞭で基筭底状になる（龍泉窯系Ⅴ類）。

置物：69は小破片のため詳細は不明だが、型造りの置物蜀台破片と思われる。

小壺：70は口径がわずか5cmと小さい短頸の壺。

5. 青白磁（第79図-71） 小壺の口縁部資料。口縁直下に貼り付け連点を廻らす。

6. 白磁（第79図-72～81） 72・73はA群（口禿・景德鎮窯系）の碗皿資料。74～76はF群（今帰仁タイプ・浦口窯系）、77はC2群（ビロースクⅡ・閩清窯系）、78はA群平皿（瀬戸・新垣2005）もしくは青磁Ⅲ類が推定される。79・80はD群（邵武窯系）の皿底部。81は水注の注ぎ口破片資料である。

7. 黒釉（第79図-82～84） 82は天目碗の口縁部、83は底部資料。84は茶入れの底部資料。

8. 不明陶磁器（第79図-85） 85は薄手の直口口縁資料で、口唇外面にわずかに褐色釉がかかる。

9. 褐釉陶器（第79図-86） 褐釉陶器壺の底部資料。

10. タイ陶磁（第79図-87・88） 87・88は大型の褐釉陶器壺の底部資料。

11. 高麗陶磁（第79図-89・90） 89・90は象嵌青磁でいわゆる高麗青磁に属する資料である。

12. 青花（第80図-91） 91は蓋と思われ外面にラム式蓮弁が描かれる。元青花か。

13. ベトナム陶磁（第80図-92・93） 92は底部から胴部の白磁資料で白化粧後透明釉を施釉、高台内側を斜めに削り、外底に鉄釉を施す。外面は鎬蓮弁を丁寧に削りだされている。見込みが欠損して目跡の有無は不明。93は青花瓶胴部。

14. 遊具（第80図-94～101） 94は骨製賽子。方形加工後に表裏合計が7になるように点刻する。95～101は陶磁器を打割成形して円盤状とする製品で遊具と考えられている。95～97が青磁、98～101が褐釉陶器で加工されている。

15. 金属製品（第80図-102～106） 102～106は金属製品で全て青銅製である。102は頭部形状

が丸頭の鋌、103は細い円柱状のつくりで目釘等の製品と思われる。104は断面がU字の縁金具で鎧等の覆輪が考えられる。105は用途不明の金具でヘラ状に成形され小さい孔が穿たれる。元々は覆輪か。106は欠損した切羽と思われるが破片の為要検討。

16. 石製品 (第80図-107) 107は砂岩製の錘で糸掛かりのための溝を彫る。

17. 銭貨 (第80図-108・109) 108・109は洪武通寶 (明・1368)

18. 玉 (第80図-110・111) 110はガラス製 (色：強い緑みの青) の勾玉で大部分を欠損している。111はガラス製 (色：強い緑みの青) の小玉で主郭分類c種。

I～II層出土遺物 (第81～83図)

1. 土器 (第81図-112～114) いずれもグスク時代に属する土器で (第3様式)、113は口縁部が逆L字に屈曲する短頸の壺形土器。114は内湾する鍋形土器。112は器種不明の底部資料。

2. カムィヤキ (第81図-115～117) 115・116は厚手の造りとなるB群の壺。115は比較的長頸で大きく外反する。116はB群壺の肩部で、内面に綾杉状の当て具痕が認められる。117は水注の把手の一部と思われる。なお、宜野座村立博物館に水注の伝世品が展示されている。

3. 青磁 (第81図-118～142、第82図-143～145)

碗：118は劃花文碗 (龍泉窯系Ⅰ類) の口縁部破片で内面に片切り彫りの文様が描かれる。119は龍泉窯系Ⅱ類。120は龍泉窯系Ⅳ類。121～123は龍泉窯系Ⅳ～Ⅴ類。124～129は龍泉窯系Ⅴ類。130は龍泉窯系Ⅱ類底部で外面に蓮弁文が描かれる。131は龍泉窯系Ⅳ類底部で見込みは凹み、Ⅲ類の器形要素を強く残している。132はⅤ類底部。

皿：133・137は龍泉窯系Ⅲ類資料。134～136・138はⅤ類口縁部資料。

盤：139はⅣ～Ⅴ類の口折れで内面に櫛描きで施文する。140～142はⅤ類。壺：第82図-143は酒会壺蓋。144は酒会壺の肩部破片で灰黄緑色の釉を内外面に厚く施釉する。145は小壺の口縁部資料で口唇は施釉されない。

4. 白磁 (第82図-146～163) 146・147はA群 (口禿・景德鎮窯系) の碗皿資料。148～151はG群 (今帰仁タイプ・浦口窯系)、152はC1群 (ビロースクⅠ・閩清窯系)、153・154はC2群 (ビロースクⅡ・閩清窯系)、155～158はC3群 (無文外反・閩清窯系)。特に157の皿口縁部は県内でも出土量の少ない資料。159・160はG群 (浦田庄辺窯)。疊付は面取りされ見込みは蛇の目釉剥ぎされる。161はD群 (八角杯・邵武窯系)。162はE群 (景德鎮窯系)。163は合子。

5. 褐釉陶器 (第82図-164～170、172) 164～167は壺、168・169は茶入れ、170は水注の注口。172は口縁内側に段を持つ鉢。

6. 瑠璃釉 (第82図-171) 171は小壺の底部資料。

7. 不明陶器 (第82図-173) 173は胎土から沖縄産陶器の蓋の把手と考えられる。

8. 遊具 (第83図-174～177) 陶磁器を打割成形して円盤状とする製品で遊具と考えられている。

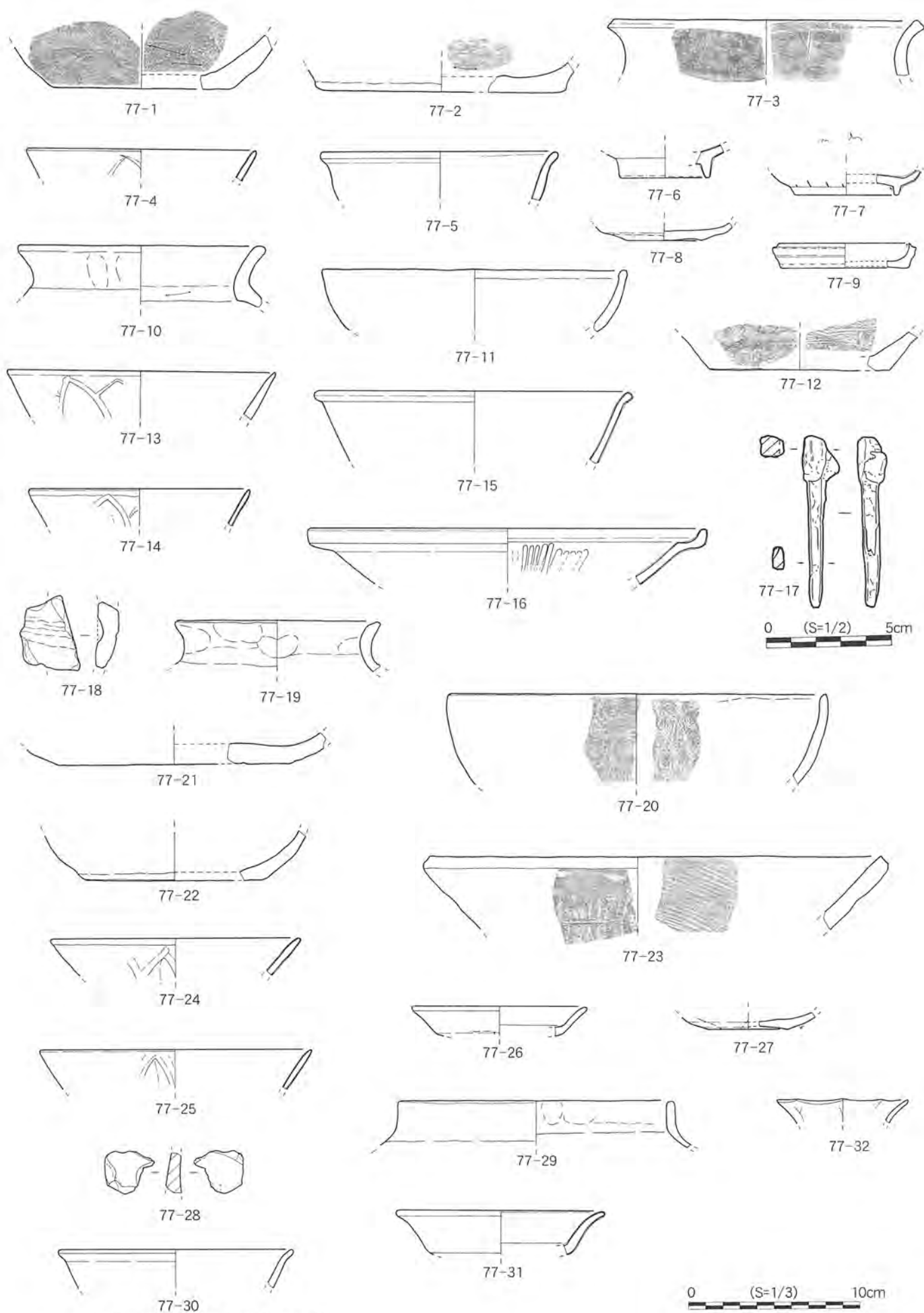
9. 煙管 (第83図-178) 178は石製の雁首。火皿等を欠損している。

10. 石器 (第83図-179・180) 方柱状の小型砥石で179は平坦面を砥面とする玢岩製の砥石。180は粘板岩を素材とする方柱状の携帯用砥石と考えられる。

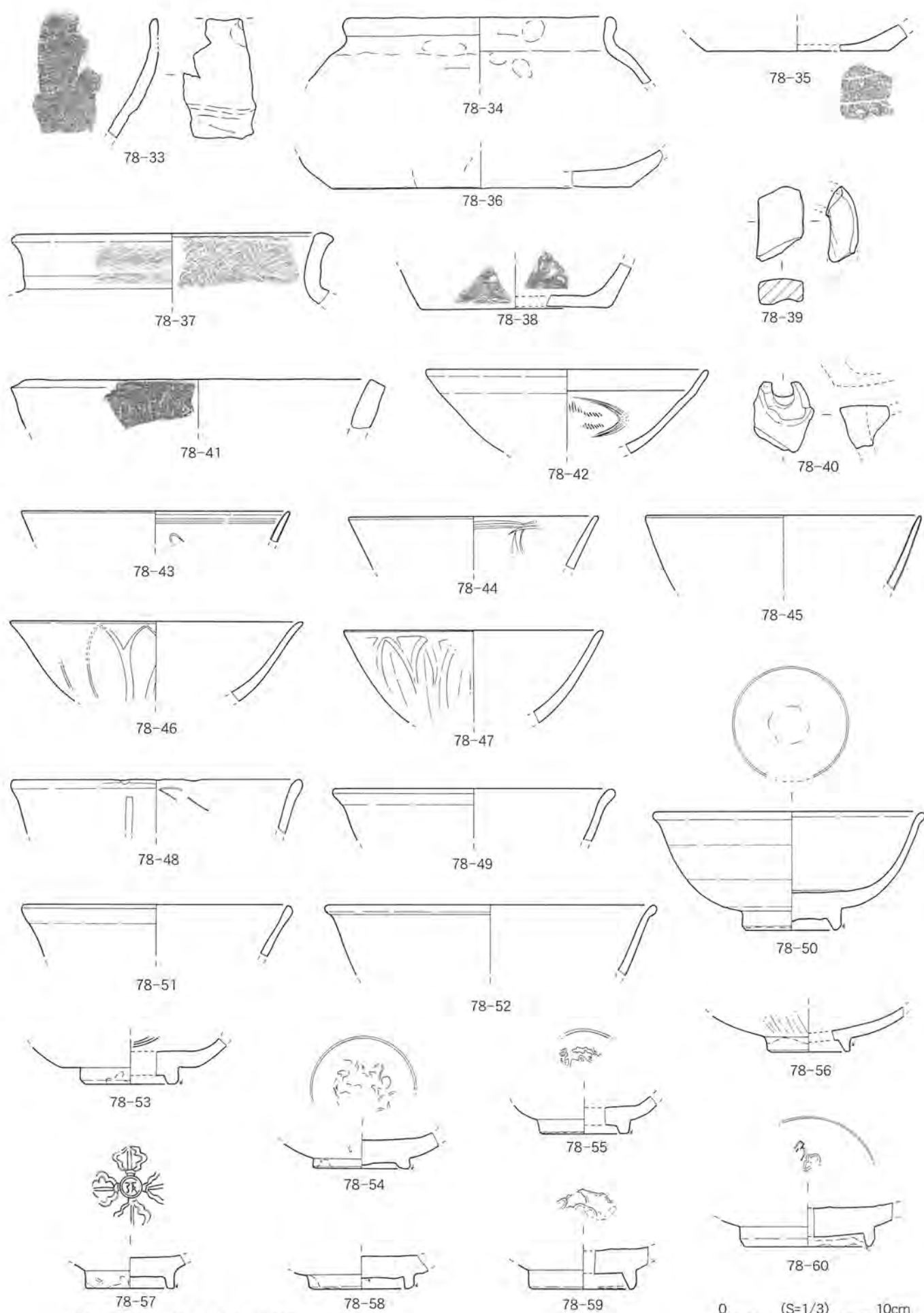
11. 金属製品 (第83図-181～186) 181・182は鉄製品で181は釘、182は鏃。183～185は銅製品で、183は飾り金具。184は鋌、185は不明金具、文様が刻まれるがモチーフは不明 (松か)。186はアルミ製の簪、近現代の遺物か。

12. 銭貨 (第83図-187・188) 187は天聖元寶 (北宋・1023)、188は寛永通寶 (江戸・1697)。

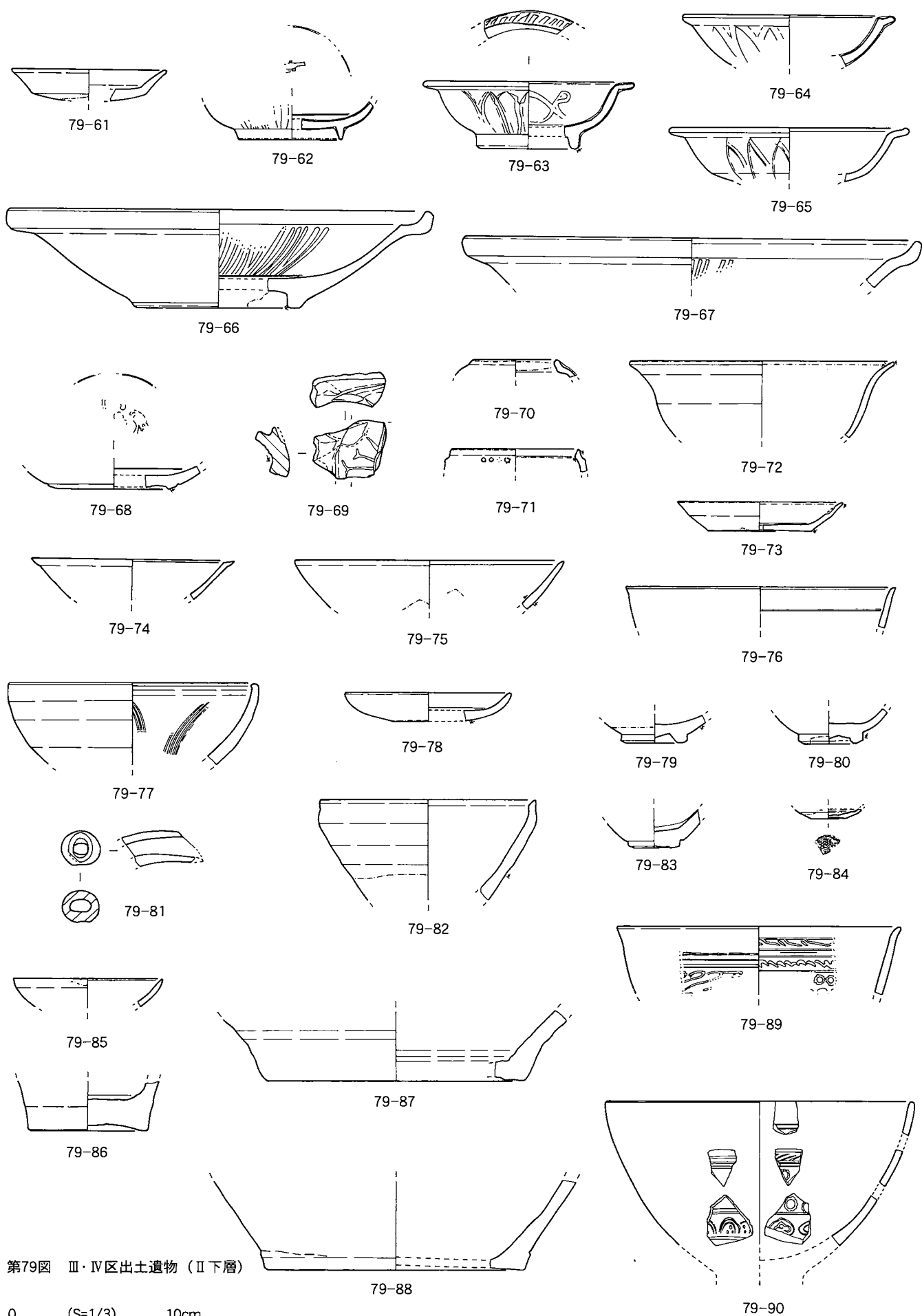
13. 玉 (第83図-189～197) 189はヒスイ製の勾玉、193は下半部を欠損したガラス製 (冴緑色) の勾玉。190～196はガラス製の小玉で、190はもともと緑色であったと思われるが2次焼成を受けて部分的に金色に輝く。191は (黒灰色)、192 (浅黄橙)、194 (鈍青紫)、195 (白色) は主郭分類b2種。196 (白色) はc種となる。197は規格性の高い六角形となる。近現代の遺物か。



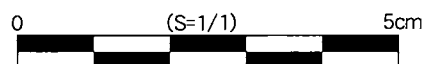
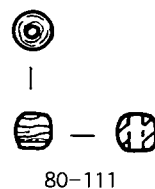
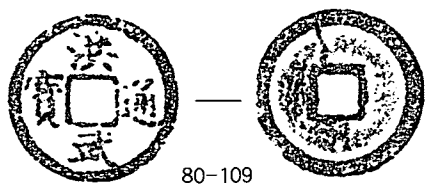
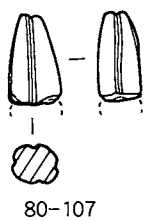
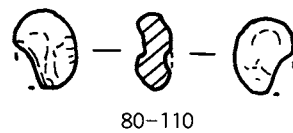
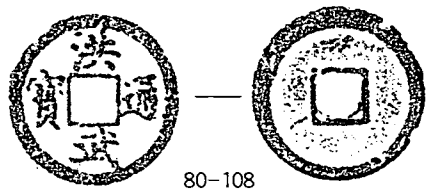
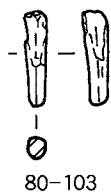
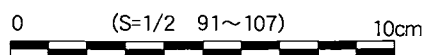
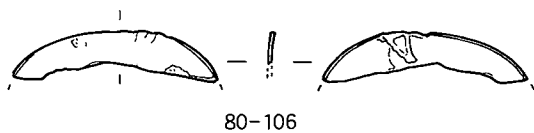
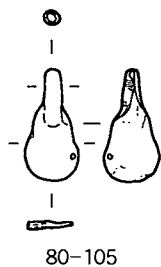
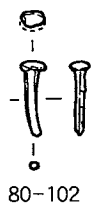
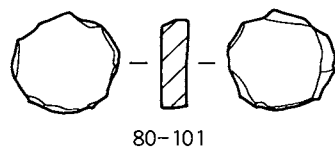
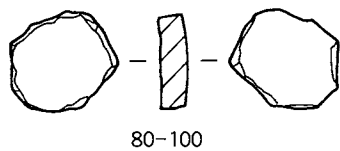
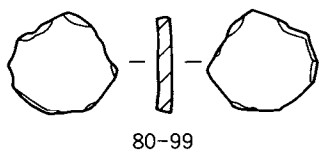
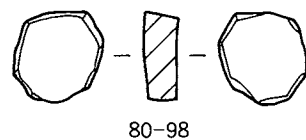
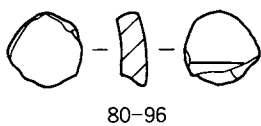
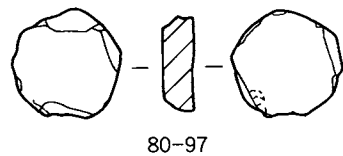
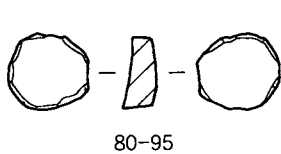
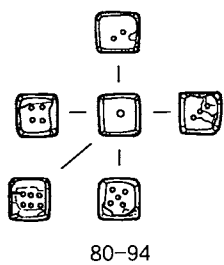
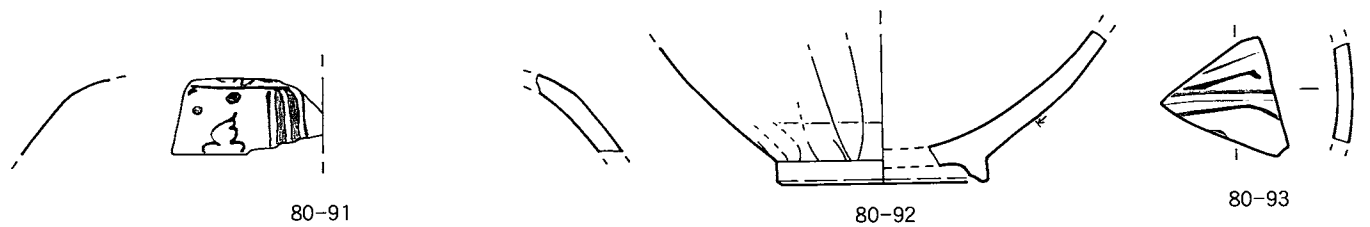
第77図 Ⅲ・Ⅳ区出土遺物 (Ⅲ～Ⅴ層)



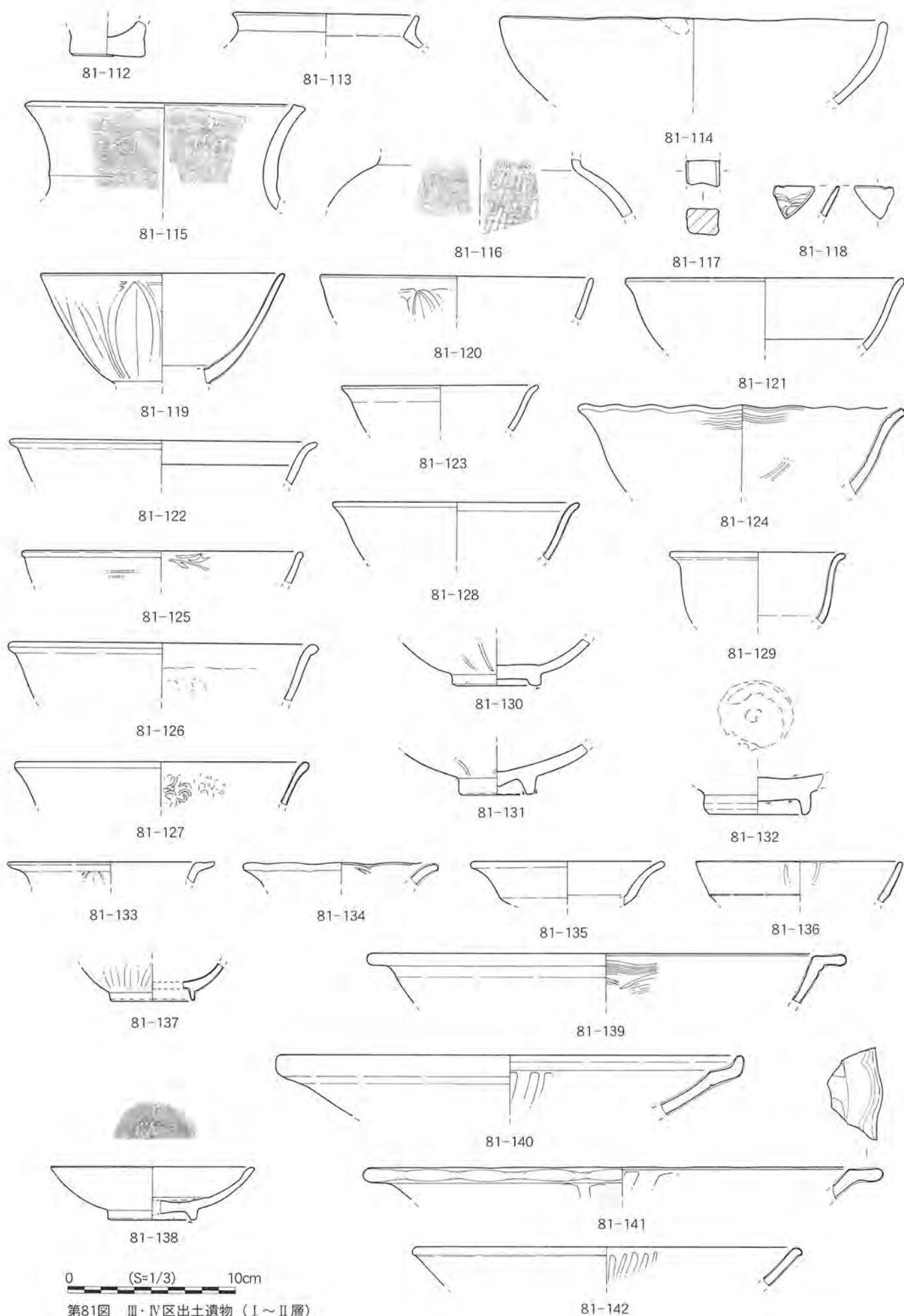
第78図 Ⅲ・Ⅳ区出土遺物（Ⅱ下層）



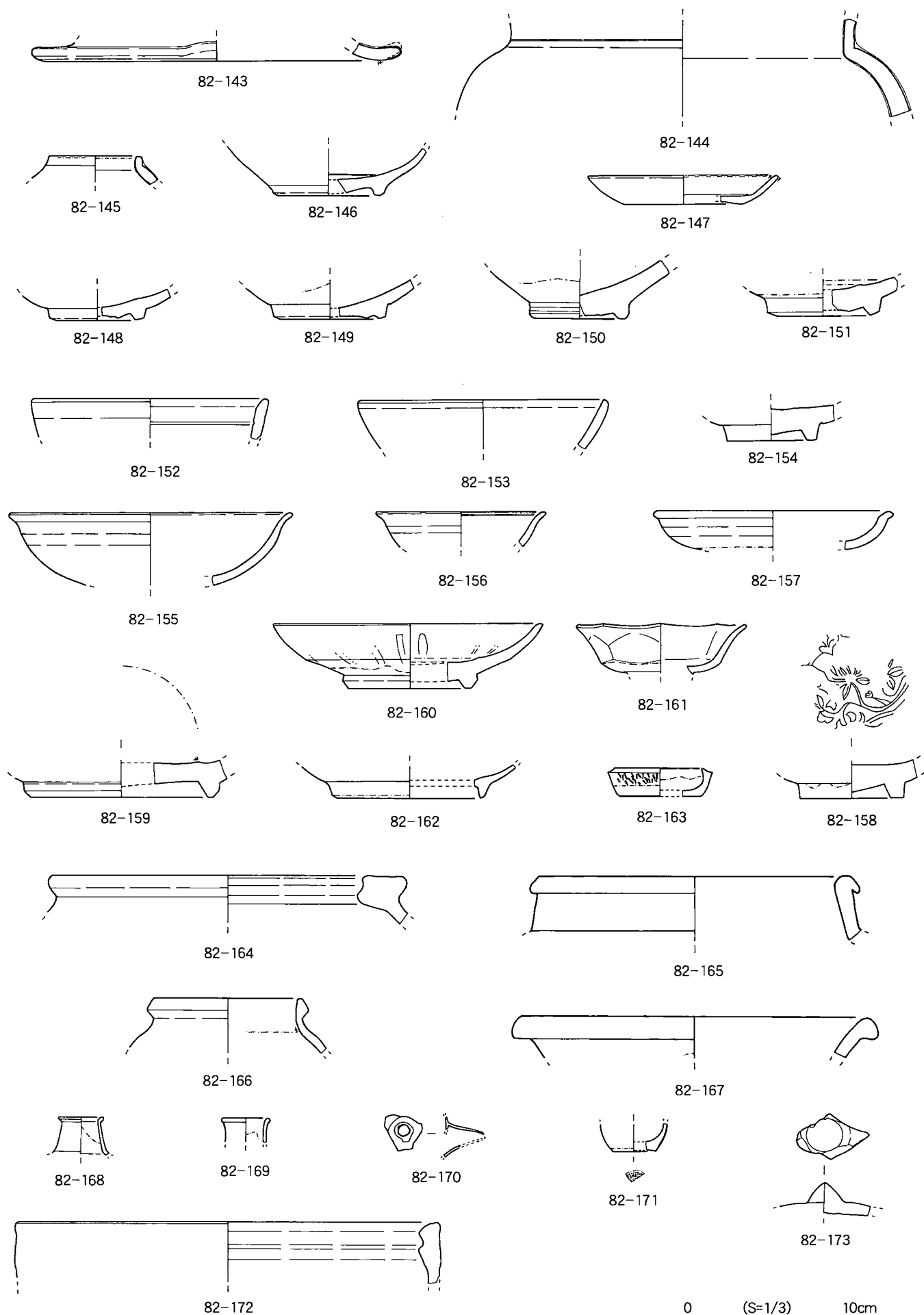
第79図 Ⅲ・Ⅳ区出土遺物（Ⅱ下層）



第80図 Ⅲ・Ⅳ区出土遺物 (Ⅱ下層)

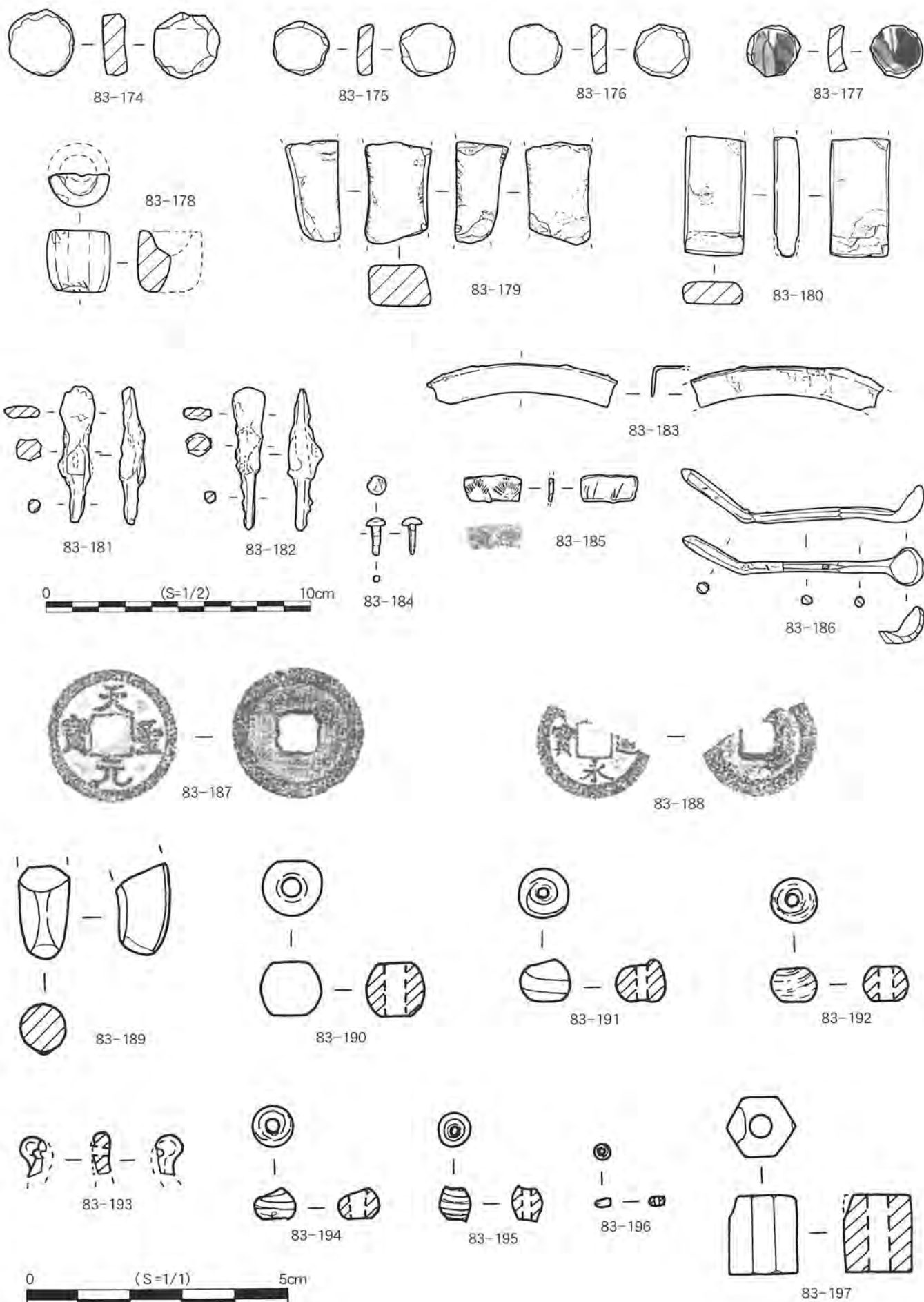


第81図 III・IV区出土遺物 (I～II層)



0 (S=1/3) 10cm

第82図 Ⅲ・Ⅳ区出土遺物 (Ⅰ～Ⅱ層)



第83図 III・IV区出土遺物 (I～II層)

第2表 外郭Ⅲ・Ⅳ区出土遺物集計表 (1)

種別	図像・図表	分類	文様等	部位	Ⅲ・Ⅳ区出土遺物																				破片数小計	推定個体数									
					I層	Ⅱ層(Ⅱ上)	Ⅱ下	I+Ⅱ上	I+Ⅱ下	Ⅲ層a+b+c	Ⅳ層	V層	造成層1	造成層2	造成層3	SK170	SK158	SK328	SK286	SK266	遺構内その他	SB02・03	SK295	PL1			SB01	SK257	SK1	SK3	SM01	SK240	遺構内		
青磁	碗	同安窯系Ⅰ類	櫛描文	口縁	7		6	1		2											1									18	11				
				底部	7					1																						8			
		龍泉窯系Ⅰ類	劃花文	口縁	30	3	10		1	1		2	1															1			49	32			
				底部	1		1																								2				
		龍泉窯系Ⅱ類a	鎚進弁	口縁	11	7	12					1																			32	62			
		龍泉窯系Ⅱ類b	無鎚進弁	口縁	69	18	23			5	2						2	1								1	1				122				
		龍泉窯系Ⅱ類	鎚進弁	口縁	8	6	8					1					2															25	17		
				底部																												19			
		龍泉窯系Ⅲ類	砧手	口縁		4	15																									2	17		
				底部			2																									2			
		龍泉窯系Ⅳ類	無鎚進弁	口縁	16	4	10											1	1													32	15		
				底部																												0			
			弦文帯碗	口縁	9		1	1																								11	3		
				底部																												2			
			種不明	口縁																												2	2		
				底部																												5			
			無文外反	口縁	530	262	222	1			3	4	1	1			8	5	1		1		5				1	2	12	2		1,061	683		
				底部	10	1	10											1	1														23		
		龍泉窯系Ⅳ・Ⅴ類	外反(内有文)	口縁													1															1	22		
				底部														2														4			
			蓮弁文	口縁													2						2									1	3		
				底部													1															4			
		Ⅳ類		口縁	13	5	8														1				2	1	3					33	36		
				底部	3	15	5															1										24			
		龍泉窯系Ⅴ類	蓮弁文	口縁	10				1																							11	3		
				底部	9	5	6																									0			
			雷文帯	口縁																												20	22		
				底部	9	5	6																									0			
			無文直口	口縁																												2	4		
				底部																												4			
			波状口縁碗	口縁			2																									28	24		
				底部	5	8	13																2									0			
		龍泉窯系Ⅵ類	細進弁文	口縁	5	2																										8	8		
				底部	5	6																										11			
			不明	口縁																												2	2		
				底部	3																											3			
		龍泉窯系Ⅶ類	細進弁文	口縁	1																											1	2		
				底部	2	4	2																									8			
		泉州窯系	端反碗	口縁	1	1																										2	12		
				底部	12	1	6																									21			
		同安窯系Ⅰ類	櫛描文	口縁	5	1	2																									10	22		
				底部	15	3																										18			
		龍泉窯系Ⅲ類	口折皿	口縁	1	2																										3	11		
				底部																												1			
		龍泉窯系Ⅳ類	不明	口縁																												1	1		
				底部																												0			
			口折皿	口縁	17	1	16			1								1														36	30		
				底部	5	9	3					1																				18			
		龍泉窯系Ⅳ・Ⅴ類	腰折無文	口縁	7	6												6				1	2			1						23	14		
				底部	2																											2			
			腰折稜花	口縁	2	2																										4	4		
				底部	2																											2			
		172	直口有文	口縁	65	20	17																									102	86		
				底部	7	4																										11			
			直口無文	口縁														1	1													3	4		
				底部																												1			
		盤	龍泉窯系Ⅳ・Ⅴ類	折縁口縁	3	2																										5	5		
				口縁																												1			
			鈐縁(ヘラ)	口縁																												0	1		
				底部																												4			
		27	鈐縁(櫛)	口縁								2						1		1												1	4		
				底部																												1			
			鈐縁(不明)	口縁																												1	1		
底部	1																													1					
杯	蓮弁文杯	口縁	1	4	3																									8	4				
		底部	1	1	2																									4					
5	Ⅳ～Ⅴ類	蓮弁文	口縁																											0	1				
		底部																												1					
小杯	9		口縁	5	4																		1							11	9				
			底部	2	1	1																								5					
馬上杯	0		口縁																											0	0				
			底部																											0					
置物	插鉢	鉢	口縁					1																						1	1				
			底部	4																										4					
酒会壺	13	身	口縁	3	1																									4	5				
			底部																											1					
香炉	1	蓋	口縁	4	4	2																								10	8				
			底部																											0					
小壺			口縁	6																										6	1				
			底部																											2					
小計					925	418	410	2	2	1	5	13	5	9	3	1	1	25	4	10	3	0	2	1	14	0	4	5	8	21	4	0	0	1,896	1,321

第2表 外郭Ⅲ·Ⅳ区出土遺物集計表 (2)

[illegible]

※数値の明朝は破片数を、ゴシック体は推定個体数を示す。

第2表 外郭Ⅲ·Ⅳ区出土遺物集計表 (3)

第2表 外郭Ⅲ・Ⅳ区出土遺物集計表 (3)

Ⅲ・Ⅳ区出土遺物					破片数小計	推定個体数																							
Ⅰ層	Ⅱ層(Ⅱ上)	Ⅱ下	Ⅰ+Ⅱ上	Ⅰ+Ⅱ下			Ⅰ+Ⅱ上+Ⅱ下	Ⅲ層a s c層	Ⅳ層	Ⅴ層	造成層1	造成層2	造成層3	S K 170	S K 158	S K 328	S K 286	S K 266	遺構内その他	S B O 2・03	P L 1	S K 295	S K 257	S X 1	S R 3	S M O 1	S K 240	遺構内	
裾袖陶器	茶入れ			口縁		2																						2	2
				底部		1																						1	
	水注身	身蓋		口縁																								0	0
				口縁																								0	
	壺	大型	新里村類似 フ字形口縁 玉縁口縁 方形口縁 その他	口縁	3																							3	20
				口縁	2	1	1																					4	
				底部																								1	
				口縁	13	7	5	1										1										26	
				口縁	1																							1	
				口縁																						1			
不明			底部	10	3	2																				15			
挿り鉢 鉢	挿り鉢 鉢		口縁											2									1			4			
			口縁	1	1																						0		
不明焼き締め陶器			口縁																								0	0	
			底部																								0		
赤絵				口縁																								0	0
青白磁	合子	身蓋	端部	1																							1		
			胴部			1																					3		
黄釉	不明			底面																							0	0	
翡翠釉	皿		口縁																								0		
			底面																								0		
緑釉	酒会壺	蓋	端部	1	1	4																					6	1	
			胴部			1																					1		
緑釉	袋物			底面																							0	0	
瑠璃釉	碗		口縁																								0		
			底面																								0		
裾袖磁器	碗			胴部																							0	0	
土器	半練	蓋	口縁																								0		
			底面																								0		
裾袖陶器	ノイ川窯系	大型壺	口縁		1																						1	1	
			底面																								0		
鉄絵	合子	蓋・身	口縁																								0	0	
			底面																								0		
白磁	碗		口縁																								0	1	
			底面	1																						1			
色絵	碗		口縁																								0	0	
			底面	1																						1			
染付	瓶		胴部																								0	1	
			底面	1																						2			
高麗	青磁	碗	口縁		1	1																					2	4	
			底面	1	4	5																					11		
備前	瓦質土器	鉢	口縁																								0	2	
南九州	カムイヤキ	B群壺	口縁	15	8	10					1																2		
			底面	4	2	5																					36		
湧田窯	瓦質土器	鉢	口縁																								0	0	
			底面																								0		
喜名焼	焼き締め陶器	碗	口縁																								0	0	
			底面	1																							1		
後期土器	くびれ平底土器	壺	口縁	3	5	13					2		1														27	18	
			底面	3	1	9																					21		
グスク土器	鍋	壺	口縁	1							2		1														1	1	
			底面	1																							21		
68	不明		口縁																								1	68	
			底面	11	4	28																					8		
石器	磨石	凹石	口縁	1		2																					3	3	
			底面																								0		
11	砥石	提砥 置砥石	口縁		1																						1	2	
			底面		1																						1		
滑石	石鍾		口縁																								1	1	
			底面																								1		
不明石製品			口縁																								1	3	
			底面																								1		
遊具	サイコロ	円盤状製品	口縁																								1	7	
			底面	2	3	2																					3		
玉類	勾玉	丸玉	口縁	1	1																						3	23	
			底面	4	8	4																					26		
53	小玉	(現代) 管玉	口縁	2	7	1																					1	36	
			底面	1																							2		
銭	円形方孔銭	近代貨	口縁	3	1	4																					1	3	
			底面	2																							2		
金銀製品	銅製品	金具類	口縁	3																							3	3	
			底面																								1		
23	目釘	鉋	口縁	1		1																					2	14	
			底面	1	5	3																					4		
鉄製品	刀子	釘	口縁	19	6	11																					43	3	
			底面	2																							14		
110	板状不明製品	不明破片	口縁	8	4	1					1																3	21	
			底面	12																							2		
近現代	近現代陶磁(沖繩産)	近現代陶磁(本土産)	口縁	1																							1	6	
			底面	1																							3		
煙管	雁首・吸い口	骨製品	口縁	3																							1	3	
			底面																								1		

※数値の明朝は破片数を、ゴシック体は推定個体数を示す。

第3表 Ⅲ・Ⅳ区出土区遺物観察表 (1)

図	地区名	種別	器種 時代 形式	分類	部位	計測値 (cm※g) ※玉はmm			遺跡名					No.	備考
						器：口径 他：外径 銭：外徑単 位＝cm (銭以下)	器高 他：厚さ 銭：厚さ 単位＝cm (銭以下)	器：底径 他：重量 銭：重量 (単位＝g)	次	地区	層	遺構	dot		
32-1	SR 2	青磁	龍Ⅰ	碗	底部	5.4			2次			SR2AトⅠ層		363	
32-2	SR 2	青磁	龍Ⅳ	碗	底部	5.0			2次			SR2AトⅠ層		442	
32-3	SR 2	青磁	龍Ⅴ	碗	底部	6.6			2次	U-32	Ⅱ層上	SR2	145		U-32外壁
32-4	SR 2	青磁	龍Ⅵ	碗	口縁	13.3			2次			SR2AトⅠ層		409	
32-5	SR 2	青磁	龍Ⅶ	盤	底部	9.0			2次	U-32	Ⅱ層上	SR2	159		U-32外壁
32-6	SR 2	白磁	C 2群	碗	底部	5.3			2次			SR2AトⅠ層		449	
32-7	SR 2	白磁	C 3群	皿	底部	7.6			5次			SR2 i		536	
32-8	SR 2	青花	D群	碗	底部	5.7			5次			SR2 i		535	
32-9	SR 2	青花		小壺	口縁	5.0			5次			SR2 i		536	
32-10	SR 2	黒釉	天目	碗	底部	3.5			5次			SR2 i		580	
32-11	SR 2	ベトナム白 磁		碗	底部	5.4			5次			SR2 i		535	
32-12	SR 2	瓦質土器	沖繩産	壺	口縁	13.6			5次			SR2 i		850	
32-13	SR 2	沖繩焼締	喜名焼	碗	底部	5.1			5次			SR2 i		535	
32-14	SR 2	褐釉		壺	口縁	11.0			5次			SR2 i		535	
32-15	SR 2	褐釉	5類	壺	口縁	16.8			5次			SR2 i		535	
32-16	SR 2	タイ褐釉	シーワッチャ	壺	口縁	20.6			5次			SR2 i		536	2次外郭SR2AトⅠ層
32-17	SR 2	瓦質土器	沖繩産	植木鉢	口・底	23.0			5次			SR2 i		535	
38-1	墓立会	土器	第3様式	壺	口縁	10.9			1, 5次	U-24	Ⅳa層			6	
38-2	墓立会	カマイヤキ	A群	壺	口縁	23.5			1, 5次	U-24	Ⅱ層			4	
38-3	墓立会	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	15.4			1, 5次	U-24	Ⅰ層			12	
38-4	墓立会	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	16.6			1, 5次	U-24	Ⅲ層			5	
38-5	墓立会	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	13.2			1, 5次	U-24	Ⅲ層			3	
38-6	墓立会	青磁	龍Ⅳ	碗	底部		5.4		1, 5次	U-24	Ⅱ層			5	
38-7	墓立会	青磁	龍Ⅳ	皿	口縁	2.1			1, 5次	U-24	Ⅲ層			5	
38-8	墓立会	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁	19.4			1, 5次	U-24	Ⅲ層			5	
38-9	墓立会	青磁	龍Ⅳ	東口碗	口縁	11.3			1, 5次	U-24	Ⅲ層		224		
38-10	墓立会	白磁	F群	碗	口縁	14.1			1, 5次	U-24	Ⅱ層			3	
38-11	墓立会	白磁	C 3群	碗	口縁	17.2			1, 5次	U-24	Ⅱ層			4	
38-12	墓立会	青花	G'群	碗	底部	4.6			1, 5次	U-24	Ⅱ層			13	
38-13	墓立会	褐釉		壺	胴部				1, 5次	U-24	Ⅱ層			4	
38-14	墓立会	褐釉		壺	口縁	26.0			1, 5次	U-24	Ⅱ層			2	
38-15	墓立会	白磁		碗	胴部				1, 5次	U-24	Ⅱ層			9	
38-16	墓立会	青花	外面褐釉	碗	口縁				1, 5次	U-24	Ⅱ層			9	
38-17	墓立会	石器	瑁岩	砥石		4.8	1.5	27.8	1, 5次	U-24	Ⅱ層			9	幅＝3.019
38-18	墓立会	金属製品	鉄	釘		6.7		7.3	1, 5次	U-24	Ⅱ層			4	
44-1	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	14.0			3次	S-34		SK257 i 層	621		
44-2	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	底部			5.6	3次	S-34		SK257 i 層		666	
44-3	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	底部			5.7	3次	S-34		SK257 i 層		1497	
44-4	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			5.0	3次	S-34		S252	641	706	
44-5	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	碗	口縁	15.3			3次	S-34		S257 ii 層		755	
44-6	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	C 2群	碗	口縁	13.0			3次	S-34		S253	662		
44-7	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	C種		0.243	0.166	0.03	3次	S-34		SK257 ii 層	652		幅＝0.358
44-8	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	C種		0.273	0.095	0.02	3次	S-34		S257内 ii 層	627		幅＝0.236
44-9	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	C種		0.194	0.084	0.02	3次	S-34		S257 ii 層	628		幅＝0.229
44-10	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	C種		0.304	0.113	0.04	3次	S-34		S243		756	幅＝0.309
47-1	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	16.0			3次	T-34		SK295 i 層		1303	
47-2	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	完形	15.0	6.7	6.0	3次	T-34		SK295 ii 層	854		
47-3	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口・底	14.9	12.3	5.4	3次	T-34		SK295 ii 層	852		Ⅵ層dot1173
47-4	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	15.2			3次	T-34		SK295 i 層	1076		
47-5	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			5.1	3次	T-34		SK295 i 層	1083		
47-6	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			4.8	3次	T-34		S132	1186		
47-7	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			5.1	3次	T-34		SK295 i 層	821		
47-8	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	皿	口縁	11.4			3次	T-34		SK295 i 層	1082		
47-9	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	皿	口縁	12.0			3次	T-34		SK295 i 層	1080		
47-10	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	皿	底部			6.4	3次	T-34		SK295 i 層		1226	
47-11	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	D群	碗	完形	16.5	7.6	5.4	3次	T-34		SK295 iv 層		1328	Ⅱ層dot853・Ⅰ層No1227・No1228・Ⅵ層No1495
47-12	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	D群	皿？杯？	底部			3.3	3次	T-34		SK295 i 層	1078		
52-1	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	15.6			3次	T-43		SK170 i 層	751		T-34 SK170 ii 層 N0942
52-2	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	碗	口縁	14.8	5.6	5.6	3次	T-34		SK170 ii 層	1167-827		T-34 SK170 ii 層 N01304
52-3	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	完形	15.6	6.4	5.4	3次	T-34		SK170 ii 層	1168		
52-4	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	完形	15.2	7.1	4.8	3次	T-34		SK170 ii 層	772		
52-5	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	完形	18.4	8.8	6.6	3次	T-34		SK170 ii 層	1168-848		T-34 SK170 i 層 dot1646・850・849
52-6	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	15.0			3次	T-34		SK170 ii 層	777		
52-7	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁				3次	T-34		SK170 ii 層		906	T-34 SK170 i 層 dot1716
52-8	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	11.6			3次	T-34		SK170 ii 層	735		
52-9	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	完形	14.2	7.2	5.7	3次	T-34		SK170 ii 層	1164		
52-10	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			6.4	3次	T-34		SK170 i 層	703		
52-11	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	皿	口縁	12.2	3.9	6.2	3次	T-34		SK170 ii 層		1005・1304	
52-12	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	皿	口縁	11.8			3次	T-34		SK170 ii 層	769		
52-13	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁	23.0			3次	T-34		SK170 i 層	761		
52-14	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	盤	底部			9.0	3次	T-34		SK170 ii 層	764		
52-15	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	杯	口縁	12.8			2次	V-33	Ⅱ下層		109		
52-16	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	杯	口縁	7.4			3次	T-34		SK170 i 層		1295	
52-17	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	C 3群	碗	口縁	16.0			3次	T-34		SK170 ii 層		1304	
52-18	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	D群	皿	口縁	11.0			3次	T-34		SK170 i 層		1295	
53-19	Ⅲ・Ⅳ区	元青花		盤	底部				3次	T-34		SK170 i 層	826		
53-20	Ⅲ・Ⅳ区	韓国陶磁	象嵌青磁	碗	胴部				3次	T-34		SK170 i 層	708		
53-21	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉陶器		壺	口縁部	10.6			3次	T-34		SK170 i 層		1039	
53-22	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉陶器		壺	底部			11.0	3次	T-34		SK170 ii 層		1005	
53-23	Ⅲ・Ⅳ区	青製品	遊具	駒石		1.7	0.4	1.4	3次	T-34		SK170 ii 層		1055	
53-24	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	釘		3.3		1.3	3次	T-34		S170	665		
53-25	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	釘		4.6		4.4	3次	T-34		SK170 ii 層		924	
53-26	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	釘		4.5		5.5	3次	T-34		SK170 ii 層		924	
53-27	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	釘		7.0		12.7	3次	T-34	Ⅱ層		822		
53-28	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	刀子		13.1	0.6	32.9	3次	T-34		SK170 i 層		1295	
53-29	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	刀子				11.7	3次	T-34		SK170 ii 層		1304	
53-29	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	刀子				11.9	3次	T-34		SK170 ii 層		861	
53-30	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	刀子		8.6		12.0	3次	T-34	Ⅰ層		836		
53-31	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	刀子		8.7		14.9	3次	T-34		S170	667		
53-32	Ⅲ・Ⅳ区	石器	砂岩	砥石		20.5	10.6	3350.0	3次	T-34		SK170 iii 層	1169		幅＝10.9
53-33	Ⅲ・Ⅳ区	玉	勾玉			2.21	0.22	2.36	3次	T-34		S170	698		幅＝0.477
53-34	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	b 2種		0.51	0.13	0.09	3次	T-34		SK170 i 層		1042	幅＝0.347
53-35	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	b 2種		0.43	0.12	0.11	3次	T-34		S170 i 層	666		幅＝0.431

第3表 Ⅲ・Ⅳ区出土遺物觀察表 (2)

図	地区名	種別	器種 時代 形式	分類	部位	計測値 (cm※g) ※玉はmm			次	地区	層	遺構	dot	No.	備考
						器：口径 他：外径 銭：外徑半 位=cm (銭以下)	器：高 他：厚さ 銭：厚さ 単位=cm (銭以下)	器：底径 他：重量 銭：重量 (単位=g)							
54-36	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	至道元寶			2.47	0.12	3.4	3次	T-34		SK170 i 層	750		
54-37	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	熙寧元寶			2.47	0.12	3.68	3次	T-34		SK170 ii 層	1166		
54-38	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	元豐通寶			2.43	0.13	3.44	3次	T-34		S170 i 層	304		
54-39	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	元豐通寶			3.04	0.19	7.55	3次	T-34		SK170 i 層			折二銭
54-40	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	元豐通寶			2.97	0.18	7.79	3次	T-34		SK170 ii 層	1155		折二銭
54-41	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	元豐通寶			2.94	0.17	7.26	3次	T-34	I 層			129	折二銭
54-42	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	元祐通寶			2.37	0.16	4.38	3次	T-34		SK170 i 層	705		
54-43	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	元祐通寶				0.16	3.47	3次	T-34		SK170 i 層	706		折二銭
54-44	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	聖宋元寶			3.03	0.14	6.46	3次	T-34		SK170 i 層	664		折二銭
54-45	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	崇寧重寶			3.52	0.24	7.74	3次	T-34		SK170 ii 層	778		当十銭
54-46	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	大觀通寶			2.45	0.17	3.74	3次	T-34		SK170 ii 層	780		
54-47	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	政和通寶			2.43	0.15	3.74	3次	T-34		SK170 i 層	762		
54-48	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	政和通寶			2.49	0.14	2.92	3次	T-34		SK170 ii 層	780		
54-49	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	淳祐元寶			2.77	0.18	5.61	3次	T-34		SK170 ii 層	768		
55-50	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	至大通寶			2.32	0.21	4.43	3次	T-34		SK170 ii 層	776		
55-51	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	洪武通寶			2.31	0.18	4.25	3次	T-34		SK170 i 層	749		
55-52	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	洪武通寶			3.28	0.24	11.70	3次	T-34		SK170 ii 層	765		当三銭
55-53	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	洪武通寶			2.93	0.20	8.48	3次	T-34		SK170 ii 層	781		折二銭
55-54	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	洪武通寶			2.12	0.17	3.66	3次	T-34		SK170 ii 層	1054		
55-55	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	洪武通寶			2.11	0.16	3.55	3次	T-34		SK170 ii 層	1053		
55-56	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	洪武通寶			2.11	0.15	3.06	3次	T-34		SK170 ii 層	774		
55-57	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	洪武通寶			2.13	0.15	3.16	3次	T-34		SK170 ii 層	775		
55-58	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	洪武通寶			2.12	0.16	3.07	3次	T-34		S170 i 層	303		
55-59	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	洪武通寶			2.15	0.17	2.75	3次	T-34		SK170 i 層	736		
55-60	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	不明			2.84	0.16	4.73	3次	T-34		SK170 ii 層	773		
55-61	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	不明					18.51	3次	T-34		SK170 i 層	763		
60-1	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	鍋	口縁	27.0			3次	T-34		SK266 i 層	674		№745・1202・796・1203・1231
60-2	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	甕	底部			16.5	3次	T-34		SK266 i 層	661		
60-3	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	口縁	30.9			3次	T-34		SK266	1086		
60-4	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			30.4	3次	T-34		SK266 i 層	868		
60-5	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			20.7	3次	T-34		S265	660		
63-1	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁				3次	T-33		SK328 i 層	1087		
63-2	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	碗	口縁	16.0			3次	T-33		SK328 i 層		1232	SK328 ii 層 N01236
63-3	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁	23.5			3次	T-33		SK328 i 層	1089		
63-4	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	碗	底部			5.8	3次	T-33		SK328 i 層	1093		
63-5	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	A群	碗	口縁	16.0			3次	T-33		SK328 i 層	1088		
63-6	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	D群	杯	底部			2.8	3次	T-33		SK328 i 層	1091		
63-7	Ⅲ・Ⅳ区	青花		瓶	胴部				3次	T-33		SK328 i 層		1264	
63-8	Ⅲ・Ⅳ区	黒釉	天目	碗	口縁	11.8			3次	T-33		SK328 i 層	1099		
63-9	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	不明		口縁	2.51		3.00	3次	T-33		SK328 i 層	1070	1185	
66-1	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	壺	口縁	13.3			3次	T-34		S158 i 層	275		
66-2	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			22.8	3次	T-34		S158溝状遺構	655		
66-3	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			16.9	3次	T-34		S158 i 層	276		
66-4	Ⅲ・Ⅳ区	カムイヤキ	B群	壺	底部			13.6	3次	T-34		S158	279		
66-5	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	16.2			3次	T-34		S158 i 層	272		
66-6	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	底部			5.0	3次	T-34		S158	1184		
66-7	Ⅲ・Ⅳ区	石器	砂岩	砥石		89.0	92.0	442.0	3次	T-34		S158		1490	
69-1	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			17.7	3次	S-34		S286	865		
69-2	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	碗	口縁	15.6			3次	S-34		S286		1237	
69-3	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	碗	口縁	13.4			3次	S-34		S286	866		
69-4	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	皿	口縁	10.8			3次	S-34		S286	682		
69-5	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉	Ⅰ類	壺	完形	17.6	42.9	14.4	3次	S-34		S286	864		
69-6	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	青銅	紙金具		1.48		0.38	3次	S-34		S286	684		
69-7	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	聖宋元寶			3.07	0.13	5.11	3次	S-34		S286	684		折二銭
74-1	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			13.7	3次	S-34		造1-v 層	640	705	
74-2	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	皿	底部			4.4	3次	S-34		造1-i 層	663	262	
74-3	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	A群	皿	口縁				3次	S-34		造2-v 層		703	
74-4	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	A群	皿	口縁			7.9	3次	S-34		造1-i 層	437	974	
74-5	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	同安窯系	皿	底部			5.2	3次	S-34		造3-i 層	874		
74-6	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	鐵		5.25		5.64	3次	U-34		造2-i 層	871		
74-7	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	b2種		0.60	0.29	0.33	3次	U-34・35		造2-i 層	875		幅=0.713
74-8	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	壺	口縁	13.3			3次	S-34		造3-i 層	873		
74-9	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			8.8	3次	U-33, 34		造3-i 層	878		
76-1	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅰ	碗	口縁	16.5			2次	V-33		SX1 下層	128		
76-2	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	11.8			2次	V-33		SX1		372	
76-3	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	碗	底部			4.8	2次	V-33		SX1	93		
76-4	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	同安窯系	皿	口縁	9.4			2次	V-33		SX1		474	
76-5	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	A群	皿	口縁	12.9			2次	V-33		SX1		454	
76-6	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉陶器	不明	壺or水注	口縁	7.0			2次	V-35	Ⅱ層			387	V-33SX1dot95№386
77-1	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			11.0	2次	V-33	V層		166		
77-2	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			13.6	2次	V-33	V層		257		
77-3	Ⅲ・Ⅳ区	カムイヤキ	B群	壺	口縁	17.7			2次	V-33	V層		239	594	
77-4	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	13.4			2次	V-33	V層		251	606	
77-5	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	13.6			2次	V-33	V層			371	
77-6	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅲ'	碗	底部			5.1	2次	V-33	V層			371	
77-7	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	皿	底部	6.0			2次	V-33	V層下			377	
77-8	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	同安窯系	皿	底部			4.4	2次	V-33	V層		104		
77-9	Ⅲ・Ⅳ区	青白磁		合子	完形			7.4	2次	V-33	V層		101	384	
77-10	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	壺	口縁	14.4			3次	U-33	Ⅳ層		895		
77-11	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	鍋	口縁	17.7			3次	U-33	Ⅳ層			1125	
77-12	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			10.4	3次	U-33	Ⅳ層		584		
77-13	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	15.7			3次	U-33	Ⅳ層		583		
77-14	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	12.8			3次	U-33	Ⅳ層			1125	
77-15	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	18.4			3次	U-33	Ⅳ層		891		
77-16	Ⅲ・Ⅳ区	青磁		盤	口縁	23.0			3次	U-33	Ⅳ層		893		№1125
77-17	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	釘		5.7		8.8	3次	U-33	Ⅳ層		587		
77-18	Ⅲ・Ⅳ区	土器	滑石混入	不明	胴部				3次	U-33	Ⅲa層			575	
77-19	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	壺	口縁	11.6			3次	V-33	Ⅲc層			548	
77-20	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	鍋	口縁	21.9			2次	V-33	Ⅲb c層		261	616	
77-21	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			13.6	3次	T-34	Ⅲs層		488	438	
77-22	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			10.3	3次	T-34	Ⅲ層		489	439	
77-23	Ⅲ・Ⅳ区	瓦質土器		鉢	口縁	24.4			3次	V-33	Ⅲc層			548	
77-24	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	14.4			3次	V-33	Ⅲc層			548	
77-25	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	15.8			3次	V-33	Ⅲc層			548	

第3表 Ⅲ・Ⅳ区出土区遺物観察表 (3)

図	地区名	種別	器種時代形式	分類	部位	器:口径 他:外径 銭:外径単位=cm (銭以下)		器高 他:厚さ 銭:厚さ単位=cm (銭以下)		次	地区	層	遺構	dot	No.	備考
						銭:口径 他:外径 銭:外径単位=cm (銭以下)	銭:厚さ 他:厚さ 銭:厚さ単位=cm (銭以下)	銭:口径 他:厚さ 銭:厚さ単位=cm (銭以下)	銭:厚さ 他:厚さ 銭:厚さ単位=cm (銭以下)							
77-26	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	同安窯系	皿	#	10.2				2次	V-33	Ⅲ b c層			387	
77-27	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	同安窯系	皿	底部			4.6		3次	V-33	Ⅲ c層			548	
77-28	Ⅲ・Ⅳ区	滑石		石鍋	破片					3次	T-34		S164	289		
77-29	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	壺	口縁	15.9				3次	T-34		S152	293		
77-30	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	13.6				3次	T-34		S160	295		
77-31	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	皿	口縁	12.0				3次	T-33		S420	1103		
77-32	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	D群	杯	口縁	7.7				3次	T-34		S151	669		
78-33	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	鍋	口縁					3次	U-33	Ⅱ下層		543		
78-34	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	壺	口縁	15.5				3次	U-33	Ⅱ下層			735	
78-35	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			10.5		3次	U-33	Ⅱ下層			412	
78-36	Ⅲ・Ⅳ区	土器	第3様式	不明	底部			17.5		3次	U-33	Ⅱ下層		528		
78-37	Ⅲ・Ⅳ区	カムイヤキ	B群	壺	口縁	17.9				2次	V-33	Ⅱ下層		130		
78-38	Ⅲ・Ⅳ区	カムイヤキ	B群	壺	底部			11.0		3次	U-33	Ⅱ下層		561		
78-39	Ⅲ・Ⅳ区	カムイヤキ		把手						3次	U-33	Ⅱ下層		459		
78-40	Ⅲ・Ⅳ区	カムイヤキ		注口						2次	V-33	Ⅱ下層		161	502	
78-41	Ⅲ・Ⅳ区	瓦質土器		鉢	口縁	20.4				3次	U-33	Ⅱ下層		524		
78-42	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	同安Ⅰ	碗	口縁	16.4			3次	U-33	Ⅱ下層			526	2次 U-34 Ⅱ層 dot83	
											I層			178	3次 U-33 Ⅰ層 N0204	
											表探			1241		
78-43	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅰ	碗	口縁	15.4				3次	U-33	Ⅱ下層		530		
78-44	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅰ	碗	口縁	14.6				3次	U-33	Ⅱ下層		523		
78-45	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅰ	碗	口縁	16.0				3次	U-33	Ⅱ層最下		577		
78-46	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	17.0				2次	V-33	Ⅱ層最下	558(正)			3次外郭 U-33 Ⅱ下層 dot463
78-47	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	15.2				2次	V-33	Ⅱ層最下		212		
78-48	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	16.8				3次	U-33	Ⅱ下層		491		
78-49	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	16.2				2次	V-33	Ⅱ下層		118		2次 V-33 Ⅱ上層 N0316
78-50	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	完形	15.7	6.9	5.3		3次	T-33	Ⅱ下層			1188	? 次 S-34 I層 N0145
78-51	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	15.4				2次	V-33	Ⅱ下層		148		2次 V-33 Ⅱ層 N0387
78-52	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	19.0				3次	U-33	Ⅱ下層		458		
78-53	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅰ	碗	底部			5.3		2次	V-33	Ⅱ層最下		211		
78-54	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	底部			5.6		3次	V-33	Ⅱ下層		657		
78-55	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	底部			4.8		3次	U-33	Ⅱ下層		553		
78-56	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	碗	底部			4.4		3次	U-33	Ⅱ下層		565		
78-57	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	碗	底部			5.1		3次	T-33	Ⅱ下層		642		U-33 Ⅱ下 dot550
78-58	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			5.6		3次	U-33	Ⅱ下層		467		
78-59	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			6.0		3次	U-33	Ⅱ下層		512		
78-60	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			7.2		2次	V-33	Ⅱ下層		137	474	
79-61	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	同安窯系	皿	口縁	9.0				2次	V-33	Ⅱ下層			370	
79-62	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅲ	皿	底部			6.2		3次	U-33	Ⅱ下層		468		3次外郭 U-33 Ⅱ下層 N0495
79-63	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	皿	完形	12.0	7.8	5.6		3次	T-33	Ⅱ下層		648	713	#
79-64	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	皿	口縁	12.0				3次	U-33	Ⅱ下層		527		U-33 Ⅱ上層 dot453
79-65	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	皿	口縁	13.6				3次	U-33	Ⅱ下層		544		
79-66	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	盤	完形	24.0	5.6	9.3		3次	U-33	Ⅱ下層		401		Ⅱ下層 N0735 Ⅱ上層 dot899
79-67	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁	26.0				3次	U-33	Ⅱ上層		412		2次 U-33 Ⅱ上層
79-68	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	盤	底部			6.4		3次	U-33	Ⅱ下層		556		U-33 Ⅱ下層 dot556
79-69	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	置物	燭台	胴部					3次	U-33	Ⅱ下層		465		
79-70	Ⅲ・Ⅳ区	青磁		小壺	口縁	5.0				2次	V-33	Ⅱ下層			406	
79-71	Ⅲ・Ⅳ区	青白磁		小壺	口縁	7.4				2次	V-33	Ⅱ下層			375	
79-72	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	A群	碗	口縁	15.0				3次	U-33	Ⅱ下層		517		
79-73	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	A群	皿	完形	9.5	1.7	5.9		3次	U-33	Ⅱ下層		424		2次 V-33 Ⅰ層 264
79-74	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	F群	碗	口縁	11.6				2次	V-33	Ⅱ下層		133		
79-75	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	F群	碗	口縁	15.4				2次	V-33	Ⅱ下層		105		
79-76	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	F群	碗	口縁	15.4				3次	V-33	Ⅱ層最下			1123	
79-77	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	C 2 群	碗	口縁	14.2				3次	U-33	Ⅱ下層			516	U-33 Ⅱ下層N0492 Ⅱ上層N0325
79-78	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	A群	皿	口縁	9.4	1.6	4.0		3次	U-33	Ⅱ下層		560		U-33 Ⅱ下層 dot578
79-79	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	D群	皿	底部			3.2		2次	U-33	Ⅱ下層		29	129	
79-80	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	D群	皿	底部			3.0	3次	U-33	Ⅱ下層		503		3次 U-33 Ⅱ下層 dot503	
													452		3次 U-33 Ⅱ下層 dot503	
79-81	Ⅲ・Ⅳ区	白磁		水注	注口					2次	V-33	Ⅱ層最下		210		
79-82	Ⅲ・Ⅳ区	黒釉	天目	碗	口縁	12.4				3次	U-33	Ⅱ下層		502		
79-83	Ⅲ・Ⅳ区	黒釉	天目	碗	底部			2.2		3次	U-33	Ⅱ下層		532		
79-84	Ⅲ・Ⅳ区	黒釉	天目	茶入れ	底部			2.0		2次	V-33	Ⅱ下層		122	459	
79-85	Ⅲ・Ⅳ区	不明			口縁	8.6				2次	V-33	Ⅱ下層			375	
79-86	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉		壺	底部			6.8		2次	V-35	Ⅱ下層		150		
79-87	Ⅲ・Ⅳ区	タイ褐釉		壺	底部			14.8		3次	U-33	Ⅱ下層		469		
79-88	Ⅲ・Ⅳ区	タイ褐釉		壺	底部			14.6		2次	V-33	Ⅱ下層		129		
79-89	Ⅲ・Ⅳ区	韓国陶磁	象嵌青磁	碗	口縁	16.2			3次	T-33	Ⅱ下層		1097		3次 S-34 Ⅰ層 N0143	
											Ⅱ下層		554		2次 U-33 Ⅱ上層 N0121	
79-90	Ⅲ・Ⅳ区	韓国陶磁	象嵌青磁	碗	口縁	17.6				2次	U-33	Ⅱ下層			104	他10個
80-91	Ⅲ・Ⅳ区	青花	元青花?	瓶	蓋					2次	V-33	Ⅱ上層		90		V-33 Ⅰ層 N0203
80-92	Ⅲ・Ⅳ区	ベトナム白磁		碗	底部			5.4		3次	U-33	Ⅱ上層		409		2次 V-33 Ⅱ層dot103
80-93	Ⅲ・Ⅳ区	ベトナム青花		瓶	胴部					3次	T-33	Ⅱ上層		650	715	
80-94	Ⅲ・Ⅳ区	遊具	骨製品	賽子		1.08	1.04	1.19		3次	U-33	Ⅱ下最下		576		
80-95	Ⅲ・Ⅳ区	遊具		円盤状製品		1.97	0.83	5.13		2次	V-33	Ⅱ下層			402	
80-96	Ⅲ・Ⅳ区	遊具		円盤状製品		2.02	0.73	3.58		3次	U-33	Ⅱ下層			495	
80-97	Ⅲ・Ⅳ区	遊具		円盤状製品		2.78	0.96	8.83		3次	U-33	Ⅱ下層			526	
80-98	Ⅲ・Ⅳ区	遊具		円盤状製品		2.28	0.91	7.18		3次	U-33	Ⅱ下層			735	
80-99	Ⅲ・Ⅳ区	遊具		円盤状製品		2.48	0.33	3.17		2次	V-33	Ⅱ下層			453	
80-100	Ⅲ・Ⅳ区	遊具		円盤状製品		2.31	0.70	7.27		2次	V-33	Ⅱ下層			519	
80-101	Ⅲ・Ⅳ区	遊具		円盤状製品		2.40	0.71	6.51		3次	U-33	Ⅱ下層			735	
80-102	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	青銅	鉾		1.96	0.25	0.49		3次	U-33	Ⅱ下層		514		
80-103	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	青銅	目釘		2.37	0.54	1.90		3次	T-33	Ⅱ上層			700	
80-104	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	青銅	覆輪		3.08	0.34	1.69		3次	U-33	Ⅱ下層		540		幅=0.61
80-105	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	青銅	不明		2.88	0.67	1.21		3次	T-33	Ⅱ下層			741	幅=1.39
80-106	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	青銅	切羽?		0.99	0.19	2.16		3次	U-33					

第3表 Ⅲ・Ⅳ区出土遺物観察表 (4)

図	地区名	種別	器種時代形式	分類	部位	計測値 (cm※g) ※玉はmm			遺跡名			dot	No.	備考
						器：口径 他：外径 銭：外径単 位＝cm (銭以下)	器高 他：厚さ 銭：厚さ 単位＝cm (銭以下)	器：底径 他：重量 銭：重量 (単位＝g)	次	地区	層			
81-117	Ⅲ・Ⅳ区	カムイヤギ		水注	把手				2次	V-33	Ⅱ上層			
81-118	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅰ	碗	口縁				3次	U-34	Ⅰ層		128	
81-119	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	14.4			3次	U-33	Ⅱ上層	321		3次 U-33 Ⅱ下層 N059
81-120	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	碗	口縁	16.3			3次	S-34	Ⅱ上層		343	3次 U-33 Ⅱ下層 N092
81-121	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	16.5			3次	T-33	Ⅱ上層	636	692	
81-122	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	18.4			3次	U-33	Ⅱ上層		334	3次 U-33 Ⅱ層下 N0392
81-123	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	11.6			3次	T-33	Ⅱ上層		678	
81-124	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	19.0			2次	V-33	Ⅱ層			V-33 Ⅱ上層 N0367
81-125	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	16.5			3次	U-33	Ⅱ上層		252	3次 U-36 Ⅰ層 N011
81-126	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	18.4			3次	T-34	Ⅱ上層	476		3次 U-34 Ⅰ層 N096
81-127	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	17.4			3次	T-33	Ⅰ層		562	
81-128	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	14.6			3次	T-33	Ⅱ上層	647	712	
81-129	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	10.2			3次	T-33	Ⅰ層		556	N0562.582 2次U-33 Ⅱ上層121
81-130	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅱ	碗	底部			5.0	2次	V-33	Ⅱ上層		100	
81-131	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ	碗	底部			4.3	2次	V-33	Ⅰ層		580	
81-132	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			5.8	2次	V-33	Ⅱ上層	91		
81-133	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅲ	皿	口縁	12.4			3次	U-33	Ⅱ上層	288		
81-134	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	皿	口縁	11.0			2次	V-33	Ⅰ層		203	2次 V-33 Ⅰ層 N0203 3次U-33 Ⅱ下層N0412
81-135	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	皿	口縁	11.4			3次	S-34	Ⅱ上層		413	
81-136	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	皿	口縁	12.3			3次	S-34	Ⅱ上層		353	
81-137	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅲ	皿	底部			5.0	3次	U-33	Ⅱ上層	407		
81-138	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	皿	完形	12.2	3.2	5.0	3次	U-35	Ⅰ層		13	U-35 Ⅰ層 N034 U-35 Ⅰ層 No331
81-139	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	盤	口縁	28.2			2次	V-33	Ⅱ層		232	
81-140	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁	27.4			3次	U-33	Ⅱ上層	396	328	
81-141	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁	30.2			2次	V-33	Ⅱ層	74		
81-142	Ⅲ・Ⅳ区	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁	22.6			2次	V-33	Ⅰ層		265	
82-143	Ⅲ・Ⅳ区	青磁		酒会壺	蓋				3次	U-33	Ⅰ層		175	Ⅱ上層 N0231 Ⅱ上層 N0299
82-144	Ⅲ・Ⅳ区	青磁		酒会壺	胴部				3次	S-34	Ⅱ上層	376	306	
82-145	Ⅲ・Ⅳ区	青磁		小壺	口縁	5.3			2次	V-33	Ⅱ層		238	
82-146	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	A群	碗	底部			5.8	3次	U-33	Ⅱ上層		272	T-33 Ⅰ層
82-147	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	A群	皿	完形	10.8	1.6	6.9	3次	U-33	Ⅱ上層	393		T-34 Ⅰ層 N0122
82-148	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	F群	碗	底部			4.6	3次		表探		170	
82-149	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	F群	碗	底部			5.8	2次	V-33	Ⅰ層	214		
82-150	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	F群	碗	底部			5.4	3次	U-33	Ⅰ層		181	
82-151	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	F群	碗	底部			5.4	2次	U-33	Ⅰ層		408	
82-152	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	C 1 群	碗	口縁	13.5			3次	U-36	Ⅰ層		8	2次 V-33 Ⅰb層 N0219
82-153	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	C 2 群	碗	口縁	14.4			2次	V-33	Ⅱ下層	96		
82-154	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	C 2 群	碗	底部			5.1	3次	S-34	Ⅱ上層	333		S-34 Ⅰ層 N0143
82-155	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	C 3 群	碗	口縁	16.2			2次	V-33	Ⅱ層	108		
82-156	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	C 3 群	碗	口縁	9.6			2次	V-33	Ⅱ層		387	
82-157	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	C 3 群	皿	口縁	13.4			2次	V-33	Ⅰc層		217	
82-158	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	C 3 群	碗	底部			6.0	3次	T-34	Ⅰ層	868	123	
82-159	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	G群	碗	底部			10.6	3次	S-34	Ⅱ上層	435	372	
82-160	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	G群	皿	完形	15.6	3.8	7.2	3次	S-34	Ⅱ上層	443		2次 U-34 Ⅰb層 N0299
82-161	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	D群	杯	口縁	9.6			3次	T-34	Ⅱ上層	269		
82-162	Ⅲ・Ⅳ区	白磁	E群	皿	底部			8.2	3次	T-34	Ⅰ層		108	U-34 SMO Ⅰ層 N0103
82-163	Ⅲ・Ⅳ区	白磁		合子	完形	5.1	1.6	4.4	2次	V-33	Ⅰ層		365	
82-164	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉	5類	壺	口縁	20.7			3次	U-33	Ⅰ層		186	
82-165	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉		壺	口縁	18.0			2次	V-33	Ⅰ層		264	
82-166	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉		壺	口縁	8.6			3次	U-33	Ⅱ下層	403		
82-167	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉		壺	口縁	20.0			3次	S-34	Ⅱ上層	374	304	
82-168	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉		茶入れ	口縁	2.6			3次	U-33	Ⅱ上層		252	
82-169	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉		茶入れ	口縁	2.8			3次	U-33	Ⅱ上層		315	
82-170	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉		水注	注口				3次	S-35	Ⅰ層		74	
82-171	Ⅲ・Ⅳ区	瑠璃釉		小壺	底部			2.4	3次	U-35	Ⅰ層		62	
82-172	Ⅲ・Ⅳ区	褐釉		鉢	口縁	24.4			2次	U-33	Ⅱ上層		121	
82-173	Ⅲ・Ⅳ区	不明	沖繩産？	蓋	把手				3次	U-33	Ⅰ層		171	
83-174	Ⅲ・Ⅳ区	遊具		円盤状製品		2.48	0.81	8.03	2次	V-33	Ⅱ層		367	
83-175	Ⅲ・Ⅳ区	遊具		円盤状製品		1.93	0.53	3.18	2次	V-33	Ⅱ層			
83-176	Ⅲ・Ⅳ区	遊具		円盤状製品		1.91	0.53	3.25	2次	V-33	Ⅱ層		230	
83-177	Ⅲ・Ⅳ区	遊具		円盤状製品		1.92	0.49	3.37	2次	V-33	Ⅰ層	281		
83-178	Ⅲ・Ⅳ区	煙管	砂岩	雁首		2.33	0.11	8.22	3次	U-33	Ⅰ層		192	
83-179	Ⅲ・Ⅳ区	石器	玢岩	砥石		3.77	1.80	27.44	3次	U-33	Ⅱ上層		292	
83-180	Ⅲ・Ⅳ区	石器	粘板岩	砥石		4.51	0.97	20.43	3次	S-34	Ⅱ上層	385		
83-181	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	釘		5.24	0.59	8.76	3次	S-34	Ⅰ層		142	
83-182	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	鉄	鐵		5.42	0.30	8.37	2次	V-33	Ⅰ層		224	
83-183	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	青銅	不明金具		7.23	0.13	11.45	3次	S-34	Ⅱ上層	345		
83-184	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	青銅	鉄		1.34	0.25	0.66	3次	U-35	Ⅰ層		26	
83-185	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	青銅	不明金具		2.07	0.14	1.95	3次	U-33	Ⅱ上層		252	
83-186	Ⅲ・Ⅳ区	金属製品	アルミ	簪		9.33	0.41	4.06	3次	U-36	Ⅰ層		7	
83-187	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	天聖元寶			2.53	0.12	3.27	3次	S-34	Ⅱ上層	427		
83-188	Ⅲ・Ⅳ区	銭貨	寛永通寶				0.11	1.09	3次		Ⅰ層			
83-189	Ⅲ・Ⅳ区	玉	勾玉			1.70	0.91	2.96	3次	U-33	Ⅰ層		181	
83-190	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	b 2 種		0.96	0.32	1.80	3次	S-34	Ⅱ上層	429		
83-191	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	b 2 種		0.71	0.19	1.00	3次	U-33	Ⅱ上層	449		
83-192	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	b 2 種		0.62	0.21	0.67	3次	T-33	Ⅱ上層		1067	
83-193	Ⅲ・Ⅳ区	玉	勾玉			0.79	0.10	0.17	3次	S-34	Ⅱ上層	401		
83-194	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	b 2 種		0.55	0.23	0.42	3次	S-34	Ⅰ層	959		
83-195	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	b 2 種		0.55	0.18	0.28	3次	S-34	Ⅱ上層	425		
83-196	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	C 種		0.19	0.13	0.01	3次	S-34	Ⅱ上層	446		
83-197	Ⅲ・Ⅳ区	玉	丸玉	近現代？		1.52	0.43	2.95	3次	U-36	Ⅰ層		14	

第8節 VII区（5次調査）

VII区は面積約500m²の平坦面で、北・南側に土留め石積みを配し、西はSR2、東は東側城壁に囲まれる地域である。2次調査において先行して試掘調査を実施し、その結果おおまかに4枚の堆積層が確認されている。セクション図は第5図に図示している。

1. 遺構

SB02がある一帯は（Ⅲ・Ⅳ区）、柱穴が密集しておらず、比較的土坑の分布が目立つ。過去にも周辺遺跡調査報告において柱穴が密集するところと（母屋分布区域）、柱穴の径が大きいと密集しないところ（作業スペース）として報告している。城内にはまだ高倉等の施設は確認されていないことから、この外郭に作業場的施設があったと考えられる。逆に広大な外郭地域にあって（約10,000m²）、母屋が分布しそうな柱穴密集区域は2箇所のみであった。また、母屋建物に関してはVII区において2棟プラン組むことができた。しかし柱穴が配される密度が多く、同箇所回数にわたって立て替えが行われたと考えられることと、柱間が不均等であることもあり、いざ柱穴を半裁してみると、浅いものや深いものなど統一性に欠ける柱穴が多く、要検討建物とした。

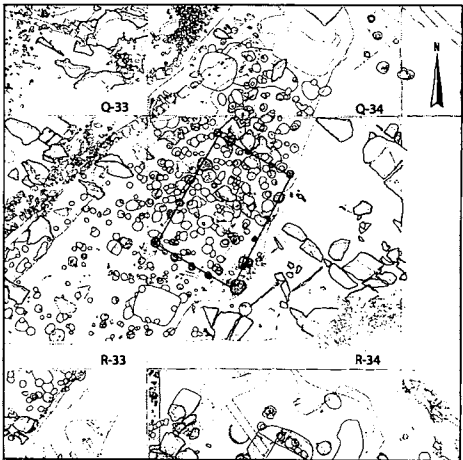
種類	遺構数
・掘立柱建物跡	3棟
（内訳：高倉1棟、母屋建物2棟：要検討）	
・柱穴	399基
・土坑	9基
・土留め石積み	2基（SR3、SR4）
・石積み遺構	2基（外郭東側城壁、SR2）
・石列遺構	2基（S-33サンゴ敷き石列等）
・造成層	2基（第3造成層・第4造成層）



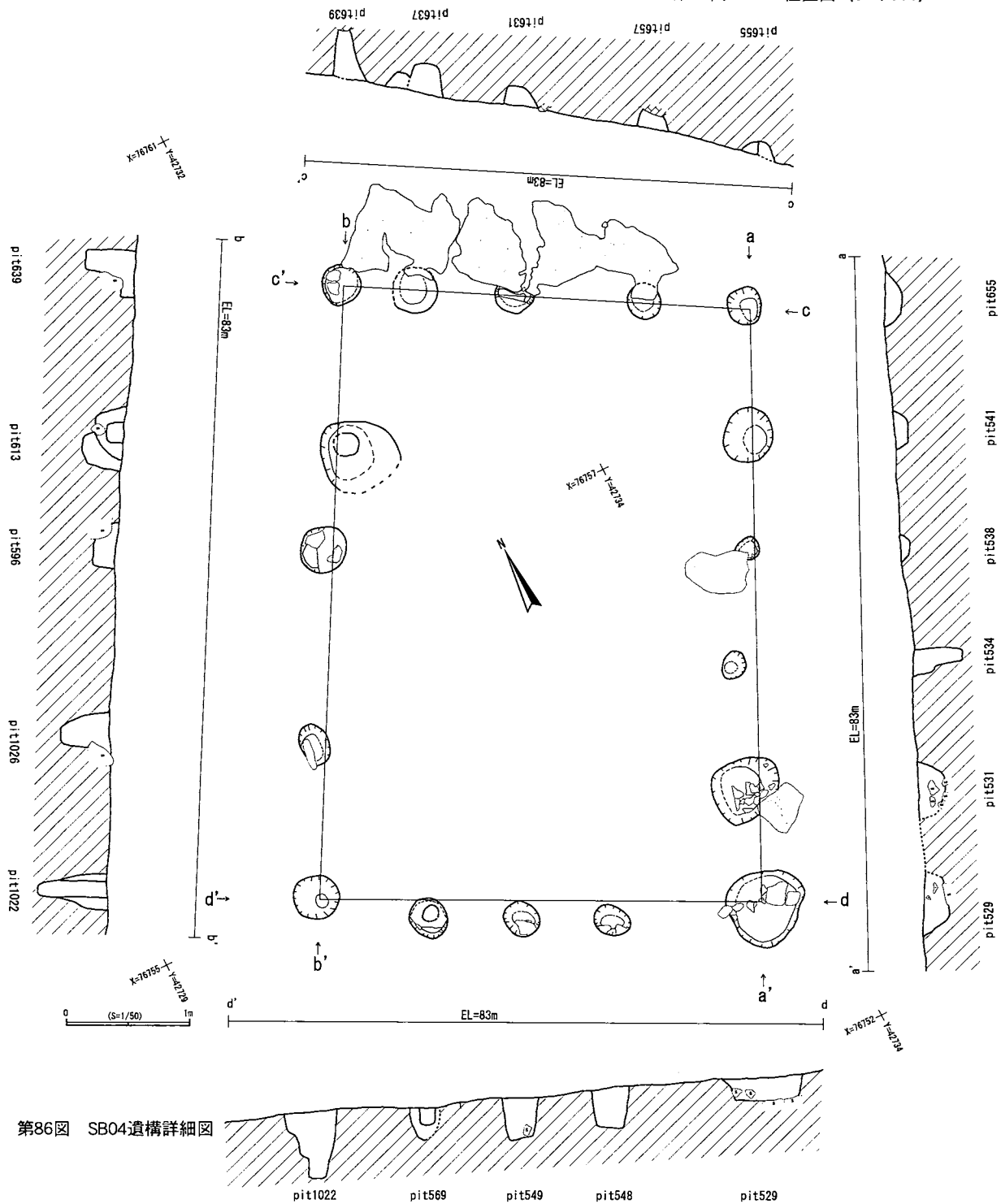
第84図 VII区遺構配置図

[名 称] SB04 [位 置] R-34 [検出面] 造成層
 [遺構構成] 柱穴17基 [規 模] 5m50cm×4m20cm
 [所 見] R-34グリッドの柱穴密集箇所より検出したS655、
 S541、S538、S534、S531、S529、S548、S549、S569、
 S1022、S1026、S596、S613、S639、S637、S631、S657
 で構成される掘立柱建物跡であるが、今後検討を必要とする。

床面積は長軸480cm×短軸320cmとなり、70cm～170cm
 を一間とすると考えられる。柱穴のサイズは、直径が約30cm
 前後の小さいものと、60cm前後の大きいものに分かれ、また、
 柱穴の深さは、SB04の東側に位置するものは浅く、西側に移
 行するにつれて深さを増す傾向にあり、約15cm～55cmの深さ



第85図 SB04位置図 (S=1/300)



第86図 SB04遺構詳細図

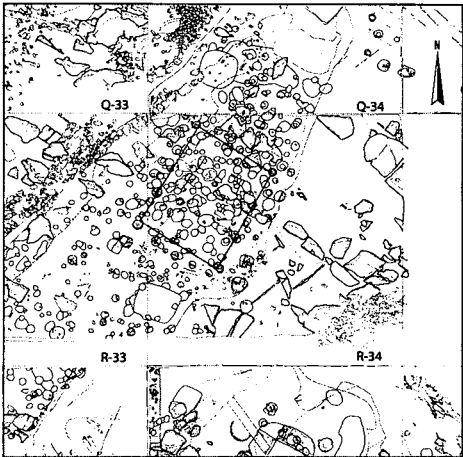
の柱穴が認められる。両長軸を構成する柱穴の数をみると、東側で多く、西側が少なくなり、両短軸を構成する柱穴数は北、南とも同数となる。このことから、柱穴数の少ない西側が入り口でなかったかと想定できるが、判然としない。柱穴内の覆土は10YR暗褐3/4に黄褐色土が混ざる土層となる。遺構検出面の上層にはⅢb層（15世紀頃に相当する層位と考えられる）が被覆しており、柱穴内より青磁Ⅴ類が出土していることから、15世紀頃からそれ以前に廃棄された遺構と考えることができる。

[遺構内堆積層]

- i層：10YR暗褐3/3の土層で、炭、焼土を含む。柱痕と考えられる。
- ii層：10YR暗褐色土3/3土層に黄褐色土が多く混入する層で、人為的に柱穴内に入れ込まれた覆土であると考えられる。

[名 称] SB05 [位 置] R-33、R-34
[検出面] 造成層 [遺構構成] 柱穴12基
[規 模] 4m80cm×4m

[所 見] R-34グリッド柱穴密集箇所より検出したS653、S688、S1035、S545、S566、S1028、S744、S1034、S1015、S647、S635、S625で構成される今後検討を必要とする掘立建物跡である。床面積は長軸400cm×短軸320cmとなり、長軸3間×短軸3間となる。一間の長さは長軸において、150～200cmとなり、短軸においては70cmから150cmとなる。



第87図 SB05位置図 (S=1/300)

柱穴のサイズは直径が25cm～45cmを計る。柱穴の深さはバラバラで、約18～65cmを測る。柱穴内覆土は10YR暗褐3/4に黄褐色土が混入する土層となる。遺構検出面の上層にはⅢb層（15世紀頃に相当する層位と考えられる）が被覆しており、15世紀頃からそれ以前の年代において廃棄されたと考えられる。

[遺構内堆積層]

- i層：10YR暗褐3/3の土層で、炭、焼土を含む。柱痕と考えられる。
- ii層：10YR暗褐色土3/3土層に黄褐色土が多く混入する層で、人為的に柱穴内に入れ込まれた覆土であると考えられる。

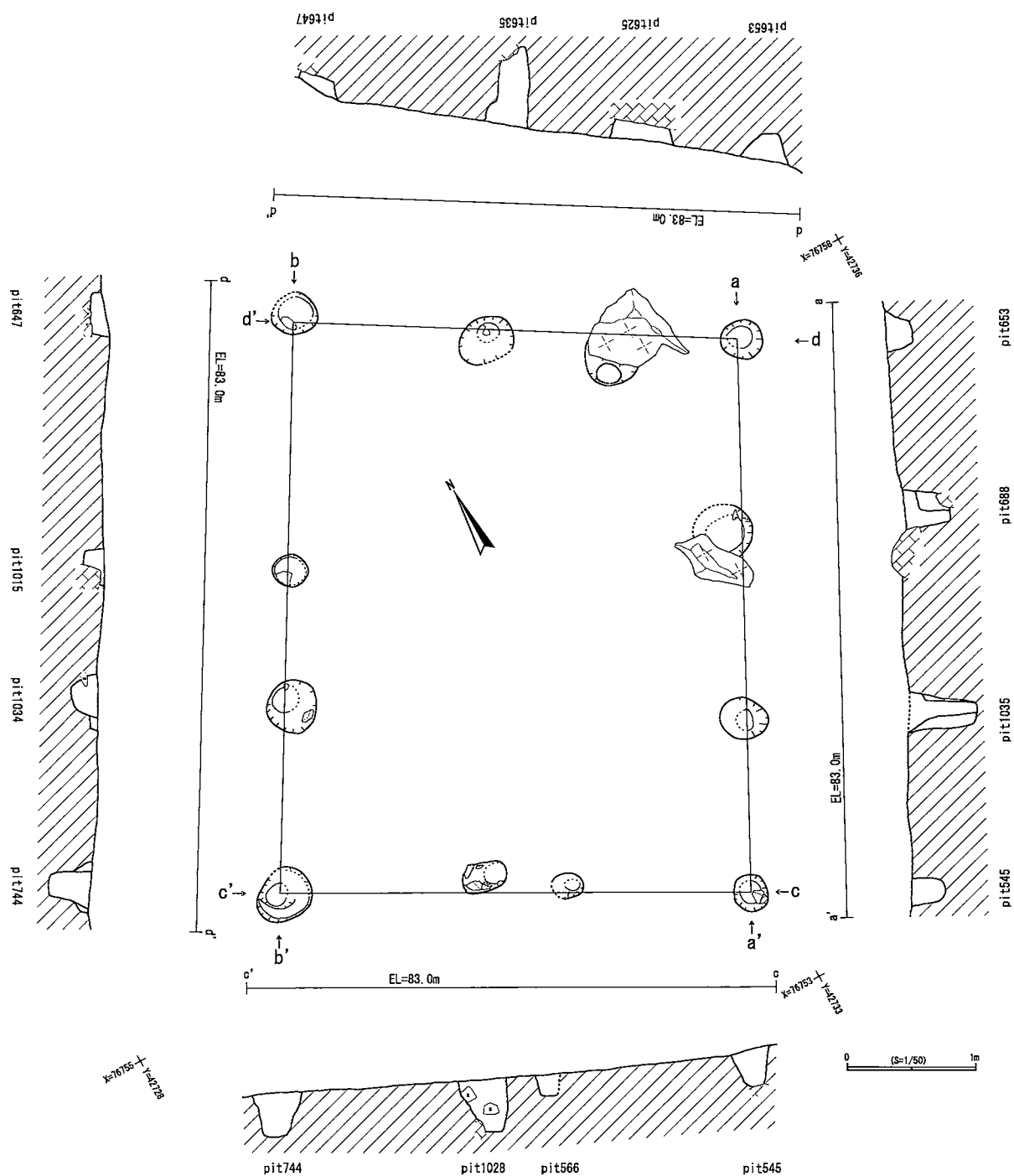
第4表 SB04柱穴内覆土観察表

遺構番号	色調	混入物の量			柱痕
		明褐色	赤プロ	炭	
529	10YR暗褐色2/3	△	△	△	
531	10YR暗褐色2/3	△	△	△	
534	10YR暗褐色3/4	○	△	△	○?
538	10YR暗褐色3/4	△	△	△	
541	10YR暗褐色3/3	△	△	△	
655	10YR暗褐色3/4	○	△	△	
657	10YR暗褐色3/4	◎	△	△	
631	10YR暗褐色3/4	○	△	△	
637	10YR暗褐色3/3	◎	△	△	○
639	10YR暗褐色3/4	○	△	△	
613	10YR暗褐色3/4	○	△	△	
596	10YR褐色4/4	○	△	△	○?
1026	10YR暗褐色3/4	◎	△	△	
1022	10YR暗褐色3/4	◎	△	△	○
569	10YR暗褐色3/4	○	△	△	
546	10YR暗褐色3/3	○	△	△	
548	10YR暗褐色3/4	○	○	○	○?

第5表 SB05柱穴内覆土観察表

遺構番号	色調	混入物の量			柱痕
		明褐色	赤プロ	炭	
546	10YR暗褐色3/4	△	◎	◎	
1035	10YR暗褐色3/4	○	△	△	
688	10YR暗褐色3/4	◎	△	△	
653	10YR暗褐色3/3	△	△	○	
625	10YR暗褐色3/4	◎	△	△	
635	10YR暗褐色3/4	○	△	△	
647	10YR暗褐色3/3	○	○	△	
1015	10YR暗褐色3/4	○	○	○	
1034	10YR暗褐色3/4	○	△	△	
744	10YR暗褐色3/4	◎△	△	△	
1028	10YR暗褐色3/4	◎	△	△	○
566	10YR暗褐色3/4	○	△	△	

※△微量 ○少量 ◎多量



第88図 SB05遺構詳細図

〔名 称〕 SB06 〔位 置〕 Q-34、Q-35 〔検出面〕 地山

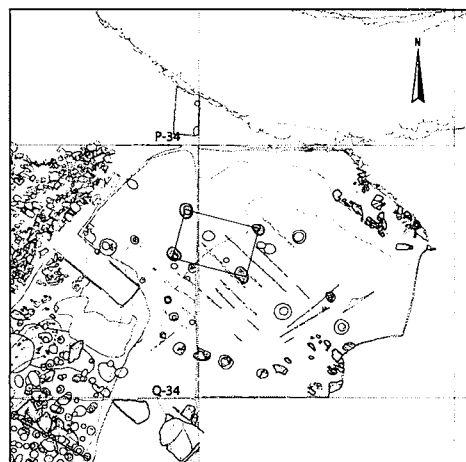
〔遺構構成〕 柱穴4基 〔規 模〕 300cm×210cm

〔所 見〕 R-34グリッド柱穴密集箇所の北東側に位置するQ-34、Q-35グリッドより検出したS827、S832、S828、S848で構成される掘立柱建物跡（四本柱建物）である。柱穴のサイズは直径が約55cm～65cmとなり、全ての柱穴が柱痕を有する。柱穴の大きさ、構成より、住居跡ではなく、住居に付属する建物跡と考えられ、SB04、05より北東側9mの場所に位置している。I層の後近代の耕作土を除去した段階で確認されており、検出面は削平されている可能性が高い。そのため柱穴の深さは10cm～30cm程度であるが、本来はもっと深かったと考えられる。床面積は約300cm×200cmとなり、今帰仁ムラ跡で確認されている4本柱建物に比べ大きい。遺物の出土数は少ないが柱穴内柱痕より、青磁無文外反碗などが出土していることから、15世紀前後に廃棄された遺構と考えられる。

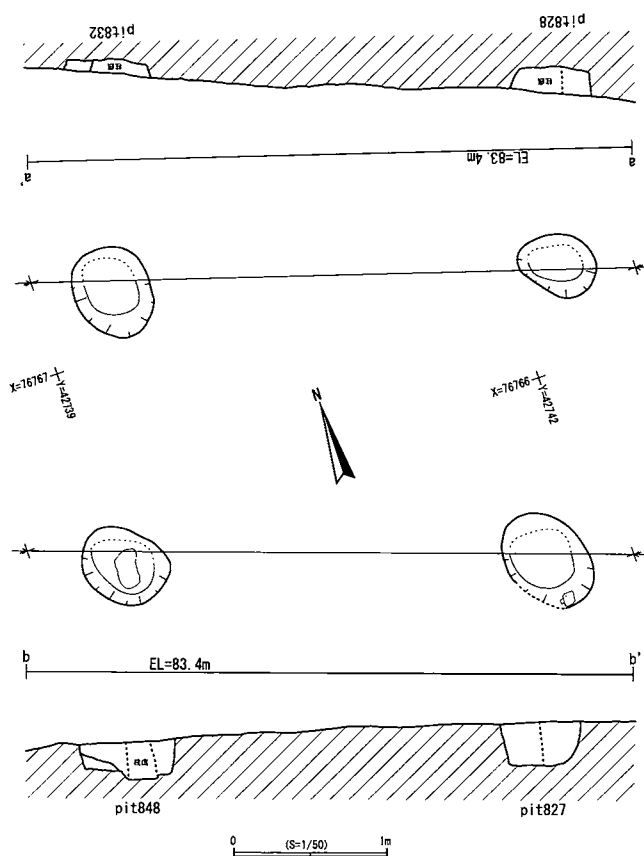
〔遺構内堆積層〕

i層：10YR暗褐3/3土に明褐色土がまだら状に混じる。柱穴と考えられる。

ii層：地山の色調と類似した10YR黄褐5/8土に暗褐色土が僅かに混入する。炭が混入し人為的に柱穴内に入れられた覆土と考えられる。



第89図 SB06位置図 (S=1/300)



第90図 SB06遺構詳細図

[名 称] SK898 [位 置] Q-34 [検出面] 地山

[遺構構成] 土坑1基 [規 模] 300cm×270cm

[所 見] Q-34よりⅢb層を除去した段階で検出した土坑で、SK898単独で構成されるものと考えられる。SK927に切られるため、全体形は明確ではないが、平面形は略楕円形となると考えられ、規模は長軸が300cm、短軸が270cmとなり、深さはGLより60cm前後を測る。土坑底面は平坦にならず、凹凸が残る。側壁は南側のみにおいて垂直に立ち上がり、南側以外では、緩やかな傾斜で立ち上がる。土坑底面より、焼土ブロックが検出しており、土坑の性格を示すものと考えられるが、土坑の性格は判然としない。



第91図 SK898遺構詳細図 (S=1/300)

[遺構内堆積層] 土坑内覆土はi～vii層に分層され、vii層以下からは2枚の造成層を確認。

i層：10YR暗褐3/3と7.5YR明褐5/8が混ざり合うまだら層で、炭を含む。

ii層：10YR暗褐3/3で、7.5YR明褐5/8が少量、炭を含む。

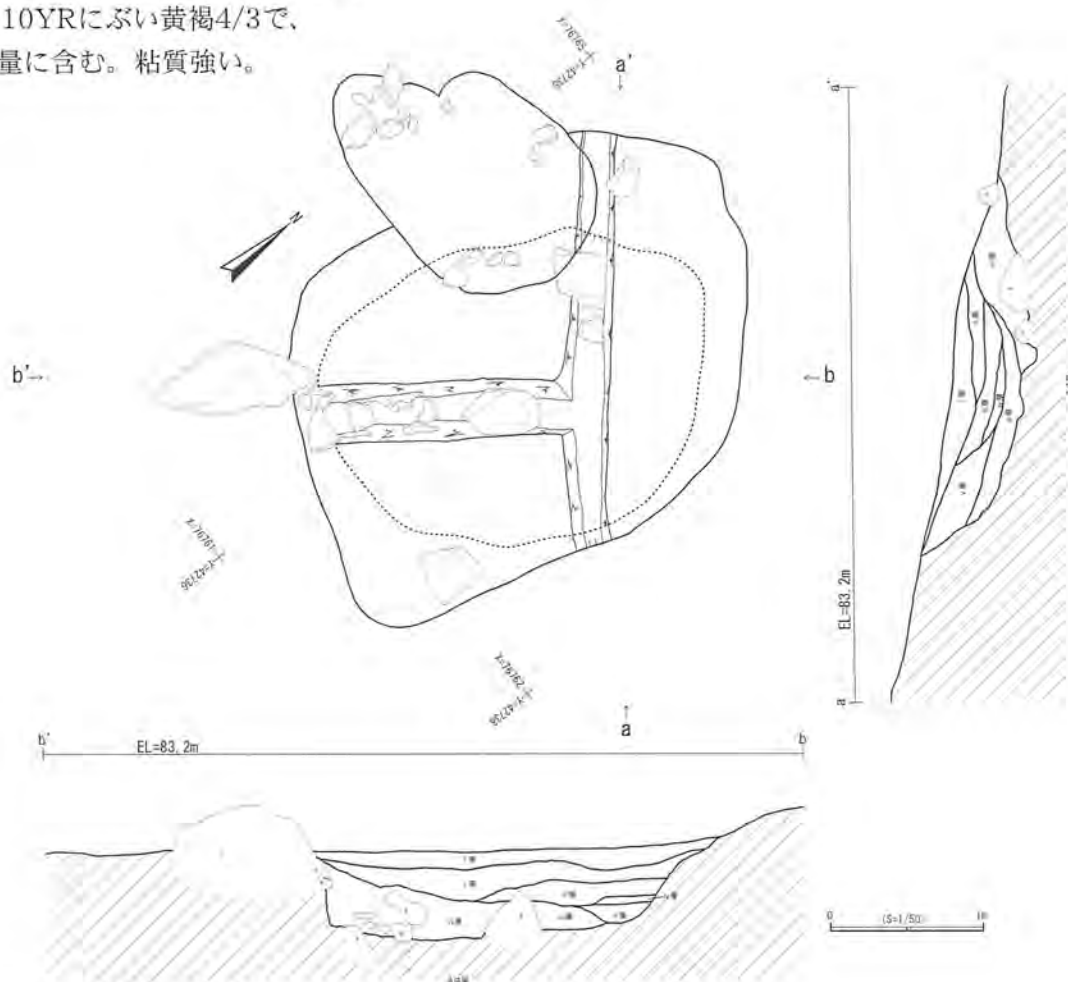
iii層：10YRにぶい黄褐3/4と7.5YR明褐5/8が混ざるまだら層で、炭を含む。砂質になるところが一部みられる。

iv層：10YR暗褐3/3と7.5YR明褐5/8が混ざり合うまだら層で、炭を含む。i層に似るがiv層にやや7.5YR明褐5/8が多く混ざる。

v層：10YR暗褐3/3で、炭を微量に含む。

vi層：10YR暗褐3/3と7.5YR明褐5/8が混ざり合うまだら層で、炭を含む。下層にて鉄錆調の赤茶けたスジが入る。色調はiv層と似る。

vii層：10YRにぶい黄褐4/3で、炭を微量に含む。粘質強い。

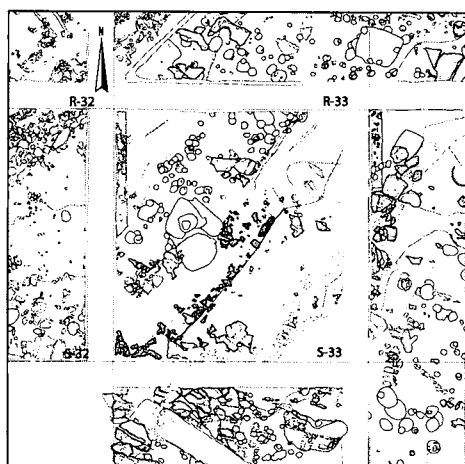


第92図 SK898遺構詳細図

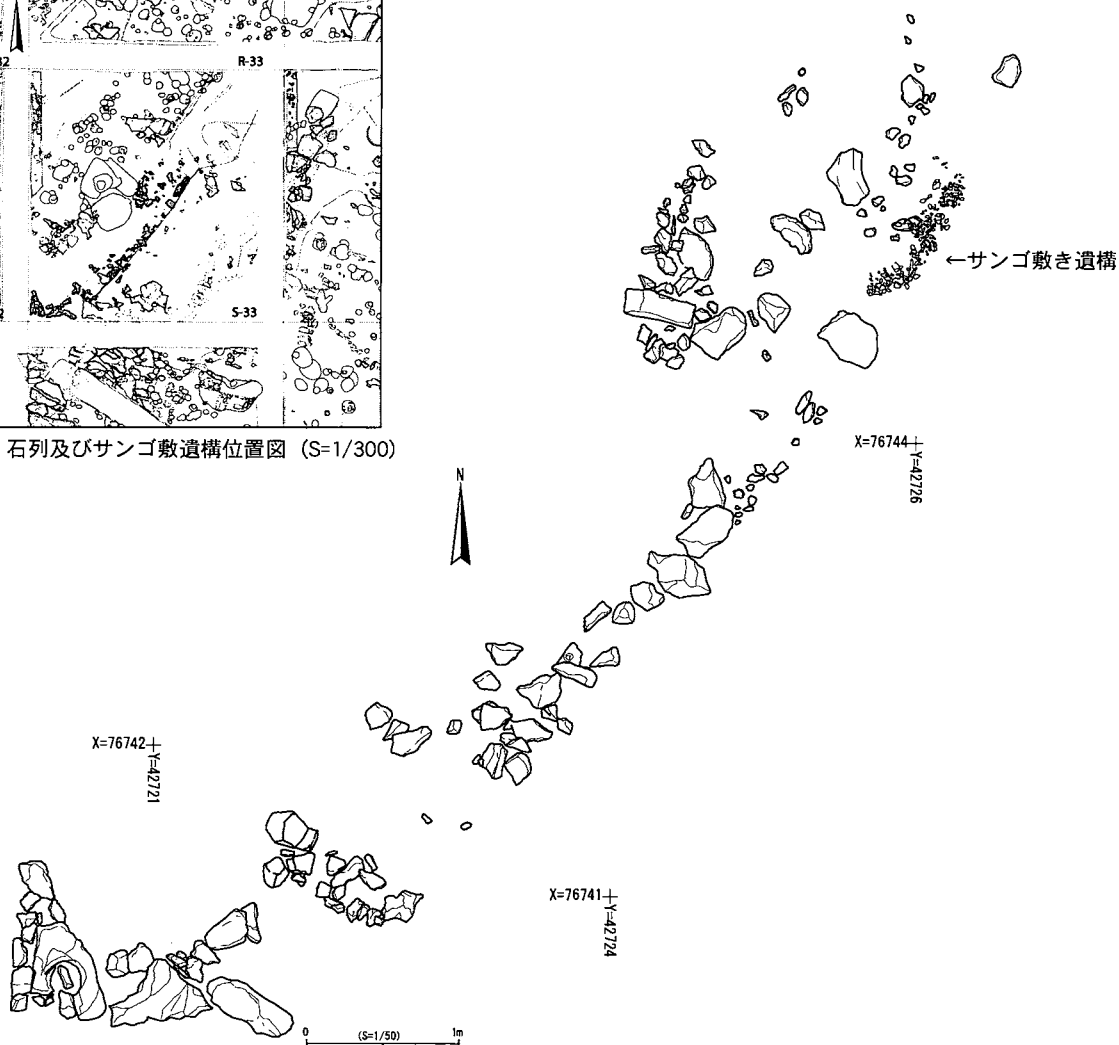
〔名 称〕 石列及びサンゴ敷き遺構 〔位 置〕 S-33 〔検出面〕 II上層

〔遺構構成〕 石列 〔規 模〕 南西－北東9.5m、幅1～2m

〔所 見〕 S-33のほぼ中央を南西－北東方向に950cm延びる石列遺構で、南西側ではグリッド畦に重なるため全体は不明である。石列は10cm～50cm大の礫で構成されており、SR3、SR4と並行して延びている。S-33のII上層が分布する南東端、包含層の落ち込みは始めるラインから検出しており、その近くからはサンゴ敷きが検出している。サンゴ敷きは120cm×40cmの規模があり、枝サンゴ、テーブルサンゴ、貝殻などが敷き詰められ、石列と同様、南西－北東方向に長軸を持つ。ともに第4造成の境界にあり、SR3、SR4に並行することから区画のための石列と考えられるが判然としない。



第93図 石列及びサンゴ敷遺構位置図 (S=1/300)



第94図 石列及びサンゴ敷遺構詳細図

【名称】 第4造成層 【位置】 S-33、R-33、R-34、
Q-34 【検出面】 地山 【遺構構成】 造成層

【規模】 広範囲（範囲未確定）

【所見】 S-33第4造成層確認トレンチにおいて堆積状況を確認した造成層で、このトレンチにおいては、Ⅱ上層を除去した段階で検出しているが、R-33やS-32などで、Ⅳb層の下層からも検出されていることから、Ⅶ区の包含層が堆積する以前に造成されたものと考えられる。

第4造成層はi・ii層の2枚の造成層が確認されており、i層の層厚が35cm前後となり、ii層は深いところで40cm前後、浅いところでは10cm前後となる。造成層の範囲はQ-35を除くⅦ区の広い範囲に分布するため、包含層から地山へと漸時的に変化する層とも考えられるが、ii層を除去すると、多くの岩盤や石灰岩のフィッシャーなどが検出されるため、このような地形を平場に造成するために入れられた土層と考えられる。

【遺構内堆積層】

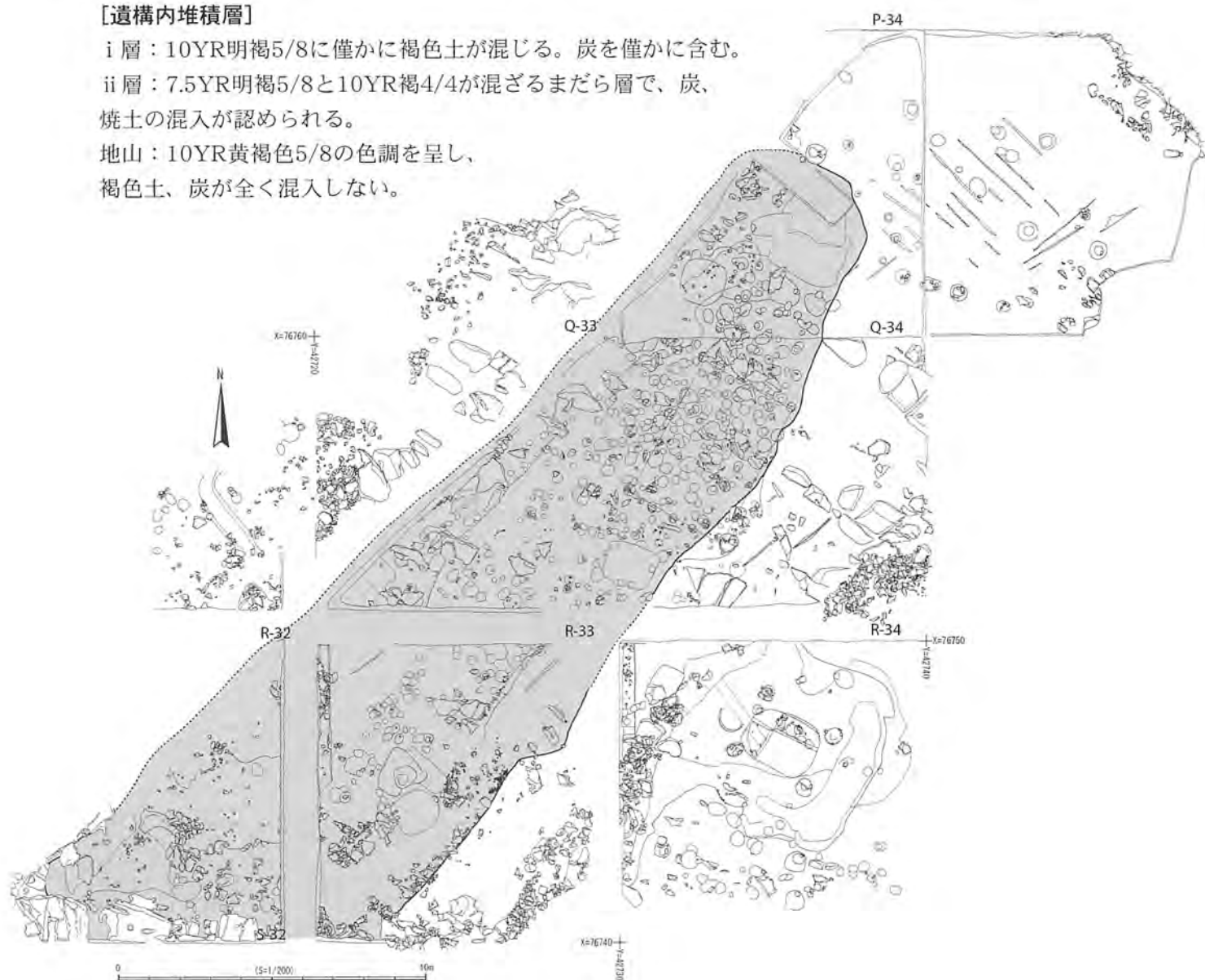
i層：10YR明褐5/8に僅かに褐色土が混じる。炭を僅かに含む。

ii層：7.5YR明褐5/8と10YR褐4/4が混ざるまだら層で、炭、焼土の混入が認められる。

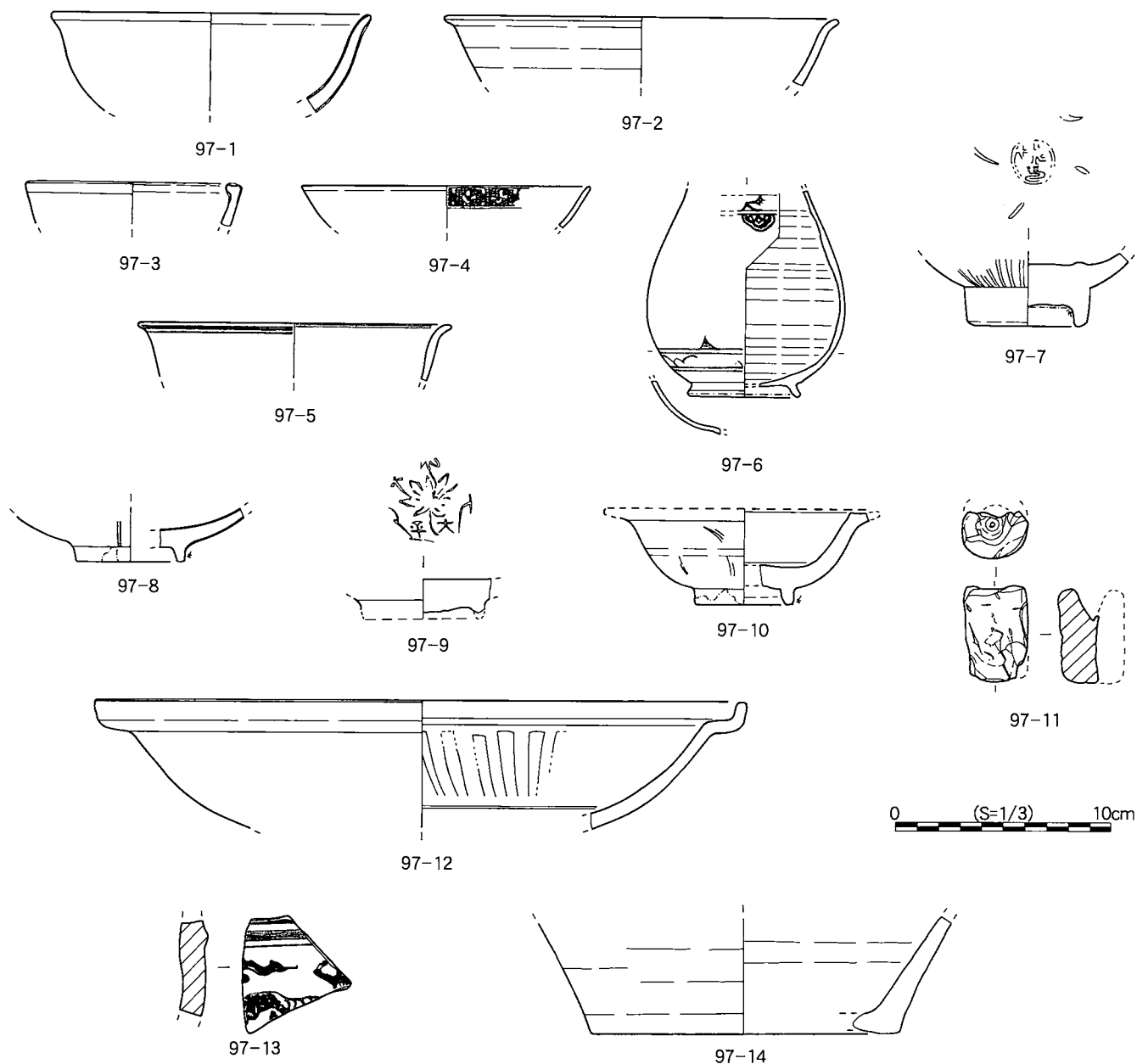
地山：10YR黄褐色5/8の色調を呈し、褐色土、炭が全く混入しない。



第95図 第4造成層位置図 (S=1/300)



第96図 第4造成層詳細図

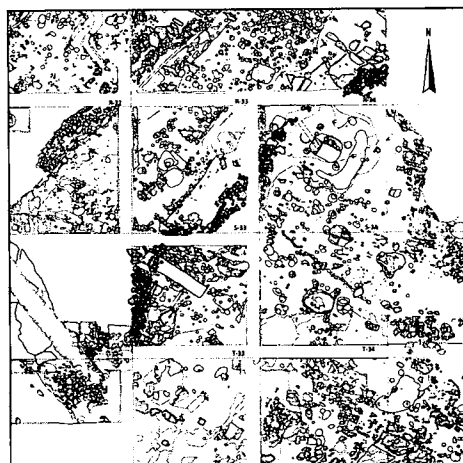


第97図 VII区遺構内出土遺物

VII区遺構内出土遺物（第97図）

1. SB04（第97図-1） 1は青磁無文外反碗で龍泉窯系V類。
2. SB06（第97図-2） 2は青磁無文外反碗で龍泉窯系IV～V類。
3. SK898（第97図-3～7） 3は青磁香炉の口縁部資料。4は青花E群の薄手直口皿で口縁内面に四方繹文を廻らす。外面無文。5は口縁部が強く折れ曲がる青花碗C'群。6はベトナム青花瓶。7は細蓮弁文碗（龍泉窯系VI類）底部。
4. その他遺構（第97図-8～14） 8～10は龍泉窯系青磁IV類底部で9の見込みには『大平』の文字が入った印花が施される。10は口折皿で外面に無鎬蓮弁が描かれる。12は龍泉窯系青磁IV～V類鏤縁盤で内面に幅の広い篋で蓮弁が施される。11は煙管雁首状の不明製品で半分を欠損する。13は元様式青花雲龍文罐と思われる胴部上位資料。主郭出土資料と接合関係を試みたが既報告試料とは接合しなかった。14は褐釉陶器底部資料。

[名 称] SR3 [位 置] Ⅲ・Ⅳ区とⅦ区の境界
 [検出面] Ⅰ層 [遺構構成] 土留め石積み
 [規 模] 南西―北東50m、幅2～3m
 [所 見] Ⅲ・Ⅳ区とⅦ区を区分けする南西―北東に延びる土留め石積みで、南西側でSR2に接し、北東側では城壁に接する。Ⅰ層より検出した土留め石積みで、後近代の耕作に伴うものと考えられ、土留めと同時に耕地の区画を行っていたものと考えられる。50～60cm大の古期石灰岩を無造作に積み上げており、規格性に乏しく、石積みの面は整わない。

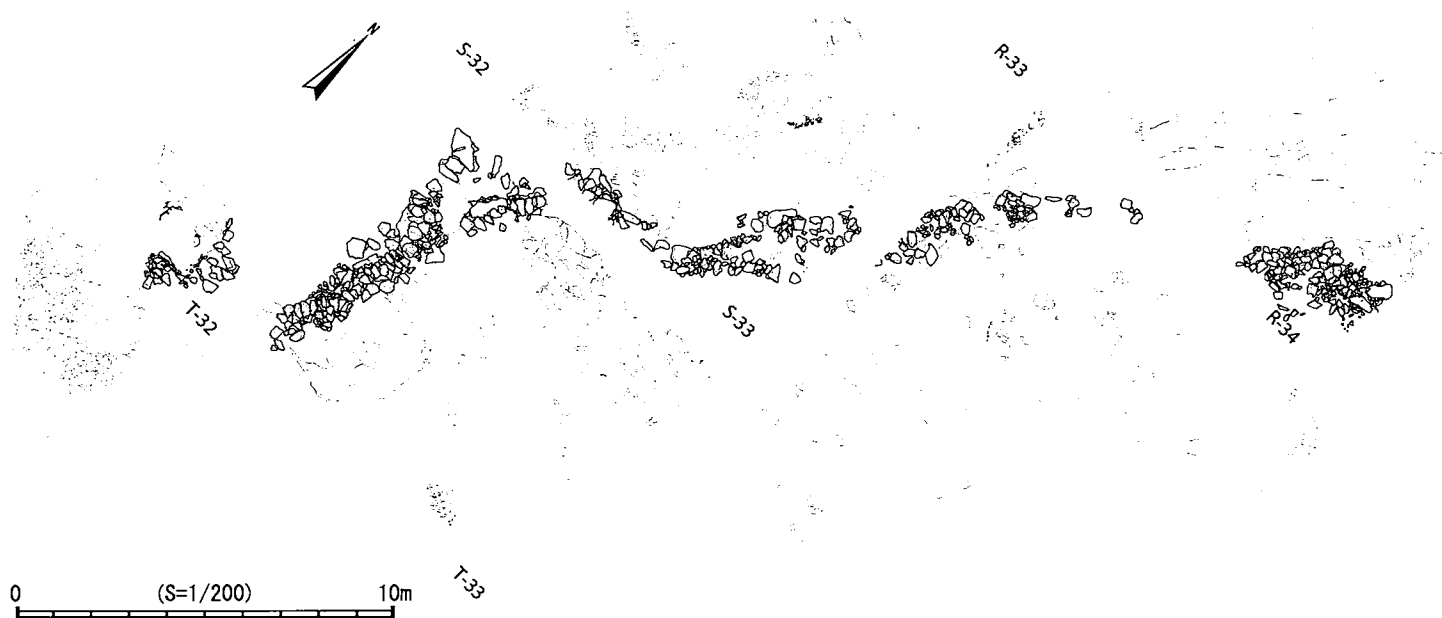


第98図 SR3位置図 (S=1/300)

SR3を撤去し、その下層を確認すると、法面に包含層及び第Ⅰ造成層の断面が切られたかたちで検出し、SR3によって包含層等が切られている状況が確認できた。そのためSR3を構築する際に包含層及び造成層が削平されたと考えられる。また、SR2とSR3が接する部分において、SR3の下層より、Ⅱ下層（15世紀代の遺物が主体的に出土）に伴う岩盤を利用した小規模の土留め石積みを確認された。そのことから、SR3を構築する際に削平が行われてはいるが、グスク時代の区画もSR3とほとんど重なるように存在したのではないかと考えられる。

[遺構内堆積層]

i層；10YR褐4/6の土層で層中に白色粒を多く含む。Ⅰb層がSR3内に流れ込んだものである。



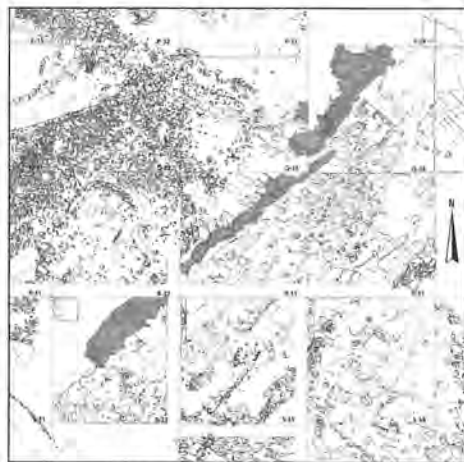
第99図 SR3遺構詳細図

〔名 称〕 SR4 〔位 置〕 VII区・VIII区の境界

〔検出面〕 III b層 〔遺構構成〕 土留め石積み

〔規 模〕 南西―北東38m、幅2～3m

〔所 見〕 VII区とVIII区を区画する南西―北東に延びる土留め石積みで、南西側では岩盤に接し、北東側では城壁に接する。SR4を調査したところ、S-32グリッドにおいて、SR4が第Ⅰ期～第Ⅲ期の3つの時期に分かれることが確認された。以下に第Ⅰ～Ⅲ期に分けて記述する。



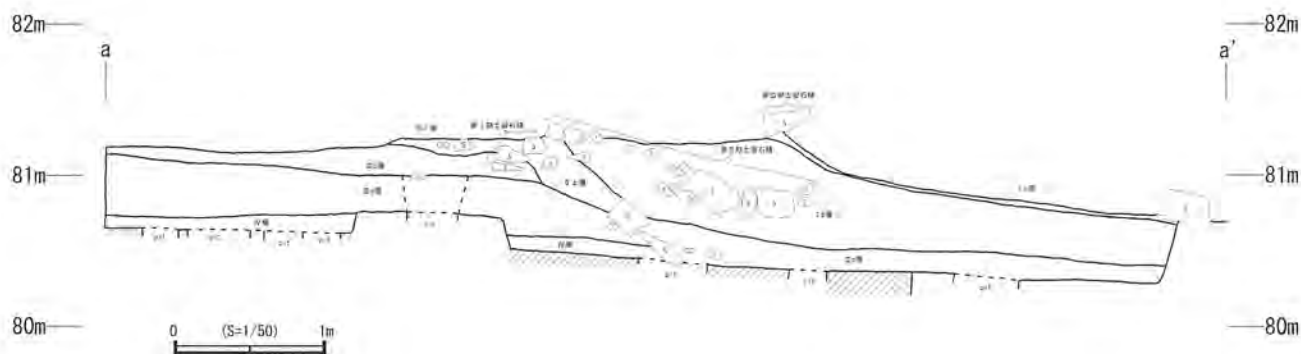
第100図 SR4位置図 (S=1/300)

第Ⅰ期土留め；Ⅰ層より検出した土留め（第Ⅱ期土留め）を撤去すると、その下層よりIII a'層またはIII b層より第Ⅰ期土留めが検出する。S-32、R-33、Q-34にまたがる

ように南西―北東方向に延びており、南西側では岩盤に接し、北東側ではQ-33で途切れるが、本来は城壁まで延びていたと考えられる。S-32、R-33北側及びQ-34南側では残存状況は良好であるが、R-33においては、崩落しており、残りは悪い。1 m前後の大型の石を一行に並べ、その間に30cm～50cm前後の石を配している。また、石を積み上げず、一段しか認められない。そのことから、急傾斜地を平場に造成するための土留めではなく、平場若しくは緩傾斜地の土砂（III a'層またはIII b層）の流出を防ぐために構築されたものと考えられる。

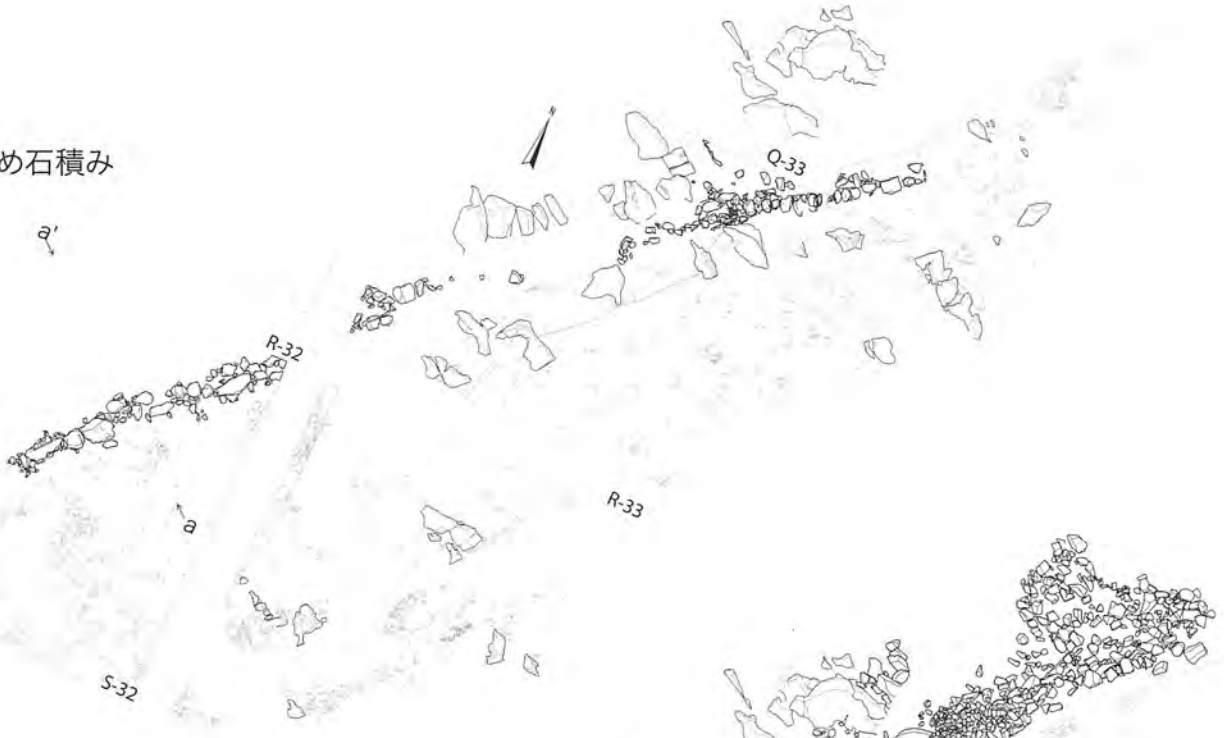
第Ⅱ期土留め；Ⅰ層及びⅡ層上面より検出した土留め石積みで、南西―東西に38mの長さを測り、幅は2m前後となり、南西側では岩盤に接し、北東側では城壁に接する。後近代の耕作に伴うものと考えられ、土留めと同時に耕地の区画を行っていたものと考えられる。50～60cm大の古期石灰岩を無造作に積み上げており、規格性に乏しく、石積みの面はととのわない。第Ⅰ期土留めの北西側に並行するかたちで延びている。

第Ⅲ期土留め；地表面に積み上げたもので構築年代はかなり新しいと考えられる。50～60cm大の古期石灰岩を1～2段積み上げたもので6m70cmの長さを測る。区画のために石を配した可能性が高い。

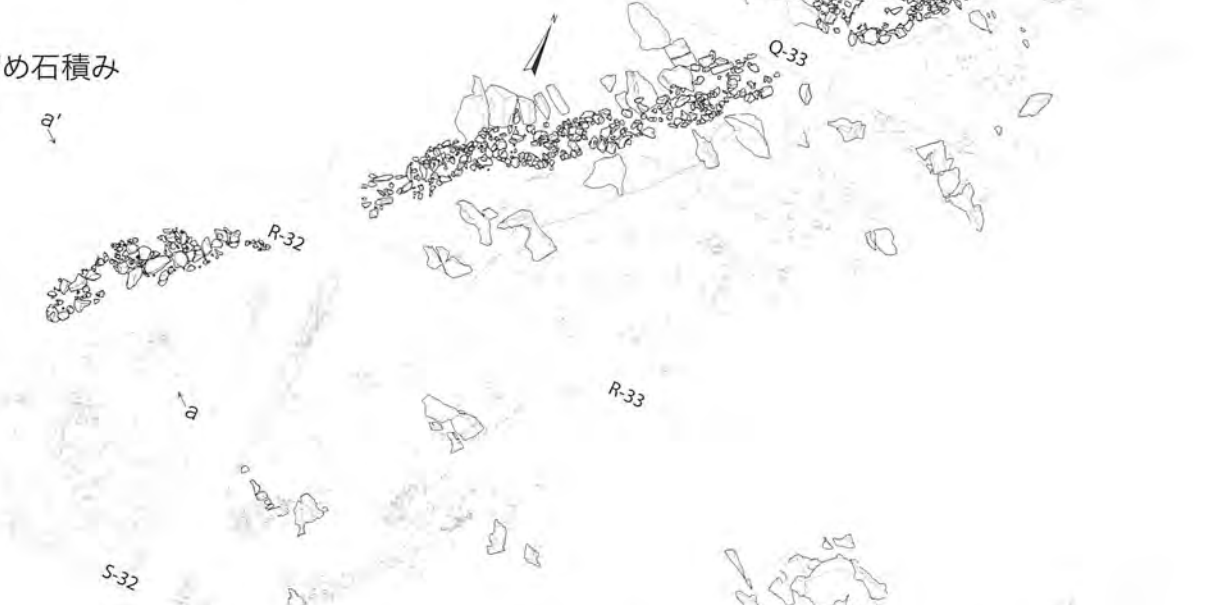


第101図 SR4遺構詳細図

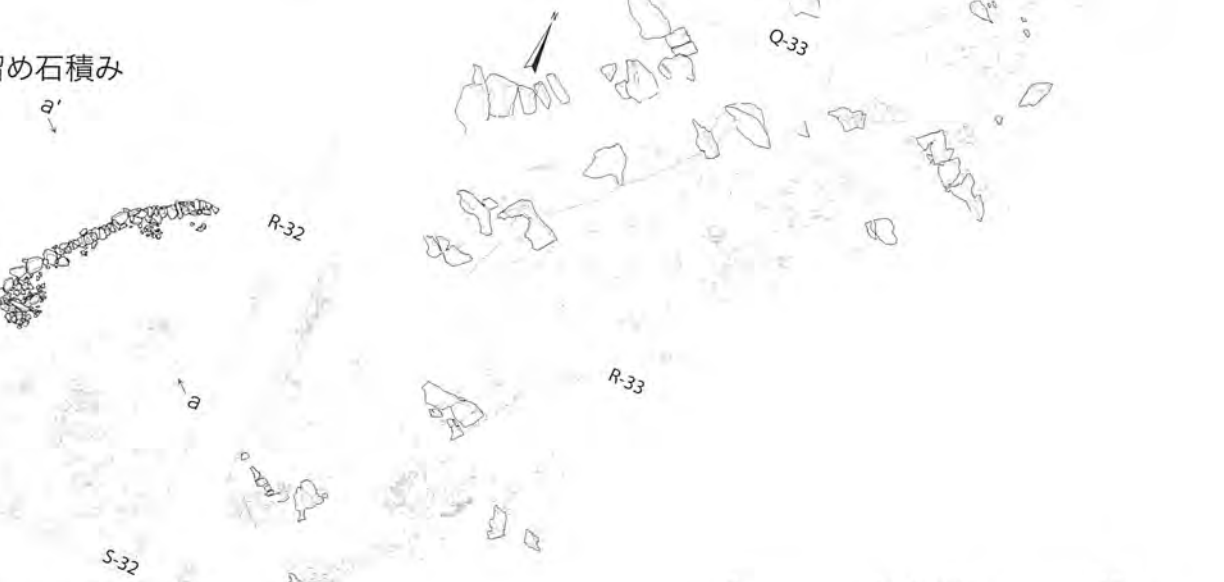
第Ⅰ期土留め石積み



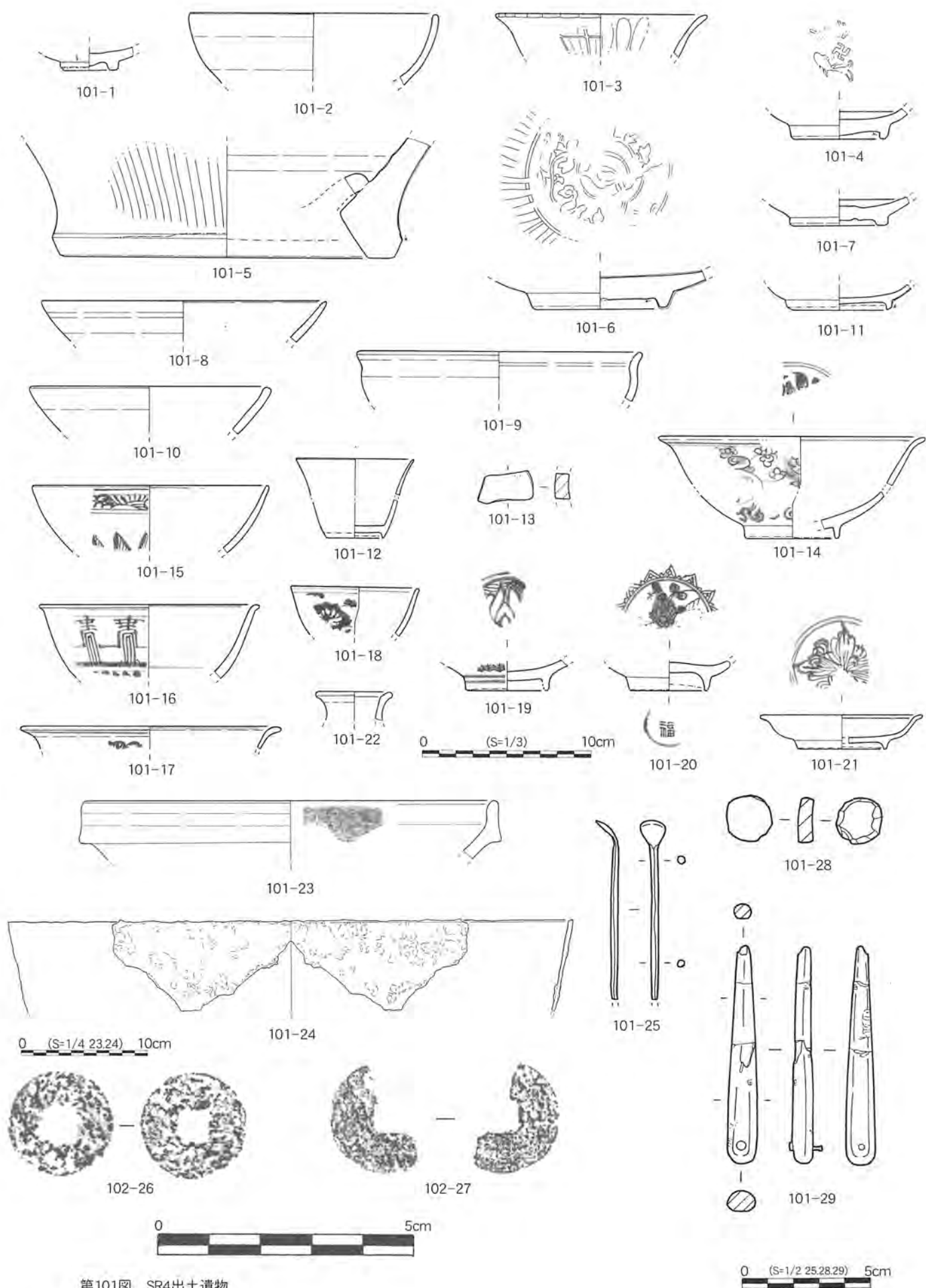
第Ⅱ期土留め石積み



第Ⅲ期土留め石積み



第102図 SR4遺構詳細図



第101図 SR4出土遺物

〔遺物〕 第101図はSR4から出土した遺物である。

1.青磁（第101図-1～6）

1は龍泉窯系Ⅳ類底部で見込みが凹む。2は同ⅤⅥ類口縁部資料。3は同Ⅵ類の菊花皿。4は同Ⅴ類底部で外底を蛇の目釉剥ぎする。5は酒会壺の底部資料。6は同Ⅴ類盤底部資料。

2.白磁（第101図-7～12・22） 7はA群（口禿・景德鎮窯系）の碗資料。8はG群（今帰仁タイプ・浦口窯系）。9はC3群（無文外反・閩清窯系）。10はD'群（邵武窯系）。11・12はE群（景德鎮窯系）の皿と杯。22は瓶の口縁部。

3.青花（第101図-13～21） 13は元様式青花小破片でラマ式蓮弁の一部を観察できるが器種は不明。14は外反する碗B1群資料で外面に唐草文を施文する。15・19はG'群で外面に蕉葉文を施す。16は徳化窯系の外反碗で、上位より「寿」、界線、簡素化した蓮弁を描く。17はC'群の小破片。18は漳州窯系の小碗と考えられ外面に花文が描かれる。20は饅頭心となるE群資料で見込みにモチーフ不明の文様、外底に「福」字が施される。21はB1群の端反り皿で外面に草花文、見込みに十字文を施文する。

4.備前（第101図-23） 23は備前焼の播鉢で口縁部のみの資料のため播り目の数は不明。

5.金属製品（第101図-24・25） 24は直線的に立ち上がる鉄鍋。25は青銅製の簪。

6.銭貨（第101図-26・27） 26・27は無文銭。

7.遊具（第101図-28） 28は陶磁器を打割成形した円盤状製品。

8.骨製品（第101図-29） 29は獣骨を加工して作られた歯ブラシの柄で、下端部に孔を空けて棒状の金具（?）を通す。

2.Ⅶ区出土遺物

Ⅶ区は面積約500m²の平坦面で、北・南側に土留め石積みを配し、西はSR2、東は東側城壁に囲まれる地域である。Ⅲ・Ⅳ区に比較すると北側に一段下がるテラスとなっている。Ⅲ・Ⅳ区と比較すると、出土する遺物にも変化がみられ、青花の出現、青磁では龍泉窯系Ⅵ類（いわゆる細蓮弁文碗）が出土するようになる。また、Ⅶ区から一段下がるテラスであるⅧ区（現在調査中）から出土する遺物は更に一段階新しい遺物を含んでいる。この各テラスの出土状況はある程度一括性が高いものであり、当該遺跡の土地利用の変遷を考える上で重要である。

Ⅶ区出土遺物（第102～110図）

1.土器（第102図-1～6、10・11） 土器はいずれもグスク時代に属するもので、総じて粘板岩を混和材として用いる特徴を持つ（第3様式）。1・3は鍋形、2・4・5は壺形土器の口縁部資料。6は器種不明の底部資料。10・11は宮古式土器で器面に細かいポーラスが確認できる。10は短頸の甕形土器で表裏面丁寧な器面調整となる。11は壺形土器で外面は滑らかに器面調整される。

2.カムイヤキ（第102図-7～9） 7は厚手の造りとなるB群の壺で、口縁はやや外傾直立し、口縁端部は平坦となる。8は器種不明の底部。9は水注の注口部分。

3.瓦質土器（第102図-12・13） 12・13は沖縄産瓦質土器である。ともに播鉢と思われるが、口縁がくの字に曲がる12は播り目が確認できないので鉢の可能性はある。

4.青磁（第102図-14～22、第103図、第104図） 碗：14～16は劃花文碗（龍泉窯系Ⅰ類：以下龍泉窯系省略）。14の内面に片切り彫りの文様が描かれる。18～20はⅡ類。17の底部はⅠ類もしくはⅡ類。21はⅢ'類の底部。見込みは凹み畳付の釉を掻き取る。22はⅣ類底部で見込みが凹みⅢ類の影響を強く残す。第103図-23は外面口縁直下に弦文を施す資料で（Ⅳ類）、主郭Ⅵ・Ⅶ層において類例がある。24～27はⅤ類。24は内面に陽花文を施す。28・29はⅣ類（29は釉調よりⅡ類の可能性もある）。30はⅤ～Ⅵ類。31・32はⅤ類口縁部で口縁直下に雷文を施す。31はヘラで、

32はスタンプで施文する。43～45はⅥ類口縁部資料で外面に細蓮弁を施文。46は口縁外面に波濤文を施す（Ⅶ類）。33～37、39～42はⅤ類底部。38、47～50はⅥ類底部資料。51は泉州窯系碗の底部で釉調は黄灰色、胎土は黒色鉍物を含む。52・53は直口口縁に接地面の広い高台を持つ粗製碗で漳州窯系とされる。皿：第104図-54・55は見込みに櫛描文を施す同安窯系底部資料。56～61はⅣ～Ⅴ類の口縁部資料。62はⅣ類、63・64はⅤ類、65・66はⅥ類。盤：67～70はⅤ類盤である。67は鏝縁口縁で内体面4本櫛の蓮弁を、69は幅広の蓮弁を施す。杯：71・72は小杯。72の底部は外面下段に段をつくって僅かに高台とする。73は外面に隆帯文、内外体面に幅広の蓮弁文、74は見込みに印花文、外面に線刻蓮弁を施文する。75・76は馬上杯。75は脚部を欠損し雑な線刻蓮弁を施す。76は脚部の一部が残る。播鉢：77は直口気味に逆ハの字に広がり口縁付近で微弱に外反する播鉢で、施釉は口唇内面、内面に4本の櫛目を確認できる。瓶（水注？）：78は口縁端部を上方に摘み上げる。79は胴部で圈線下段に蓮弁、上段に草花文を施す。壺蓋：80は酒会壺の蓋で外面に陽刻の文様を施す。

5.白磁（第105図） 碗：81・82はA群（口禿・景德鎮窯系）の碗資料。82は見込みが凹み外面無釉となる。83～85はF群（今帰仁タイプ・浦口窯系）。86はC1群（ビロースクⅠ・閩清窯系）、87・88はC2群（ビロースクⅡ・閩清窯系）、89・90はC3群（無文外反・閩清窯系）となる。91はG群（甫田庄辺窯）で内体面に幅広蓮弁を施す。92～94はD'群（邵武窯系）で内外腰部以下を露胎とする。皿・杯：95～98はA群（口禿・景德鎮窯系）の皿資料。99～104はE群（景德鎮窯系）の皿と杯。99～102は皿、103は小杯、104は馬上杯の脚部。105・106はD群（邵武窯系）の皿。107はD'群（邵武窯系）の燈明皿。

108は白磁もしくは青白磁で型造り、高台内の削りが浅い。

6.青花（第106図-109～131） 109・111・112は元青花。109は鏝縁盤。111・112は1個体と考えられ蔓唐草を描く資料で器種は不明（合子蓋か？）。110は瓶の肩部にあたる。碗：113～115は外反するB1群の資料。116・117はC群碗。いわゆる蓮子碗となる資料。118は直口手の碗口縁部。119・120はD群。120は見込みに十字文を施す。121・122は陶胎で釉に透明感がない粗製碗で見込みは蛇の目釉剥ぎされる。いわゆる漳州窯系のものと思われる資料。皿：123はB1群（端反皿）、124～126はC群（碁笥底皿）。127はE群、直口線で外面に唐草文。128は瓶の口縁部資料で蕉葉文を施す。杯：129は短い筒型の器形で腰折れ、外体部中央に一条の隆圈線を廻らす。130は合子蓋で口唇から内面は露胎となり、区画内に花文を施す。131は水注等の把手に貼り付けられる蟠竜の一部と思われる資料。

7.黒釉（第106図-134・135） 県内のグスク出土資料として一般的な天目碗で南平茶洋窯が産地とされる。

8.三彩（第106図-136） 136は華南三彩胴部資料で小破片のため器種は不明（壺もしくは水注）。

9.緑釉（第107図-151） 151は華南緑釉水注底部と思われる資料。

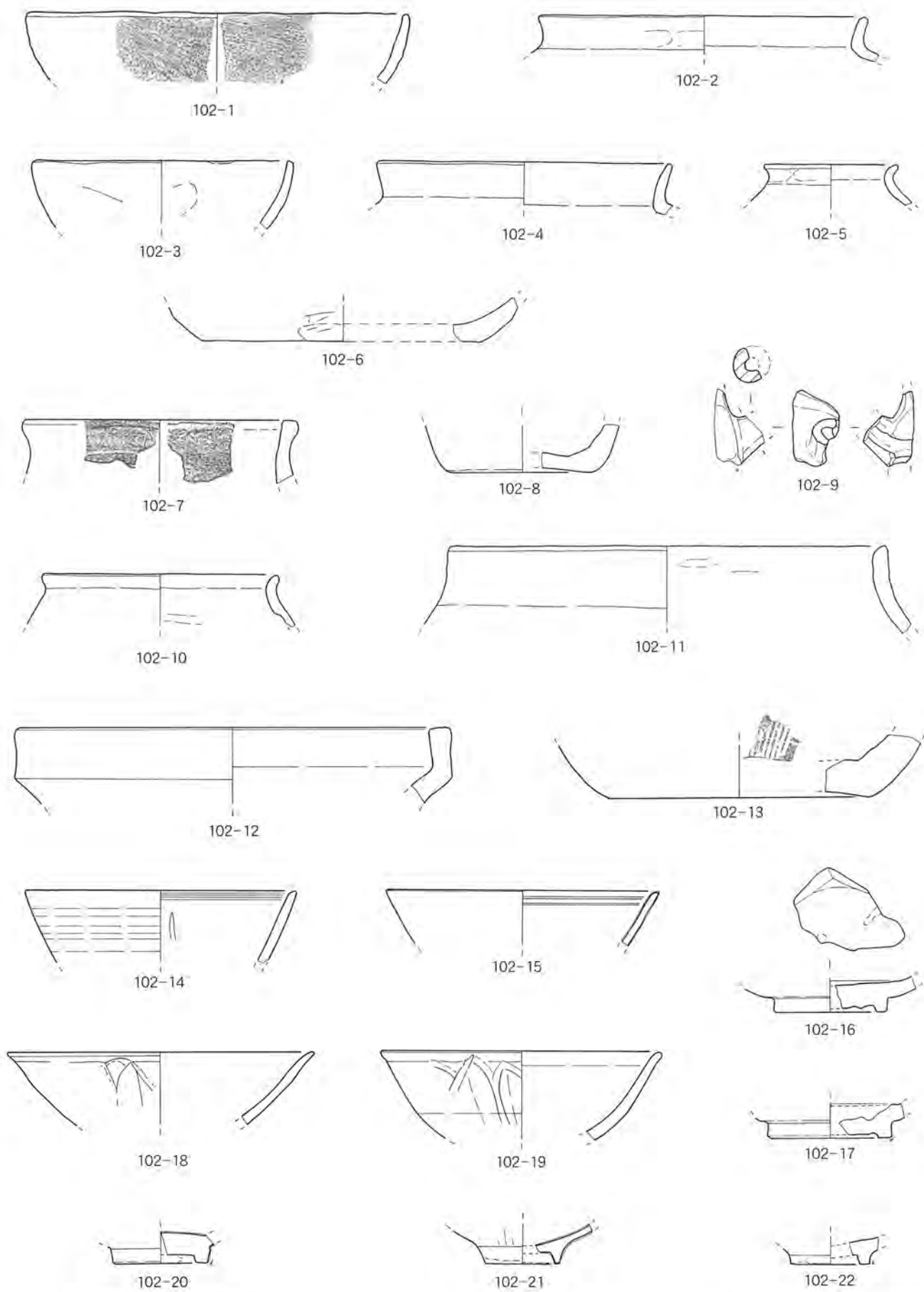
10.瑠璃釉（第106図-137） 白色微粒子の磁胎で内面に白磁釉を施し、外面に瑠璃釉を厚く施釉する。

11.翡翠釉（第107図-152） 酒会壺の胴部資料で主郭資料と同一モチーフのものがある。

12.褐釉陶器（第107図-139～148） 139～142は口縁部が方形となる大型の壺資料（5類）。143は頸部を直線的に立ち上げ、口縁部はフの字型に折り曲げ口唇は平坦なつくりとなる（1類）。144は玉縁口縁となる小壺。145は短頸の小壺で横耳がとりつく。口唇の釉は掻き取られる。146は頸部を直線的に立ち上げ口縁部を方形に肥厚させる大壺。新里村遺跡で類例がある。147は急須で口縁内面が内側に張り出し蓋受けとなる。148は急須の注ぎ口と思われる資料で、形状が亀の顔となる。頬の2箇所孔に孔を設け内面は雑に仕上げられる。

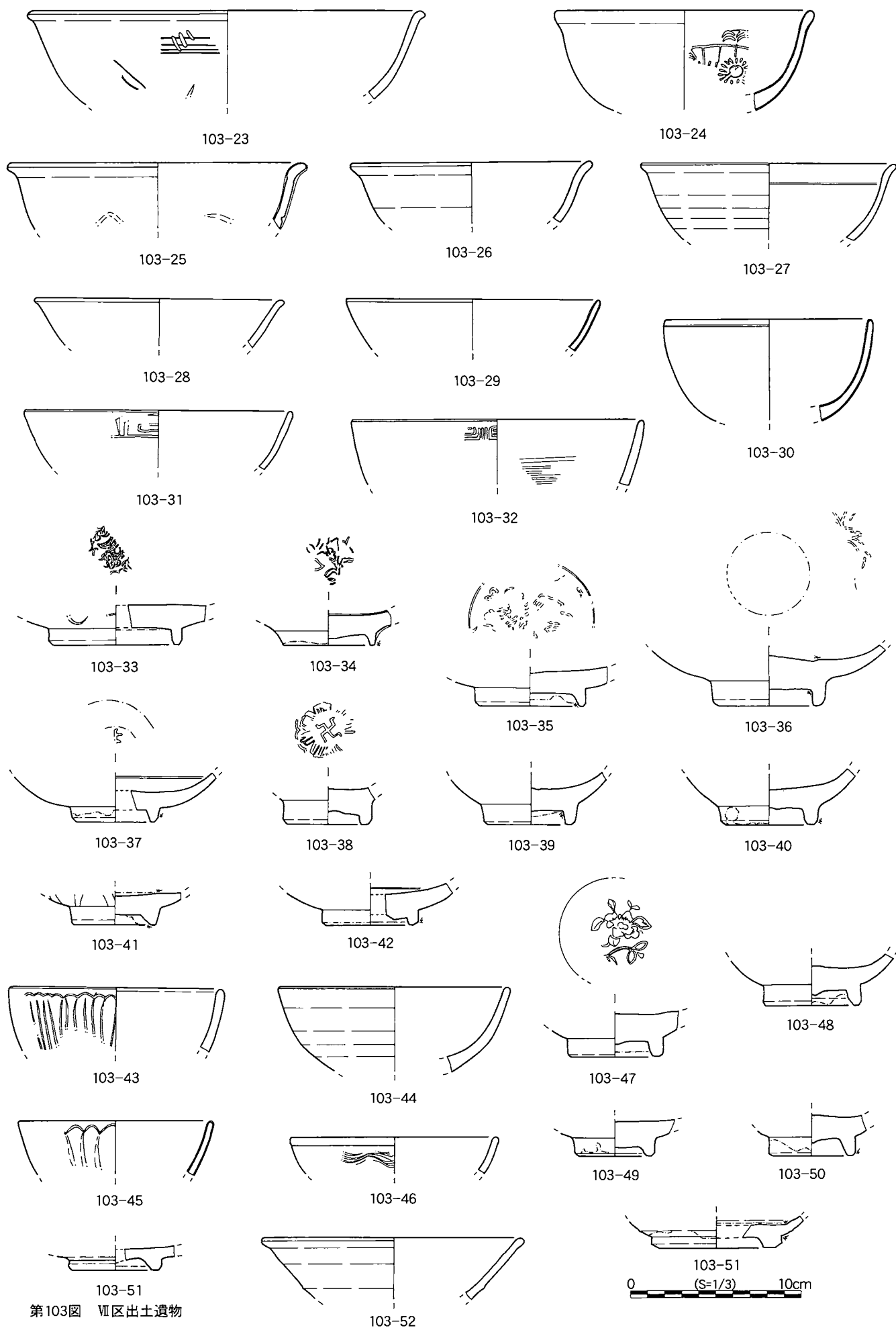
13.中国産焼締陶器（第107図-150） 150は蓋と考えられる資料で接地面は平坦につくられる。

- 14.本土産陶磁 (第106図-132・138) 132は肥前染付碗の資料である。高台径は小さく薄手のつくりとなる。見込みには動物文(?)の一部が施文される。138は青磁の底部で外底に押印される。
- 15.ベトナム陶磁 (第106図-133、第108図-161~166) 133は端反りの色絵碗で内外面上位に赤色の顔料で圈線を配し、中位に蔓唐草、緑で葉を表現する。161は青花壺の底部。ラマ式蓮弁が描かれる。162は青花小壺の胴部で肩部上部に梅文、下部に区画文。163~165は白磁碗で口唇は口禿、内体面に型押しによる青海波の一部が見られる。166は合子の身である。
- 16.タイ陶磁 (第107図-149、第108図-156~160) 149は強く外反し肥厚するノイ窯系の壺で素地に黒色鉱物を多量に含む。156は半練土器。157・158はシーサッチャナライ窯系の資料でラッパ状に外反する器形となる。159・160は鉄絵合子の身口縁部資料。蓋受口となる口唇部は露胎となり胴部に圈線・格子文を施す。
- 17.沖縄産陶器 (第107図-153・154) 153は無釉陶器碗の底部。154は沖縄産の瓦質土器で蓋と思われる資料で、首里城京の内や渡地村跡で報告例がある。
- 18.高麗陶磁 (第108図-155) 直線的に立ち上げ口縁付近で若干外反させる。内外面に数条の圈線、内面に菊花の簡略化された文様等を施す。
- 19.銭貨 (第108図-167~171) 167は崇寧重寶(北宋・1103:当十銭)、168は祥符元寶(北宋・1008)、169は開禧通寶(南宋・1205)。170は不明、171は無文銭。
- 20.金属製品 (第109図) 172~190は青銅製品である。172は鍍金の施された縁金具。173は環座で中央に中央に円形の孔を穿つ。174は用途不明金具で小さい孔を穿つ。175~178・180・181は板状製品の破片で全形を窺えないため詳細は不明であるが、177はバックル状の製品となるか。179は棒状製品で半分をU字のつくりとする。182は細い円柱状のつくりとなる目釘。183・184は先が尖り細く棒状の資料で針のような用途なのか詳細は不明。185は釘。186は詳細不明製品。187は釦状の不明製品。188は溶解した製品。189は煙管の吸口。190は輪状金具。191~205は鉄製品。191~194は刀子で腐食が著しい。195は釣針。196~203は釘。寸法にばらつきがある。204は不明製品(釘?)。205は農耕具(篋)で完形品。
- 21.玉 (第110図-206~225) 206は上部を欠損したガラス製(明灰青色)の勾玉。207は管玉(主郭Ⅱ類)で明青色が風化して白色化する。208は石製の丸玉。209~218は主郭Ⅲ類b2種となる丸玉。209(透明)、210(浅青色)、211・212・214・216・218(白色)、213(明青色)、215(強青色)、217(明灰緑青)。219~225は主郭Ⅲ類c種。219・221・222~224(白色)、220(浅緑青)。225はc種が3つ癒着する(明緑青)。
- 22.遊具 (第110図-226) 226は白磁を打割成形した円盤状製品。
- 23.石器 (第110図-227~229) 227は頁岩製の用途不明製品である。勾玉状の曲線を呈し、上面両端部より切り込みを入れる。228は玢岩製の砥石。229は安山岩製の敲石。

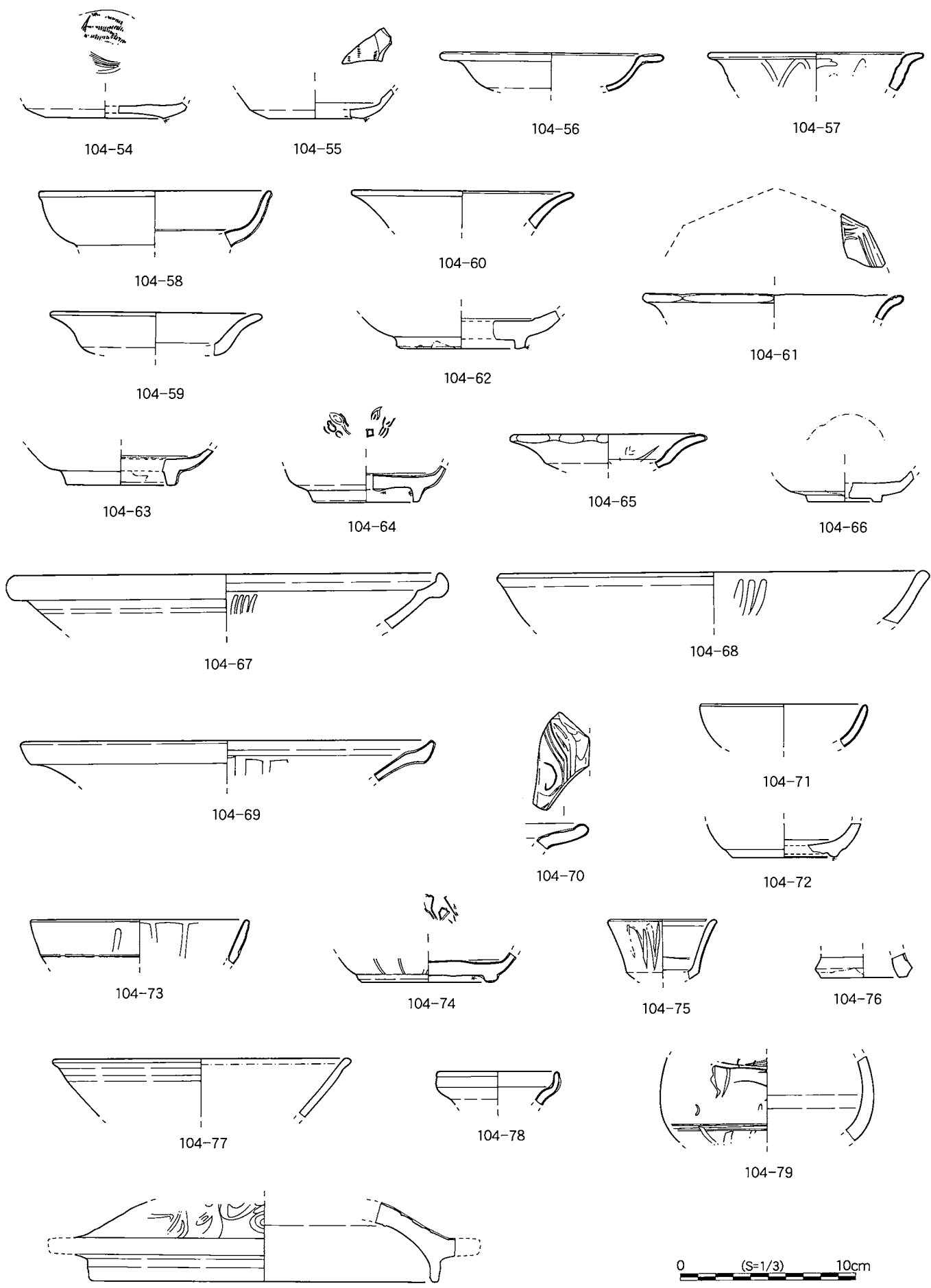


第102图 VII区出土遗物

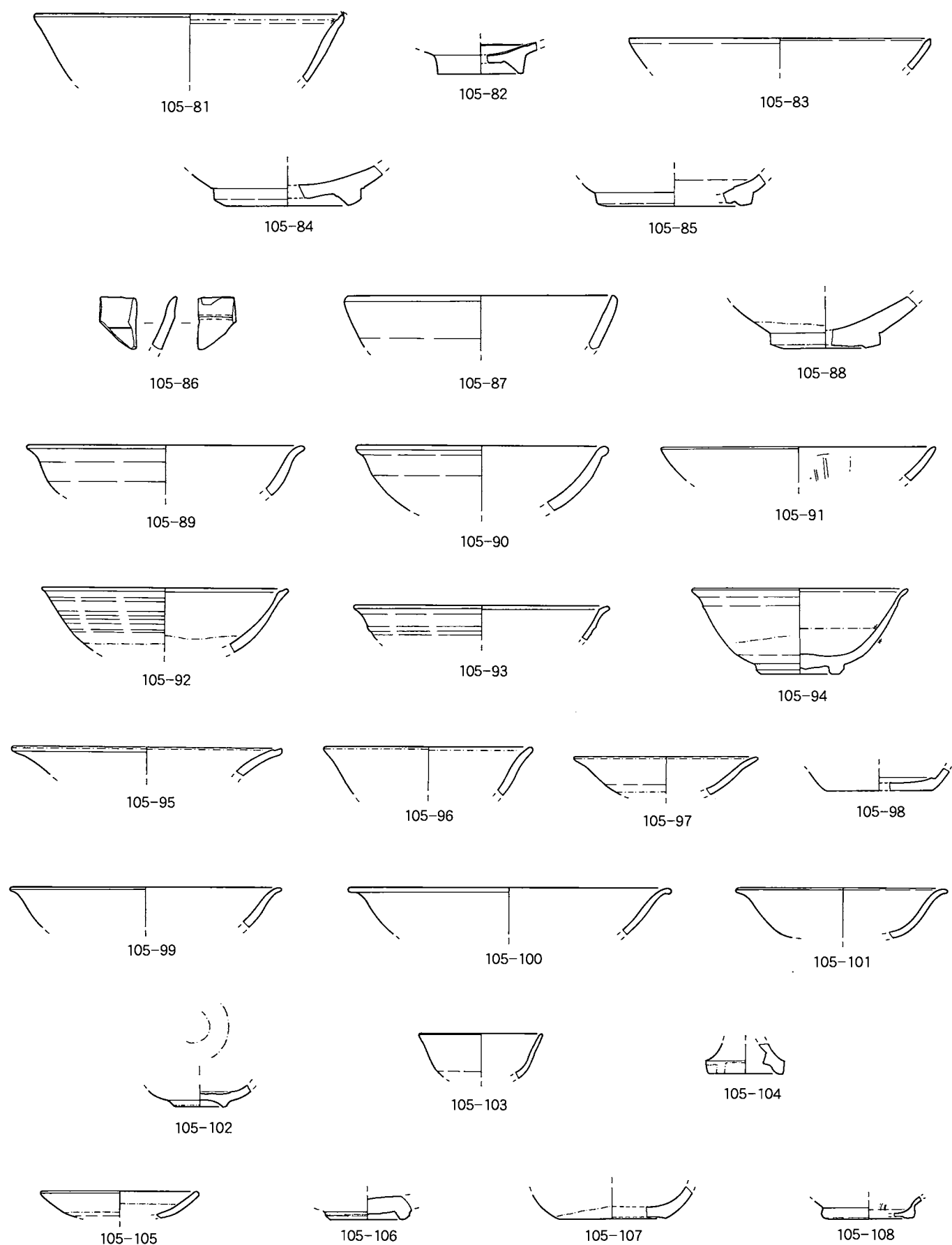
0 (S=1/3) 10cm



第103图 VII区出土遗物

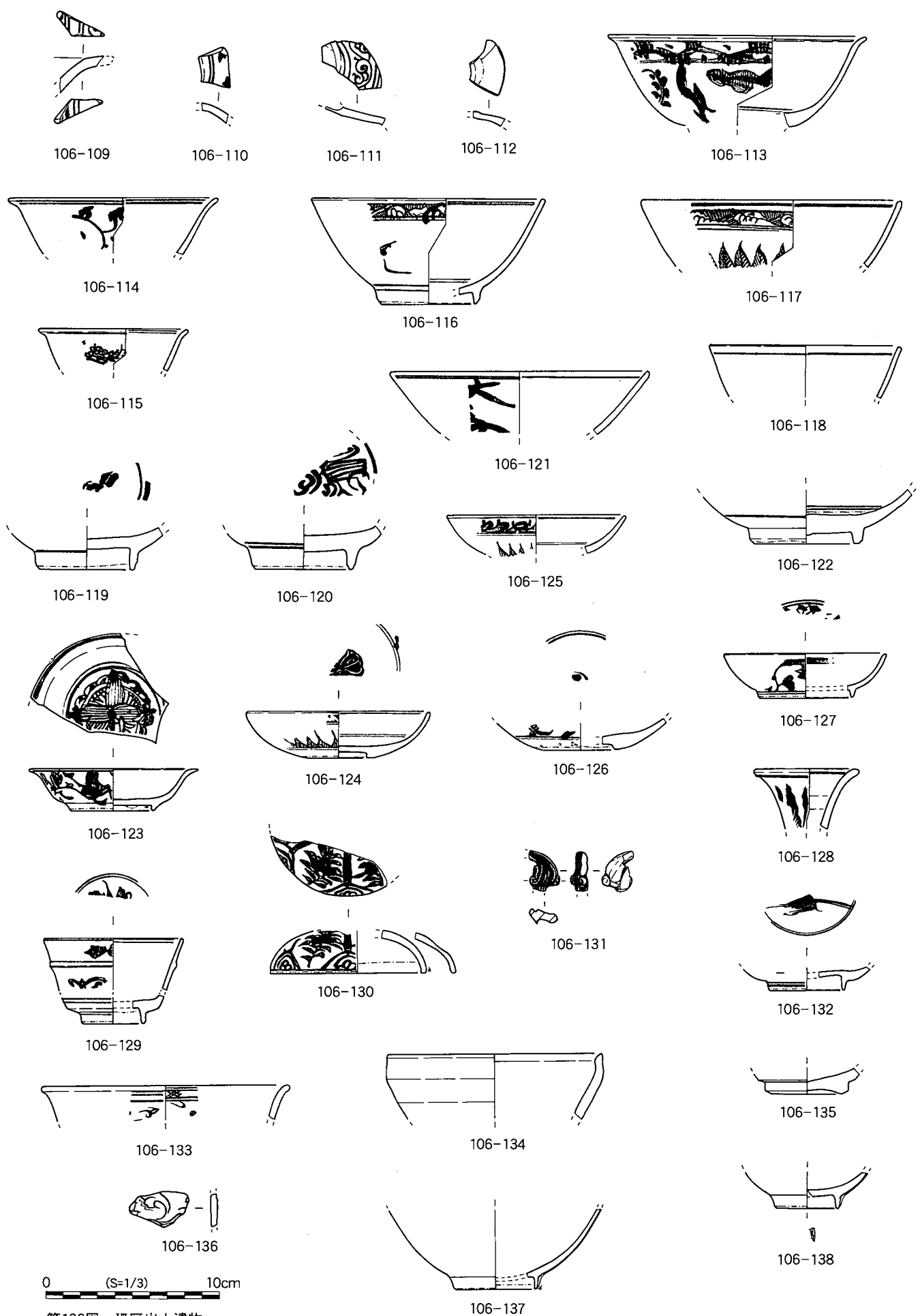


第104图 VII区出土遗物

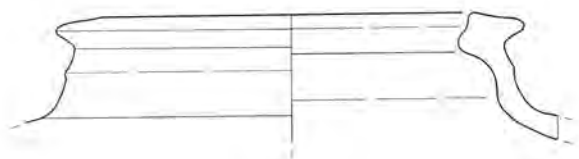


第105图 VII区出土遗物

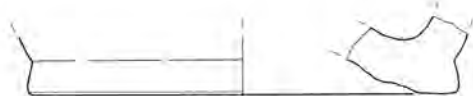
0 (S=1/3) 10cm



第106图 VII区出土遗物



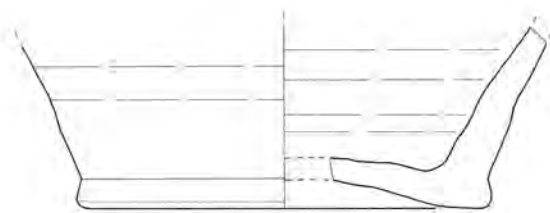
107-139



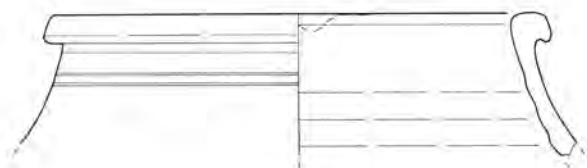
107-140



107-141



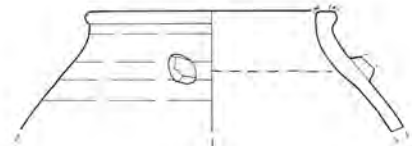
107-142



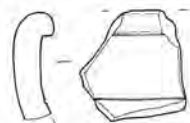
107-143



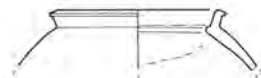
107-144



107-145



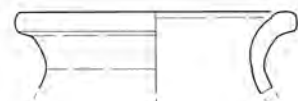
107-146



107-147



107-148



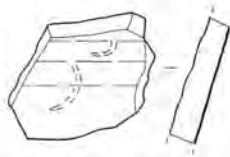
107-149



107-150



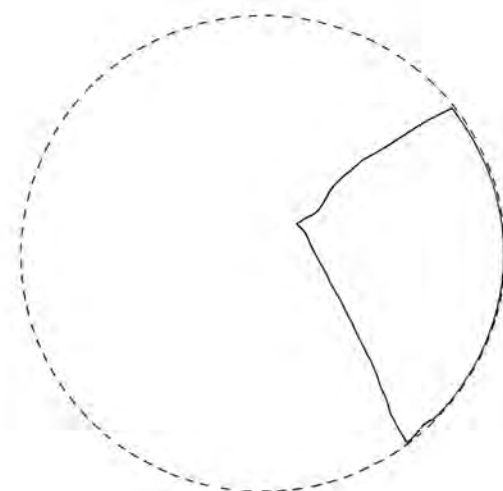
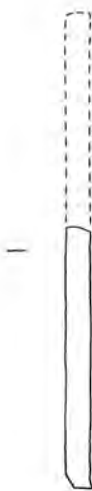
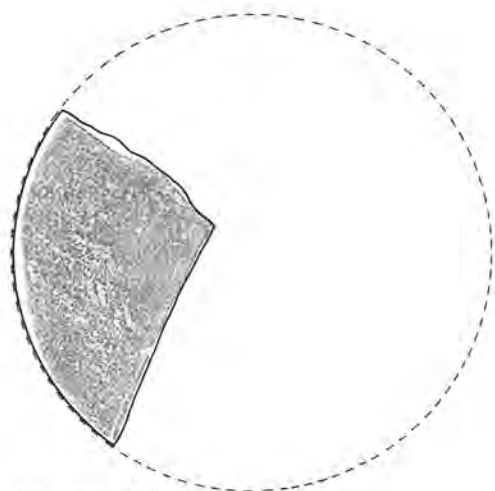
107-151



107-152



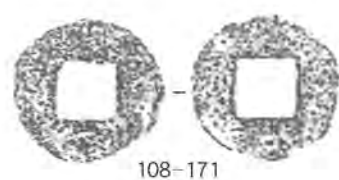
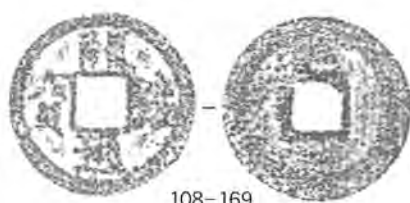
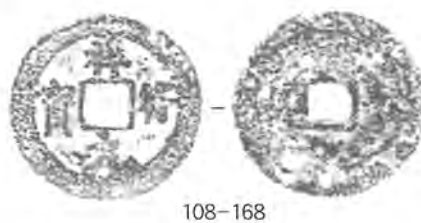
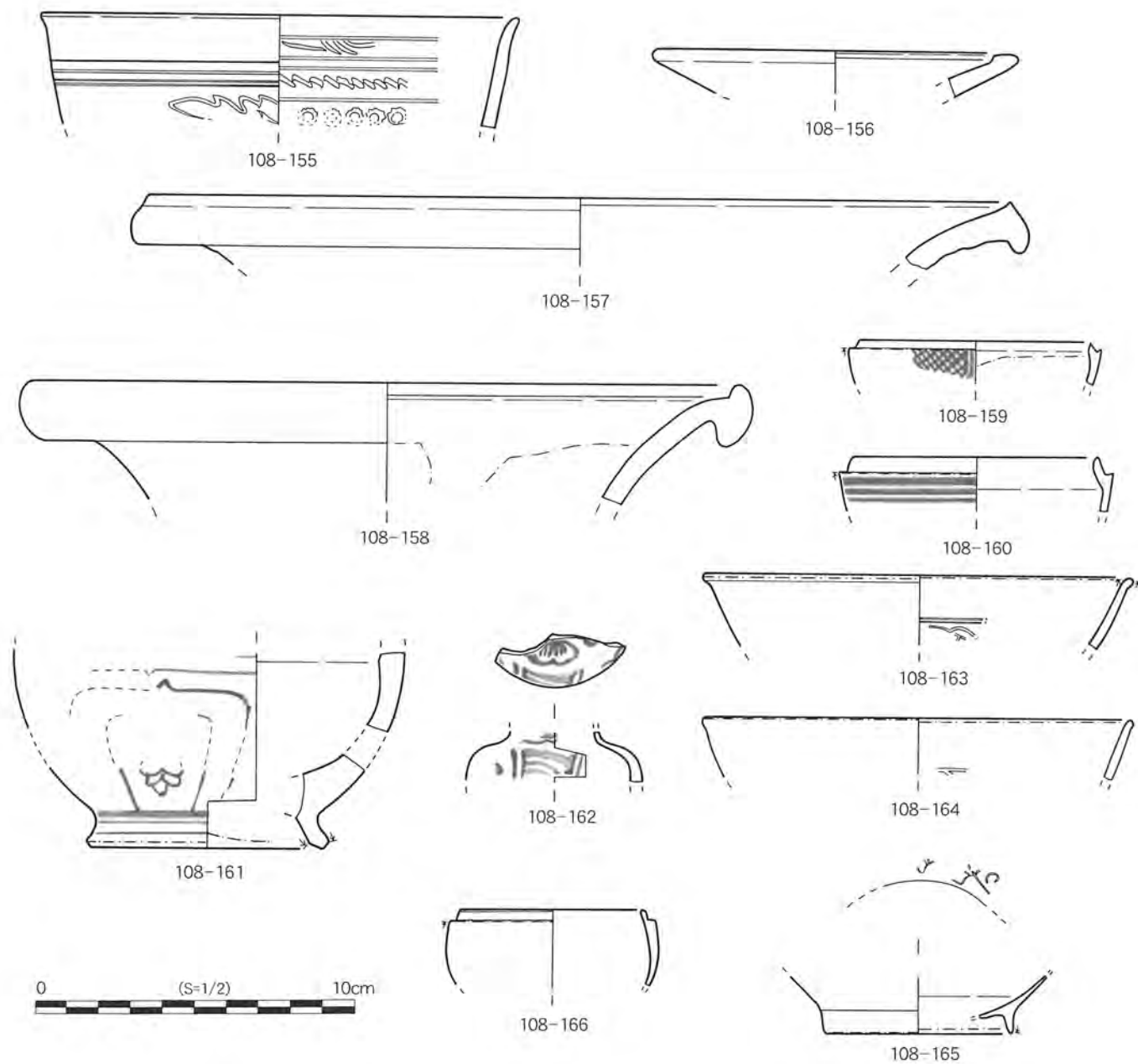
107-153



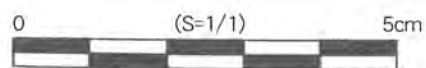
107-154

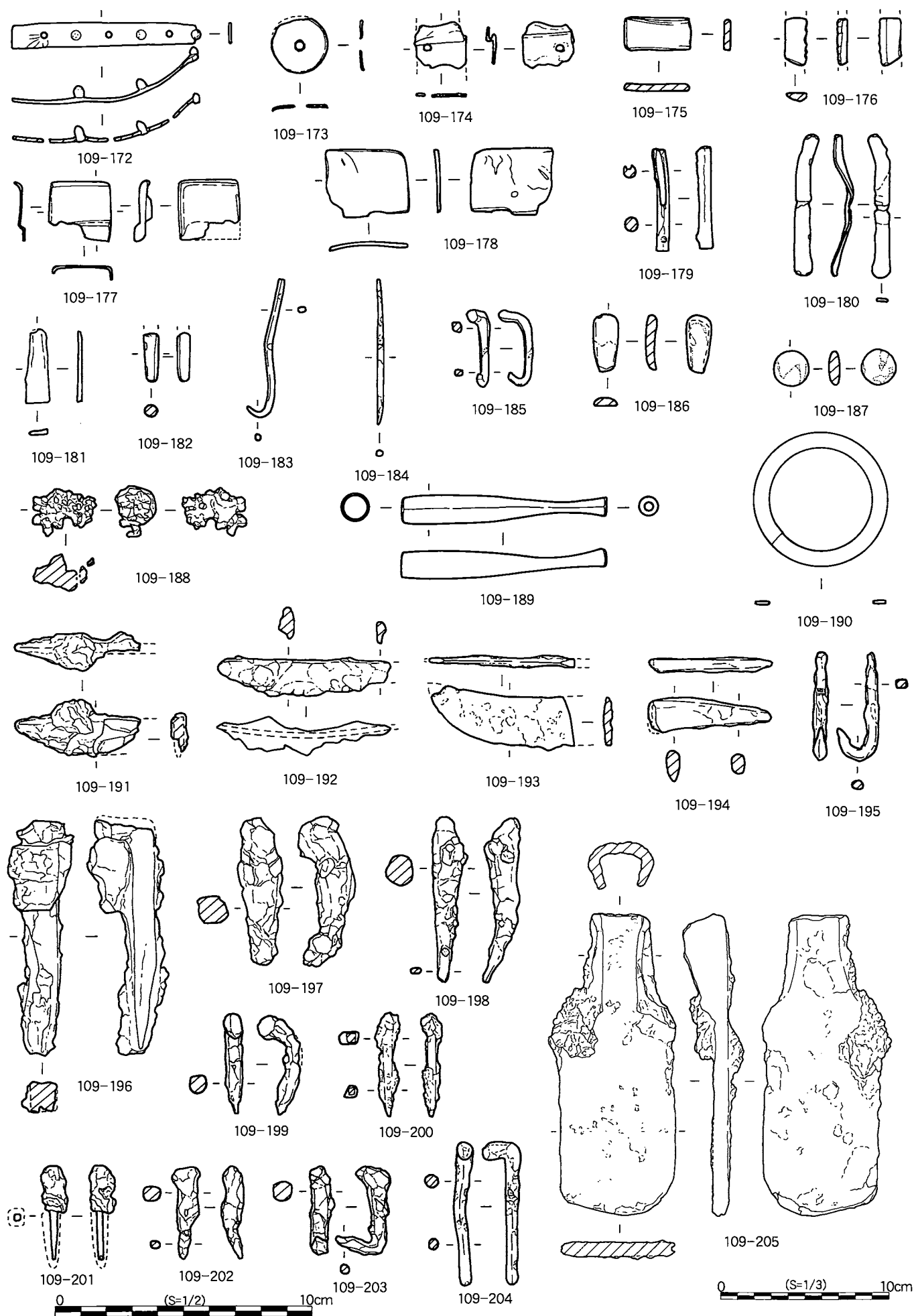
第107图 Ⅶ区出土遗物

0 (S=1/3) 10cm



第108图 VII区出土遗物



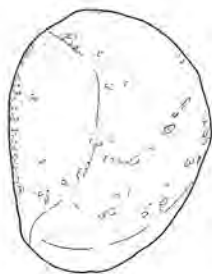
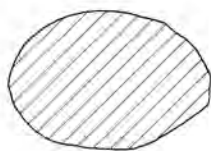


第109图 VII区出土遗物

第110图 Ⅶ区出土遗物

0 (S=1/3) 10cm

110-229



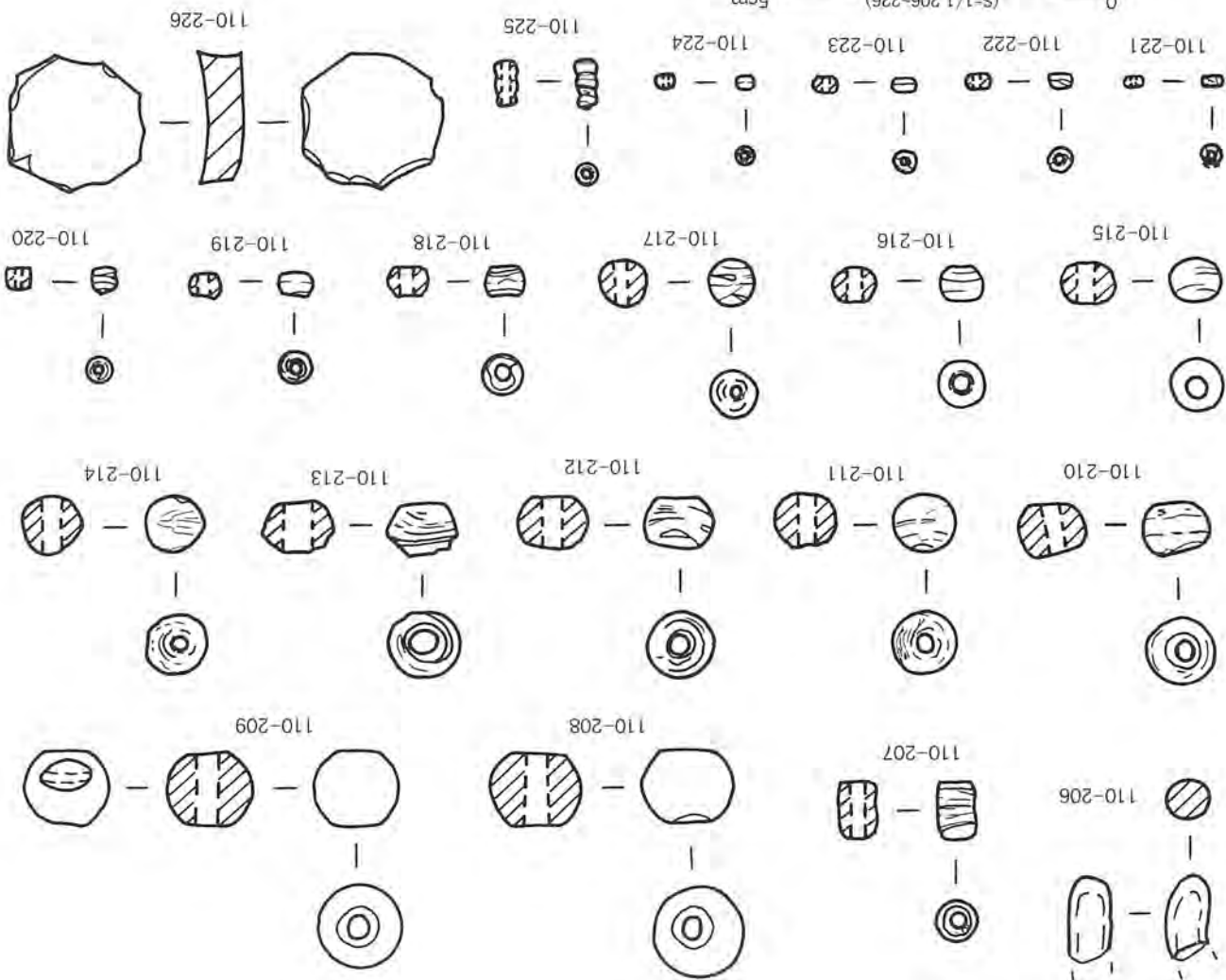
110-227



110-228



0 (S=1/1 206-226) 5cm



種別	器種	分類	文様等	部位	Ⅶ区出土遺物																			破片数小計	推定個体数				
					I層	II上	I+II上	III層	SR4+III層	I+III	IIIa	SR4+IIIa+II上	II上+IIIa	IIIb	II上+III+IIIb	I+III+IIIb	I+III+IIIb	IIIc	IIId	IIIe	IIIf	IVa	III+IVa			IVb	SR4+IVb	SR4I層	SR3I層
青磁	碗	同安窯系Ⅰ類	櫛描文	口縁	1	1																					2	2	
		龍泉窯系Ⅰ類	劃花文	口縁	8	4				1		2															0	11	
				底部	2	2																					15		
		龍泉窯系Ⅱ類	鎚蓮弁	口縁	25	9	1	3		1		3							1							2	44	24	
				底部																									1
		龍泉窯系Ⅲ類	砧手	口縁	2																							2	2
				底部																								0	
		龍泉窯系Ⅳ類	無鎚蓮弁	口縁																							1	1	1
				底部																								0	
			弦文帶碗	口縁	4																							4	3
				底部	20	7		6		4	2		6																
		龍泉窯系Ⅳ～Ⅴ類	無文外反	口縁	166	27		53		24	12		50							3		2						337	290
				底部																									
		龍泉窯系Ⅳ～Ⅴ類	外反(内面有文)	口縁	13	3	1	5		1			4															27	16
				底部	24	10		7		3			5															49	
			蓮弁文	口縁																								0	0
				底部																									
		雷文帯	口縁	5	6		4			2		3																20	18
			底部																									0	
		龍泉窯系Ⅴ類	無文外反	口縁																								0	0
				底部																								0	
			無文直口	口縁																								0	0
				底部																									
		不明	口縁	18	4																								

114

第6表 外郭VII区出土遺物集計表 (2)

種別	器種	分類	文様等	部位	Ⅶ区出土遺物																				破片数小計	推定個体数				
					I層	Ⅱ上	I+Ⅱ上	Ⅲ層	S R 4+Ⅲ層	I+Ⅲ	Ⅲa	S R 4+Ⅲa+Ⅱ上	Ⅱ上+Ⅲa	Ⅲb	Ⅱ上+Ⅲ+Ⅲb	I+Ⅲ+Ⅲb	I+Ⅲ+Ⅲb	Ⅲc	Ⅲd	Ⅲe	Ⅲf	Ⅳa	Ⅲ+Ⅳa	Ⅳb			S R 4+Ⅳb	S R 4 I層	S R 3 I層	S R 3+4
白磁	碗	大宰府分類Ⅳ類	白磁	A群(口禿)	口縁																						0	0		
					底部	1			1																					3
		福建浦口窯	F(今帰仁)	口縁	2																							2	2	
				底部	2																								2	2
			C1(t'p-s1)	口縁	1																							1	1	
				底部																									0	0
		福建閩清窯	C2(t'p-s2)	口縁	10	4	1			2												1		1				19	15	
				底部		1																							1	1
			C3(無文外反)	口縁	27	14	1	2		8														1	5			58	32	
				底部		1																							1	1
		景德镇窯系	E群	口縁		2							1																3	2
				底部																									0	0
		福建庄辺窯	G群	口縁																						1			1	1
				底部																									0	0
		D1(直口碗)	口縁																									0	0	
			底部																									0	0	
	福建邵武窯	D2(内轆型)	口縁																					2			2	1		
			底部																									0	0	
		D2(端反り)	口縁	6	14	1	7		1		2												3				34	20		
			底部	2	1																		1				4	4		
	皿	景德镇窯系	A(口禿)	口縁	21	5	2				3												3				34	36		
				底部	8	1	1																					10	10	
		景德镇窯系	E群(外反皿)	口縁	10	7	5		4														6			32	23			
				底部	5	9	2		1				3											3			23	8		
		景德镇窯系	E群(小皿)	口縁	2	2	1		1		2																1	6		
				底部		1																						0	0	
		不明	型作り皿	口縁																								1	1	
				底部	1																							1	1	
		福建邵武窯	D1群(小皿)	口縁	6	2	2		1		3																	14	12	
				底部	4																							4	4	
		福建庄辺窯	G群	口縁																								0	0	
				底部																								0	0	
	杯	燈明皿	D2(燈明皿)	口縁	1																						1	4		
				底部	2	2																					4	4		
		福建庄辺窯	D1(八角杯)	口縁	6				1		1																8	2		
				底部																							0	0		
瓶	景德镇窯系	E群	口縁	1	1					1																3	2			
			底部																							0	0			
	酒会壺	有文胴部	口縁					1															1			2	1			
			底部	2																						2	1			
	器種不明		口縁																				1			1	1			
			底部																							0	0			
小計					670	277	4	189	0	58	69	2	2	132	2	1	2	0	0	1	4	2	9	1	47	0	0	1,472	166	
青磁	明	Ⅱ類	外反	口縁	1	7	2			3									1			6				20	15			
				底部	1																		1			2	2			
		Ⅲ類	蓮子	口縁	3	3	4			2		1											4			17	14			
				底部	3																			4		7	7			
		Ⅳ類	口折	口縁	1	3																				4	3			
				底部	1																					1	1			
	ⅢorⅤ類		口縁	12	13	1	1		1													1			29					
			底部																				3		11	6				
	Ⅴ類	腰折れ	口縁		3	1			2		2											3			6	6				
			底部		2						1												3			6	6			
	Ⅵ類	饅頭	口縁				1																			1	0			
			底部																							0	0			
	Ⅶ類	外反	口縁																				1			1	1			
			底部																							1	1			
	不明		口縁	11			1					1											1			15				
			底部	4	2																					6				
	清	徳化窯		口縁																					1	1				
				底部																						0	0			
鉢	粗製鉢		口縁																						2	1				
			底部																						2	2				
皿	Ⅰ類	外反	口縁	16	5	4					2											8			35	25				
			底部	2	4	5					1												3		15	15				
	Ⅱ類	基筋底	口縁	6	9	1		1			1														18	13				
			底部		1																				1	1				
Ⅲ類	外反	口縁	4																						4	0				
		底部																							0	0				
小杯	Ⅰ類	直口	口縁	2	2																				8	7				
			底部	1																					1	1				
	Ⅲ類	外反	口縁																						1	1				
			底部																						0	0				
Ⅰ類	筒型	口縁			1																				1	2				
		底部			2																				1	1				
Ⅲ類	外反	口縁																							0	0				
		底部																							0	0				
合子	身		口縁	1	1				1														2		5	2				
			底部																						0	0				
瓶			口縁																						7	4				
			底部	5	2																					7	4			
小計					75	56	22	3	0	0	10	0	0	9	0	0	0	0	0	2	1	0	0	42	0	2	0	220	95	

※数値の明朝は破片数を、ゴシック体は推定個体数を示す。

第6表 外郭Ⅶ区出土遺物集計表 (3)

					Ⅶ区出土遺物																				破片数小計	推定個体数			
種別	器種	分類	文様等	部位	I層	II上	I+II上	III層	SR4+III層	I+III	IIIa	SR4+IIIa+II上	II上+IIIa	IIIb	I+III+IIIb	I+III+IIIb	IIIc	IIId	IIIe	IIIf	IVa	III+IVa	IVb	SR4+IVb			SR4I層	SR3I層	SR3+4
青磁、染付					口縁																							0	1
					底部	1																						1	
天目	碗				口縁	3	3		3					2												1		12	11
					底部	1					1																2		
					口縁																							0	
褐釉陶器	茶入れ			口縁	2	1		1																				4	14
	壺	中・小型		口縁		1																						1	
			口縁	3	2					1		1														3	10		
	壺	大型	新里村類似	口縁	1																							0	
			フ字形口縁	口縁	4	1																						1	
			玉縁口縁	口縁	6	4										2												13	
			方形口縁	口縁	3	1		1							1													7	
				その他			1	1												1							1	4	
	不明			底部	10	1		5			2			2										1				25	
	播り鉢	鉢		口縁																								0	
			口縁	1																							0		
翡翠釉	皿			口縁																								1	
				底部																								0	
酒会壺	蓋			口縁	1																							1	
				底部																								0	
緑釉	袋物			底部																								0	
瑠璃釉	碗			口縁																								0	
				底部				1																				1	
褐釉磁器	土器	半練	蓋	口縁																							0		
				口縁																								1	
タイ陶磁	褐釉陶器	シークンツァナライ窯系 ノイ川窯系	大型壺	口縁				2			1											1		1		1		6	
			大型壺	口縁	1																						2		
			大型壺	口縁					1																			1	
			中型壺	口縁																								2	
			大型壺	底部																								2	
			中小型	底部																								0	
鉄絵	合子	蓋・身	口縁		2					1																	3		
			口縁		2																					1			
ベトナム	白磁	碗		口縁																							3		
				口縁																							1		
				底部				1																				0	
色絵	碗			口縁																							2		
				胴部	1																						1		
染付	壺			口縁																							1		
				底部																								1	
高麗	青磁	碗		口縁	3									2													5		
南西諸島	備前	摺鉢		口縁																								1	
				口縁	4			1																			7		
	徳之島産	カムイヤキ	B群壺	口縁	5	1																					8		
			不明	口縁	1																						4		
	湧田窯	瓦質土器	鉢	底部				1																				1	
			鉢	口縁	1																						1		
	喜名焼	焼き締め陶器	壺	口縁	4			3			1			2										1				11	
			鍋	口縁	5	1		3																			9		
			甕	口縁	1																							1	
			不明	口縁	2										2													4	
	18		不明	底部	8	1		1			2			1										1				14	
			不明	口縁																									

第7表 外郭Ⅶ区出土遺物観察表 (1)

図	地区名	種別	器種時代形式	分類	部位	計測値 (cm※g) ※玉はmm			次	地区	層	追棟	dot	No.	備考
						器：口径 他：外径 銭：外徑 単位=cm (銭以下)	器高 他：厚さ 銭：厚さ 単位=cm (銭以下)	器：底径 他：重量 銭：重量 (単位=g)							
97-1	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	14.7			Ⅱ	R-34		SB04-S529	1237		
97-2	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	18.1			Ⅱ	Q-34		S848		1467	
97-3	Ⅶ区	青磁		香炉	口縁	9.5			Ⅱ	Q-34		SK898 i 層		1455	
97-4	Ⅶ区	青花	E 群	皿	口縁	13.4			3次外郭	Q-34		SK898 i 層	1254		
97-5	Ⅶ区	青花	C' 群	碗	口縁	14.3			3次外郭	Q-34		SK898 i 層	1253		
97-6	Ⅶ区	ベトナム青花		瓶	胴底			5.0	3次外郭	Q-34		SK898 i 層		1454	ii b層 No1350 No1387
97-7	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	碗	底部			5.0	3次外郭	Q-34		SK898 vi 層		1450	
97-8	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ	碗	底部			5.0	3次外郭	S-33		S524		1477	
97-9	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ	碗	底部			5.5	3次外郭	S-33		S524		1477	
97-10	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ	皿	底部			4.6	3次外郭	S-33		S524		1477	
97-11	Ⅶ区	煙管	玳瑁		雁首	3.0	4.5	3.1	3次外郭	S-33		S524		1477	
97-12	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁	30.3			3次外郭	S-33		S524		1477	
97-13	Ⅶ区	元青花		壺	胴部				3次外郭	R-33		S756	1113		
97-14	Ⅶ区	褐釉	I類	壺	底部			14.0	3次外郭	R-34		S626	1112		
101-1	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ	碗	底部			3.0	3次外郭	R-33		SR4 i 層		1362	
101-2	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	23.0			3次外郭	S-33	Ⅲa層			1211	Q-33 SR4 i 層 No1379 S-32 ii 上層 No846
101-3	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	皿	口縁	12.4			3次外郭	S-33	I 層			223	S-32 SR4 i 層 No1252
101-4	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			5.5	3次外郭	R-33		SR4 i 層		1362	
101-5	Ⅶ区	青磁		壺	底部			19.1	3次外郭	R-33		SR4 i 層		1362	
101-6	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	盤	底部			7.5	3次外郭	R-33		SR4 i 層		1358	No1361
101-7	Ⅶ区	白磁	A 群	碗	底部			5.5	3次外郭			SR4 i 層		1259	
101-8	Ⅶ区	白磁	G 群	碗	口縁	16.6			3次外郭			SR4 i 層		1259	
101-9	Ⅶ区	白磁	C 3 群	碗	口縁	16.6			3次外郭	Q-33		SR4 i 層		1360	S-32IVb層No1249 外郭不明S-32IVb層No不明
101-10	Ⅶ区	白磁	D' 群	碗	口縁	13.8			3次外郭	R-33		SR4 i 層		1358	No1361 R-34 i 層No943 R-33 SR4 i 層No1265
101-11	Ⅶ区	白磁	E 群	皿	底部			5.6	3次外郭	R-33		SR4 i 層		1358	
101-12	Ⅶ区	白磁	E 群	杯	口・底部	6.8	4.6	3.3	3次外郭	Q-33		SR4 i 層		1378	R-34 R-34 i 層 No953
101-13	Ⅶ区	元青花		壺?	胴部				3次外郭	S-32		SR4 i 層		1252	
101-14	Ⅶ区	青花	B 1 群	碗	口・底部	15.6	6.0	5.4	3次外郭	S-33	Ⅲ層			649	ii 上層No950 底底SR4 i 層No1259 S-33 ii 上層No960
101-15	Ⅶ区	青花	G' 群	碗	口縁	13.9			3次外郭	R-33		SR4 i 層		1362	
101-16	Ⅶ区	青花	徳化窯系	碗	口縁	12.9			3次外郭	R-34		SR4 i 層		954	3次外郭 R-34 i 層 No922
101-17	Ⅶ区	青花	C' 群	碗	口縁	15.0			3次外郭	R-33		SR4 i 層		1362	
101-18	Ⅶ区	青花	漳州窯系	小碗	口縁	7.9			3次外郭	Q-33		SR4 i 層		1379	
101-19	Ⅶ区	青花	C' 群	碗	底部			4.8	3次外郭	R-33		SR4 i 層		1362	
101-20	Ⅶ区	青花	E 群	碗	底部			4.5	3次外郭	R-33		SR4 i 層		1362	
101-21	Ⅶ区	青花	B 1 群	皿	完形	9.3	2.0	5.1	3次外郭	R-33		SR4 i 層		1364	R-33 ii 上層No784 ii 層No973 ii 層dot814
101-22	Ⅶ区	白磁		瓶	口縁	4.2			3次外郭	R-33		SR4 i 層		1358	
101-23	Ⅶ区	備前		撞鉢	口縁	32.2			3次外郭	R-33		SR4 i 層		1364	R-33 iii層 dot808
101-24	Ⅶ・Ⅷ区	金属製品	鉄	鍋	口縁	44.5			3次外郭	Q-33		SR4 i 層		1379	
101-25	Ⅶ区	金属製品	青銅	簪	完形	7.0		2.5	3次外郭	R-33		SR4 i 層		1361	
101-26	Ⅶ・Ⅷ区	銭貨	不明			21.6	1.7	2.6	3次外郭	R-33		SR4 i 層		1364	
101-27	Ⅶ・Ⅷ区	銭貨	不明			22.8	1.7	2.0	3次外郭	Q-34		SR4 i 層		1356	
101-28	Ⅶ区	玩具		円盤状製品		17.8	6.0	2.6	3次外郭	S-32		SR4 i 層		1252	幅=17.29
101-29	Ⅶ区	骨製品		歯ブラシ	柄	85.6	11.0	6.6	3次外郭	S-34		SR3 i 層			
102-1	Ⅶ区	土器	第3様式	鍋	口縁	20.9			3次外郭	R-33	Ⅲ層			1150	
102-2	Ⅶ区	土器	第3様式	壺	口縁	17.9			3次外郭	S-32	IVb層			1286	
102-3	Ⅶ区	土器	第3様式	鍋	口縁	14.0			3次外郭	R-33	Ⅲ層			1020	
102-4	Ⅶ区	土器	第3様式	壺	口縁	16.0			3次外郭	R-33	Ⅱ上層			776	
102-5	Ⅶ区	土器	第3様式	壺	口縁	7.2			3次外郭	Q-34	I 層			1306	
102-6	Ⅶ区	土器	第3様式	不明	底部			15.6	3次外郭	Q-34	I 層			1306	
102-7	Ⅶ区	カムイヤキ	B 群	壺	口縁	15.0			3次外郭	S-34	I 層			166	
102-8	Ⅶ区	カムイヤキ	B 群	不明	底部			8.0	3次外郭	S-33	I 層			218	S-33 i 層 No756
102-9	Ⅶ区	カムイヤキ	B 群	水注	注口				2次外郭	R-33	I 層			267	
102-10	Ⅶ区	土器	宮古式	甕	口縁	12.9			3次外郭	S-33	Ⅲ層			649	
102-11	Ⅶ区	土器	宮古式	壺	底部	24.0			3次外郭	S-33	Ⅲ層		623		
102-12	Ⅶ区	瓦質土器	沖縄産	撞鉢	口縁	23.7			3次外郭	R-33	Ⅲ層		814		
102-13	Ⅶ区	瓦質土器	沖縄産	鉢	底部			14.4	3次外郭	S-33	Ⅲ層		792		
102-14	Ⅶ区	青磁	龍Ⅰ	碗	口縁	14.8			3次外郭	S-32	Ⅱ上層			794	
102-15	Ⅶ区	青磁	龍Ⅰ	碗	口縁	15.1			3次外郭	S-32	Ⅲa層			1074	
102-16	Ⅶ区	青磁	龍Ⅰ	碗	底部			6.0	3次外郭	S-33	Ⅱ上層		604		
102-17	Ⅶ区	青磁	龍Ⅰ～Ⅱ	碗	底部			6.6	3次外郭	S-32	Ⅱ上層		683		
102-18	Ⅶ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	16.9			3次外郭	S-32	Ⅲ層		859		
102-19	Ⅶ区	青磁	龍Ⅱ	碗	口縁	15.5			3次外郭	S-33	I 層			228	ii 上層 No612
102-20	Ⅶ区	青磁	龍Ⅱ	碗	底部			5.1	3次外郭	Q-34	Ⅲ層			1338	
102-21	Ⅶ区	青磁	龍Ⅲ	碗	底部			4.1	3次外郭	S-32	Ⅱ層			904	
102-22	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ	碗	底部			4.4	3次外郭	R-33	Ⅲ層		733		
103-23	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ	碗	口縁	22.8			3次外郭	R-34	Ⅲa層		832		
103-24	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	14.8			3次外郭	S-33	Ⅱ上層			612	i 層 No203
103-25	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	17.3			3次外郭	R-33	Ⅲ層		811		
103-26	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	14.2			3次外郭	R-33	Ⅲ層		813		
103-27	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	14.8			3次外郭	S-33	Ⅲ層		823		
103-28	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ	碗	口縁	14.4			3次外郭	R-34	Ⅲb層		830		
103-29	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ	碗	口縁	14.9			3次外郭	S-33	Ⅲa層		857		
103-30	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	碗	口縁	12.0			3次外郭	R-33	Ⅲ層		728		
103-31	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	15.6			3次外郭	S-32	Ⅱ上層			824	
103-32	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	口縁	17.1			3次外郭	R-33	Ⅲ層			1020	
103-33	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			7.4	3次外郭	R-33	Ⅲ層		800		
103-34	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			5.2	3次外郭	S-32	Ⅱ上層		695		
103-35	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			6.2	3次外郭	R-33	Ⅲ層		806		
103-36	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			5.7	3次外郭	R-33	Ⅱ上層		672		
103-37	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			4.6	3次外郭	R-33	Ⅲ層			1279	
103-38	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	碗	底部			4.7	3次外郭	R-33	Ⅲ層		796		
103-39	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			5.2	3次外郭	S-32	Ⅲb層		1110		
103-40	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			4.2	3次外郭	S-33	Ⅱ上層		603		
103-41	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			4.9	3次外郭	S-32	Ⅱb層		1111		R-34 iii層 dot844
103-42	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	碗	底部			5.3	3次外郭	R-34	Ⅱb層		825		
103-43	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	碗	口縁	12.3			3次外郭	R-34	Ⅲb層			1032	R-33 i 層 No221 R-33 iii層 No973
103-44	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	碗	口縁	13.7			3次外郭	R-33	Ⅲ層			973	S-33 ii 上層 No600 R-34 iii層 No1032
103-45	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	碗	口縁	11.3			3次外郭	S-32	Ⅱ上層		745		
103-46	Ⅶ区	青磁	龍Ⅶ	碗	口縁	12.2			3次外郭	S-32	Ⅱ上層			794	S-32 ii 上層 No824
103-47	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	碗	底部			5.2	3次外郭	S-33	Ⅱ上層		596		

第7表 外郭Ⅶ区出土遺物観察表 (2)

第1表 外郭Ⅶ区出土遺物調査表 (2)						計測値 (cm※, g) ※玉はmm			遺跡名						
図	地区名	種別	器種時代形式	分類	部位	器:口径 他:外径 銭:外径 単位=cm (銭以下)	器高 他:厚さ 銭:厚さ 単位=cm (銭以下)	器:底径 他:重量 銭:重量 (単位=g)	次	地区	層	遺構	dot	No.	備考
103-48	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	碗	底部				3次外郭	S-33	Ⅲ層		618		
103-49	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	碗	底部			4.3	3次外郭	S-33	Ⅱ上層			605	
103-50	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	碗	底部			4.6	3次外郭	R-33	Ⅱ上層		711		
103-51	Ⅶ区	青磁	泉州窯系	碗	底部			5.3	3次外郭	Q-34	Ⅰ層			1330	
103-52	Ⅶ区	青磁	漳州窯系	碗	口縁	15.4			3次外郭	S-33	Ⅲ層		788		
103-53	Ⅶ区	青磁	漳州窯系	碗	底部			6.8	3次外郭	Q-34	Ⅰ層			1353	N01345
104-54	Ⅶ区	青磁	同安窯系	皿	底部			6.9	3次外郭	S-32	Ⅰ層			1473	
104-55	Ⅶ区	青磁	同安窯系	皿	底部			5.3	3次外郭	S-33	Ⅲ層		786		
104-56	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	皿	口縁	12.4			3次外郭	R-33	Ⅱ上層		671		
104-57	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	皿	口縁	12.2			3次外郭	S-32	Ⅱ上層		700		
104-58	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	皿	口縁	13.2			3次外郭	R-34	Ⅲ層		831		
104-59	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	皿	口縁	12.0			3次外郭	S-32	Ⅱ上層			883	
104-60	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	皿	口縁	12.6			3次外郭	R-33	Ⅲ層		758		
104-61	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	皿	口縁	14.8			3次外郭	R-34	Ⅲb層			1285	
104-62	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	皿	底部			3.5	3次外郭	R-34	Ⅲb層		842		
104-63	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	皿	底部			6.2	3次外郭	R-33	Ⅲ層		811		
104-64	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	皿	底部			5.8	3次外郭	S-33	Ⅲ層		793		
104-65	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	皿	口縁	10.6			3次外郭	R-33	Ⅲ層		795		
104-66	Ⅶ区	青磁	龍Ⅵ	皿	底部			4.2	3次外郭	S-32	Ⅰ層			1473	
104-67	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁	24.4			3次外郭	R-33	Ⅳa層			1368	N01297 N01368
104-68	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁	24.3			3次外郭	S-32	Ⅱ上層			794	
104-69	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁	23.3			3次外郭	R-33	Ⅳa層		946		
104-70	Ⅶ区	青磁	龍Ⅴ	盤	口縁				3次外郭	S-32	Ⅱ上層		701		
104-71	Ⅶ区	青磁		小杯	口縁	9.5			3次外郭	S-33	Ⅲb層			1223	
104-72	Ⅶ区	青磁		小杯	底部			5.9	3次外郭	R-34	Ⅰ層			1313	
104-73	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	杯	口縁	12.4			3次外郭	S-33	Ⅱ上層		589		
104-74	Ⅶ区	青磁	龍Ⅳ～Ⅴ	杯	底部			7.6	3次外郭	R-33	Ⅲ層		906		
104-75	Ⅶ区	青磁		馬上杯	口縁	6.0			3次外郭	R-33	Ⅱ上層		757		S-32 i層 N01216
104-76	Ⅶ区	青磁		馬上杯	底部			4.9	3次外郭	S-33	Ⅱ上層			600	
104-77	Ⅶ区	青磁		掃鉢	口縁	17.0			3次外郭	S-32	Ⅱ上層			810	N0824
104-78	Ⅶ区	青磁		瓶	口縁	6.9			3次外郭	S-32	Ⅲb層			1220	
104-79	Ⅶ区	青磁		瓶	胴部				3次外郭	S-32	Ⅱ上層		691		
104-80	Ⅶ区	青磁		酒会壺	蓋				3次外郭	R-33	Ⅲ層		805		
105-81	Ⅶ区	白磁	A群	碗	口縁	17.4			3次外郭	S-33	Ⅲ層			843	
105-82	Ⅶ区	白磁	A群	碗	底部			4.9	3次外郭	S-32	Ⅲa層			1074	
105-83	Ⅶ区	白磁	F群	碗	口縁	16.9			3次外郭	Q-35	Ⅰ層			1417	
105-84	Ⅶ区	白磁	F群	碗	底部			7.0	3次外郭	S-34	Ⅰ層			166	
105-85	Ⅶ区	白磁	F群	碗	底部			7.7	3次外郭	S-32	Ⅰ層			753	
105-86	Ⅶ区	白磁	C1群	碗	口縁				3次外郭	Q-35	Ⅰ層			1413	
105-87	Ⅶ区	白磁	C2群	碗	口縁	15.2			3次外郭	S-32	Ⅱ上層		692		
105-88	Ⅶ区	白磁	C2群	碗	底部			4.9	3次外郭	S-38	Ⅱ上層		590		
105-89	Ⅶ区	白磁	C3群	碗	口縁	15.6			3次外郭	S-33	Ⅱ上層			626	
105-90	Ⅶ区	白磁	C3群	碗	口縁	14.2			3次外郭	Q-34	Ⅲb層			1392	
105-91	Ⅶ区	白磁	G群	碗	口縁	15.4			3次外郭	R-33		SR4 i層		1361	
105-92	Ⅶ区	白磁	D'群	碗	口縁	13.8			3次外郭	S-33	表探			1335	ii上層 N0626
105-93	Ⅶ区	白磁	D'群	碗	口縁	14.4			3次外郭	S-32	Ⅲ層		861		
105-94	Ⅶ区	白磁	D'群	碗	完形	14.1	4.9		3次外郭	S-33	Ⅱ上層		616		
105-95	Ⅶ区	白磁	A群	皿	口縁	15.2			3次外郭	S-33	Ⅰ層			214	
105-96	Ⅶ区	白磁	A群	皿	口縁	11.8			3次外郭	S-32	表探			1212	ii上層 N01151
105-97	Ⅶ区	白磁	A群	皿	口縁	10.3			3次外郭	S-33	Ⅰ層			205	N0203
105-98	Ⅶ区	白磁	A群	皿	底部			6.0	3次外郭	R-33	Ⅰb層			767	
105-99	Ⅶ区	白磁	E群	皿	口縁	15.2			3次外郭	R-33	Ⅲ層		754		
105-100	Ⅶ区	白磁	E群	皿	口縁	18.3			3次外郭	R-33	Ⅲ層		729		
105-101	Ⅶ区	白磁	E群	皿	口縁	11.8			3次外郭	Q-34	Ⅲb層			1352	
105-102	Ⅶ区	白磁	E群	皿	底部			3.8	3次外郭	S-33	Ⅱ上層		615		
105-103	Ⅶ区	白磁	E群	小杯	口縁	7.0			3次外郭	R-33	Ⅲ層		756		
105-104	Ⅶ区	白磁	E群	馬上杯	脚部			4.2	3次外郭	S-33	Ⅲ層		820		
105-105	Ⅶ区	白磁	D群	皿	口縁	8.8			3次外郭	S-32	Ⅲd層			1274	
105-106	Ⅶ区	白磁	D群	皿	底部			4.2	3次外郭	S-33	Ⅰ層			214	
105-107	Ⅶ区	白磁	D'群	灯明皿	底部			6.0	3次外郭	S-32	Ⅱ上層		678		
105-108	Ⅶ区	青白磁		皿?	底部			5.0	3次外郭	S-32	Ⅰ層				No754
106-109	Ⅶ区	元青花		盤	口縁				3次外郭	S-33	Ⅱ上層			600	
106-110	Ⅶ区	青花		瓶	肩部				3次外郭	R-34	Ⅲb層			1285	
106-111	Ⅶ区	元青花		不明	蓋?				3次外郭	R-34	Ⅲb層			1018	
106-112	Ⅶ区	元青花		不明	蓋?				3次外郭	R-33	Ⅲ層			1033	
106-113	Ⅶ区	青花	B1群	碗	口縁	14.8			3次外郭	R-33	Ⅲ層		817		S-33 ii上層N0650 N0824 R-33IVa層dot945
106-114	Ⅶ区	青花	B1群	碗	口縁	12.0			3次外郭	S-33	Ⅲa層			1248	
106-115	Ⅶ区	青花	B1群	碗	口縁	8.6			3次外郭	S-32	Ⅰ層			765	
106-116	Ⅶ区	青花	C群	碗	完形	13.4	6.2	5.5	3次外郭	S-32	Ⅱ上層			883	表探N01336 ii a層N01205
106-117	Ⅶ区	青花	C群	碗	口縁	14.9			3次外郭	S-32	Ⅱb層		1101	1193	
106-118	Ⅶ区	青花		碗	口縁	10.9			3次外郭	R-33	Ⅲ層		752		
106-119	Ⅶ区	青花	D群	碗	底部			5.4	3次外郭	R-33	Ⅰ層			661	R-34 i層 N01275
106-120	Ⅶ区	青花	D群	碗	底部			5.5	3次外郭	S-33	Ⅱ上層		614		
106-121	Ⅶ区	青花	漳州窯系	碗	口縁	15.7			3次外郭	Q-34	Ⅲf層			1338	
106-122	Ⅶ区	青花	漳州窯系	碗	底部			6.0	3次外郭	S-33	Ⅰ層			205	S-33 ii上層 dot593
106-123	Ⅶ区	青花	B1群	皿	完形	9.6	2.5	4.8	3次外郭	R-33	Ⅲb層		1100		
106-124	Ⅶ区	青花	C群	皿	完形	10.4	2.7	3.6	3次外郭	S-33	Ⅱ上層			626	S-33 ii上層 dot611
106-125	Ⅶ区	青花	C群	皿	口縁	10.3			3次外郭	S-32	Ⅱ上層		702		
106-126	Ⅶ区	青花	C群	皿	底部			4.3	3次外郭	S-32	Ⅱ上層		677		
106-127	Ⅶ区	青花	E群	皿	完形	9.3	2.6	5.2	3次外郭	S-32	Ⅰ層			753	
106-128	Ⅶ区	青花		瓶	口縁	6.0			3次外郭	S-32	Ⅰ層			765	S-33 iii a層 N0205 N0754
106-129	Ⅶ区	青花		杯	完形	8.0	5.0	3.5	3次外郭	R-33	Ⅲ層			972	ii上 底部R-33 ii層 dot211
106-130	Ⅶ区	青花		合子	蓋	8.9			3次外郭	S-33	Ⅲ層		817		S-32 iii a層 N01074
106-131	Ⅶ区	青花		水注?	蟻電?				3次外郭	R-34	Ⅲb層			1002	Q-34 i層 N01333
106-132	Ⅶ区	青花	肥前	碗	底部			4.2	3次外郭	S-32	Ⅱ上層			794	
106-133	Ⅶ区	ベトナム色絵		碗	口縁	14.2			3次外郭	S-33	Ⅲa層		1102		
106-134	Ⅶ区	黒釉		碗	口縁	12.3			3次外郭	R-33	Ⅲ層			1020	
106-135	Ⅶ区	黒釉		碗	底部			4.2	3次外郭	S-32	Ⅱ上層			794	S-32 iii a層 N01074
106-136	Ⅶ区	三彩		壺or水注	胴部				3次外郭	S-33	Ⅱ上層		600		S-32 ii a層 N0794
106-137	Ⅶ区	瑠璃彩		碗	底部			4.6	3次外郭	S-32	Ⅱ上層			810	N0824 S-33 iii層 N0649
106-138	Ⅶ区	青磁	本土産	小碗	底部			3.5	3次外郭	R-34	Ⅰ層				No931

第7表 外郭Ⅶ区出土遺物観察表 (3)

表7表 外郭Ⅶ区出土遺物観察表(3)						計測値 (cm※.g) ※玉はmm			遺跡名									
図	地区名	種別	器種時代形式	分類	部位	器:口徑 他:外径 銭: 外径 単位=cm (銭以下)	器高 他: 厚さ 銭: 厚さ 単位=cm (銭以下)	器:底径 他: 重量 銭: 重量 (単位=g)	次	地区	層	遺構	dot	No.	備考			
107-139	Ⅶ区	褐釉	5類	壺	口縁	15.0			3次外郭	Q-34	Ⅲb層			1387				
107-140	Ⅶ区	褐釉	5類	壺	底部			16.7	3次外郭	S-33	Ⅲ層		791					
107-141	Ⅶ区	褐釉	5類	壺	底部			10.0	3次外郭	S-33	Ⅱ上層		612					
107-142	Ⅶ区	褐釉	5類	壺	底部			15.6	3次外郭	S-32	Ⅲ層			1151				
107-143	Ⅶ区	褐釉	1類	壺	口縁	19.1			3次外郭	S-32	Ⅲ層			1214				
107-144	Ⅶ区	褐釉	玉縁	小壺	口縁	8.3			3次外郭	S-32	Ⅱ上層		690					
107-145	Ⅶ区	褐釉	短頸	小壺	口縁	9.4			3次外郭	S-32	Ⅲa層			1094	R-33 Ⅲ層 dot1838			
107-146	Ⅶ区	褐釉	新里村	壺	口縁	6.4			3次外郭	R-33	Ⅰ層			223				
107-147	Ⅶ区	褐釉		急須	口縁	6.2			3次外郭	S-32	Ⅱ上層		696					
107-148	Ⅶ区	褐釉		急須?	注口				3次外郭	R-33	Ⅲ層		942					
107-149	Ⅶ区	タイ褐釉	ノイ窯系	小壺	口縁	10.7			3次外郭	R-33	Ⅲ層		807					
107-150	Ⅶ区	中国焼結		蓋		9.8			3次外郭									
107-151	Ⅶ区	緑釉		壺	底部			7.2	3次外郭	S-33	Ⅱ上層		592					
107-152	Ⅶ区	瑠璃釉		酒会壺	胴部				3次外郭	R-34	Ⅲb層		824					
107-153	Ⅶ区	無釉陶器	沖縄産	碗	底部			7.0	3次外郭	S-32	Ⅰ層			765				
107-154	Ⅶ区	瓦質土器	沖縄産		蓋	19.0			3次外郭	S-32	Ⅳb層			1249				
108-155	Ⅶ区	高麗青磁	象嵌	碗	口縁	15.0			3次外郭	Q-35	Ⅰ層			1407	NO221 S-33 Ⅲb層 NO1223			
108-156	Ⅶ区	タイ土器	半練	蓋		11.0			3次外郭	S-32	Ⅱb層			1253				
108-157	Ⅶ区	タイ褐釉	シーサッチャ	大壺	#	27.0			3次外郭	S-32	Ⅲ層			1079	R-33 Ⅲ層 dot1941			
108-158	Ⅶ区	タイ褐釉	シーサッチャ	大壺	口縁	22.3			3次外郭	S-33	Ⅲ層		904		R-33 Ⅳa層 dot1943			
108-159	Ⅶ区	タイ鉄絵		合子	身	7.3			3次外郭	S-32	Ⅱ上層			810				
108-160	Ⅶ区	タイ鉄絵		合子	身	7.7			3次外郭	S-32	Ⅱ上層			824				
108-161	Ⅶ区	ベトナム青花		壺	底部			7.2	3次外郭	R-33	Ⅲ層		794					
108-162	Ⅶ区	ベトナム青花		小壺	胴部				3次外郭	Q-34	Ⅲc層				No1385			
108-163	Ⅶ区	ベトナム白磁		碗	口縁	13.4			3次外郭	S-32	Ⅱ上層			883				
108-164	Ⅶ区	ベトナム白磁		碗	口縁	13.4			3次外郭	S-32	Ⅱ上層			794				
108-165	Ⅶ区	ベトナム白磁		碗	底部			5.8	3次外郭	S-32	Ⅲ層			1085				
108-166	Ⅶ区	ベトナム白磁		合子	身	5.8			3次外郭	S-33	Ⅱ上層			1262				
108-167	Ⅶ区	銭貨	崇寧重寶			35.0	2.7	4.8	3次外郭	S-32	Ⅱ上層		693	827				
108-168	Ⅶ区	銭貨	祥符元寶			26.0	1.8	3.7	3次外郭	Q-34	Ⅲb層		1251	1444				
108-169	Ⅶ・Ⅷ区	銭貨	開禧通寶			25.3	1.4	3.6	3次外郭	Q-34		SR4 i層		1356				
108-170	Ⅶ区	銭貨	不明			24.6	1.3	2.8	3次外郭	R-34	Ⅰ層			941				
108-171	Ⅶ区	銭貨	無文銭			19.8	0.7	0.7	3次外郭	R-33	Ⅲ層		739	880				
109-172	Ⅶ区	金属製品	青銅	鍍金縁金具		73.2	0.8	4.0	3次外郭	R-29	Ⅱ層		5	25	幅=8.83			
109-173	Ⅶ区	金属製品	青銅	環座		21.0	0.5	1.1	3次外郭	R-33	Ⅲ層		809	984	幅=21.26			
109-174	Ⅶ区	金属製品	青銅	不明		19.8	0.8	1.5	3次外郭						幅=17.94			
109-175	Ⅶ区	金属製品	青銅	板状製品		25.2	2.9	6.0	3次外郭	R-34	Ⅰ層			953	幅=12.32			
109-176	Ⅶ区	金属製品	青銅	板状製品		18.1	3.6	2.8	3次外郭	S-32	Ⅱ上層			794	幅=8.01			
109-177	Ⅶ区	金属製品	青銅	板状製品		23.4	1.3	4.4	3次外郭	S-32	Ⅲd層			1255	幅=23.25			
109-178	Ⅶ区	金属製品	青銅	板状製品		31.1	2.0	7.5	3次外郭	S-33	Ⅱ上層			612	幅=25.94			
109-179	Ⅶ区	金属製品	青銅	棒状製品		39.7	5.1	4.3	3次外郭	S-33	Ⅱb層		591	596				
109-180	Ⅶ区	金属製品	青銅	板状製品		55.2	1.3	1.8	3次外郭	S-32	Ⅱ上層		694	828	幅=7.02			
109-181	Ⅶ区	金属製品	青銅	板状製品		27.9	1.8	2.3	3次外郭	R-33	Ⅲ層		903	1152	幅=9.03			
109-182	Ⅶ区	金属製品	青銅	目釘		18.9	5.3	2.3	3次外郭	R-33	Ⅰ層			222				
109-183	Ⅶ区	金属製品	青銅	不明		55.1	2.9	1.7	3次外郭	Q-34	Ⅰ層			1305				
109-184	Ⅶ区	金属製品	青銅	不明		31.5	2.6	0.8	3次外郭	R-33	Ⅲ層		740	881				
109-185	Ⅶ区	金属製品	青銅	釘		28.9	4.2	2.7	3次外郭						幅=3.07			
109-186	Ⅶ区	金属製品	青銅	不明		21.5	3.3	2.8	3次外郭	R-34	Ⅲb層		1285		幅=9.04			
109-187	Ⅶ区	金属製品	青銅	不明		13.0	4.1	1.5	3次外郭	S-33	Ⅲ層		620	657	幅=12.08			
109-188	Ⅶ区	金属製品	青銅	不明				11.8	3次外郭	Q-34	Ⅲb層			575				
109-189	Ⅶ区	金属製品	青銅	煙管	吸口	80.2	10.7	11.8	3次外郭	Q-35	Ⅰb層			1408				
109-190	Ⅶ区	金属製品	青銅	輪状金具		51.0	40.2	9.0	3次外郭	Q-35	Ⅰ層			1422	厚み=1.83			
109-191	Ⅶ区	金属製品	鉄	刀子		48.3	3.6	10.2	3次外郭	R-33	Ⅲ層			842	幅=14.70			
109-192	Ⅶ区	金属製品	鉄	刀子		65.6	6.3	12.3	3次外郭	S-33	Ⅲa層			1248	幅=13.72			
109-193	Ⅶ区	金属製品	鉄	刀子		58.5	2.3	8.1	3次外郭						幅=18.87			
109-194	Ⅶ区	金属製品	鉄	刀子		47.8	5.1	5.8	3次外郭	R-33	Ⅲ層		723	864	幅=13.31			
109-195	Ⅶ区	金属製品	鉄	釣針		41.8	5.0	2.6	3次外郭	R-33	Ⅲ層		704	850				
109-196	Ⅶ区	金属製品	鉄	釘		89.4	13.0	57.0	3次外郭	R-29	Ⅱ層		4	24				
109-197	Ⅶ区	金属製品	鉄	釘		58.2	11.6	23.2	3次外郭	S-32	Ⅲb層			1225				
109-198	Ⅶ区	金属製品	鉄	釘		65.3	9.8	11.5	3次外郭	Q-34	Ⅲb層			1350				
109-199	Ⅶ区	金属製品	鉄	釘		38.9	9.1	4.2	3次外郭	S-33	Ⅱ上層		606	640				
109-200	Ⅶ区	金属製品	鉄	釘		39.5	7.0	2.8	3次外郭	R-33	Ⅲ層		715	856				
109-201	Ⅶ区	金属製品	鉄	釘		39.3	9.9	1.9	3次外郭	S-33	Ⅲ層		834	1016				
109-202	Ⅶ区	金属製品	鉄	釘		35.6	10.3	2.9	3次外郭	R-33	Ⅲ層			973				
109-203	Ⅶ区	金属製品	鉄	釘		34.4	5.6	6.5	3次外郭	R-33	Ⅲ層			842				
109-204	Ⅶ区	金属製品	鉄	不明		55.2	5.3	3.8	3次外郭	R-33	Ⅲ層		725	866				
109-205	Ⅶ区	金属製品	鉄	簾		180.5	9.1	60.0	3次外郭	Q-34	Ⅰ層			1330	幅=68.34			
110-206	Ⅶ区	玉	勾玉			11.4		0.7	3次外郭	Q-34	Ⅲb層			1348				
110-207	Ⅶ区	玉	管玉	Ⅱ類		5.1	2.4	0.3	3次外郭	R-33	Ⅲ層		766					
110-208	Ⅶ区	玉	丸玉	頁岩		12.5	2.9	2.4	3次外郭	R-34	Ⅲb層			1285				
110-209	Ⅶ区	玉	丸玉	b 2種		11.00	2.79	1.61	3次外郭	S-32	Ⅲa層		863	1083				
110-210	Ⅶ区	玉	丸玉	b 2種		9.51	2.04	0.91	3次外郭	R-33	Ⅲ層			812				
110-211	Ⅶ区	玉	丸玉	b 2種		8.72	2.11	0.79	3次外郭	R-33	Ⅲ層			731				
110-212	Ⅶ区	玉	丸玉	b 2種		9.76	3.43	1.10	3次外郭	S-32	Ⅱ上層		681	804				
110-213	Ⅶ区	玉	丸玉	b 2種		8.94	4.40	0.52	3次外郭	Q-35	Ⅰ層			1431				
110-214	Ⅶ区	玉	丸玉	b 2種		7.99	2.01	0.67	3次外郭	S-32	Ⅱ上層		699					
110-215	Ⅶ区	玉	丸玉	b 2種		6.51	2.84	0.24	3次外郭	R-33	Ⅲ層			1301				
110-216	Ⅶ区	玉	丸玉	b 2種		6.34	2.23	0.26	3次外郭	R-33	Ⅲ層		737	878				
110-217	Ⅶ区	玉	丸玉	b 2種		5.96	1.33	0.30	3次外郭	Q-34	Ⅰ層			1329				
110-218	Ⅶ区	玉	丸玉	b 2種		5.59	2.29	0.13	3次外郭	R-33	Ⅲ層			1292				
110-219	Ⅶ区	玉	丸玉	c種		4.37	1.41	0.09	3次外郭	S-33	Ⅲ層		784					
110-220	Ⅶ区	玉	丸玉	c種		3.37	1.50	0.03	3次外郭	R-33	Ⅲ層			1291				
110-221	Ⅶ区	玉	丸玉	c種		2.97	1.04	0.01	3次外郭	S-33	Ⅲ層			816				